

---

# 日本の高速自動車道

その発案と実現について

---

第 2 集

財団法人 田 中 研 究 所

## 目 次 (横書の部)

1. 発刊の辞……財団法人田中研究所理事長、田中清一……………	1
1. 新日本建設国土計画について……………	2～3
1. 中央道の開通式……………	5
1. ㈱富士製作所、創業50周年記念……………	5
1. 祝辞……………日本道路公団総裁、富樫凱一……………	7
1. 日本道路公団総裁より感謝状……………	8
1. この人……………木下道雄……………	9～11
1. 続、田中理事長評……………安井英二……………	12～13
1. 日本の高速自動車道について……………木村公平……………	14
1. 国土計画の回顧……………秋山真男……………	15～17
1. 田中プランと中部地方……………村岡嘉六……………	18～19
1. 偉大なる先覚者……………加藤隼一……………	20～21
1. 中央道と国土開発……………田中均一郎……………	22～23
1. 偉大なる企画者……………片平七太郎……………	24～25
1. 偉業と先覚者……………松田江畔……………	26～27
1. 中央自動車道と共に18年……………坂下広士……………	28～29
1. 南信飯田の夜明け……………林宗重……………	30～31
1. 田中プランに協力して……………永野常蔵……………	32～34
1. 田中社長に仕えて……………友森二郎……………	35
1. 官庁側協力者の思い出……………奥村和夫……………	36
1. 編集後記……………瀬上清隆……………	37

### 総合国土計画・田中プランの年代譜

(第1章) 田中プランの起因について……………	39～50
(第2章) 田中プランの実現を推進……………	51～134
(第3章) 田中プランの国会審議と法律化……………	135～152
(第4章) 田中企画者に国会出馬を慫慂さる……………	153～156
(第5章) 田中企画者の国会出馬……………	157～166
(第6章) 田中参議院議員の国会活動……………	167～182

(注) タテ書きの記録は後編(右開き)の目次を御参照下さい。

# 株式会社富士製作所創業

## 50周年に於ける発刊の辞

昭和43年11月3日

株式会社・富士製作所、取締役社長  
財団法人・田中研究所、理事長

田 中 清 一

本日は私の経営する、“株式会社・富士製作所”の「創業50周年記念」に当たりますので、記念式典と共に祝賀の行事を行い、大正7年（1918）に創業以来の会社の経歴を「50周年史」として編纂し、御得意様や関係方面に贈呈することになりました。

この記念史には、私に関する記録の内、「国土計画・田中プラン」に関する記事が多いので、この際、これらを別冊に纏めて印刷することになりましたので、本誌が発刊される次第となったのであります。

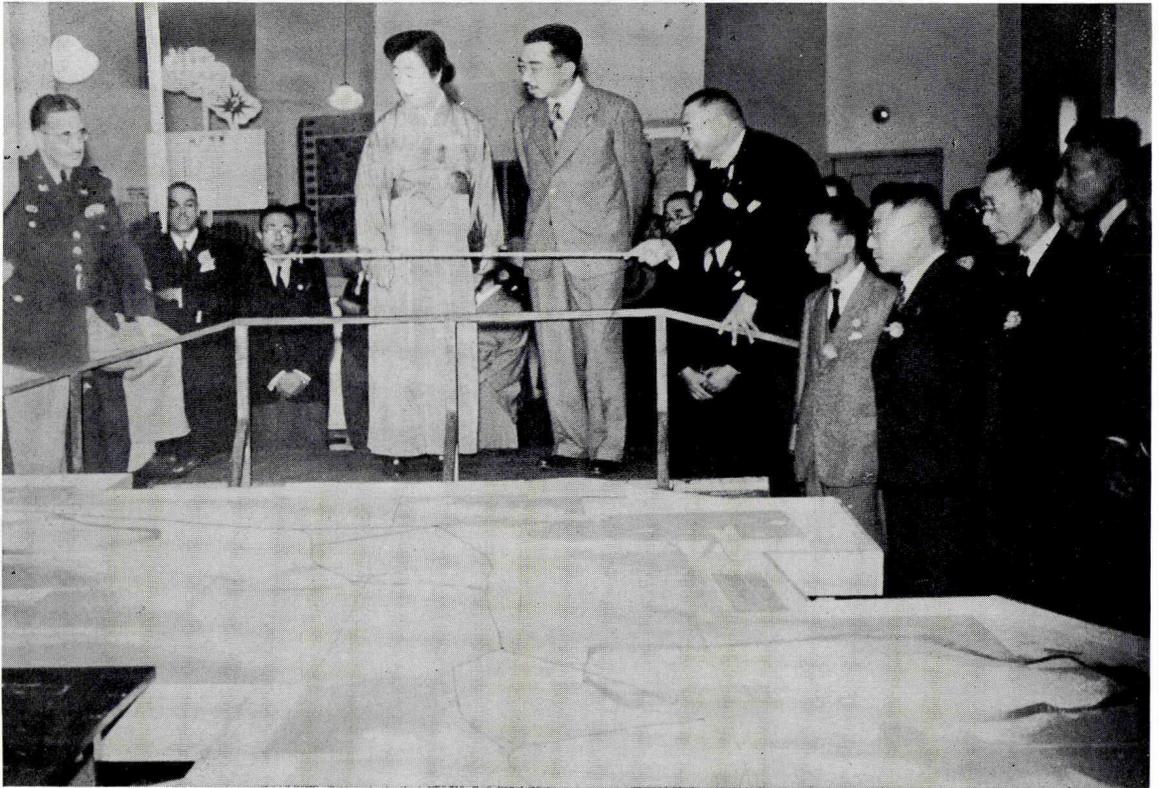
かかる記録は財団法人・田中研究所の理事会においても毎度要望されておりましたので、この編集に際して各理事、評議員の各位と共に、関心を持たれている有志の方々よりも「田中プラン評」を寄稿して下さったので有意義な発刊となりました。

更に「日本道路公団総裁・富樫凱一氏」が本日、会社の記念式典に御臨席下さって御祝辞を頂いたので、多年に亘る私の国土計画に関する推進と実現の状況が所管の当局より表明される結果ともなりました。

西欧では「ローマは一日にして成らず」と表現されている如く、日本の高速自動車道の実現も、私の提案より20余年を経過して、漸く「第一期工事」である東京一神戸間の内、名古屋一神戸間の「名神高速自動車道」が昭和40年に開通し、また「東京一富士吉田間」も44年に開通の予定となり、更に東北、中国、九州、北陸、及び北海道、四国の「全国道路網計画」が着工の段階に入り、遠からずして日本の高速道路も、全国的に実現する見込みとなったのであります。

これらの道路建設は、終戦と共に念願して企画しました「新日本建設」のための総合的な国土計画、端的に申せば「国土の立体的使用」によって、日本の諸産業と経済を飛躍的に発展させ、文化国家と国民の平安な生活ができるような「国造り」をする手段であります。

本誌には、20余年前に日本政府と連合国軍総司令部（G. H. Q.）に提出しました「平和国家建設・国土計画大綱」の原文や、田中プランの構想を要約して各界、各方面で講演しました記録も、後世のために集録しました。



天皇、皇后両陛下に御説明申上げる企画者、田中清一（昭和24年10月20日）  
連合国軍総司令部、天然資源局長スケンク大佐（左端）

## 「新日本建設・国土計画」について

昭和20年終戦と共に、……私は如何にして「新日本を建設」すべきかと熟考して企画しました「平和国家建設国土計画大綱」を政府と連合国軍総司令部（G. H. Q）に提出し、24年にはアメリカの科学者10数名と、日本政府の建設省、農林省、大蔵省、運輸省、経済安定本部（現在の経済企画庁）東京工業大学の教授、内田俊一氏、及び安芸岐一氏等の各々専門技術者多数立会の許に天皇、皇后両陛下に御説明申上げる光栄に浴しました。

爾来10余年間に亘り、政財界、学界、全国都道府県の為政者に本案の実現推進を図りました処、幸いに昭和32年の第26国会において「国土開発縦貫自動車道建設法」として立法化され、日本全国の道路網となる「高速自動車道の基本法」として施行されたので、現在全国津々浦々に道路の建設ブームが沸き起っていることは皆様のご承知の通りであります。そもそも、高速自動車道建設を端的に申せば、食糧の自給自足を根幹にして平和国家を建設せんとするもので、昔から「衣食足って礼節を知る」の諺の如く、国民が平安な生活を営むことによって真に平和を愛好する民族となり、世界平和に貢献する平和国家を建設せんとする大理想なのであります。

従って、この道路建設に伴って眠むれる奥地森林資源の利用、保存管理に便ならしめる外、地下資源、水力資源及び観光資源をも開発し更に治山治水の問題も併せて解決するなど、本案の諸計画を実現すれば、農山村における次三男対策も根本的に解決する国策となり、この道路建設は「日本の繁栄」を齎す上掲の諸問題を実現する手段なのであります。

現在では東京―神戸間の「高速自動車国道中央自動車道」（中央道と称す）の内、西宮―名古屋間は既に開通し、東京―富士吉田間も近く開通の運びとなり、また世界第一と称するモンブラン、トンネル（仏―伊国）に次ぐ日本第一の「恵那山トンネル」も既に着工され、やがて東京―神戸間が最短距離・最短時間で結ばれる画期的な実現は遠からずして達成されるのであります。

更に北海道、東北、中国、四国、九州、北陸の全国道路網が着工され、私の念願は着々と実現することになりました。

この間、昭和34年には皆様のご推挙にて「参議院全国区」より参議院議員となって国会に議席を持ち、国土開発の推進を任務となして6カ年間の任期を完了と共に、私は概ね国会における任務を達成しましたので40年の改選の時辞任したのであります。

昭和29年には発明功勞者として「藍綬褒章」を拝受しました。

昭和40年には聊か国家社会に貢献した功績を嘉せられて「勲二等」に叙せられ「瑞宝章」を御下賜に浴し感激しております。

よって私は、社業は勿論、国土開発の推進には余生の続く限り国家社会のために貢献致したいと期しております。

以上の光栄は、皆様より絶大なる御支援と御鞭撻を下さった賜でありまして有難く厚く御礼を申上げます。

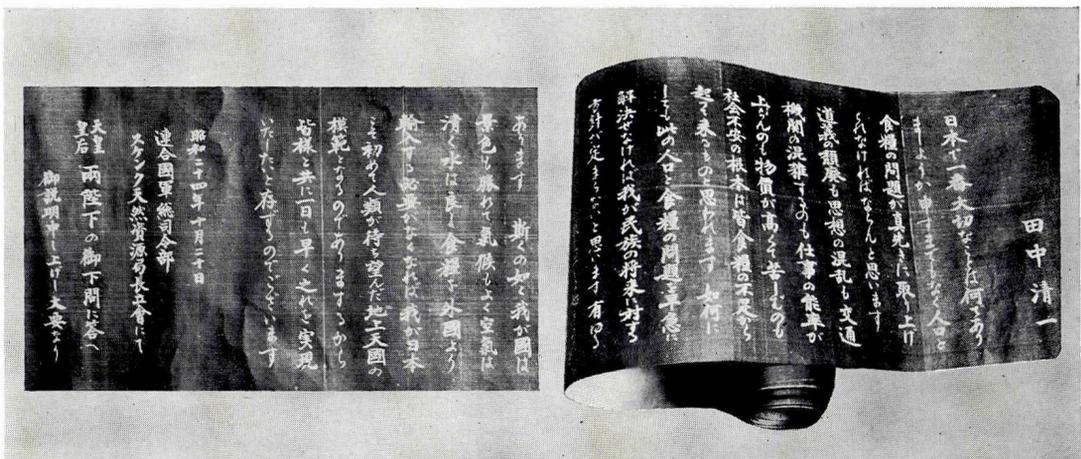
茲に弊社の「創業50年史」を発刊に当り、ご披露させていただきます。

敬 具

昭和43年11月3日

株式会社富士製作所

取締役社長 田 中 清 一





# 道路建設計画

〔田中プラン〕

企画者 田中清一

PROPOSED SUPER  
HIGHWAY SYSTEM

FOR  
JAPAN  
TANAKA PLAN

道路建設計画案

(田中プラン)



◎(南は九州「鹿児島」から、北海道の北端、「稚内」まで建設する「全国道路網」の内)……………「東京—神戸間」中央自動車道は着々と全開通に近づく

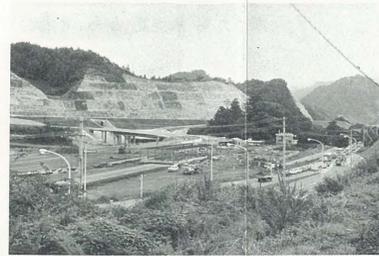
財団法人 田中 研究所



神戸市に近い「西宮」のインターチェンジの入口



富士五湖周辺の「富士吉田市」の中央高速自動車道



国鉄中央線の近く「大月市」のインターチェンジ



「八王子」のインターチェンジ



名古屋市に近い「小牧」インターチェンジの全景



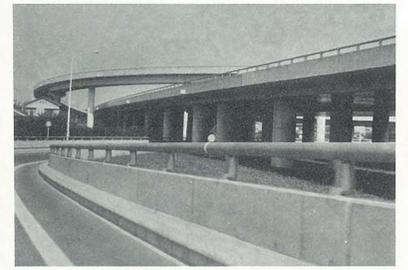
問題となった「恵那トンネル」の施工状況

中央道の名所

- 「恵那山トンネル」…昭和29年度に建設省内に設置された「国土開発中央道調査審議会」において「長大トンネル」の建設「可、否」の議論が白熱化したが、第5回の審議会において遂に「技術的に可能」と決審され、右図の如く、「恵那山、トンネル」の試掘は目下着々と建設進捗中となりました。
- 「鶴川の長大橋」…全長約500m、橋脚の最高48.4m中央道にて最大橋となった「鶴川橋」は既に完成しました。(上記の2地点は「中央道の名所」となる由です)



立体的に工夫した「大月市」のインターチェンジ



東京都入口の「調布」インターチェンジ



鶴川橋の橋脚、48.4m  
(底沢橋の最高橋脚53.5mに次ぐ中央道の第二の最高橋脚)

人物は報上理事



中央自動車道の名所となった鶴川橋 (全長498m)

(現在の国道)



日野附近の跨線橋

(全国道路網の内) 東京—神戸間の「中央道」建設進む

- 着工に至るまでの経過…本誌の「別項」に記録してあります。
- 「名古屋—神戸間」の開通…昭和40年7月1日
- 「東京—八王子間」の開通…昭和42年12月14日
- 「八王子—富士吉田間」の開通…昭和44年4月(予定)
- 中央道の「小牧インターチェンジ」に結ぶ「名古屋—東京間」(東名高速自動車道)の全通昭和44年4月(予定)

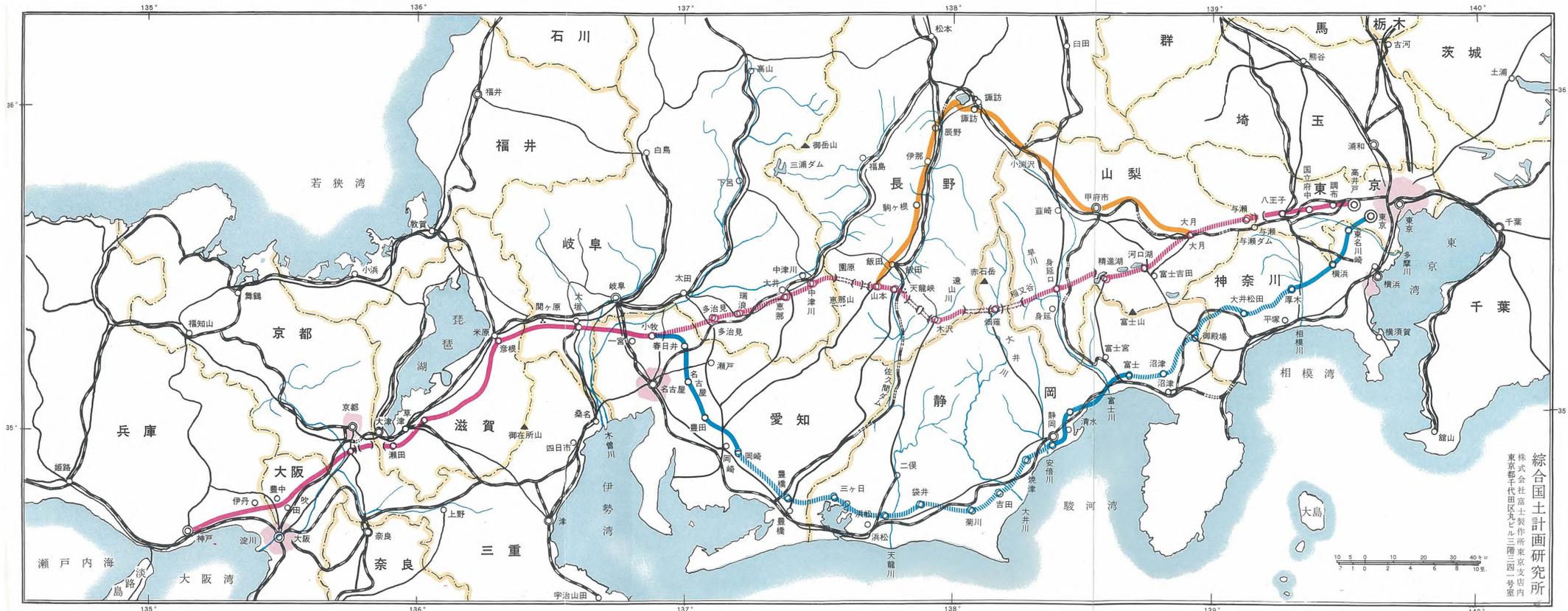
# 〔東京－神戸間〕国土開発中央自動車道路略図

◎〔南は九州「鹿児島」から、北海道の北端、「稚内」まで建設する「全国道路網」の内〕

この計画図は1947年（昭和22年）に作成して連合国軍総司令部（G.H.Q.）に提出した「全国道路網計画」の内〔東京－神戸間〕のものであります

- 中央道供用路線
- 中央道一部計画変更路線
- 東名道供用路線
- 主要幹線道路
- インターチェンジ
- ▨ 建設路線
- ▨ 建設路線

〔注〕「与瀬－河口湖間」の中央道は昭和44年4月開通の予定



総合国土計画研究所  
株式会社富士製作所東京支店内  
東京都千代田区丸の内三階三四一-1号室

## 中央道の開通式 (昭和44年3月17日)

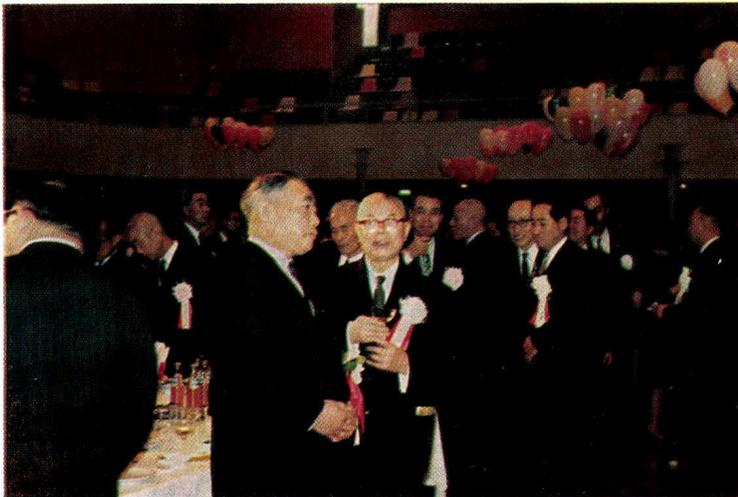
全国道路網建設計画の内  
中央高速自動車道の

「東京—富士吉田間」92.7キロ  
の間は「東京高井戸—調布間」  
の8.1キロを除いて全線が完成  
したので歴史的な開通式が挙  
行された。

- ◎東京調布—八王子間=18.3キロ  
(42年12月14日開通)
- ◎八王子—相模湖間=19.4キロ  
(43年12月20日開通)
- ◎相模湖—河口湖間=47.4キロ  
(昭和44年3月17日開通)



日本道路公団総裁  
富樫凱一氏の祝辞



感概無量で喜びを語る  
企画者田中清一氏と  
建設を担当された  
富樫総裁との握手

工事の施工状況の  
報告を聞く田中企画者

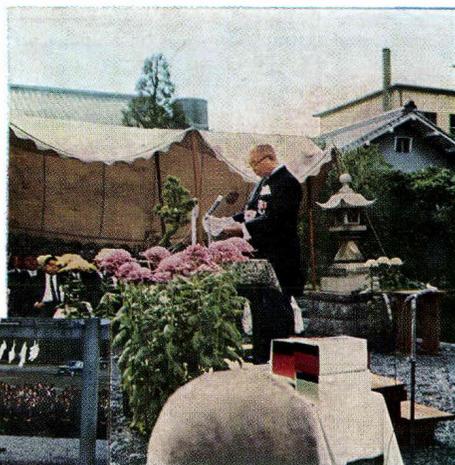
⇒  
(2列目の左より2人目)



株式会社富士製作所  
創業50周年記念の式典

創 立 者 田 中 清 一  
代表取締役社長

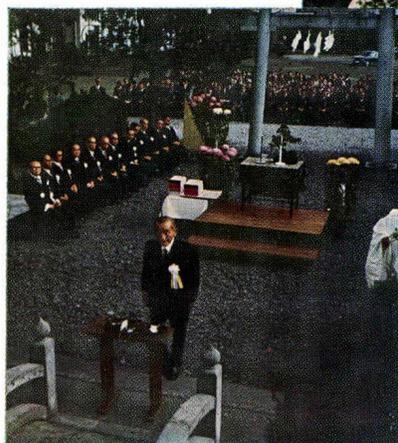
(昭和43年11月3日)



田中社長の挨拶



日本道路公団総裁  
富樫凱一氏の祝辞



元・侍従次長、皇后宮大夫  
木下道雄氏の玉串奉奠



(株) 富士製作所の富士神社前における式典状況



## 祝 詞

日本道路公団総裁

富 樫 凱 一

本日の佳日に株式会社富士製作所に於かれましては、創業50周年の祝典に、私も御招待を受けまして、御祝詞を申し述べる機会を与えられましたことを、まことに光栄に存じます。

私は、日本道路公団総裁、富樫凱一であります。只今では、東名高速道路を建設中ですが、富士製作所とは関係がないようでございますが私は道路の田中清一先生に御祝いを申し上げたいと存ずるのでございます。

先程、田中さんの御挨拶にもありましたが、田中先生は敗戦後の狭くなった日本を広くするには、道路以外にはないとの信念を持たれまして、日本の高原地帯を通る縦貫中央道路を御計画になりました。其の時私は建設省に居ったのでございますが、その際は我国の荒廃したる道路を復興することが先でございました。

また産業面の隘路となっている輸送面の打開と云うことに、頭がいっぱいであったのであります。

従って、田中先生の言われるような、大構想には一寸ついて行き兼ねる面もございまして、先生より度々お叱りを受けた訳で、先生の道路に対する熱意は、大変なものでありまして、全国五万分の一の地図に自ら計画線を入れられ、又、「石膏製の日本全国土の立体模型」を作って、道路計画の中心線を入れるなど、大変な熱心な御努力でありました。

先生は目を悪くされましたが、目を悪くしたのはお前だということで、私も度々お叱りを受けた訳でございます。

然し先生の御構想は、その後、法律となって成立致しまして、今から11年前の昭和32年に法律となりましたことは、皆様御承知のことと存じますが、「国土開発縦貫自動車道建設法」と呼ばれ、その後、種々な高速自動車道建設法が出来ましたので、

それに基づきまして、只今、7600キロメートルの高速自動車道が計画されて、私が現在勤めて居ります「日本道路公団」でも、1800キロメートルの高速道路の整備計画が示され、その施工命令が出て居る訳でございます。私たちは鋭意、今その建設に努力して居るところでございます。

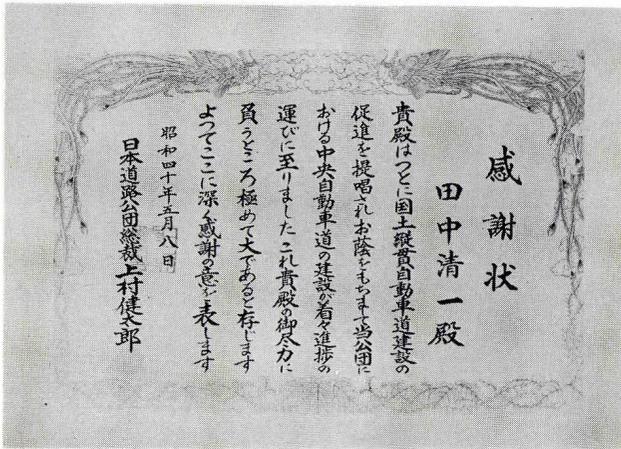
この構想が田中先生の打ち立てられました構想でありまして、これが実現の運びに

なったことをごぞいまして、田中先生の先見の明に深く敬意を表する次第でござい  
ます。

御蔭様で日本の道路も全般に亘り着々と逐次整備されまして、これから高速道路を  
全国に廻らす段階になったので、御同慶に堪えないのでございます。

富士製作所の創業50周年に当りまして、工作機械に立てられました大きな業績を御  
喜び申し上げると共に、田中社長に於かれましては、愈々御健在で我国の道路整備の  
面に付きまして今後共御指導頂きますように一層の御健康を御祈り致しまして、御祝  
詞に代える次第でございまして。(録音より)(われるような拍手)

## 日本道路公団総裁より感謝状



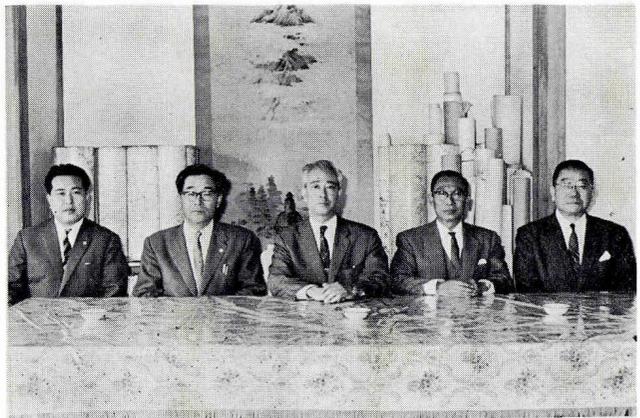
御祝辞を述べられた上記の  
富樫総裁の前任総裁である  
上村健太郎氏より左掲の感謝状  
を贈られた。

その時の田中企画者は多年に  
亘る「国土計画田中プラン」の  
企画と、その実現推進のために  
過労となり、また参議院議員と  
しての国会活動にて疲労せられ、  
永らく病床に居られたので、持

参された副総裁の佐藤寛政氏が田中企画者の病床にて感謝状を朗読され、記念品を添  
へて贈られたのであります。

奇しくも道路公団副総裁佐藤  
寛政氏は建設省道路局の道路企  
画課長時代より田中プランと取  
組まれ、更に局長となられ、日  
本道路公団の副総裁に就任され  
てからも田中企画者と論議され  
た因縁の深い方なので、病床で  
田中氏に握手されて長年の思い  
出を感無量げに語られ、感謝と  
慰労の辞を申されました。

(昭和40年5月9日)



(中央) 佐藤副総裁 (左) 沼津工事事務所長  
(右側) 富士製作所の友森副社長と瀬上常務

## こ の 人

木 下 道 雄

世に「奇想」と呼ばれるものがあるが、これは決して「天外」から来るものではない。やはり、ご同様、人間の胸中に整理整頓された思考ではあるが、生憎、これは凡人の思考の限界をのり越えて、その枠外に芽生えたもの、本人はこれを「真」と信じ、隣人はこれを「狂」と呼び、後人はこれを「先覚」と仰ぐ。これは人類進化の歴史の示す通りである。

幸か不幸か、現代われわれが幼稚園から小学、中学、高校、大学と型通りに教育されてゆくと、よほど偉大な教師に教へられない限り、卒業証書と一緒に大小の差こそあれ、思考の枠という、ありがたくないものを頂戴してしまう。大学出の才人のイヤに高ぶったキザな臭気は、この枠の内に停滞した汚物から発散するのではなからうか。

私がこんなことに気がついたのは、今から40年近く前のこと、未知の人、田中清一さんがある人の紹介で、私の宅に訪ねてこられたときのことである。福井県の山奥の小学校で学んだだけと自己紹介された田中さんが開口一番、言われたことばは今でも忘れない。「本居宣長という男は、国学者の風上にもおけぬ男でござる」であった。

本居翁といえ、王政復古の原動力を築いた国学の大家であり、本居翁の言説は「一言一句犯すべからざる」権威をもっていると思っていた私は、当初からこの翁を罵倒してかかる田中さんのことばに少なからず驚いた。続いて何を言いだすだろうかと待っていると、おもむろに左のポケットから取りだされたのは「一枚の絵図」であった。絵具で描いたものであったが、一つの山の八つの溪谷から流れ出ている一つの大河川が海に注いでいる。そしてその河の背には樹木が立ち並び、河口は河の流れが細分され、そこには八つのデルタがある。

これが本居翁とどんな関係があるかと眺めていると、本居宣長の古事記伝を読むと、神代の昔、スサノオの命が出雲の国、肥の川のほとりに行かれると、アシナヅチ、テナヅチという老夫婦が、少女クシナダヒメを抱いて嘆いているので、その理由を尋ねられたところ、答えていうには、毎年いまごろの時節になると、ヤマタノオロチという大蛇が現われてきて自分たちの娘を喰べてしまう、最後に残ったこの娘が今年喰べられてしまうかと思うと悲しくて泣いているのですと申した。

そこで命はその大蛇はどんな姿をしているのかと問われると『身は一つ、頭は八つ、

尾も八つ、背中には桧や杉が生えている大きな奴です……とお答えした。これを聞いて命は、よし、その大蛇は俺が退治してあげよう。その代りこの娘は俺によこせ。と言われ謀を設けてその大蛇を切り殺ろされた。そして、その時、大蛇の尾から出たのが、かの「草那芸<sup>くさなぎ</sup>の<sup>たち</sup>大刀」だと本居は解釈しているが、これは実に以ての外の考えかただ。いやしくも「天照大神」の御弟さまが俺が何かよいことをしてやるから、その代りにお前がたの娘を俺によこせと、そんないやしいこと、……を申される筈はない』と前置きしてから絵図の説明に移り「その大蛇というのは、実はこの日野川のこと、八つの尾とは源流が八つの溪谷から流れでていること。八つの頭とは、この八つのデルタ地帯のこと、奇稲田姫とはデルタに作られている美しい稲田のこと、毎年大出水があって、その稲田が一つ一つつぶされてゆく、それを心配していたので、命がそれならば俺がその河の治水工事をして上げようと、附近の人たちを呼び集めて作業に従事された。

そしてその折、たまたま掘りだされたのが「砂鉄の大刀」、と解釈すべきである」

というのが田中さんの主張であった。田中さんにとっては、天照大神の弟さまの心事を冒瀆するような解釈の仕方はどうにも許しがたいことであったに相違ない。

私は国学の専門家ではないから、この「本居—田中の判定」はできないが、ともかくも思考の枠がはめられていない天衣無縫の人の自由奔放な、而も至って合理的な判定の仕方には感服せざるを得なかった。

これが初対面のときの私の印象であり、且つ相識るに至った経緯である。爾来、事ある毎にお智恵を拝借したり、ご相談をうけたり、或は戦中戦後、焦慮のあまり、ある夢を追って、共々に山岳地帯を跋涉したことがあったが、すべては本文の伝記が物語ってくれるであろうが、ただ一言最後に申し述べたいことがある。

「救国済民」の大志を抱き、不撓不屈、日夜をわかたず奮闘されるこの田中さんの心身の活動力の源泉は何であろうかと思うとき、私は或る日のことを思いだす。それは旅の宿のつれづれの時の物語であるが、田中さんはしみじみと自分の昔のことを語られ、少年時代初めて山稼ぎの仕事に働かれてゆくとき、母は自分を傍らに呼んで、他人さまのためには心をつくし、身をつくせと、心をこめて教えを受けた。これが少年時代から深く自分の胸に刻みこまれた「亡き母の遺訓」であると、涙と共に語られたことがあった。

深山幽谷を貫く「高速自動車道」の路線調査のため、多年にわたる5万分1地図上の「等高線」の凝視は、遂いに田中さんの両眼の視力を失わしめるに至り、これに続

く大患も久しきに及んだが、田中さんの不屈の闘志は遂にこれに打ち克つに至ったことは、まことにめでたいことだが、これも身内のかたがたの温かい御看護と共に今は亡き御母の日夜のお祈りとおまもりとの賜ものと私は思っている。

(註) 木下先生は昭和39年に当研究所が発刊した「日本の高速自動車道」にも「初対面と、その後」と題されて記述されています

(元、侍従次長、皇后宮大夫—東京、練馬区向山町)

富士山麓 精進の清め祭

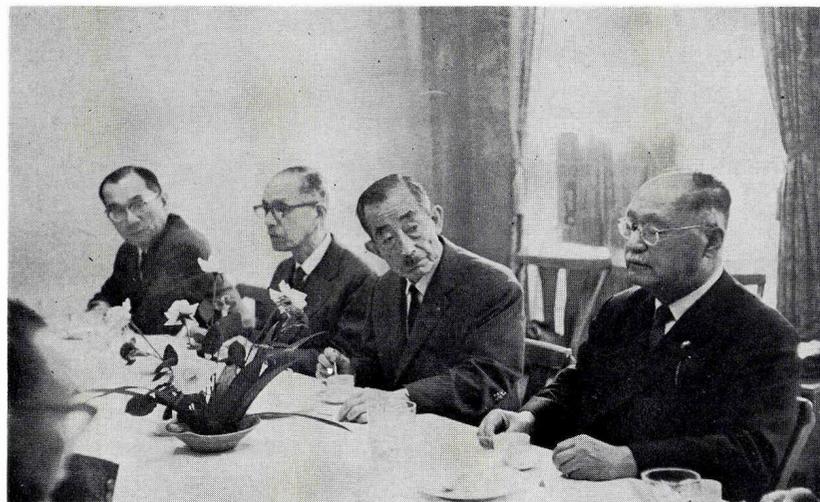


木下道雄氏の玉串奉奠（昭和31年8月13日）



聖地を視察中の木下氏⇨

財団法人・田中研究所の理事会（昭和41年6月8日）



野田精一氏

安井英二氏

木下道雄氏

秋山真男氏

## 続・田中理事長評

安井英二

田中さんについての私の所感は、其の要点は数年前に述べた所に尽きて居るのでありますが、今日は少し之を補充する意味で申し述べます。

私が初めて田中さんにお目にかかったのは、私が参議院議員であった頃、沼津の富士製作所をお訪ねした時であります。既に支那事変は始って居りましたが、大東亜戦争になっていたか、どうかは忘れましたが、その時、田中社長さんの御案内で工場を参観した後、会社屋上の田中さん御自身の「静座瞑想室」を拝見してご説明を承った時に、田中さんの本領根本が茲にあるということを知ったのであります。非常にお忙しい動の生活から、この一室に静を養い、私心を去って神に祈る其の「誠の精神」が田中さんの御人格の根本であり、又会社の基礎であると思いました。

元来私は、財界全般に亘り、会社事業の経営が誠を基礎として行われることを希うのでありますが、実際は仲々そうでなく、従って田中さんは稀有のご存在であると思つたのであります。

この誠から田中さんの優れた智慧と、強い実行力が生れて来たのであって、外部に顕われた赫々たる会社の御業績も、国土愛から発した「田中プラン」の実現も、其の由って来る所以の源は、此の誠に在ると私は思うのであります。

私は此の瞑想室に於ける田中さんの御人格に接して、其のご理想の高潔なるを知ると共に、工場の実際を拝見して、本当に「足が地に着いて居られる」ことを感じて非常に嬉しく、日本に此の人あることを心中深く感銘致したのであります。

それですから、其後何年かたって田中プランが発表せられました当初から、私は其の案を絶対に信じ切つて居りました。多くの人々が、誇大妄想と批評するのを聞いて、私は具眼者の少いのを悲しんだのであります。何故なら、其の人々が、この意義深いプランの実現を邪魔するからであります。然し田中さんは、よく忍耐して悪戦苦闘、遂に実現を見るに至つたのは流石に田中さんであればこそ思つたのであります。

この田中さんの誠の精神は、観念的な理屈ではなく、お若い時からの並々ならぬ艱難と忍耐を通じての実際の御経験から体得せられたものと存じます。それ故、其のご消息を、お若い時からの御苦勞の御経験の事実を述べることによって、明かに詳かにして置いて下さるならば、後進の志ある者にとって、どんなに有益であるかと念願す

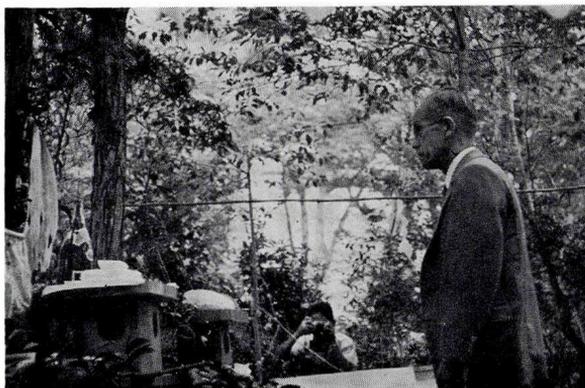
るものであります。

道の上から申せば、如何なる仕事に付いても、如何なる地位についても、其の人が「余人を以て代え難い」存在であるならば、それは本当に「国家の宝」であるというべきものでありまして、此の意味において、田中さんのご存在は誠に大切であります。

何とぞ此上とも益々御健勝で、且つ御社事業も愈々向上せられますことを切に希うものであります。

(元、内務大臣、厚生大臣)

(註) 安井先生は昭和39年に当研究所が発刊した「日本の高速自動車道」に田中理事長への「所感」をご掲載されています。



〔精進・清め祭〕

安井英二氏の玉串奉奠

(昭和32年 8月23日)

財団法人田中研究所の理事会 (昭和42年 6月 9日)



(床間正面、左より) 安井、木下、秋山各理事と田中理事長の説明

## 日本の高速自動車道について

木 村 公 平

現代の政治家が多い中に、田中先生の如きは正に泥中の「白鶴」であろう。

戦後、海外領土を悉く失って眉額大の日本内地に、1億の人口が飢と貧困にひしめいている時、田中先生は国内領土の拡張ともいえる可き山岳高原地帯の開発と、そこに眠る未利用資源の活用を着想して、手始めに「東京と神戸間」の縦貫高速自動車道の建設を提唱して、これが実現のため私財を擲ち、20余年の間、正に阿修羅の如く獅子奮迅の働きをされたのである。

昭和18年に企画された「新日本建設」の田中構想は、先ず南は鹿児島から、北は北海道の北端まで「高速自動車道」を建設して、これを総合的な国土開発の基幹道路にする青写真を書かれ、その第一期工事として東京―神戸間は、その名も「中央道」と自ら称え、日本の背骨である「東京―神戸間」の中央山岳地帯に、自動車道を先ず一本造るべしという田中先生の着想は、今や半ば結実したが、ここで注目すべきことは、「田中案」が日本の国策として昭和32年に国会に採り上げられ「国土開発縦貫自動車道建設法」なる法律と成るに及んで、政府や国会の道路に対する認識が根本的に変わったことである。

従来は道路に投資することを歯がゆい迄に惜んでいた政府や国会が、俄然千億円オーバー、2千億円オーバー、5千億円でも1兆円でも、金に糸目をつけずに「道路、道路」と言い出したことである。

毎年12月の決算期になると、あらゆる役所が議員をつかって予算の分取り合戦をやることは御承知の通りであるが、道路予算は常に圧倒的支持の下に凡ての予算を引離して楽々と、併も驚く程の巨額な予算を獲得する。

日本の道路の父は「田中清一先生」と言って過言ではなからう。特に「日本の高速自動車道」の企画発案者であり、その発案の一部である「名神高速道路」などが実現するに及んで、日本の近代道路史に特筆大書されるべきであろう。

戦後20余年、何ものも省りみず只々「高速自動車道」の建設に取り組んだ田中先生こそは日本の高速自動車道の偉大なる先覚者である。

(元、吉田内閣総理大臣、首席秘書官、元衆議院議員)

## 国土計画の回顧

秋 山 真 男

私が田中清一先生に初めてお目にかかったのは昭和26年、私が山梨県町村会長になり、県立木工研究所に富士製作所から帯鋸製材機械、その他の新鋭機械が納入され、その竣工式が甲府市で開催された時であります。

爾来、先生の優しい心に引かれ、庶民と附合うことを楽しみとせられた先生の気安さから、甲府市内ではあるが、場末の飲屋「民政」と云う酒場に誘われ、そこで初めて遇った周囲の若人から大層先生が慕われた記憶もあります。

私は中央道の問題にも非常に心を打たれ、身近の問題として感じ、戦後の〔日本再建〕のため、そして最も大切な食糧の自給問題、地下資源の開発、青少年問題等についての先生のご高見に心服し、昭和27年5月、県町村会定時総会において議決の上、12月には県町村会内に「山梨県中央道建設促進期成同盟会」を設置し会長に天野山梨県知事を、私はその副会長として、その促進運動に尽力し、天野知事から岐阜、長野両県知事に協力を求め、私から各県議会、町村会、町村議長会等に連絡し、町村長、議長等全員の署名を願い、その決議書、陳情書等を携え、昭和29年8月2日、3県関係者と共に建設省内に設けられた「国土開発中央道調査審議会」に出かけたのであります。

当時、建設省は「東海道案」の企画を推進中であつたためか、上記の審議会の委員中、田中先生の理解者は1、2名に過ぎませんでした。

当審議会の技術的な首脳者は建設省の菊地技監であり、ご承知のように仲々強い人で、私達が中央道建設の促進陳情に上京した際「陳情はまかりならぬ、署名簿だけ置いて行け」と言われて、陳情することを暗に断わり続けました。そこで止む無く審議会の会長である建設大臣、笹子有料墜道問題以来親しくなった小沢佐重喜氏に直接交渉し、許可を得て会議の劈頭、私から代表陳情を強く行なつて、部厚の「署名簿」を大臣に手渡し致しました。

審議会では当初、建設省は中央道案は「経費多額」「関ヶ原の深雪」「恵那トンネル9キロの工事不能」など盛んに田中案を批判していましたが、田中先生の熱血溢れる説明にて、遂いに第5回目で「技術的に可能」ということを建設省が認めるに至りました。

事実、関ヶ原の深雪は多数通過の車で溶け去り、車輪の摩擦による通路の熱を心配

しなければならなくなり、また「恵那トンネル」は建設省が自ら認めて、現在施行の運びとなり、トンネルは土木技術の飛躍的な進歩によって、もっと長くとも建設が可能と証明されるに至りました。

「田中プラン」が世に知られ始めた当初、余り大きなプランに驚き、建設省あたりまで田中先生を異常扱いにされた由ですが、先生の卓見と、先見の明が今日漸次、証明されつつあることは、何とも言えない微笑が浮んで、楽しみとなります。

田中プランは昭和22年に先づ吉田首相に、続いて当時進駐していた連合国軍総司令官のマッカーサー元帥に提出され、そして24年には

天皇陛下に田中理事長が御奏上申上げ、遂に昭和29年に吉田総理の発案で「国土開発中央道調査審議会」が建設省内に設置されたのであります。

今後はすべての路線が政治家に歪められず、真に日本のため、国民の生活のためになる「善き道路」が速かに且つ安く建設されるよう望んで止みません。

古今の歴史に鑑みて、戦争は資源の不均衡、就中人口と食糧の不均衡から起ることを知悉せられていた田中先生は、戦前より、特に「食糧の自給自足」、農耕地確保の問題につき、深く研究せられ、且つ皇室を尊び、国を愛し、神を敬う田中先生の精神から、「国土計画」が樹立せられたものであります。

田中先生は皇居が東京の中心にあり、煤煙と自動車の排気ガスに包まれ、御健康に害多きことを常日頃心配せられて居り、精進湖のある地点を実地調査せられた際、夜中、靈感を受け、この地こそ、日本本土の東西、南北の中心、霊峰聳え、南には富士山、気候風土も良く陛下の御住いにふさわしい所であると信じ、山梨県有財産、しかも不毛の地、何万坪を借入れ、そこに少くとも夏期だけでも、御避暑願ったらと考え、山梨県に借入れを申出たのでありますが、内容を申述べる訳にも行かず、「青年のための道場」建設という名目であったため、仲々の許可が得られませんでした。

そこで県町村会長である私にお話があり、天野知事とは仲良でもあり、田中先生と二人、知事公舎に天野久氏を訪ね、一時間余りに亘り、膝詰め談判した結果、やっと許可を得、広大な面積の地を借入れ、準備を進め、毎年夏、その地に於て「清め祭」を行い、鉄筋コンクリート造り、しかも壮麗なる御殿風、御座所、外国使臣の謁見室を初め宴会場、侍従長、侍従、女官長、女官の室、有事の際の理想的避難トンネルまで具備し、岳麓は熔岩地帯で飲料水に不自由と言われていたのですが、3千人を賄う岩清水も発見せられ、理想的御別邸の建築を計画せられ、毎年多額の賃借料も支払い、材料の鉄骨も多量に現地に運び込まれて、遂次に準備を進められていたのでありますが、

この計画の真相を知らず、現地も見ない県議会の少数議員の批判的な具申のためか？、私共の知らぬ間に、「賃貸借契約」が解約されたことは、将来、山梨県の名誉であり、岳麓発展の大なる支柱ともなるこの計画が中断せられた事となり、返す返すも遺憾の事であります。

又、先生は企画の当初、大月、富士吉田より甲府市南口駅の遙か南を通り、諏訪に至る「中央道」を考え、その実地調査に取かかれたのでありますが、諏訪の工場地帯、市街地を避ければ、どうしても諏訪大社の境内を通らねばならず、雪の夜、神社内で心を込めて祈願し、御籤を抽かれたら〔通過が認められず〕、時を異にして度々お伺いを繰返されたが、神の御許が得られなかったと承っております。

なお精進、下部、身延の線によれば約60キロメートル路線が短縮せられることにより、田中プランの中央道は建設省へ提出せられた路線となったと聞き及びます。先生の敬神の心が随所に偲べれます。

尚、往年の話ですが、東海道案が決定すれば黙っていても田中さんの富士製作所、沼津工場の敷地5万坪だけでも、当時の金で壱億円以上の莫大な値上りが見込まれていたのに、山梨県の大月、富士吉田、精進湖、下部、身延を経て長野県の飯田から岐阜に抜ける「中央道」を選ばれたことは、田中先生が微塵も私心の無いことだと感心すると共に、この中央道の調査に4台の自動車を潰ぶし、何十足かの地下足袋を踏み潰ぶして隈無く実地調査をされて、地名から、一本の丸太橋、一つの岩石まで、地元の人よりも詳しく覚えて居られる強い記憶力には何人も感銘したものです。

かかる労苦と、細かい図面（5万分の1など）などに長年取組まれた結果、一時は殆んど失明に近い眼病に悩まれた田中先生の目を心配すると共に、国土計画を畢生の仕事として取組まれている今後の御健康を心よりお祈りして居ります。

（元、山梨県町村長会会長—山梨縣市川大門町）



野田氏 安井氏 木下氏 秋山氏

## 田中プランと中部地方

村岡嘉六

「国土開発縦貫中央自動車道建設」の発案者として一躍名をはせた、前参議院議員、勲二等、田中清一氏について思い出の一端を述べてみたいと思う。

私が大隈鉄工所の工場長をしていた大正末期、年月はさだかでないが、田中氏が当社の布池工場に來訪された要件は、当社で製作していた鋸目立機や鋸矯正機の購入の為であったと記憶する。その時は田中氏とは初対面であったが、対話の節々に迫力があり、成功型の人であると感じた。

その後、日本工作機械協会などで度々お会いする機会を得たが、何れかと言えば当時は商売上の御得意関係に過ぎなかった。その後、漸次交際が深くなったのは、「国土開発中央道田中プラン」が発表された以後の事である。

昭和28年に田中プランを推進、実現させるために、各地の有志が結合して「国土建設推進連盟」が結成されてから、私は田中氏の要請で「愛知県本部長」の席に就いたが、私自身は斯る方面には微力と思ったが、「田中プラン」は実現したのである。

この構想の出現には、田中氏自ら実地に山野を跋涉し、雨露のものともせず、険峻と戦い、血と汗と多額の私財を投入された貴重なものである。それだけに専門家跣しの次元の高い構想であった。故に兎角批判のあった事も耳にした。

然し氏の信念は牢固として動かず、当時まだ日本は占領下であり、国民の多くは行先き不安を抱えていた際、この雄大な構想を大胆に発表した田中氏の勇氣と熱意は大きく国民の心を動かしたに違いない。

中部地方にとっては〔東京一名古屋間〕を最短距離、最短時間で結ぶばかりでなく、国土の利用度を高める点に期待した、今から考えると中部圏開発の先駆である。

田中プラン実現のためには、世論の喚起だけでは達し難しと考えた田中氏は、自ら「全国区」参議院議員選挙に出馬を決意された。

その話しを聞いた私は大いに賛意を表した。勿論、名古屋にも選挙事務所が開かれた。

幸にも田中氏が永年に渉る田中プランの推進と、自社企業の商業地盤が物を言い、中京林材界の巨頭、加藤周太郎氏や太平製作所の社長、田中均一郎氏等の御尽力で選挙の結果は目出度く当選と決った。

得票分布は文字通り「全国、津々浦々」まで広まっていた事は田中プラン支持者が北海道から九州の端まで居たという事であろう。

今から20年も経てば、北の端から南の端まで完成して、投票して頂いた方々にお報い出来る事を期待する。私は田中清一氏発案の世紀の大事業が、育ちゆく青少年に報ゆるものが多い事を信ずるものである。

また今秋には、田中氏の経営されている富士製作所の「創業50周年記念」を迎えられる由、創立者の田中社長は社業においても立志伝的な人物であり、如上の国土計画において、当初「国民の夢」とされていたものを、今日の実現の段階に運ばれた国家的な貢献者となられた心中の感慨は、蓋し無量と推察して一文を呈する次第である。

(元榎大隈鉄工所、取締役会長、現相談役)  
日本生産性本部中部支部、理事長  
中部産業連盟、会長、



〔国土建設推進連盟〕

名古屋商工会議所において  
(昭和30年3月18日)

合  
会長・田中清一氏の説明

国土建設推進連盟の  
愛知県本部長  
村岡嘉六氏の発言⇨



## 偉大なる先覚者

加藤 鏢 一

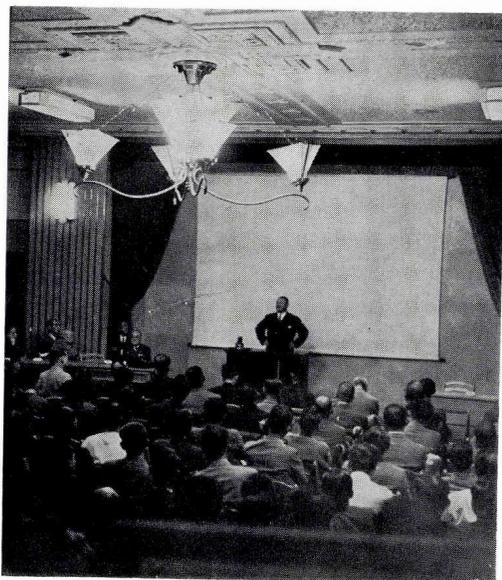
人の一生は困難が大きければ大きい程、それを超克した歓喜は大きく、栄光も一層輝くもので、人間業では至難な霊峯ヒマラヤ登攀や、困苦に満ちた長距離旅行の成功なども、暴風雨や、言語に絶する冒険の中から人々の名声はかちとらえることが出来るものであるが、田中清一先生の「国土開発高速縦貫自動車道」の発案者としての二十数年に亘る悪戦苦闘に堪えての物心両面に於ける犠牲と御苦心を想うとき、まさに田中先生こそ、その人であると言えると思う。

終戦直後であったと記憶するが、当時岐阜県議会議長であった私は、知事等、県の幹部と共に県庁で田中先生の「国土開発総合建設計画」の青写真の説明をきいたときは、誇大妄想の奇人ではないかとさえ想われていたこの案が、今日「名神高速道」の開通や「東名高速道」「中央高速道」などとして具体化されつつある現実をみると、感慨無量、今更ながら田中先生の先見の明と、先覚者としての企画の御苦心と御努力に対して頭が下がるものがあります。

顧みれば昭和33年12月2日だったと思うが、身延山久遠寺に於いて「山梨、長野、岐阜三県合同」の「中央道建設促進大会」が開催されたとき、私は岐阜県議会議長であった関係から、「中央道建設促進岐阜県本部長」としてその席に列し、当時の大僧正、増田日遠法主の祝詞の中に、日蓮上人は我国の精神的開発者であるが、この精神を中央道の形に於て具現化する偉人こそ「総合国土開発計画」の立案者の田中先生であると喝破、絶賛せられたことを覚えている。

また田中先生が参議院議員に立候補された当時、岐阜県担当の「選挙対策委員長」として田中先生の何ものにも眼をくれず、唯一すじに「国土開発縦貫中央道建設」と取組まれた、あの先覚者的信念と、涙ぐましい、たくましい実行力に動かされ、先生の応援演説にかけ廻った当時は、実のところ、知名度に於て、他の参議院議員候補者に若干の見劣りがあったので心配したものであったが、先生の熱意と堅い信念は、遂に栄ある当選をかち得たことなど、その後の先生の「国土開発中央道一すじ」の御努力の結実は何としても忘れられない、なつかしい思出の一コマである。

書き続ければ限りがないが、田中企画者は日本全土の細かい地図に取組まれたため、失明に近いところまでの眼疾や、企画推進に苦闘された御苦心御努力に対し、私共は心からの敬意と感謝の誠を捧げたい気持ちで一ぱいである。(岐阜県、多治見市長)

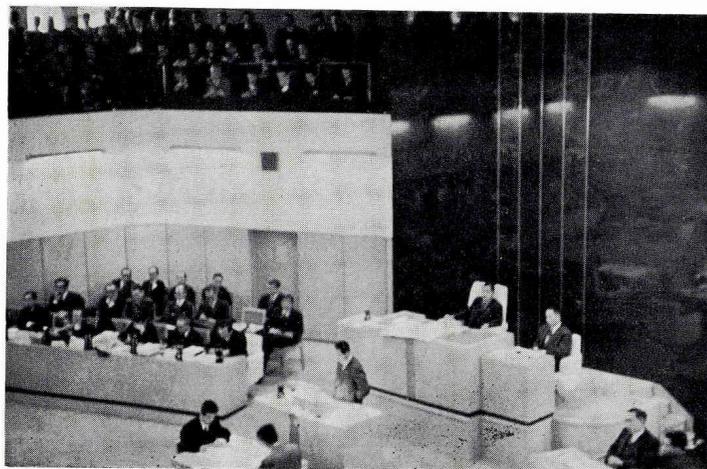


岐阜県庁における  
国土開発中央道建設促進大会

岐阜県会議長、松野幸泰氏の司会  
田中企画者の講演

(昭和29年12月13日)

満堂に溢れる  
参会者と聴衆 ⇨



岐阜県会議長  
加藤隼一氏  
国土開発中央道の  
促進大会

(昭和30年12月13日)

## 中央道と国土開発

田中均一郎

国土開発縦貫自動車道を田中清一氏が提唱し始められてから、もうかれこれ20余年も過ぎている。それが漸く、本当に漸く日の目を見るようになり、誠に遅まきながら世人の的となりつつある、誠に同慶に堪えません。

田中氏は其間、参議院議員全国区に出馬して、見事当選し、「国土開発中央道調査審議会委員」を勤め、参議院議員になられても国土計画一本槍で通して来た。今度の参議院選挙に再出馬を再三再四迫られたが、病気を理由に拒否し、且つ初志の中央道が今日の如く、漸く世人の認むる所となれば、私が出る幕ではなくなったという意味で峻拒されたのである。これより先、病中、賢き辺の思召に依り「勲二等」を賜り、田中氏の先見的愛国心、及び中央道の画期的な構想を嘉せられたのであった。

一体、中央道なるものの本質は、「全国道路網」の建設計画の一部であって、交通緩和とか地域開発なんて生ぬるいものとは違い、抜本的な「国土開発」にあるのであって、これに依って日本全土を沃地化し、又都市の分散とか、生産力、それも国家全体から見た高い次元に立ったものであり、国利民福を根元にして敗戦日本を建て直すことにあった。それには日本を縦に一本の背骨道路を通すことに依って、それが万般に亘る国利をもたらし、民福に寄与するという、実に抜本的なものであったのである。

従って私も此の田中構想こそ敗戦日本を救う「唯一の道」であると考え、私は選挙運動は大嫌いであったが、田中氏出馬と決ったとき、私は選挙運動を敢てやる決心をし、当時は病後であったにも拘らず勇を鼓して東奔西走したのであった。幸に当選され、あんな嬉しいことは無かったのである。

さて其後、ある場所で村岡嘉六氏(元、大隅鉄工所、取締役会長)と私とが田中氏と逢った。其時恰も、今度の参院戦の候補者の選定中であつたので、私は試みに「もう一度たたれませんか、若し貴下が立つとなれば私はもう一度選挙運動をやりますが」実は、私は目下「公明選挙推進委員」を勤めているが、それを辞任してもいいと思つたのでした。村岡さんも「よかろう、俺もやるよ」と言つて下さつたのだが、田中清一氏は頭を縦に振つて下さらなかつた。色々事情のあつてのことであろうが、村岡さんも私も田中清一氏という人のためのみであるなら、斯うした気にもなれないのだが、そうではなく、前記した高い次元に立つての「国利民福」ということが村岡さん、そし

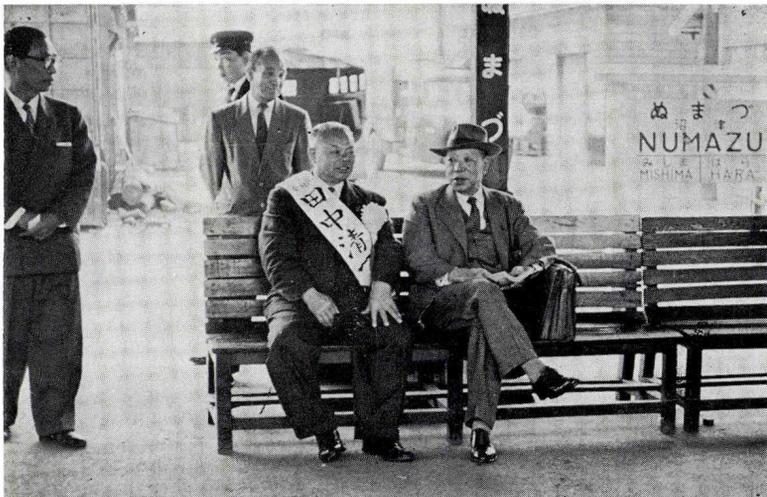
て私の頭を往來していたのである。

かくして話は駄目であったが、野に居られても田中氏の眼みは隠然たる力があり、漸次初期の目的は、甚だ漸進的ではあっても現在は実現に向いつつある事に満足せねばならなかったわけである。

世の一般に向って叫びたい。こうした己を捨てて国家社会を思う政治家というものは今の日本に極めて少ない。

この一個の金の卵が為し得ることの如何に偉大である事よ……と。

(株式会社、太平製作所、取締役社長一名古屋市)



愛知県推進本部理事  
田中均一郎氏の挨拶  
国土計画推進連盟の  
講演会（名古屋市南  
警察署において）

(昭和30年3月19日)

「全国区」参議院議員に立候補せる田中清一氏と自由民主党の  
副総裁大野伴睦氏（沼津駅より遊説に向う際 昭和34年5月）

## 偉大なる企画者

片平七太郎

凡そ人間の偉大さは、其人の有する先知先見の明が第一で、先に見える事が行為の土台である。そこに信念を持って実行し、初めて成功するので、謂んやこれが「国家社会」の為に貢献する事においては超人的と謂わねばならない。

我が田中清一氏は、終戦による国土荒廢の中に立ちて、戦後の「国民生活」を深く考慮されて国土再建の方策を探索され、其の為には日本全土に「道路網」を縦横に建設して、先づ山岳地帯を活用する事を第一とせられ、我国全土に亘り、縦貫大道を造り、これを土台として「肋骨道」を設ける事を考えられ、自ら全国を踏破して調査し、私財を投げ打って心身の労を尽し、遂いにこれを立案して政府要路に建議されたのであった。

当時は占領治下で容易に思うに委せず、殊に我国の伝統的悪習として官尊民卑の思想をお去らず、一介の民間人の構想等は容易に耳を傾けざる有様の中で、実に昼夜を別たず不撓不屈の精神で押し進められた、その苦心努力の程が思いやられる所であったのである。

今や戦後20余年、今日の我国の繁栄状態を、誰が考え得たであろうか。政府は漸くにして田中氏の提案の事態と、時代的な検討の必要に迫られた結果、今日発表されている各種の道路網を立案計画し、昭和30年以降より積極的に施工の推進を図ったが、その根幹になる道路は、結局は「田中プラン」の踏襲に帰してしまふのではないかと思われることは、今にして田中氏の偉大性を考えねばならない。

尚、この大事業も田中氏は昭和30年の新年早々に何等外国の援助を得る事も要せず、道路建設の資金対策は日本人自身の力で遂行出来ると確信され、その方法として「国民1人が1日・1円」づつ貯金すれば可能であるとして「一円貯金」の実行を提唱されたので、この時代に政府の要路の人にして、この構想を理解し、政府が卒先してテレビやラジオによって全国的に「国民運動」として実践に勉むれば、蓋し偉大な効果を挙げ得たのであったが、之れを遂行されなかつたのは惜しみて余りあることである。

この貯金の方法は個人の名義で「国土建設一円貯金」と名称し、成るべく3～5年間で定期預金になるように積立て、8,500万人の国民が大部分実行すれば一カ年に300

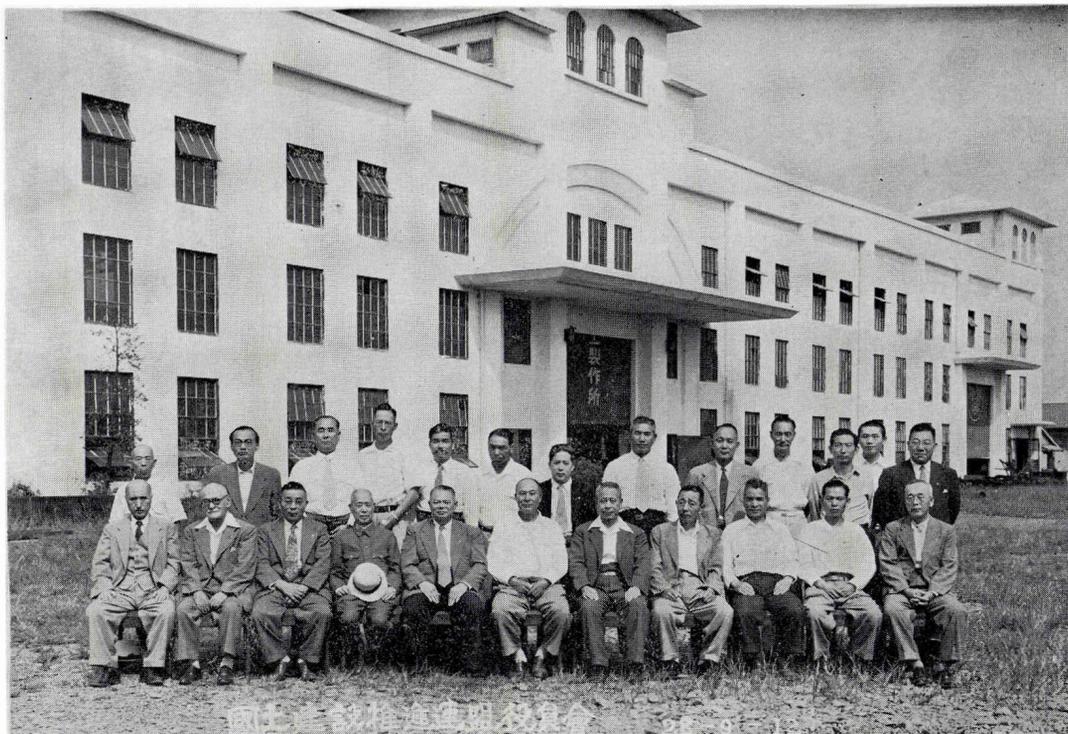
億円の巨額に達するから、政府はこれを見返りに「道路建設公債」を発行すれば、国内のインフレを招かないで資金対策ができ、且つ個人の寄附とはならないと着想されたのである。

但し、田中企画者を中心として私達が組織した〔国土建設一円会〕に共鳴して、全国各地で貯金を実行されている有志の金額は莫大となったことは、国家の為、祝福すべきことである。

孔子は「至誠之道は以て前知す可し」と教えて居るが、田中氏は洵に至誠の人である。

更に私には、昭和28年2月11日（旧、紀元節の日）に全国の有志によって結成された「国土建設推進連盟」の由来と、田中プランの実現を促進する各地での大運動が展開されたことについて詳記したいが、これは本誌に詳しく掲載されてあるから、これを省略し、この連盟の理事長に私が推選されて今日に至っているので、今回ご挨拶かたがた、田中連盟会長のことについて本文を寄稿いたします。

（国土建設推進連盟、理事長……静岡県清水市杉山）



「国土建設推進連盟」の役員会（昭和28年9月28日）〔株式会社富士製作所沼津工場に於いて〕

## 偉業と先覚者

松田江畔

自動車の急激な増加は全く予想以上とあってよい。木炭車、薪車が僅かにあって、喘ぎながら走っていたのは、つい二た昔前のことであって、その頃今日の姿を予想し得た人は、寥々たる晨天の星に等しい。

国土建設推進連盟の会長、田中清一氏の「全国道路網計画」の内、「中央道案」は、そういう中で生まれただけに、政治家も経済人も、誰もすぐには理解出来なかったのである。

併し先見の明ある日本人の一部と、米軍司令部の智恵袋には、ハッキリとその着眼が判り、強い共鳴を得た。当路にある人、技術を究めた専門家ほど理解しにくかったらしいのである。

責任ある当路者や、技術の専門家は、どうしても当面自分の為す仕事とくらべて、可否を割り出しやすいところがある。それだけに大きな問題となると、判っていても、判らなくても、反対する立場に立ちたがる。平たい言葉でいうと「素人がなんだ」ということである。当路に居て、先が洞察出来る人は、特別すぐれた人であって滅多にあるものではない。

「明治維新前」の事を調べてみても、当路者で先見の明があったと思われる人は、阿部伊勢守、江川太郎左衛門、勝海舟より外には何人もいない。

西郷、大久保、木戸、坂本等の人々は皆素人だといってよい。しかし、素人の多くに先見の明があり、これを実際に事業として動かしていくには実際家が必要となる。由利公正の様な人、岩崎弥太郎の様な人がどうしても出て働かねばならない。事実、明治政府当初の台所を賄ったのは、幕府に居った有能な人や、各藩の勝手元にいた有能者である。

田中会長の「中央道案」は、幾多の曲折を経て「国土開発縦貫自動車道建設法」となり、これは実現の途上にあるが、これが元になって各種の名称になってはいるが、道路拡充、新設等の画期的な法律が出来、道路建設予算が日本の経済成長と共に、巨額に実施される様になった。

このように、あらゆる建設的なことへ国が手を出すようになった源に「田中案」がなっていると、それに要する予算が、現実に支出され、抵抗されなくなったことは、昭和28年にわれわれが「国土建設推進連盟」を結成し「国土開発中央道」の実現を促

進する陳情時代に、「莫大な建設費」を要するからと、政府要路の方々が反対された当時に比べ、大きく財政が変化したことに注目されてよい。

「田中案」が国の仕事になったが、これ迄に時間がかかり過ぎたのは遺憾なことである。その為、土地の値上りや、現地の強い抵抗などによって、理想的な姿から、次善的なものへと変更された点も少くない。

その上、時間の経過は、国土開発と青少年に希望を与え、健全な「国造り」に寄与するという、根本的な面からは遠くなり、専ら交通の緩和、スピードアップ、所得および文化の地域格差の是正という様な方向へ片寄ってきた。

これからの「国土開発」は非常にむずかしい問題を含んでおり、道路とは離れた方面の研究や、精神面のことなど、遥かに先きのことに着目しなければならないかと考えられる。

或は又、国土開発という命題から、次の命題を打ち出す必要があることも考慮すべきである。多難な現状の打開と、将来の建設には優れた叡智が必要である。

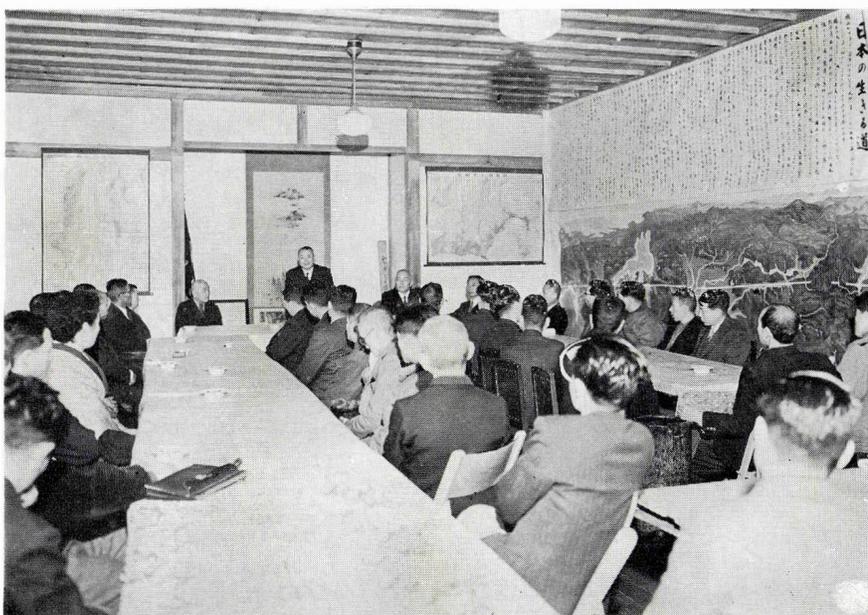
因みに私は、「国土建設推進連盟」が結成されてから以来、田中案の概要を国民に知らしめ、且つ、この実現推進の運動状況を報道するために発行することになった機関紙「新国土」の累巻135号の編集役になり、今日これを通覧すると、建設省の予算が特に「天文学的数字」となったことなど、また田中案の一部実現したことなど感慨無量に堪えない。

国土建設推進連盟・理事（静岡県清水市庵原）

「国土建設  
推進連盟」  
の役員会

（昭和30年）  
3月20日

富士製作所  
沼津本社の  
会議室にて



## 中央自動車道と共に十八年

坂 下 広 士

中央自動車道を頂点とする五つの縦貫自動車道の動向は全国民の関心の的となっているが、現段階に至るまでの発案者田中清一氏の献身的な努力に対して、為政者は勿論、国民が正しく認識しているであろうか、この点に思いを走らすとき、私は義憤を感じざるを得ない。このことを先ず前提として、思い出を遡って見たい。

私が「中央道」に関心を持ったのは昭和26年9月である。日本商工会議所の会合で上京、新宿駅の売店で「政治と社会」9月号という小冊子が手に入り、田中氏の「国土総合開発で世界の楽園」と題した論文を読んで共感を覚え、斯様な雄大な構想を描く世紀の偉人を、是非飯田市に招きたいと決心したのである。田中氏の構想によると、飯田が「中央道」の中央に位置し、開通の暁には長野県の「表玄関」になることが約束されているので、郷土の発展を念願する私にとっては、この上もない朗報であって、忘れもしない昭和27年1月15日に発案者の田中先生を飯田市に迎えたのである（田中氏は既に5～6年前から、秘かに飯田市周辺を既に調査されていた）。私は初めてお目にかかる氏に若干の不安を感じないでもなかったが、初対面の挨拶を交わして、疑懼の念は完全にフッ飛んでしまった。

田中氏は尊大ぶった所もなく、率直な明るい性格に私は心を打たれ、それからは旧知の人のように思われてならなかった。講演会にはこの地方を代表する各階層の人々62名が出席したが、講演会を終わってからの聴衆は「こんな夢物語のような話が果して実現されるだろうか」という感想を話し合ったのである。正直に言って私、自身も一度は赤石山にトンネルを開けることが出来るであろうかと思った位であるが、数日後に画期的な、大事業を推進するべきであると決意し、飯田商工会議所会頭青島愛二氏（今は故人となられた）を会長に「中央自動車道促進期成同盟会」を組織し、同年2月10日には、時の内閣総理大臣吉田茂氏に対し、促進を要望する「陳情書」を提出したのである。

このことは恐らく全国でも地方としては第一号の陳情書であり、「期成同盟会」の結成であったと自負している。その後、田中先生も吾々の熱意を認められて、毎年何回となく飯田市附近の南信地方に御出でになり、自ら中央道の通過地点を実測され、私も年に二、三回は沼津を訪れる等、文字通り一体となつての運動を続けたのである

が、折角昭和32年に「国土開発縦貫自動車道建設法」となって法律化され、「赤石山系」の通過地まで明示されたものが、昭和39年6月、政治力によって「諏訪廻りルート」に変更せられたのであった。

こうした動きに対し、吾々は反対の意志表示をしたのであるが「赤石ルートを固執すれば、道路建設が遅延する恐れがある」と他有力者から説かれ、吾々も一日も早く中央道を実現させるためにはと大乗的見地から、涙を吞んで変更を承認したのである。

然るにこの変更によって、多くの農耕地を潰す沿道住民が反対に起ち上がり、用地買収が暗礁に乗り上げるに至ったことは、「国土造り」の企画案とは皮肉な現象で、為政者はこの点に対し何等かの釈明をなすべきであるにも拘らず、口を緘して語ろうとはしない。

斯うした動向に、私は本年3月の当会議所の議員総会で、この点に論及し「今日、このような事態を招来したのは為政者の重大責任である」と論難したのである。

何れにせよ、「中央道」が厚い壁に突きあたったことは、地域住民にとって大きな損失であって、農耕地の犠牲が比較的少ない「赤石ルート案」が採用せられていたら、中央道開通の見通しは既についている筈で、返すがえすも残念でならない。

とに角10有8年という永い間を中央道に取り組んできた南信地域の私には数えきれない程の思い出があるが、昭和34年の「参議院議員選挙」にあたり、中央自動車道実現へのスローガンを掲げ敢然、出馬を応諾されて立候補された田中清一氏のため、吾々は果敢な選挙戦を行い、最高の得票を勝ち取ったことは、私の一生を通して忘れることの出来ない感激である。

過ぐる昭和27年に初めて田中先生を迎えた当時、この世紀の大計画を快挙促進すべく誓いあった人々の内、青島会頭を始め有力者の多くの方が故人となられたり、役席から既に第一線を退かれた方も多いので、今日の感激を語り合うことができないのは、限らない淋しさを感じるのである。

それにしても今日、何より思うことは、田中清一氏が健康に留意せられ、中央道の開通の時は、発案企画者として地元民と喜びを十二分に味わって戴きたい。私は今日、唯々そのことをのみ念願しつつ回顧録の一端を寄稿する次第である。

(長野県飯田商工会議所、専務理事)

## 南信飯田の夜明け

林 宗 重

「自分の今日あるは、決して自分一人だけの力でなったのではなく、社会のおかげだ。だから自分の余力は世の中のために御恩返しするのだ」。これが田中清一氏の一貫した信条である。

たまたま終戦により荒廢した日本を救うべく「綜合国土開発計画」を創案、決然として立ち上った。この超人的な行動は当時の常識では理解できなかった。狂人か、もの好きか、或はやま師かと、世評されたのであった。

田中会長は昭和34年この大事業達成のため、「国土建設推進連盟」の推挙によって、やむを得ず「参議院議員」に出馬されれば、選挙めあてと誤解された。幸い国会に議席をもたれ、あらゆる困難に打ち勝って漸く「田中プラン」の大計画も軌道に乗ったのであるが、如何せん長期にわたる日本全土の細かい地図と取組まれたため、両眼を損はれて入院による眼科手術を2度も受けられたので、心身共に疲労され、遂いに参議院議員の任期の終り近くに臥床の身となられた。その間、実に2年間、一時は再起不能といわれながらも、九死に一生を得て本復されたことは何よりも喜びに堪えない。

昔から「先覚者世に容れられず」のたとえを破り、すでに国土開発高速道路は全国津々浦々に着々と実現しつつある。今日この越し方を想うとき、誠に感無量である。

かって田中会長のお供をして実地踏査の折、目的地に着くと、先ず会長は合掌され、天地自然に対し黙禱を捧げられた。私も思わず「日本のために立派な道路が出来ますように」と追従した。行きあう樵（キコリ）や農夫にも心安く挨拶された。ある時は列車の窓から線路の敷砂利を見つめながら「あの一つ一つの小石もみな我々の為に尽してくれているのだ、ありがとうよ」と静かにいわれた。すべてのものに対し感謝の念をもたれている。

又、田中会長は他人に迷惑や負担をかけることをさげ、極めて清廉である。私の郷里、信州飯田地方の様子を手紙でお知らせする代りですからと思い、私が地方の新聞を数カ月郵送し続けたら、後日新聞代として受取ってくれと「送金」してこられた。施すとも決して求められない。酒宴の折など興ずればねじ鉢巻に諸肌ぬいで小諸馬子唄などおやりになる。実に稚氣満々の方であり、時には毅然たる大風格を示される方でもある。

聞くとことによれば、田中会長が社長をして自営されている「株式会社・富士製作所」も本年めでたく創立50周年を迎えるそうであるが、「この人にしてこの会社あり」で今後一層の繁栄を祈念したい。

「国造り」であるべき筈の道路が、ややもすれば政治色や地方色に傾き、本来の目的をあやまる向きなしとは言えず、田中会長を先頭に、今後、尚たゆみなき努力を私たちも傾注して正常化をはかり、有終の美を取めなければならない。私も訓を受けた一員として田中会長のご努力の万分の一でも報いたい決心である。（飯田市竜江）



国土建設推進連盟の「新しい国造り」の大講演会  
財団法人田中研究所・理事（元鉄道大臣）八田嘉明氏の講演  
（沼津市公会堂において）（昭和30年4月5日）

## 田中プランに協力して

永野常蔵

英国の凋落、中ソの葛藤、国際通貨の不安不信、米ソの表面緊迫感の中だるみ等に幸いされ、その上終戦後20余年の平和と経済発展に酔って敗戦ボケのまま享乐的、利権的習性に陥ってしまった。人心惰弱に流れ世はまさしく元禄時代の「昭和版」を再現している。斯くて我々は明日への発展の基礎造りに怠慢になってしまった。

然し激動する世界の国際状況は常に憂うべき政略的な動きが感ぜられ、底流は心ある多くの士が憂っている如く、誠に容易ならぬ危機を含んでいる。

先般、中東戦争が始まった途端に我国の石油在庫は2ヵ月分しかないで大騒ぎした。幸に戦争が数日で勝負がついたので此問題は解消したが、輸送路が杜絶するとすぐ産業に影響し、食糧危機に突入するのは必定である。第三次熱戦はお互いに牽制しているから、尚10年は起るまいと思うが、地球上各地で地域戦争は絶えず起る。

国際的でなくても東京など1週間も食糧入荷が止まれば暴動が起るだろう。

20余年前、日本再建、平和郷建設の爲めには「日本縦貫自動車道」を作り、未開発のまま放置されている「国土の80%」の丘陵山岳地帯の開発をせよと絶叫し、自ら調査し設計し、建設指導に当たっている田中先生のような「能く考え、能く言い、能く行う」日本人がもっと欲しい。真に世を憂い、国を思い、国を護る力のある人が欲しい。

田中プランとして日本道路行政の青写真は一応確立したので喜ばしいが、政治を担当する者の意欲も、情熱も、協力も足らず、其の具現実行が余りにも怠慢的すぎる。

やる気さえあれば外資に頼らずとも、5年で中央道の一部である（東京—神戸間）は出来ると我々は各方面に力一杯呼びかけたのだが、あれから十数年、今漸く「調布インターチェンジ」が出来てやっと八王子まで開通した。

食糧自給が出来なかった為日本は生きる道、人口のはけ口を台湾に、朝鮮に、満洲に求めた。そして日本は軍国主義、侵略の悪名をきせられ、結果は無条件降服に等しい汚点を歴史に印した。そして狭い日本に押込められ、世界の監視下に置かれた。敗れたのが幸となって経済開発、技術開発に精進することが出来て、漸く世界の大国に伍する力をつけて来たが、内面的には世を憂い、国を思うことの薄いというような、言い替えれば、国の大患を知らず、知らせぬ、まだ何か忘れられている部分があり

すぎる。

最近私は野間海造博士に会う機会を得た。博士は田中先生に後ること10年、世界的食糧不足を憂い、此の打開の為に運動を続けて来ている。昨年8月第11回世界科学者会議に提出した博士の提議は、非常な関心と賛同を呼んで、世界開発銀行総裁はその提案に基く農業開発、後進国の食糧危機救済、平和維持に関して資金と技術の援助を続けると博士に約束している。

田中先生は占領軍の代表マッカーサー元帥に対して「日本人を飢と寒さから救って、それで満足されてはいけない。日本人の伝統的性格から見て3～40年先にきっと米国に遺恨の表現をするかも知れない。だから衣食で喜ばすよりも、貴殿の任期中に日本人の子々孫々までアメリカに恩義を感じ、愛情をもつような事をしなさい。それには私のこの国土再建案以外にはない」と直諫された由である。

そのためには〔G・H・Q・〕のマッカーサー元帥だけでなく「ロックフェラー氏、ダレス氏」等も田中先生に直接協力を申出られたと田中先生から私は聞いている。更に

天皇陛下に対し奉り「陛下、今日の国難ありと雖も、決して御心配はいりません。私の此案を実施することにより、日本は必ず再建出来ます」と御奏上申されたということも伺っている。

又、田中先生は東経138度6分、北緯35度5分、解り易く言うなら富士山の北、王岳の南、西湖と精進湖との間、上九一色村に1,200町歩の土地を選定し、此処を皇居として差支えなきかを自ら年月をかけて調査し、最適の確信を得て、此処に毎年8月23日に修祓齋戒し、天神地祇に祈を捧げ清めの祭を行なはれた。

この地は残された日本の中心であり、北、王岳から流れる水は清冽にして豊富、少しも汚されて居らず、南は青木ヶ原の上に霊峰富士に対し、東に紅葉台、西に精進湖を抱え、天下の絶景であり、太古よりここが皇居の地として残されて居たと思われる。

此地はもと

明治天皇が山梨県に御下賜になった土地であるが、いつの間にか王岳の南麓は61筆10町歩の民有地となっていた。之を先生は地主の言い値で譲受け最後は桑の木一本の代まで払ったという。それで民有地全部を将来、公用にできるものにし、残80%は山梨県から借用された由である。先生の念願はあの空気のある東京から此処へ行在所を造営して御献上申し上げる心組みであるとお聞きして居りました。私は田中先生からこの大事をお聞きして、血潮の涌立つ感激を覚えた。人間の一番大切な願いは、名誉でもなく、億万の富でもない。又大事業でも、大学者でもない。国を愛すること、

国を護ること。民族に平和をもたらすこと。自己一身など空無であると思える人、自己を犠牲にして無上の法悦を知ることの出来る人である。私はかゝる人を田中先生に発見した。

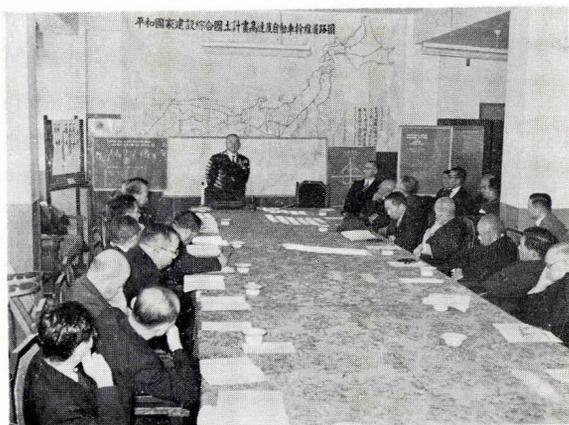
あの敗戦直後に占領軍司令官に、あのよう直言し得た日本人が他にあったろうか。東京裁判で処刑されたものの他、正々堂々と人道を説き得た日本人が何人あったろうか。又国を挙げて打ちのめされた様なあの頃、

天皇陛下に「新日本建設」の方法を御奏上申上げた日本人が他に居たであろうか。

その大目的の為に精神と肉体と財産を投げ出し、一時は田中社長として経営されている富士製作所の事業も部下に委せて、この国家的大事業に専念されたのである。

「能く言いて、行うこと能はざる者」は国の師に非ずと言う。国の師、大衆の指導者を以て任ずる人は多すぎる。純情を傾けて国を愛し、勇氣と智慧を以て国を護る田中先生は、国の大きな宝である。私は最もこの人を尊敬する。

(元、住友銀行静岡支店長—東京都杉並区高井戸)



日本工業倶楽部における  
理事会（東京）



尾崎行輝氏 日枝神社宮司・内海泰三氏 田中企画者 木下道雄氏

## 田中社長に仕えて

友森二郎

田中社長に仕えて47年、私にとりましては(株)富士製作所の社長であり、また財団法人田中研究所の理事長であり、国土建設推進連盟の会長であり、国土建設一円会の全国本部の代表者であります。

会社の社長としては、その社員の統率力といい、指導力といい、私には足元にもおよばない抜群の才能と、体力と、温情とをもっておられます。

田中研究所の理事長としては、国土計画に対する卓越した頭脳と、国の将来を憂うる志士としての情熱をもっておられます。

国土建設推進連盟の会長としては、自らの構想を上下差別なく、よく相手方が理解するまで懇切丁寧に説いておられます。

国土建設一円会の代表者としては、国が外国から借金することなく、自力で再建を図ることができるよう、周到なる準備をするように、広く国民全体に訴えておられます。田中社長は、日本の国土の再建方策樹立のために国土を隈なく跋涉され、調査測量され、その調査結果に基づいて設計し、国土計画・田中プラン、と一般に称されるに至るまでに格調の高いものにされました。

社長の至誠天に通じ、国土開発縦貫自動車道建設法、の公布となり、日本の国土の上に、「高速自動車道網」が着々と建設整備されるようになりましたことは、御同慶の至りに存じておる次第であります。

社長が田中プランを発想されましてから今日まで、20余年の歳月が流れましたが、時には狂人扱いをされたことがあるなどを考え併せますと、うたた感慨無量のものがございます。

今後とも末長く社長に御指導いただける我が身を、この上なく幸福に存じておる次第でございます。

田中社長は既に「藍綬褒章」「勲二等、瑞宝章」の御下賜に浴されておられますが、今般私も「黄綬褒章」の受章の榮に浴することができましたことは、一重に社長の御指導の賜ものと深く感謝している次第でございます。

茲に田中社長の側近に仕える者として、以上披瀝させて頂きます。

(株)富士製作所・副社長)

## 官庁側協力者の思い出

奥村和夫

終戦後間もなくG・H・Qの命名した「国土計画・田中プラン」という素晴らしいプランが公表された。これは公的な、国家的なプランであるために、官庁側の公務員と雖も共鳴した者は、田中企画者の協力者となって、各種の作業を手伝うようになった。

協力場所は財団法人田中研究所の東京事務所（丸ビル3階の富士製作所分室）と赤坂の水川神社近くの富士製作所の東京寮と沼津の本社内であって、企画者が参議院議員となられた期間は、参議院会館も大いに利用された。

協力者の顔ぶれは、建設省関係では塩原三郎技官、林実事務官、筆者の奥村和夫技官であって、運輸省、国鉄関係では佐久間貞二技師、中村三二技師小森純三技師など、その他民間の権威ある学識経験者も多数出入りされて、一時は田中プランの研究や検討に活況を呈したことが、今更懐しく思はれる。特にわれら研究協力グループの世話役をされた田中研究所の小西百一理事が、多年念願された「国土開発縦貫自動車建設法」が国会で成立した昭和32年の8月に他界されたことは残惜の極みとなった。

以上の各氏と共に回顧すれば、長編の記録となるが、本誌には素描のみを追想することにした。即ち塩原技官は学生時代に山中湖附近を測量されたとのことで、富士山麓の開発と中央道との関係に興味をもって研究され、特に路線選定に熱心に取組まれていた。

奥村技官は新都市、新農村の建設に興味をもち、田中プランの実現のためには立法措置が必要と考え、鉄道敷設法にヒントを得て国土開発縦貫自動車道建設法案の草稿に当り、高速自動車道網と新都市、新農村建設の構想を法文化した。

丸ビルの分室には、われわれが作業をしていると、よく多くの名士が来訪されたものであった。先ず木下道雄先生、中島久万吉先生、安井英二先生、八田嘉明先生、木村公平先生、また社会党の元総理、片山哲先生や、これらの来訪者は田中企画者の激励のためであった。

このことはマッカーサー元帥ならびにG・H・Qの関係者を感激せしめ、算えきれない程の各地での講演は数十万人の聴衆を感動せしめ、ラジオ・テレビ等のマスコミを通じては幾千万の視聴者に強い感銘を与へる等、発表したいことは枚挙に暇がない程山積していることを掲載して、止筆する。

## 編 集 後 記

編集委員長 瀬 上 清 隆

昭和20年8月15日、大東亜戦争が思いもよらぬ敗戦の報で全国民は啞然として、周章狼狽、人心は動揺し、社会は極度に混乱に陥った敗戦後の間もない頃に、突如として「新日本建設」の大構想を発表した田中清一氏は、当時の新聞報道陣は「奇想天外」とか「誇大妄想」などの見出しで書かれたのであります。

この構想は、当時日本に進駐していた連合軍の最高司令部（G・H・Q）では国土計画の田中プランと称せられ、日本再建のマスタープランであると賞賛されたのであります。そして今日、この田中プランは「狂人の夢」でなくして遂いに一部は既に実現し、目下、全域に亘って着々と実現しつつあります。実に感慨無量です。

田中企画者は私たちの会社の社長であり、特に私は同郷の関係で慈父の如く恩師と仰ぎ、且つ国土計画・田中プランの実現推進には、最も多くの使命を負い、凡ゆる場所へ随行して田中企画者の助手を努め、また重要な企画に参画したのであります。

よって本誌の「日本の高速自動車道……その発案と実現について」の標題にて編集する役も、歴史を詳細に記録している私に仰せつかって、昭和39年5月に第1集を纏め、今回第2集の編集を了えた次第であります。然るに田中プランの企画、推進から、企画者が参議院議員となられての国会活動、また国土計画の施行に関する資料が余りにも莫大量に保存されているので、到底一冊や二冊の総合本に取纏めることは不可能なのであります。これを承知で本誌を一先ず編集しましたところ、掲載を欠くべからざる重要会議、集会、講演記録などが可なり多く漏れていることが指摘されて当惑しております。

特に田中企画者と格別の懇意の間柄にあられる方で、しかも田中プランの絶大なる協力者であられる方々についての記事や、そのご本人から寄稿をお願いすべきであったのが、編集の都合で「第3集」の印刷に延ばしていただくことになって、今回は掲載できないことを、本誌を通じて深くお詫びを申上ます。

更に本誌は田中企画者の経営される榎富士製作所の創業50周年に因み、昭和43年秋に発刊すべきものが、会社の記念史と重なって編集が甚だしく遅延致しましたことを御詫び申上ます。

謹具

財団法人、田中研究所、常務理事・富士製作所常務取締役



## 総合国土計画・田中プランの年代譜

財団法人・田中研究所

### (第1章) 田中プランの起因について

#### 昭和12年 ◆ 日支事変の勃発を契機に

(1937) 昭和6年の満州事変に続いて、昭和12年に日支事変が勃発し、軍部の活動が日を追うて拡大するにつれて、国民は斉しく杞憂するに至った。

この時代より静岡県沼津市に居住する(株)富士製作所の創立者であり、経営者である田中清一氏は、「製材機械と金属工作機械」を製作する技術者として、幾多の発明特許を有し、いわゆる鍛冶屋(正しくは技術者)であり、世間には一介の野人と自称しつつ常に天下、国家の事を案じて戦争の起因を探索されていた。

#### ◆ 戦争の誘発と闘争の起因

田中氏は……「世界各国において有史以来、東西古今を問わず、人類の悲惨な闘争が惹起しているが、これは何故起るのか？」と深考し、これは……「多くの場合『人口と食糧及び資源、の不均衡(アンバランス)から相互に領土的な野心を起して縄張りを争うことが、結局、戦争を誘発し、これを繰返している』……のだと喝破され、当時から多くの人達と論議されていた。

このことは、わが国における日清、日露の大戦争から、満州、日支の事変における闘争にも当て嵌ると指摘されて慨歎されていた。

#### 昭和15年 ◆ 総合国土計画研究所を創設

(1940) 田中企画者は構想に構想を重ねた結果、上記の「人口と食糧の問題」を解決することが、平和を維持する根本策なりと達観され、このため施策すべき「国土の有効利用」を総合的な国土計画によって、食糧の自給自足を根本として凡ゆる天然資源の開発を図る企画を具体化すべく、標題の如き「研究所」を私設の機関として設立されるに至ったのが、「国土計画・田中プラン」の起因となったと謂えるのであります。

## 昭和16年 ◆ 大東亜戦争に拡大した原因と困惑

### ● 食糧の自給自足の対策、農耕地確保の方策

1. 農を以て国の本とした我が瑞穂の国が、人口増加と文化の向上に逆比例して農耕地が縮減し、食糧不足が増大して行く矛盾を指摘し、為政者に警告せり。
2. 軍用施設、軍需工場等の建設のため、肥沃豊穰な農耕地が平気で潰されていくことに對し、対策を図る。
3. その他、非生産的な施設に対しても〔不毛の土地〕の利用が真剣に検討されないことを指摘した。

### ◆ 独創的な「隧道工場」の企画と政府へ献策

前項の現状に対処するため、下記の目標にて「隧道工場」を創案し、この普及を提案せり。

- (イ) 先ず食糧の自給自足のため、農耕地の確保を図る。
- (ロ) 隧道工場（地下工場とも謂う）は恒温保持ができるので、精密機器、高精度機械の生産に適す。
- (ハ) 防空に最適であるから軍工場、航空機生産工場、その他、民間の重要工場は適当な山岳丘陵地を利用し、隧道工場を設計、建設する。

## 自、昭和16年 至、昭和19年 ◆ 隧道工場（地下工場）の建設を促進

1. 政府に隧道工場の建設を献策。
2. 陸海軍工場の建設を献策。
3. 隧道工場を普及す。
4. 民間重要工場の建設を促進。

- (イ) 隧道工場の設計図を作成し、その要点を陸海軍の将官、幹部に説明し、提案せり。
- (ロ) 東条内閣、小磯内閣に献策し、首相と会見して説明の上、この国策化を図る。
- (ハ) 前首相・近衛文麿氏、及び政財界の有力者、民間の有力者、民間の有力指導者が沼津へ田中企画者を訪ねられた機会を契機に、本案の説明に努めた。

◆ 陸海軍の首脳と政財界有力者との会談

「昭和16年～19年間」に沼津の(株)富士製作所へ来社されて、社長でであり、国土計画の創案者である田中清一氏と会談された主なる来訪者の記録は下記の通りである。

---

陸軍大將	荒木貞夫閣下	(昭和16—4—14日)
陸軍大將	松井石根閣下	(昭和17—8—22日)
海軍艦政本部	片桐中将閣下と3将官	(昭和17—9—6日)
海軍航空本部	島田中将閣下と9将官	(昭和17—9—17日)
海軍大將	山本英輔閣下	(昭和17—11—21日)
名古屋海軍監督官長	仁村少将閣下、外	(昭和18—6—28日)
陸軍大將	岸本綾夫閣下	(昭和18—11—23日)
陸軍大將	松井石根閣下	( " )
海軍大將	末次信正閣下	( " )
海軍少將	宮沢竹蔵閣下	( " )
東海軍管区司令官	陸軍中將、岡田資閣下	(昭和19—2—16日)
陸軍大將	宇垣一成閣下	(昭和19—3—13日)

---

宮内省、帝室会計審査局長官 木下道雄殿	(昭和17—11—15日)
(後の侍従次長、皇后宮大夫)	
公爵、徳川家正殿、徳川慶光殿	(昭和18—6—13日)
公爵、一条実孝殿	(昭和19—4—22日)
元、内閣総理大臣、公爵、近衛文麿殿	(昭和19—4—24日)

---

元、逓信大臣 久原房之助殿	(昭和18—5—3日)
元、内務、厚生大臣、安井英二殿	(昭和19—5—5日)

---

印度独立運動総裁、ビハリ・ボース氏	(昭和17—4—21日)
国学者(元、伊勢神宮奉讃会会長)今泉定助翁	『昭和17—7—16日』
元、伊太利大使、白鳥敏夫殿	(昭和19—2—13日)
ビルマ大使、ウーチーモン氏	(昭和19—4—16日)

---

(備考) 以上は記念撮影の写真にて列挙したもので、この外多数の軍部、政財界の来訪者が富士製作所に記録されている。

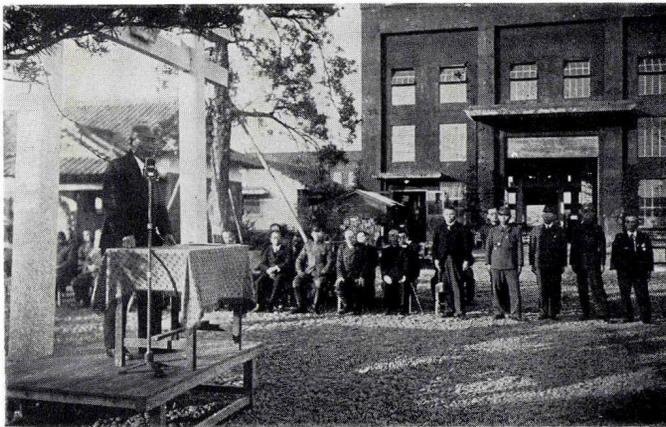
沼津の富士製作所へ来訪された主なる来賓



陸軍大将 荒木貞夫閣下  
(昭和16年4月14日)

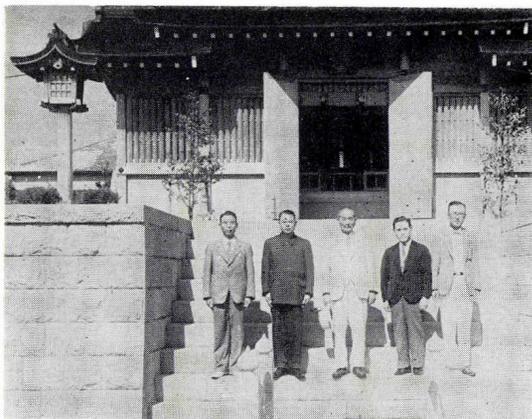


陸軍大将 宇垣一成閣下  
(昭和19年3月13日)

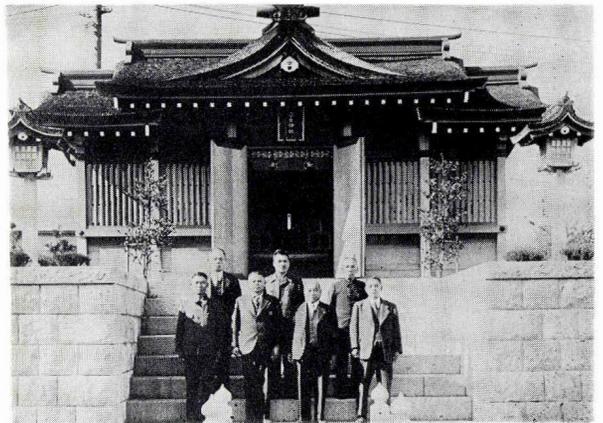


海軍大将 末次信正閣下(壇上) (昭和18年11月23日)

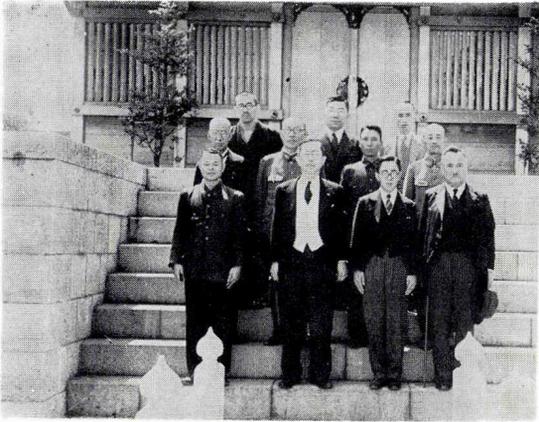
陸軍大将  
松井石根閣下  
陸軍大将  
岸本綾夫閣下  
海軍少将  
宮沢竹藏閣下



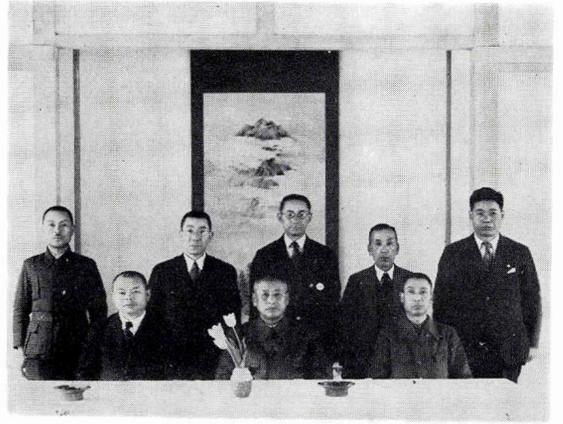
陸軍大将 松井石根閣下  
(昭和17年8月22日)



海軍大将 山本英輔閣下  
(昭和17年11月21日)



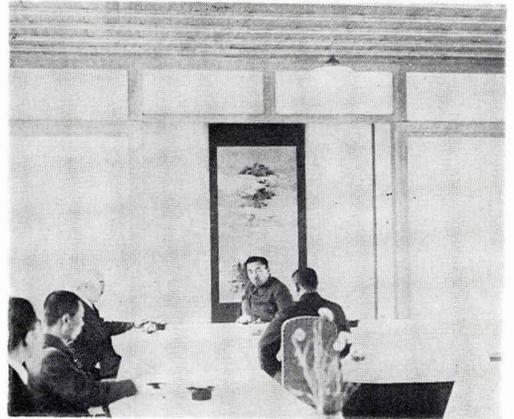
公爵 徳川家正殿、徳川慶光殿  
(昭和18年 6月13日)



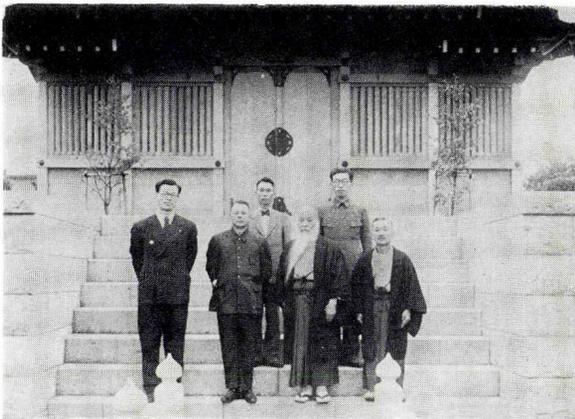
公爵 一条実孝殿  
(昭和19年 4月22日)



前内閣総理大臣 公爵 近衛文麿殿  
(昭和19年 4月24日)



近衛公爵と語る田中清一氏 (背向)



伊勢神宮奉讃会会長 今泉定助翁  
(昭和17年 7月16日)

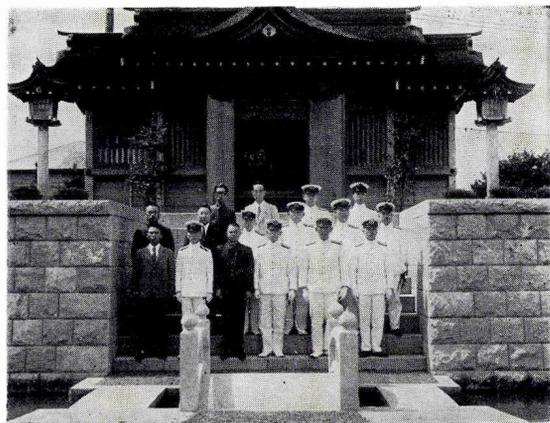


印度独立連盟総裁 ビハリ ボース氏  
(昭和17年 4月21日)

沼津の富士製作所へ来訪された主なる来賓



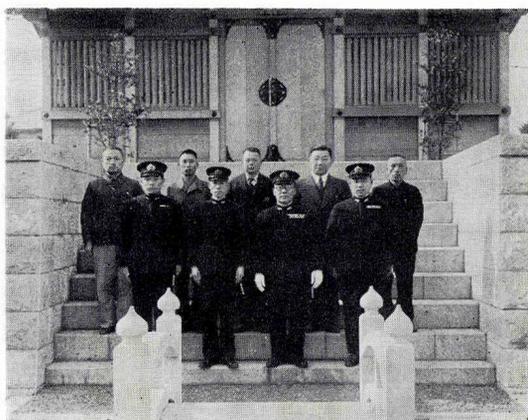
東海軍管区司令官 陸軍中将 岡田資閣下  
(昭和19年2月16日)



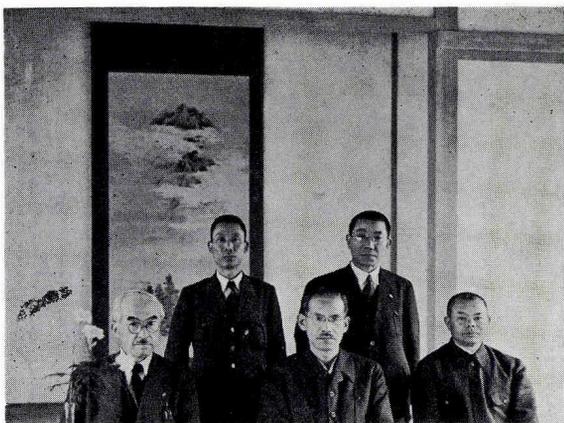
海軍艦政本部 海軍中将 島田閣下  
(昭和17年9月17日)



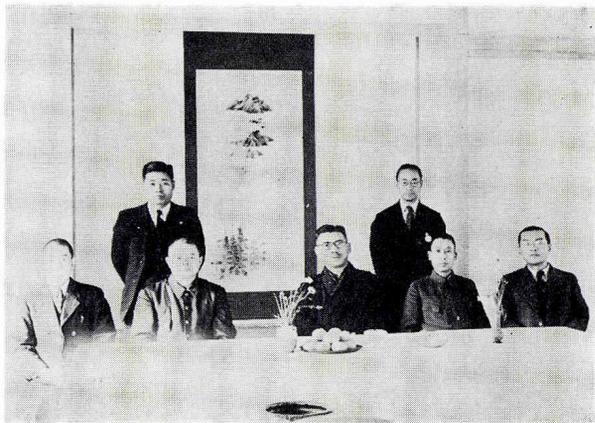
元通信大臣 久原房之助氏  
(昭和18年5月5日)



海軍航空本部 海軍中将 片桐閣下、外  
(昭和17年9月6日)



元、内務、厚生大臣 安井英二殿  
(昭和19年5月5日)



元、伊太利大使 白鳥敏夫殿  
(昭和19年2月13日)

## 昭和19年 ◆ 隧道工場の建設を促進

(1944)

内閣総理大臣	米内 光政 (海軍大将)	……昭和15—1—16日成立
全	近衛 文麿 (公 爵)	……昭和15—7—22日成立
全	東条 英機 (陸軍大将)	……昭和16—10—18日成立
全	小磯 国昭 (陸軍大将)	……昭和19—7—22日成立
全	鈴木貫太郎 (海軍大将)	……昭和20—4—7日成立

上記の戦時内閣において田中企画者の居住する沼津市へ来訪されて会談された陸海軍首脳部は前項に掲載の如くであるが、当時、東京都の空襲が相次ぎて憂慮せる田中清一氏は、次の如く積極的工作を図られた。

### ◆ 内閣総理大臣、東条首相に献策

昭和19年6月9日、企画者田中清一氏は自ら設計せる「隧道工場の設計図」を持参して、首相官邸を訪れ、速かに建設に着手するよう献策せるも遂いに首相と会見できず、当時の首相秘書官、陸軍大佐、赤松貞雄氏と要談して設計図、及び各種の資料を東条首相に提出するよう依頼して辞去された。(瀬上理事が随行)、田中氏は官邸を出て更に前首相、公爵、近衛文麿邸に参伺して、隧道工場を急拠建設すべき国家の現状を具申され、この推進方を懇請されたのであった。

◎赤松秘書官の来訪……昭和43年12月26日、当時の東条首相の秘書官、赤松貞雄氏が沼津へ田中企画者を訪ねて会見され、上記の事情を述懐されつつ東条首相に面会の手配が出来なかった申訳と共に、結果は国家のため残念を招いた遺憾を悔まれて半日を過ぎられた。

### ◆ 内閣総理大臣、小磯首相と会見

東条首相は戦局の不利と共に遂に辞職され、昭和19年7月22日に組閣された小磯首相は、今泉定助翁の進言によって田中企画者を首相官邸に招かれ、19年11月15日に会見となった。この会談によって多年研究の国土計画・田中プランを即刻着工すべきと献策された「隧道工場」の建設が漸く本格的に促進された。

## 昭和20年 ◆ 模範的な「隧道工場」の建設着工

(1945) 陸海軍における「地下工場」の建設着工と共に、田中企画者の現場視察を要請される申出も生じたが、この模範的な隧道工場を田中企画者によって建設せよとの要望にて次の如き発令となった。

### ● 東海軍管区司令官、陸軍中将、岡田資閣下の発令

「岐阜市金華山に隧道工場を建設し、指定会社である(株)富士製作所の沼津工場を収容せよ」……との軍命令にて昭和20年2月より施工の準備を行い、5月1日に「岐阜市神田町2丁目、信用組合ビル2階」に建設事務所を設置せり

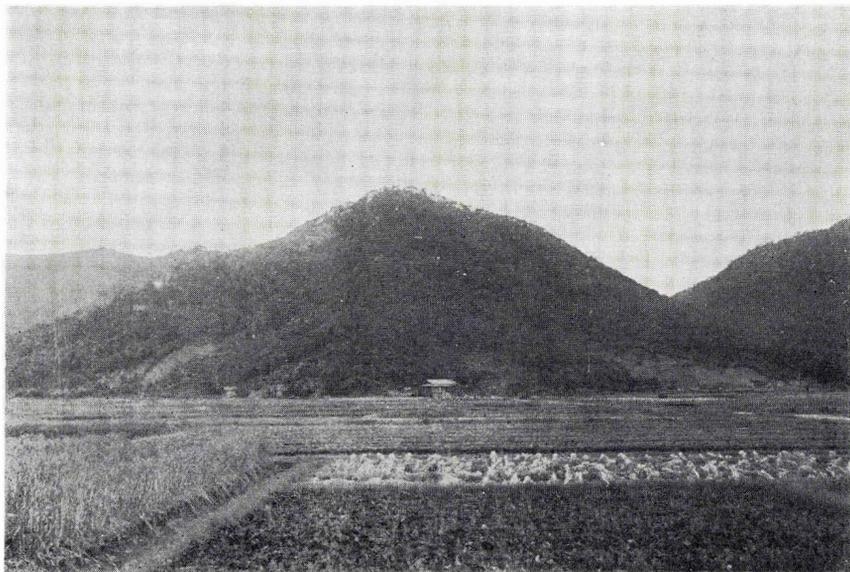
### ● 金華山隧道工場の地鎮祭を挙行（6月23日）

当日は軍部の要人の外、岐阜市長、松尾国松氏、外地方関係者、工事請負の酒井建設㈱の社長、酒井利雄氏、技術部門の日本発送電㈱の幹部等、多数の参列にて厳かに地鎮祭を挙行せり。

### ● 隧道工場の規模

1. 長良川口より岩戸観音（南北線）……1,909米
1. 岐阜公園口より日野口（東西線）……1,667米
1. 工場有効面積=87,300平方米（26,455坪）

● 昭和20年7月10日の岐阜市大空襲にて全市が殆んど壊滅したるも、施工は続けて強行中、8月15日の終戦の大詔が発布され、無念にも工事を中止するに至れり。



㈱富士製作所、取締役社長、田中清一氏が着工した岐阜市金華山の現場

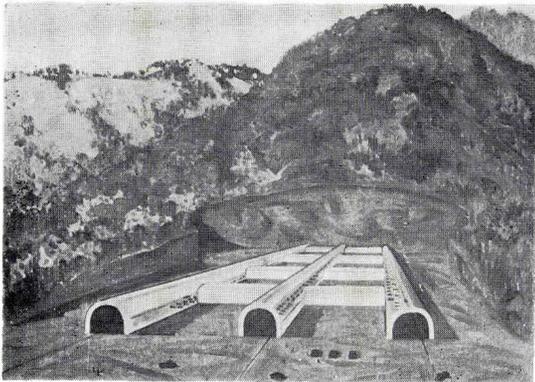
# 模範的な隧道工場の建設着工の記録

## 岐阜市 金華山 全景

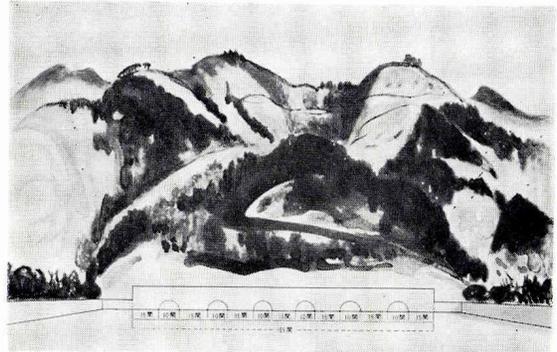


## 金華山隧道工場

株式会社 富士製作所建設事務所

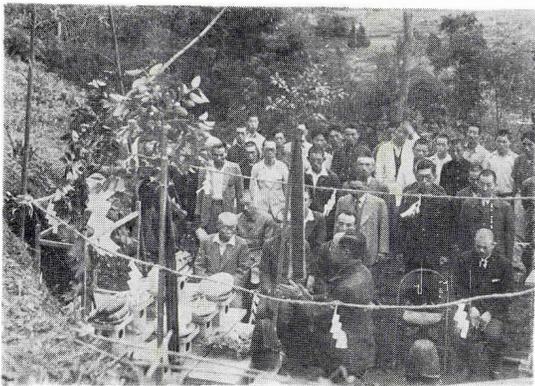


(隧道工場の入口と内部構造の設計図)

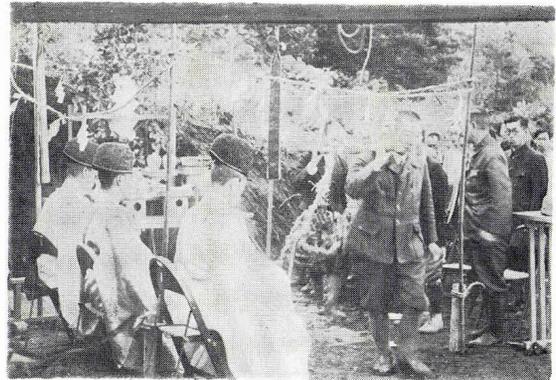


(工場入口が6列の場合の設計)

[地鎮祭・昭和20年6月23日挙行]



↑  
岐阜市長・松尾国松殿



↑  
㈱富士製作所・取締役社長 田中清一氏

↑  
常務取締役・瀬上清隆氏

## 昭和20年 ◆ ……大東亜戦争が漸く終結（8月15日）

（1945）日本の開闢以来、初めて敗戦となった大東亜戦争は、畏くも

天皇陛下より終戦の大詔が発せられて終戦となったが、当時の国力は全く疲弊し、国民の生活は極めて悲惨な状態となっていた。

### ◆ 内閣総理大臣、東久邇宮殿下より御招電

終戦より2日目の8月17日に組閣の大命を拜された東久邇宮稔彦王殿下は、組閣後間もない8月24日に田中企画者に、急遽上京せよとの御招きをされた。その頃、岐阜県に所在する富士製作所、白鳳工場に出張中の田中企画者は、8月28日に上京し、総理大臣官邸に参伺された。

東久邇宮首相は……「君を呼んだのは外ではないが、戦時中、君は国土計画其の他で卓抜な意見を度々聞かせてくれたが、此度は残念ながら敗戦して、日本の大半の都市は焼野原になってしまったが、君はこのままの日本を立て直す良い方策はないか」……と殿下から田中企画者の意見を求められた。

### ◆ 「新日本建設」の方策として、国土計画を献策

田中企画者は戦時中、市ヶ谷の防衛司令部へ度々御伺い申し上げて、食糧増産の問題、高速自動車道の建設による輸送力強加の問題、軍需工場、その他、重要施設を隧道（トンネル）を掘って入れる所謂、隧道工場の建設計画を申上げ、また、この隧道工場については、当時の東条首相を始め、岡田啓介（元）総理大臣、商工省では、機械局長の佐藤釜太郎氏、東海軍管区司令官の岡田資中將、軍需省航空総局長官、遠藤三郎中將、工政会々長、八田嘉明氏（元鉄道大臣）に極力進言したが、この実現が遅かつたこと、今後は敗戦後の日本を如何にして再建すべきやの田中構想を詳さに殿下に具申した。

東久邇宮総理大臣から、上記の田中構想を取纏めた企画を要望する旨を仰せられたのを承って、田中企画者は首相官邸を辞した。

### ◆ 終戦を契機に新日本建設を企画

◎肇国以来初めての敗戦を契機として、田中企画者は再びかかる失敗を繰り返すことのないよう、平和国家建設国土計画の大綱を立案し、終始一貫、新しい国造りのため、努力された。

当時の全国民が永久に忘れ得ない8月15日のその日より田中氏は連日連夜、2週間に亘って沈黙思想されていたが、8月30日に自社（富士製作所）の側近者を呼んで右記の如く宣言されたのであった。

「私はこの10日間、富士神社（会社の構内）を中心に冥想を続け、今後、如何にして日本が生きるべきかと構想に構想を重ねてきたが、日本国の、日本人の生きるべき道を知ることができたので、今後私は、“新日本建設”の構想を具体的に明示する作業に着手するから、各員（現在の友森副社長、瀬上常務、山根常務、他重役と平沢秘書）は尋常でなくなる私の行動を静観しつつ、終戦による社業の復興に従事されたい。」

田中社長の宣言に対し、側近者は上記の内容も、如何なる作業なるかを推察することはできなかった。

### 自、昭和20年 至、昭和22年 ◆ 日本の生きるべき道を設計

終戦直後より、田中企画者は下記の如き要点を検討され、「平和国家建設、国土計画大綱」と銘題し、この実現に努力された。

#### 〔平和国家の建設方法〕

- 1) 古今東西を通じて何故、戦争が起きるか？」その原因の追求。
- 2) 今後如何にして戦争を防止し、人類が平安な生活を営むことができるか？ その方法の研究。
- 3) 狭くなった日本国土で、今後、1億の人口を養う方法は如何？
- 4) 食糧の自給自足は何よりも先決である。

#### 〔以上の課題に対して〕

- 5) 日本の現在は80%が山岳高原丘陵地帯である、これを立体的に有効に利用すべきである。
- 6) 現在日本の国土には、眠むれる奥地森林資源、地下資源（鉱物など）、未利用の水力資源その他、未利用の各種の資源が豊富に蓄積されている。
- 7) 上記の未利用資源は、道路がないために利用されない。  
この資源開発の道路を造れば真に国富となる外、新たに観光資源も開発されて新観光地の造成で外人客の誘致となり、スイス国の如き観光収入が得られる。
- 8) 更に、道路を建設することによって、その沿線に新農村、新工業地帯、新都市、教育や文化地帯を造成することができる。
- 9) 従って東京、大阪、名古屋など過大に膨張せる人口の再分布ができる。
- 10) 更に交通のスピード化により、日本の産業経済の飛躍的な大発展を図ることができる。
- 11) 「都市と農村、また新開地との交通の利便によって、文化が均衡すると共に、所得の格差を是正することができる。
- 12) 以上の構想から日本全国を実踏調査によりて、下記の如き方法が結論となった。

◆ 日本の生きるべき道を設計（前頁の続き）

「日本は先ず、南は九州の鹿児島から、北は北海道の稚内まで、日本を縦貫する高速自動車道を建設すべきである。」

- 13) この「高速自動車道」は、巾24米突の規格で、往還別の立体交叉となし「東京—神戸間」ならば時速100キロ、4時間半から5時間で行ける近代的な高速自動車道として建設することが条件である。（以上）

昭和22年 ◆ 「平和国家建設・国土計画大綱」を作成

(1947)

田中企画者は上記の如き構想を以って、終戦直後より2カ年間に「日本再建」の方策を研究し、これを取纏めて完結したのが「平和国家建設・国土計画大綱」となったのである。

この原文は本誌の「縦書文章の部」の第13頁より21頁に掲載してあります。

## (第2章) 田中プランの実現を推進

昭和17年以來、「食糧の自給自足」を基幹とする平和国家の確立を念願して構想を練り、特に昭和20年8月15日の終戦を契機として企画せる国土計画の樹立を「平和国家建設・国土計画大綱」と銘題し、これを22年3月に日本政府に提出以後の企画者、田中清一氏は、政財界、学界、都道府県の為政者、その他、各界各層に対し、「田中プラン」の実現を推進した努力は全く日夜の別なく、文字通り不撓不屈の貫徹精神にて押し進められた記録は枚挙に暇がないので、その全部を掲載できないが、本誌にはその主なるものを抜粋し、後世の参考のため以下の如くに記録することにせり。

終戦後の内閣は下記の如くである。(敬称略)

通 称	内閣総理大臣	党 派	成 立 日
終 戦 内 閣	東久邇宮稔彦王殿下		20— 8—17
幣 原 内 閣	幣原喜重郎	進 歩 党	20—10— 9
吉 田 内 閣	吉田 茂	自 由 党	21— 5—22
片 山 内 閣	片山 哲	日本社会党	22— 5—24
芦 田 内 閣	芦田 均	民 主 党	23— 3—10
吉田(2次)内閣	吉田 茂	自 由 党	23—10—15
吉田(3次) "	吉田 茂	自 由 党	24— 2—16
吉田(4次) "	吉田 茂	自 由 党	27—10—30
吉田(5次) "	吉田 茂	自 由 党	28— 5—28
鳩山(1次) "	鳩山 一郎	自由民主党	29—12—10

### 昭和22年 ◆ 日本政府に「田中プラン、国土計画案」を提出

(1947) 田中企画者は内務大臣、植原悦次郎氏、前衆議院議長、岡田忠彦氏、内閣総理大臣、吉田茂氏の秘書官、福田篤泰氏、商工省重工業局機政課長、岡田竹彦氏等の立合にて「平和国家建設、国土計画大綱」を説明の上、資料を添へて日本政府に提出せり。(3月17日)

### 昭和22年 ◆ 連合国軍総司令部 (G. H. Q) へ「国土計画案」を提出

(1947) 前記の日本政府へ提出した「国土計画案」を英訳してG. H. Q. マッカーサー元帥提出せり。(4月2日)

◎G. H. Q.においては「天然資源局にて検討されることに決し、(次頁に続く)

## (昭和22年の続き)

顧問エドワード、アツカマン氏と、技師エル、マーク、リチャード氏が担任されて調査の結果、田中プランは「日本再建のマスタープラン」であると賞讃された。

### ◆ 国土計画審議会において討議

◎第1回、国土計画審議会（22年5月13日）

G. H. Q天然資源局長ステンク大佐の命により、日本政府は内務省所管の「国土計画審議会」が設けられ、会長に潮恵之輔氏が任命されて、内務事務官西水孜郎氏、外各委員の構成にて「平和国家建設、国土計画大綱案」が審議された。

◎第2回、国土計画審議会（7月8日）

経済安定本部長官の官邸において、潮恵之輔氏が議長となり、第2回の審議が開かれて、田中企画者より詳細な説明が行なわれた。

### ◆ 日本全国土の立体模型（石膏製20万の1）の製作に着手

田中企画者は屢々G. H. Qに出頭し、天然資源局の担当官と共に、国土計画の詳細につき検討し、又リチャード技師も沼津に田中企画者を訪れられたが、田中プランを日本の国民理解せしめる方法として「日本全国土の立体模型」を作成することをG. H. Qとして提案されたので、「22年6月」より製作に着手せり。

## 昭和23年 ◆ G. H. Qにおいて「田中プラン」と命名

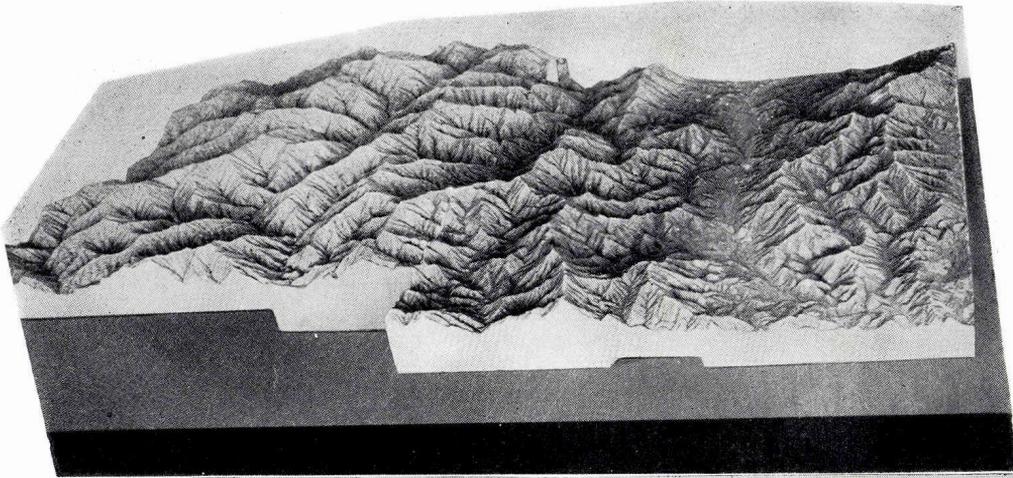
(1948) G. H. Qに提出した「平和国家建設、国土計画大綱」はGHQ天然資源局において積極的に検討されると共に、本案を創案者の田中清一氏の名を冠して「田中プラン」と銘記され、設計図、その他の資料に記入されるようになった。

## 昭和24年 ◆ G. H. Qにおいて「立体模型」の製作に協力

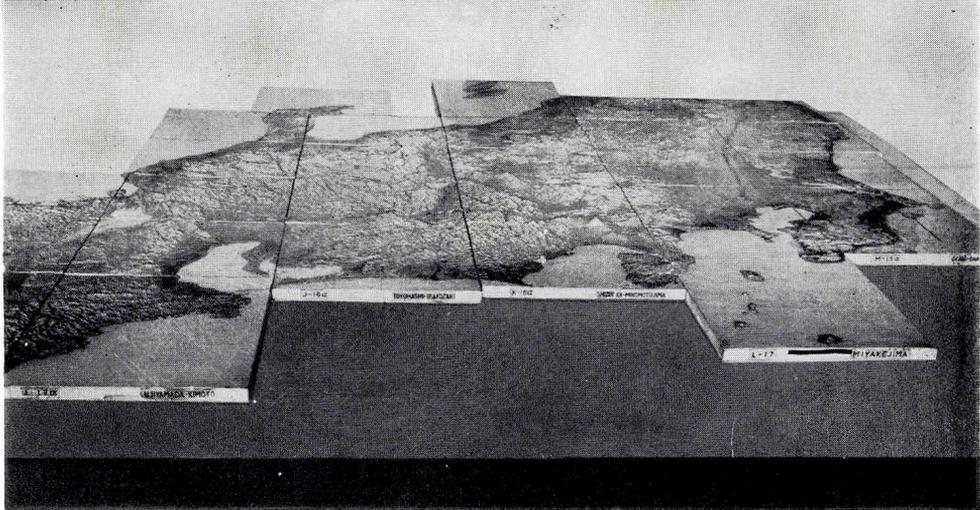
(1949) 昭和22年6月より製作に着手した日本全土の「20万分の1」の石膏製。立体模型は日本の参謀本部の地図と謂はれた全国各府県の「5万分の1」の地図を主に使用したが、G. H. Qにおいては米空軍の撮影した空中写真を提供されるなど、この製作に協力された。この模型は2カ年の日月を費し、「24年6月」に完成するに至った。

この間、田中企画者は全国各地を実踏して精密調査を重ね、国土開発の研究と道路建設の設計に邁進せり。

## 日本国土の立体模型



↑  
〔5万分の1〕  
赤石山系の一部  
立体模型



天皇、皇后両陛下が御高覧になった日本全国土の立体模型（石膏製20万分の1の一部）

### ◆ 国土開発中央道案の「大パノラマ図絵」を作成

田中プランは資源、及び国土開発の先決手段とする「全国道路網」の建設計画であるが、  
先ず第一期工事として「東京—神戸間」に高速自動車道を建設すべく、下記の如く具体的  
調査をせり。

- (イ) 計画路線の縦断図を設計、作図せり。 (ロ) 隧道の排気を科学的に研究。  
(ハ) 沿線の気象調査を行う。 (ニ) 沿線の資源開発と、新農地、工場地域、新都  
市及新農村の造成、及び人口の再分布による過密都市、過疎地帯を造らざるよう  
にすること。

◎以上により「5万分の1」の測定による「大パノラマ図絵」を正確に作成し、誰れで  
も想像できる「俯瞰図」となせり。（巾2米……長さ16米のパノラマ式にて）

#### ◆ 昭和24年（1949）米国政府の特使ダレス氏と会見

日本工業倶楽部において日米協会主催にて開催された米国政府特使、ダレス氏の歓迎会において、田中企画者は「平和国家建設、国土計画大綱」をダレス氏に説明すると共に、この英訳文と、国土計画の青写真を提出して米国側の認識と協力を求めた。

当日は日米協会の会長、小松隆氏や、(元)商工大臣の中島久万吉氏、及び日本の政財界の有力者が多数出席された。（4月22日）

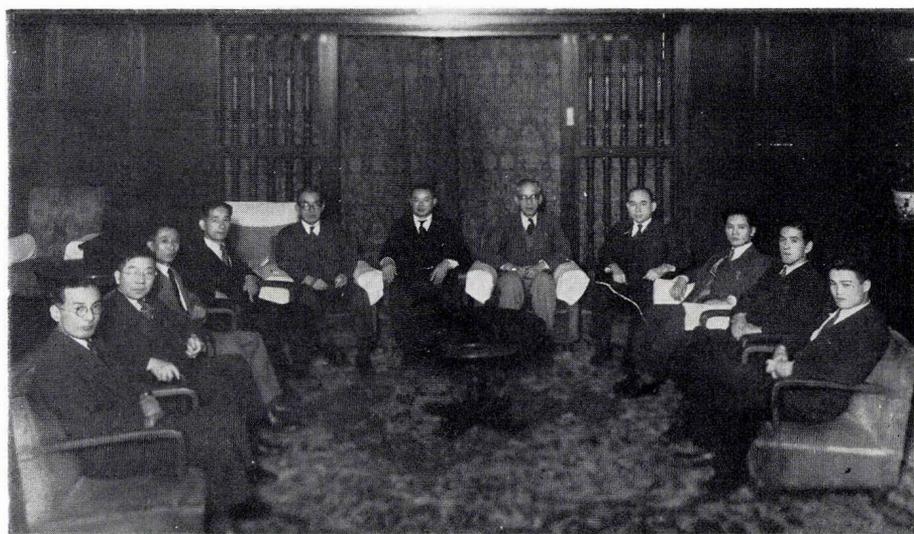
#### ◆ 米国大統領特使ドッジ氏と会見

米国大統領特使ドッジ氏は24年2月と10月の2回来日されたが、10月には内閣総理大臣吉田茂氏の紹介にて田中企画者がドッジ氏と会見し、田中プランの詳細を説明と共に、ダレス特使との場合の同様に多種の資料を提出し、米国側の認識を高める機会となった。

#### ◆ 東京大学における国土計画の講演会

国土計画について特に関心を寄せられていた東京大学の各部の教授が、田中企画者を招かれ、東大講堂において田中プランの講演会が開催され、多数の学生と共に各科の教授が聴講され、活発な討論が行はれた。（10月24日）

講演後は工学部精密工学科(工博)大越諄氏を中心に、土木工学科(工博)田中豊氏、石油工学科(理博)上床国夫氏、第一工学部長(工博)大山松次郎氏等10余名が上野精養軒に集合されて活発な論議が行はれた結果、教授側より「田中会」を結成しては如何かと提案された。



(正面中央) 田中企画者→田中教授→大越教授→久田太郎氏→坂井秀春氏  
(田中企画者の左側) 大山教授→上床教授→(研究所側) 友森→瀬上→小西

## 昭和24年 ◆ 日本工業倶楽部において講演

(1949) 田中企画者は東京、丸ノ内の日本工業倶楽部において、田中プランの詳細について講演を行い、産業、経済界の多数の参会者より共感を呼び、後日の積極的な協力者をを得る契機となれり。(24年11月30日)

### ◆ 国土計画展覧会の開催 (G. H. Q主催)

#### 天皇、皇后両陛下の御高覧

連合国軍総司令部 (G. H. Q) においては、田中企画者の製作せる「立体模型」(日本全土の20万の1、石膏製)を中心に国土開発の各種の資料を展示した「国土計画展覧会」を下記の如くに開催された。

#### 〔連合国軍参観〕

◎ 東京・日比谷アーニーバイル会場 (24年9月28日より同年10月11日まで…14日間)

#### 〔日本国民参観〕

◎ 東京・日本橋三越会場(大ホール) (24年10月12日より同年10月20日まで…9日間)

三越会場においては、10月20日にG. H. Q天然資源局長スケンク大佐の御案内で天皇・皇后両陛下が御参観になり、田中企画者が詳細に御説明申上げた。

この時、田中企画者に対し

天皇陛下より「理想的な国土計画の実現を期待する」と御激励の御言葉を賜わり、田中企画者は感激して愈々畢生の事業として、日本再建の国土計画を実現することを決意した。

(この展覧会の状況は冠頭の第5～6頁を御参照下さい)

## 昭和24年 ◆ 内閣総理大臣、吉田茂氏等の強い関心

(1949) 天皇・皇后両陛下が、国土計画展覧会を御観覧遊さる前日の10月19日に、吉田総理一行が同展覧会に来場されて、田中企画者の苦心作たる「日本国土の模型」や、多くの国土開発の出品資料を観覧され、予てより承知されている田中プランの認識を更に高められた。

## 昭和24年 ◆ 経済安定本部長官・青木孝義氏の来訪

- (1949) 吉田総理が国土計画の田中プランに強き関心を高められると共に、政府部内において検討が始まり、先ず経済安定本部より長官・青木孝義氏が随員と共に国土計画展覧会の直後に沼津に来訪され、「田中プラン」につき田中企画者より詳細に聴取された。
- (10月25日)

## 昭和25年 ◆ 元満洲重工業総裁、鮎川義介氏の来訪

- (1950) 日本産業界の重鎮、鮎川義介氏は、経済安定本部の岡本事務官、山田、近藤氏等及び東京読売新聞社の記者4名の随行にて沼津へ来訪され、田中企画者より田中プランの詳細を聞かれて大いに賛同され、満洲国開発の経験など語られつつ、新日本建設の方策について、田中プランの推進に協力を約された。
- 爾来、読売新聞社においては昭和32年の田中プランを根幹とする「国土開発縦貫自動車道建設法」として立法化に至るまで、適時、適切なる報道が繰り返へされた。

## ◆ G. H. Qより「国土計画・立体模型」を引取る

昨24年10月、連合国軍 総司令部 (G. H. Q) の主催にて開催せる「国土計画展覧会」(東京、三越会場) に出品せる日本全国土の立体模型(石膏製、20万分の1)は、開会と共にG. H. Q内に陳列保管されていたが、田中プランを日本国内で推進するために一般に公開すべきであると評議された結果、昭和25年6月30日に、製作者である田中企画者に立体模型を引渡され、爾後は田中企画者の経営する株式会社富士製作所の研究室内に陳列し、更に各地の推進・講演会の開催地へは随時に運んで一般の展覧に供することになった。

## 昭和25年 ◆ 皇宮警察桐栄会と田中企画者

- (1950) 天皇、皇后両陛下が前年の国土計画展覧会において田中プランを御高覧になったのを契機に、皇居を衛る皇宮警察において関心が高まり、4月26日に本部長・樺山俊夫氏が田中企画者を皇居内に招かれ、関係者一同と共に田中プランを聴取された。
- 爾来、7月27日に樺山本部長が沼津訪問となり、更に沼津は御用邸の所在地にて歴代の本部長は殆んど富士製作所に田中企画者を訪れられている外、昭和30年に結成された「国土計画一円会」には皇宮警察も挙げて賛同され、本部長を中心に全員が国土建設の目的貯金を実行され、田中プランの実現、推進に協力された。
- かかる関係にて田中企画者を皇宮警察桐栄会の幹部に押され、現在は、桐栄会の常務理事に就任されている。

## 昭和26年 ◆ 政財界の各士、相次いで沼津へ来訪さる

(1951) 前記の如く日本工業倶楽部における田中企画者の国土計画・田中プランの講演会を契機に、各方面に反響を及ぼして、政財界の名士や有力者が相次いで沼津へ来訪され、田中企画者と懇談を重ねられた。(敬称略)

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| ◎石原広一郎(石原産業・会長)… 2月28日 | ◎中島久万吉(元、商工大臣)…… 4月9日 |
| ◎樺山俊夫(皇宮警察本部長)… 3月23日  | ◎林甚之丞(日本鋼管社長)…… 5月27日 |
| ◎坊城俊良(皇后宮大夫)…… 3月23日   | ◎八田嘉明(元、鉄道大臣)…… 7月14日 |
| ◎小畑忠(行幸主務官)…… 3月23日    | ◎木下道雄(元、侍従次長)…… 9月16日 |
| ◎小松隆(日米協会会長)…… 4月2日    | ◎尾崎行輝(参議院議員)…… 11月5日  |

(備考)

上記の内、中島久万吉、木下道雄、八田嘉明、尾崎行輝の各氏は当時の「総合国土計画研究所」(後の財団法人田中研究所)の顧問(後の理事)となられ、国土計画の定例会合に出席されて熱心に田中プランの実現推進に協力された。

## 昭和26年 ◆ 建設大臣、野田卯一氏の来訪

建設省における国土計画・田中プランの批判が漸次高まりつつあった昭和26年時代には時の建設大臣、野田卯一氏が沼津地区を視察の際、10月17日に榎富士製作所に田中企画者を訪れられ国土計画について要談された。

(註) 建設省内においては道路局企画課の技官 塩原三郎、奥村和夫の両氏等が特に田中プランに共鳴された。

## 昭和26年 ◆ 各地で田中企画者が国土計画の講演を行う

1. 東海振興会において田中プランの講演を行う(場所。明治記念館) (1月27日)
1. 日本工業倶楽部の総会において説明の結果、元商工大臣で同クラブの評議員会長である中島久万吉氏が大いに共鳴され、各方面へ呼び掛けられ、政財界への反響が日増しに高まってきた。(1月29日)
1. 東京一人一話会において田中プランの講演を行う。(2月16日)
1. 飯田商工会議所(長野県)の主催で行われた「国土計画・田中プラン」の講演会においては長時間に亘り詳細に説明された。(11月27日)
1. 長野商工会議所において長野県商工局の主催で国土計画の講演を行い、特に南信地区・飯田方面の開発に対して多大の反響を招き、後日に「中央道建設促進会」の結成となる。(12月11日)

## 昭和26年 ◆ 元陸軍中将、中村明人氏が国土計画の詩作

(1951) 日支事変で南部方面軍司令官に任ぜられていた中村將軍も来訪者の一人であって、平和国家の建設を叫ばれる田中企画者のプランに共鳴されて下記の如き詩文を寄せられ、各方面にも推奨された。(11月30日)

田 耕 画 策 検 湖 山  
中 部 本 洲 宝 庫 連  
清 浄 協 和 通 大 道  
一 天 四 海 楽 土 全

- ◎冠辞で田中清一と結ばれ詩文の内容は田中プランを謳はれている。
- ◎田耕画策……と左より右に読む

## ◆ 富士五湖、赤石山系、南信地区の実踏調査

国土開発の手段となる「全国道路網」の建設の内、東京―神戸間の建設を第一期工事とし、これを「中央道」と呼称したが、この区間の富士五湖の開発と、資源開発の宝庫とされる赤石山系、及び南信州の飯田方面の実踏調査は終戦後より行はれていたが、特に昭和25年、26年時代には田中企画者が足繁く実踏調査が続けられた。

## ◆ 富士五湖地帯の聖地調査

皇居を御安泰地への念願は、戦時中より田中企画者が熱心に叫び続けておられたが、当時は信州の安曇平に、戦後は富士五湖地帯に、聖地を求めて企画されたので、26年の9月16日には元侍従次長の木下道雄氏と皇宮警察警務部長・橋本健寿氏が田中企画者の案内で現地を視察され、更に10月13日には、侍従次長の稲田周一氏が木下道雄氏と共に田中企画者の案内で現地を視察された。

## 昭和26年 ◆ 総合国土開発に関する田中企画者の強調（9月8日）

「建設大臣 野田卯一、元大蔵大臣 石橋湛山、総合国土計画研究所々長 田中清一、東京都建設局長 石川栄耀、野口研究所々長 工藤宏規、清水建設社長 清水康雄、公益事業委員会 松永安左衛門、東洋経済新報社 元主幹 三浦鍬太郎」（敬称略）

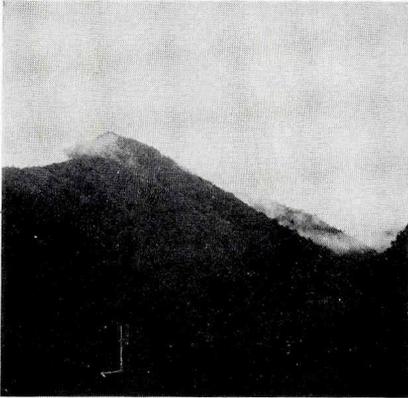
### 東洋経済新報社の座談会

北海道開発に800億円の巨額が空費されたとの意見を中谷宇吉郎博士が発表してセンセーションを起し、これに北海道開発次長が応酬する意見を公表、更に中谷博士は文芸春秋の6月号の誌上で追究するなど、総合開発の方法が問題された当時、上記の8名の座談会が行われた際、田中企画者が最も賢明な総合開発の方策と確信して強く主張された記録が、昭和26年9月8号の「東洋経済新報」に掲載されているが、長文につき省略。（上記だけ紹介）

## 赤石山系・青雉山地帯の実踏調査

(未利用資源の開発・中央道の宝庫)

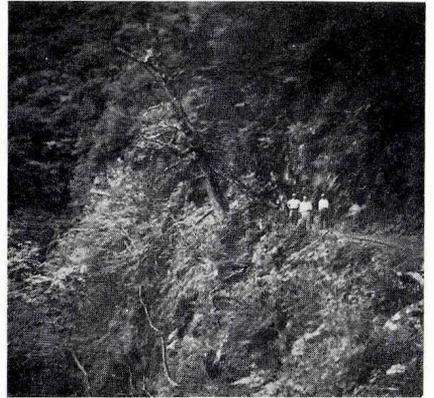
(昭和26年8月20日)



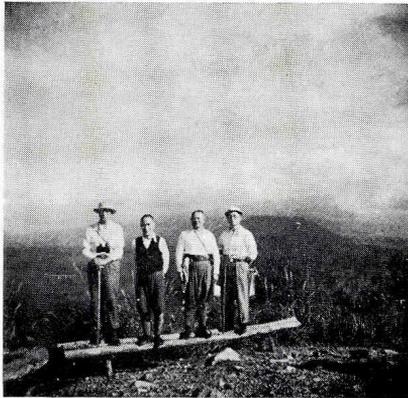
(赤石山系に東面する)  
青雉山の山頂を望む)



(山梨県南巨摩郡)  
硯島村の附近)



(県営林道に沿ふて)  
現地調査員の一行)



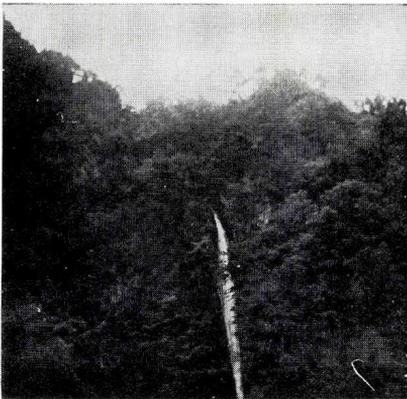
(展望箇所で休憩する調査班)



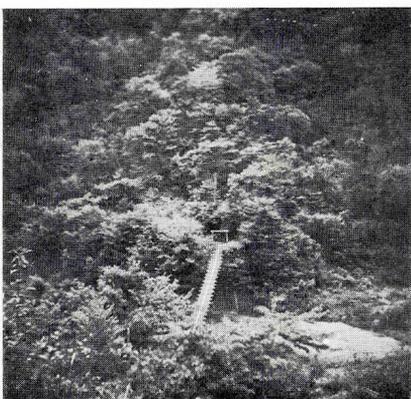
((中央)企画者・田中清一氏)  
(右)塩原氏(左)平沢秘書)



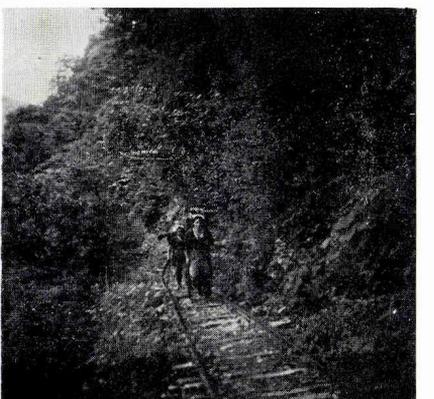
(赤石山系の隧道口にて  
(右より)瀬上、平沢、塩原調査員)



(硯島村奥に懸る白滝 100呎)



(道なき道に懸る)  
鉄線の吊橋)



(林道の終端附近)  
木炭を背負う女性)

## 昭和27年 ◆ 山梨県における中央道の推進大会

(1952) 中央道の開通によって画期的な大変革を来た山梨県は、東京の玄関口、または奥座敷ともなるので、産業、経済、文化に及ぶ影響は実に甚大である。

恐れ多くも大東亜戦争中、戦禍の及した皇居の位置的な不安を痛感した田中企画者は、聖都は日本の中央部である信州松本平の地域か、富士五湖地域に御移転をと念願して、秘かに鋭意調査を続けていたので、早くより山梨県知事、天野久氏等と会見して田中プランを説明、特に富士五湖地域、及びその周辺の実踏調査を繰返し、各地の町村長や、住民とも懇意になって、漸次全県的に田中プランの共鳴者、支持者、実現の熱望者が拡大し、遂に下記の如き「中央道実現推進大会」が開催されるに至った。

### ◆ 県会議事堂における国土計画の大講演会（4月28日）

- ◎ 山梨県知事、天野久氏の開催挨拶
- ◎ 企画者田中清一氏の国土計画の講演  
(当日は各県会議員、地元の関係有力者が多数参集、盛況を極めた)

### ◆ 国土開発中央道期成会の結成（4月28日）

- ◎ 上記講演会に続いて天野知事の提案にて、懸案の東京―神戸間の「国土開発中央道」を速かに建設する推進団体として「期成同盟会」が結成され、天野知事が会長に就任された。

### ◆ 山梨県身延町主催の講演会（6月16日）

日蓮宗総本山、身延山久遠寺の所在する山梨県の身延町においては、中央道の開通は幾百万の信徒と共に測り知れざる大影響を招来するので、この実現には全力を挙げて運動され、下山公会堂、及び身延中学校において大講演会が相次いで開催された。

(注、当時の自由党、国会議員、山口喜久一郎氏一行も参加さる)

## 昭和27年 ◆ 山梨、長野、岐阜の3県知事会議が開催さる

(1952) 全国道路網の建設計画の内、東京―神戸間の中央高速自動車道の建設は、山梨県、長野県、岐阜県に甚大なる影響と恩恵を受けるので、予てより3県にて協議されていたが、愈々3県知事会議が開催され、田中企画者を招かれて中央道の実現と推進方法が協議された。

## 昭和27年 ◆ 長野県、南信地域における推進の動き

### (1952) ◎ 飯田商工会議所主催の講演会(1月16日)

昨26年12月11日、長野商工会議所において田中企画者の講演に続き、南信地区の飯田商工会議所において田中プランの説明会を行った処、爆発的な反響を招き次項の如く進展せり。

### ◎ 「国土開発中央道期成同盟会」が結成さる(2月26日)

飯田商工会議所の全議員、下伊奈郡の町村一同を中心に、飯田市を通過する東京一神戸間の〔中央道〕の建設を実現する「期成同盟会」が結成され、直ちに政府、国会関係に「陳情書」が提出された。

## 昭和27年 ◆ 東京、名古屋、岐阜における推進

### ◎ 日本工業倶楽部における説明会(東京、丸ノ内)(2月19日)

各業界の代表の実力者、400余名が参集せられた席上で、田中企画者が国土計画・田中プランを詳細に説明し、実現の推進に協力を求めた。

### ◎ 名古屋通産局、名古屋工業大学における講演会(6月13日)

岐阜、長野、山梨の3県と共に、影響甚大となる愛知県においても「田中プラン」は関心の的となっていたが、中京財界の重鎮、村岡嘉六氏等によって田中企画者が招かれ、各地で国土計画の講演会が開催された。

### ◎ 岐阜商工会議所主催の講演会(12月10日)

岐阜においても名古屋と同様に「田中プラン」が脚光を帯びて来たので、国土計画の講演会が開催され、田中企画者は夜行列車で出席され、詳細に説明された。

## 昭和27年 ◆ 田中企画者経営の会社の記念式典において

昭和27年11月3日は(株)富士製作所(田中企画者創立)の創業35周年に当るので、当日は下記の来賓を迎えて盛大な式典が行われた。

「一条実孝、宇垣一成、中島久万吉、八田嘉明、木下道雄、安井英二、三井高修、尾崎行輝、スチブソン、石川武美」その他、来賓多数。(敬称略)

### ◎ 国土建設推進連盟、全国推進者……数十名

### ◎ (地元)知事、市長、商工会議所会頭、銀行頭取、全国顧客代表…数十名

※なお会場に陳列された「日本国土の立体模型」(20万分の1)と各種の資料を以って、多数の参集者に式典の挨拶と共に国土計画、田中プランを詳細に説明された。

## 昭和28年 ◀ 国土建設推進連盟を結成す（2月11日）

昭和20年以来、敗戦による新日本建設を目指して企画せる国土計画、田中プランの推進は逐年全国各地より共鳴者、協力者が増加し、この運動を推進する母体となる団体の結成を要望されていた。

このため27年より結成の準備が、静岡、山梨、長野、愛知、岐阜、大阪、東京の有志によって進められていたが、28年2月11日（旧、紀元節）に結成せられ、下記の如き趣意書が発表せられた。

### 連盟結成の趣意書（昭和28年）

「戦争か平和か」と誰もいう言葉である。戦争が好きだという人はない。誰も平和が好きである事は論を俟たない。然るに戦争を敢えてする所以は、その国の存亡が、平和的な方法では解決出来なくなるからである。

戦いに破れた日本は、膨大なる人口を抱え、更に年々百万人の増加に対して、今後どうして生活して行くかが問題である。貿易も大切であるが、これに全部を頼る事は出来ない。移民も必要であるが、多く期待をかける事は不可能である。

かくて世界経済の小さな波一つが、忽ち国民生活を危殆ならしめ、国際政治の如何が、直ちに八千三百万の生存に差支えを生じる。かかる国内の現状は、長く続ける事は出来ない。

貿易もよし、移民も又よい。而しその基礎には、あらゆるものが国内で自給出来る最高限度への努力が為さなければならないが、わが国の地勢は、大部分山岳高原丘陵地帯であって、平地としての農耕地は尠い。

この尠い農耕地を生産に関係のない施設（大学、競馬場、競輪場、野球場、神社仏閣、大公園、小公園）などで狭められて、二毛作、三毛作が可能にして、冷害も、干害のない所は都市となって、耕地は平地から次第に、高冷地へと退却せざるを得ない。かかる農耕地の縮小と変遷は、甚だしい自然の悪条件に遭遇するため、いかに新しい技術による農耕法を以てしても補うことは不可能となり、随って益々輸入食糧に依存度を高めなくてはならないのである。

この時に当って、従来の因循姑息を一擲し、真に総合的な国土計画を実施するのなければ、国内の産業は振わず、国民生活は益々困窮する。かくては又欲せざる戦争を誘発する惧れなしとしない。

我等は茲に鑑みる所あって、先きに国土計画案（田中プラン）を樹立し、屢々要路に建言し、且又親しく

天皇、皇后両陛下に御説明申し上げて、御激励の御言葉を賜ったが、不幸にして、尚未まだ其の具体化を見るに至っていない。即ち戦後の歴代政府は自主性なく、且又その政治力弱く、何等施す術なきため、百年の大計が未だ実行の緒に着かず、まことに焦燥の感に堪えない。

ゆえに我等は広く同憂の士と結び、ここに一大国民運動を展開し、真に八千三百万の輿論を結集、以て国民の自救方策を完遂せんとするものである。

ここに謹んで趣意を開陳し、速かに同憂の御参加を切望する次第である。

〔備考〕 今日より16年以前の人口は8300万人と算へたが、44年度は1億人を突破しているため、上記の趣意書は、当時の原文のままと承知されたい。

(昭和43年)

### 国土建設推進連盟の役員 (昭和28年2月)

(名誉総裁)	(会長)	(理事)	(理事)
東久邇 稔彦	田中 清一	中田 録郎	平沢 久次郎
(顧問)	(理事長)	中村 円二郎	望月 直
中島 久万吉	片平 七太郎	大石 虎之助	望月 喜多司
八田 嘉明	(理事)	岡田 希夫	望月 吉久
高木 陸郎	池田 篤紀	小沢 亀之助	瀬上 清隆
木下 道雄	市川 良政	栗林 藤蔵	杉村 喬一郎
安井 英二	原田 良道	松田 江畔	鈴木 文雄
青木 一男	西貝 義朗	国持 史郎	鈴木 与平
古野 伊之助	徳田 勝彦	松永 五一	白井 最
中村 元督	友森 二郎	小西 百一	柴山 重一
長野 朗	七夕 虎雄	青木 久弥	(敬称略) (イロハ順)

### 都府県本部と支部を結成

推進連盟の結成と共に、各地に支部が続々と結成されたが、田中プランの第一期工事とする「東京—神戸間」の国土開発中央道の建設を促進するため、この沿線に下記  
の如く「推進本部」が設置され、本部長が選任された。(敬称略)

東京本部	小西 百一	静岡県本部	中田 録郎
大阪本部	団野 雅章	山梨県本部	堀内 一雄
愛知県本部	村岡 嘉六	長野県本部	青島 愛二

## 昭和28年 ◆ 所管大臣と会見……（5月27日）

「建設大臣、戸塚九一郎氏、運輸大臣、石井光次郎氏と会見」田中企画者は、昭和27年3月に国会へ提出した田中プランの全国道路網（高速自動車道）の内、東京―神戸間の「国土開発中央道の建設に関する請願書」を中心に、新日本建設の国土計画の推進につき、上記の所管大臣と懇談せり。

## 昭和28年 ◆ 政府首脳と国土計画の懇談会（9月9日）

副総理 緒方竹虎氏  
建設大臣 戸塚九一郎氏  
運輸大臣 石井光次郎氏  
（研究所側） 田中清一（顧問）中島久万吉氏  
八田嘉明、高木陸郎、青木一男、古野伊之助氏の各位。  
（事務局） 瀬上清隆、小西百一

◎ 場所……東京、朝日会館、アラスカにおいて

前掲5月27日の石井、戸塚両大臣との会見に続き、本席は緒方副総理を迎へ研究所側より5名の顧問と共に「国土開発中央道」の建設を促進する具体案について協議、懇談された。

（注） 本件は第3章「田中プランの国会審議と法制化」の部門にも掲載す。

## 昭和28年 ◆ 関西財界有力者と懇談会（8月10日）

大阪商工会議所主催にて開催された「国土計画懇談会」には下記の如き関西財界の有力者が参集せられ、同所の大ホールにおいて、先ず会頭の杉道助氏が開催の主旨を述べられ、次に「国土開発中央道期成会」の会長、中島久万吉氏、及び顧問の安井英二氏が田中プラン支援の挨拶が行はれた。

企画者の田中清一氏は、幅2メートル、全長10メートルのキャンバス地に画いた国土計画、田中プランのパノラマ式絵図を掲げて、熱心に講演を行い、後に多数の質疑に回答し、万雷の拍手を浴びた当時の追憶と共に、本誌に記録する。

### 主なる出席者（敬称略 順不同）

杉道助（大阪商工会議所）	伊藤銀三（大阪証券協会）
中野種一郎（京都商工会議所）	児山破魔吉（大阪証券取引所）
宮崎彦次郎（神戸商工会議所）	神山喜久雄（東洋レーヨン）
堀田正三（住友銀行）	大原総一郎（倉敷レーヨン）
岡崎忠（神戸銀行）	武藤絲治（鐘淵紡績）
熊谷栄次（住友信託銀行）	関桂三（東洋紡績）

井上 富三 (呉羽紡績)  
太田垣 士郎 (関西電力)  
小原 英一 (南海電鉄)  
村岡 四郎 (京阪電鉄)  
天野 毅彦 (京阪神急行)  
砂田 純一 (近畿日本鉄道)  
神田 外茂夫 (関西汽船)  
阪本 城夫 (大阪交通)  
浜本 俊一 (大阪瓦斯)  
西山 弥太郎 (川崎製鉄)  
松原 与三松 (日立造船)  
山岡 孫吉 (ヤンマージーゼル)  
竹崎 瑞夫 (ダイハツ)  
鈴木 庸輔 (島津製作所)  
松島 清重 (大阪窯業セメント)  
原 計 (大日本紡績)  
坂内 義雄 (日本繊維)  
岩井 盛次 (日本レース)  
塚田 公太 (日本レース)  
難波 四郎 (ライオンメリヤス)  
神谷 昇二 (高瀬染工場)  
鴻池 藤一 (鴻池組)  
竹中 雄之 (竹中組)  
橋 喜十郎 (竹中組)  
大林 芳郎 (大林組)  
銭高 輝之 (銭高組)  
真弓 徹 (伊藤忠商事)  
潮崎 喜八郎 (日綿実業)  
永井 幸太郎 (日商)  
沖 豊治 (兼松)  
植田 喜代治 (新野村貿易)  
阿部 藤造 (金商又一)  
田代 金之助 (岩田商事)  
小野 雄作 (大丸)

豊島 久七 (大阪豊島)  
松下 善一 (松下商店)  
黒川 幸七 (黒川商店)  
桑原 官吉 (〃)  
矢野 房次 (矢野商店)  
寺田 八十二 (百又)  
岡橋 林 (西宮)  
中村 文夫 (日本板硝子)  
徳永 次郎 (徳永硝子)  
小畑 源之助 (日本ペイント)  
富久 力松 (東洋ゴム工業)  
井上 長栄 (井上特殊鋼)  
村井 八郎 (三隆金属)  
中司 清 (鐘淵化学)  
片岡 武修 (旭化成)  
辻本 英一 (福助足袋)  
佐竹 総務部長 (武田製薬)  
藤沢 友吉 (藤沢薬品)  
田中 直方 (住友倉庫)  
山中 九三郎 (杉村倉庫)  
則武 仁十郎 (則武鉄工所)  
佐藤 太 (近畿電気工業)  
湯浅 佑一 (湯浅蓄電池)  
大関 源蔵 (西日本ラジオ電気卸)  
稻畑 太郎 (稻畑産業)  
茶谷 武雄 (茶谷産業)  
寺田 甚吉 (寺田ビル)  
久保 専治 (日本精版)  
新谷 重造 (大阪高速印刷)  
峰谷 経一 (集画堂印刷)  
中村 重太郎 (集画堂印刷)  
加藤 祇文 (朝日新聞社)  
白石 古京 (京都新聞社)

昭和28年度 ◆ 官庁技術者懇談会の記録

(1953) 1. 日 時 昭和28年10月28日

1. 主 催 日本科学技術連盟、(会長、八田嘉明氏……元・鉄道大臣)

1. 場 所 同連盟の会議室(東京都、大阪商船ビル内)

1. 議 題 「総合国土計画、田中プラン」を企画者、田中清一氏に聴く

◎ (出席者)

総理府資源調査会	小島 鎮雄	農林省官房総合開発課	中谷 忠治
総理府 同 上	前島 芳一	農林省 同 上	屋宜宜二郎
建設省審議室	塩原 三郎	農林省 同 上	山田 典男
建設省 計画局	奥村 和夫	農林省農林経済局農政課	中川 光
運輸省鉄道監督局施設課	印南 卓一	農林省改良局農産課	田所 萌
運輸省 港湾局計画課	大久保嘉市	農林省 研究第二課	曾根 徹
運輸省 建設課	長尾 義三	通産省重工業局	安原 武彦
農林省水産庁研究第一課	亙理 信一		(敬称略)
通産省工業品検査所	原 善太郎		
通産省 同 上	佐々木俊哲		

◎ この会合は、昭和23年1月23日に公表せる日本の総合国土計画による高速自動車道の全国道路網を建設せんとする計画の内、「東京―神戸間高速自動車道建設計画案」の説明書を中心に、更に昭和27年3月23日附にて衆議院と参議院に提出せる「東京―神戸間高速自動車道建設計画案」の国会請願書が、当時、画期的な大計画として注目され、諸官庁の技術者が詳細を知らんとして集合されたもので、この討議状況は「昭和28年12月10日発行の『新国土、12月号』の37～40頁に掲載されている。

◎ 先ず主催の日本科学技術連盟、会長の八田嘉明氏(元、鉄道大臣)は、田中企画者を次の如く紹介された。

「田中清一さんは、沼津市で富士製作所を経営されている同社の創立者であって、従業員株主制度の下に誠に理想的な経営をされている一方、総合国土計画研究所を主宰され、全く新たな構想に基づいて、日本の再建を図り、世界の平和に協力していきたいと念願を持っておられます。

現在の日本を狭いながらも四つの島をよく見ると、北海道には未開発資源が有るし、他の三つの島の山地には未利用資源が残されています。これらを科学技術的に、また精神的に開発する方法についてお話しがあります。

私も北海道に行って見て明治初年の開拓が第一期の開拓とすれば、今日では第二期の開拓が始まっているという感じを受けました。北海道と他の三つの山地の資源開発は、また人口を定着させることにもなり、その手段として北海道から本州九州にかけて、その背骨に当る所に交通路を開く。

その**第一着手**として東京から名古屋・大阪に出る「中央道」を建設するが、道路を造るだけが「田中プラン」ではないので、総合開発のための動脈として道路を造るので、私も賛成している一人であります。

田中さんは既に、数千万円の私財を投じて、調査研究に当り大きな日本国土全部の石膏製の模型を作り、

天皇・皇后両陛下も御高覧になっておられ、吉田総理も曾てのG. H. Q天然資源局長スケンク氏もよく理解しておられるのであります。

**田中さん**は食糧問題を常に心配され、食糧の自給ができない限り、対等の貿易ができない。食糧増産に必要な肥沃な土地が工場や、住宅や、学校になることを歎いておられます。全く新しい高原地帯に都市計画をして、日本の大都市周辺のみを集る生産に拠る施設は、そちらに移ってもらう。そのために立派な道が必要になってくる。国家百年の計として高速道路を造るので、総合計画田中プランの一部であります。つまり**第二の国土**を造って実質的な**領土拡張**をするのが、田中プランの狙いでありませう。

田中さんは数十年の色々な体験から、常に熱心に日本の国土をどうすればよいかを考えられていますので、本日は色々とお教えられることがあると思います。」

#### ◎ 活発な質疑応答

この会合は、さすがに官庁側の専門家揃いだけあって、田中プランに対する質疑が活発に行われ、田中企画者より詳細に応答が繰返された。

(備考)

上記の如く、国土計画に関する各省の専門の学者が参集された結果、官庁側に「田中プラン」が認識され、その後、総理府、建設、農林、運輸、各省の内から積極的な研究の専門家が現われて、更に本案を推進する協力者ともなられた数名の方々については、何れ明記すべきであらう。

## 昭和28年 ◆ 機関誌「新国土」を発刊す（7月）

国土建設推進連盟は田中プランを国民一般に啓蒙宣伝すると共に、国土計画案の詳細を関係方面に陳情し、また連盟の活動状況を会員各位に報道するために機関誌「新国土」を毎月編集して発刊することに企画し、創刊を7月号として発行せり。

本誌は昭和30年度より「財団法人、田中研究所」及び「国土建設一円会」の機関誌にも併用され、昭和39年6月までに累巻（第130号）を重ね、爾後は適時に発刊することになった。

### 発 刊 の 辞

（昭和28年7月10日の原文）

口を開けば民主主義を説き、文化国家を論ずるも、何ら具体策なく、何ら実行力なければ、これ空理空論に過ぎないのである。

田中清一氏の国土計画を樹つるやこれと異る。満身の熱血を傾け、多大の私財を注ぎ、堂々としてこれを研究し、敢然としてこれを要路にすすむ。眼中進駐軍なく、又政府もない。只是日本民族八千三百万の生命あるのみである。

故にひとたび氏の風貌に接し、更にその国土計画の概略をきけば、これに賛成し、その完成に力を致すことを誓わざるはない。然しながら事は重大であり、志は遠大である。同志百千身命を賭すと雖も時運に際合せざればその功は成り難い。今日時運已に至り、この計画が行われて国家磐石たるは等しく認むる所である。

しかるに尚且これが実施に至らぬ所以は、国民の輿論未だ熟さず、政府ために逡巡し、当局別の説を作すものによるのである。

われら茲に鑑み、あまねくこれを国民に訴え、数千百万の同志を得て輿論とし、以て「綜合国土計画田中案」を実施せしめむとするものである。

同志諸賢の絶大なる団結により所期の目的完遂に遇進せんとするものである。

## 昭和28年 ◆ 中京財界有力者と懇談会（10月15日）

名古屋商工会議所・中部産業連盟・中部経済連合会の共同後援にて開催された田中プランの「国土計画懇談会」は名古屋商工会議所の講堂にて中京の各界有力者と学界、官界の有志60余名が参集して開催された。

△ 中部産業連盟、事務局長、相馬貞蔵氏の開会の辞。

△ 名古屋商工会議所、副会頭、村岡嘉六氏の開催主旨の挨拶。

- △ 国土建設推進連盟、顧問、中島久万吉氏、木下道雄氏、八田嘉明氏等が田中企画者を紹介と共に国民運動への展開状況を交互に力説さる。
- △ 田中企画者は新日本建設の国土計画、田中プランを掲示せるパノラマ式大図絵にて具体的に解説を行い「今回の催しは何ら経済的、または物質的な援助など求める意志は毛頭ない旨を明かにし、私は敗戦の連帯責任者として当代国民が、明日の日本建設のため、平和的、国造りの運動に歩調を揃へて前進せんことを各位に要望する」……と強調し、質疑に応答されて万場の拍手を受け、盛況裡に閉会となった。

## 昭和28年 ◆ 長野県における推進大会 (11月16日)

国土建設推進連盟長野支部は飯田市の商工会議所において11月16日に「国土開発中央道長野県地区実施促進大会」を開催し、関係市町村長、商工会議所関係、外百余名が参集され、飯田商工会議所の坂下専務理事の司会。

### △ 飯田商工会議所、会頭、青島愛二氏の挨拶、

要旨「長野支部結成以来、田中プランの進展に焦慮していたが、第16国会にて調査費一千万円の決定と共に、県の調査が開始されて俄然活気付き、田中氏も亦この14日以来、二度目の来県にて千代、竜丘、川路方面の各村を更に検討しつつ実踏調査が加へられたので、地元村民がこれを注目し、本日午前は寸暇なき田中先生（企画者）を無理矢理に引張って「村民大会」を開き、前例なき無慮450名の参集者が熱叫して別記の如き決議文を手交し、実現方の陳情を行ったのである。

本案「中央道」の開通の暁には、文化に閉され勝ちな南信の山間僻地も産業、経済、その他各方面に想像以上の大変化が来るのみならず、長野県全体に及す利益は蓋し予想以上のものと確信する」

### △ 期成同盟会の経過報告……………飯田商工会議所・坂下専務理事

「今より3年前には国土開発の田中プランを夢物語として、実現性の乏しいものと思はれたが、26年11月27日に企画者田中先生を迎へて詳細なる説明を聴き、爾後、27年2月1日に関係当局に先ず陳情書を提出し、4月21日には更に林知事や県議会議長に陳情しつつ気運を醸成し、本年(28年)3月26日に関係市町村と飯田商工会議所の有力者が集つて中央道の「期成同盟会」を結成し、5月25日に第一回の総会を開いた。

次に6月18日に沿線の関係府県の動静と推進連盟各支部の運動方法を調査して対策を練り、調査費1,000万円の国会通過を契機に、本日の総会と実施促進大会を開く準備をした次第である。」

### △ 田中企画者の説明と講演……………国土開発と新日本建設の田中プランに関する詳細な説明と共に、下記の点を特に指摘された。

「南信地方は地盤も良く、自然の風景にも恵まれている処が多いから、中央道の開通の暁には、工場や文化施設が建設される外、別荘地も選ばれ、昨日調査せる河川にも都会に送れば何万円の価値となる奇岩、庭石が散在し、又酪農も極めて有望で奥地山村の経済に革命的な大変化が起るであろう。」

尚、田中企画者は熱心な質疑に応答されて、多数の参集者に感銘を与え、本大会が白熱すると共に、下記の如き「宣言」と「決議」が行はれた。

#### 〔宣 言〕

多年調査研究の結果、提案された「国土開発中央道建設案」は、森林、地下、水力等の各資源を総合的に開発し、沿道の未開発地域の開発・新産業の勃興や、各種工場、住宅、文化施設等に依る人口再分布を計ると共に、新たな観光地を出現する等の国策的な使命を有する外、特に我が下伊那郡においては南ア資源の開発と、精密工業の好適地としての期待が大きく、単に当地方の発展のみでなく急迫せる国家経済の現状を一転して飛躍的な繁栄に導く大原動力であって、本計画が国家事業として一日も速かに実施されんことを熱望し、本日茲に促進大会を開催して左の如く決議する。

#### 〔決 議〕

国土開発中央道の調査予算は、第十六国会において成立し、「産業開発交通幹線経済調査」の名の下に、既に調査が開始されたのを契機として、我々中央道計画に直接関係のある飯田市、下伊那郡の各町村は一致団結して之れが実施促進を、政府並びに関係各方面に強力に要望することを決議する。

昭和28年11月16日

国土開発中央道長野地区実施促進大会

(註) 当日出席した市町村長、商工会議所、及び関係団体の有力者が全員署名、捺印せり。

## 昭和28年 ◆ 各地に推進連盟の支部が結成さる

国土建設推進連盟が本年2月11日に沼津において結成され、活動が開始されると共に各地において支部結成の動きが活発となり、年末までに静岡、山梨、長野、大阪、岡山、秋田の各県にて16支部が結成された。

これらの支部の結成状況や、支部の推進大会を1～2例だけ本誌に掲載し、後世の参考に記録する。

1) 国土計画推進連盟、山梨峡南支部の結成状況 (11月12日)

中央道が開通すれば、東京より僅か1時間余の郊外となって、麗峰富士を仰ぐ幾多の観光地が出現し、特に富士五湖を中心に広漠たる無人地帯が一躍観光と、国際文化都市に変化し、更に山梨県の森林資源や、武田信玄以来の有名な銅金山や、豊富な鉱物資源の開発が注目される外、全国に信者を有する日蓮宗総本山の身延山久遠寺に幾百万の参詣者が往来するのに便利となるので、峡南地区の町村長を中心に、地元有志が田中企画者を指して「昭和の日蓮現る」と騒ぎ出して、この実現の推進方法を具体化すべく、本日の結成大会を開催するに至った。

〔司会順序〕

- △ 開会の辞……………市川良成氏 (連盟理事)
- △ 経過報告……………吉田長兵衛氏 (万沢村々長)
- △ 田中企画者の国土計画の講演……質疑応答
- △ 座長の推薦……………議事 (連盟支部規約の決定)
- △ 役員の選任…………… (下記の通り)

〔国土建設推進連盟・山梨県峡南支部の役員〕		(敬称略)
支部長	南巨摩郡下山村長、古屋慶信	顧問 日蓮宗総本山法主、深見日円師
副支部長	硯島村長、富水要信	監事 南巨摩郡大河内村々長、佐野詳盛
同上	西八代郡富里村長、堀内勝喜	同上 古関村々長、赤池長治
同上	上九一色村長、石川利章	同上 本建村々長、望月桂太郎

- △ 宣言と決議 (国土開発中央道実施促進大会)
  - ◎ 上記決議によつて陳情書を関係当局に提出せり。
- △ 出席者……山峡地区の町村長外、有志多数。  
(連盟本部より田中会長、瀬上理事、平沢秘書、外)

2) 国土建設推進連盟、静岡支部実施促進大会

- △ 開催日時……昭和28年11月22日午後1時より4時
- △ 場所……静岡県公会堂、4階大ホール
- △ 後援……静岡県、静岡市、静岡商工会議所、清水市、清水商工会議所、静岡新聞社、その他

国土建設推進連盟、静岡支部実施促進大会（前頁の続き）

（司会の順序）

- △ 開会の辞……推進連盟理事、中田騷郎氏
- △ 挨拶……静岡県知事代理、田口出納長
- △ 講演者……連盟顧問、中島久万吉氏、八田嘉明氏……田中プランについて
- △ 講演者……田中企画者…後に質疑に応答す。
- △ 緊急動議……中央道建設を促進する〔宣言〕と〔決議〕
- △ 閉会の辞……連盟理事長、片平七太郎氏

（注） この大会は会場を埋めた 300 余名の聴衆と 3 時間に亘る各氏の質疑が続けられ、当時の新日本建設に対する国民の意欲が「質疑応答」において窺い知ることができるとができる。

※ 斯る推進大会は各地において開催された 詳細な 記録は推進連盟の機関誌「新国土」に掲載されている。

-----  
昭和28年 懇談会記録の追記  
-----

- ◆ 関西木材業者と懇談会……大阪木材会館にて（8月11日）
- ◆ 中京木材業者と懇談会……名古屋木材会館にて（10月16日）
- ◆ 農林省関係官と懇談会……日本工業倶楽部にて（12月26日）

農地局計画部	佐々木技官	蠶糸局蠶業課	仁本技官
官房総合開発課	中谷技官	水産庁調査資料課	中村健技官
同上	山田事務官	総合国土計画研究所	田中会長
官房総務課	吉岡事務官	同上	瀬上理事
畜産局畜政課	林(太)技官	同上	野極英一

田中プランが農林省の行政に及ぼす関連事項を検討す。この詳細は新国土の昭和29年1月号に掲載す。

- ◆ 元大蔵大臣、石橋湛山氏が(株)富士製作所に来訪され田中企画者と懇談（12月16日）
- ◆ 元総理大臣、片山 哲氏が(株)富士製作所に来訪され田中企画者と懇談（12月22日）

## 昭和29年 ◆ 朝日新聞社「国土総合開発調査会」の来訪

(1954) 1. 来社日 昭和29年1月13日(沼津市、富士製作所へ)

- ◎ 来訪者 田中慎太郎 (東京朝日新聞国土総合開発調査会、常任理事)  
朝日新聞、論説委員)
- ◎ 園田次郎 (同上、調査会、理事) ◎ 団野信夫 (朝日新聞、論説委員)  
朝日新聞論説委員)
- ◎ 笠信太郎 (朝日新聞、論説主幹) ◎ 塩原三郎 (建設省道路局、技官)

朝日新聞社内に設けられた「国土総合開発調査会」では、早くから「国土計画・田中プラン」に注目されていたが、上掲の如く朝日新聞社の最高幹部が揃って田中企画者を訪問され、日本の国土計画について懇談されたことは、特筆すべき記録であろう。

朝日新聞は1月4日の朝刊社説にて別掲の如く、「日本の生きる道」を発表されたが、この論旨は田中企画者が昭和22年4月4日に、当時の連合国軍総司令官、マッカーサー元帥に提出した陳情書と、「平和国家建設国土計画大綱」に記載せる内容に合致していることが指摘される。

### ----- 日本の生きる道 -----

昭和29年1月4日

朝日新聞・社説

国土がせまく、資源がすくなく、人口が多い。これが日本の真の姿である。このことは、年の始めによくかみしめてみる必要がある。

国土の大きさは、これはどう工夫してもかえることはできない。北海道、本州、四国、九州という四つの島に生きるということは、日本に課せられた最も厳粛な条件である。同時に、この四つの島に生きることは、われわれの誇りでもある。

国土の大きさを、海を越えて横にひろげることにはできないが、いわばこれを縦に深めることはできる。せまい国土の完全な利用、資源の開発がこれにあたるだろう。日本には、まだいろいろの意味で、未利用の土地があり、未開発の資源がある。いずれはそれらも、開発しつくされるであろうが、まだまだその余地はある。

しかし、人口1人あたりに割ってみると、日本にあたえられた資源は、まことにすくない。これは、現在でも大きな問題であるが、将来は、人口の自然増加にともなって、日本のいちばん大きな問題になることは明らかである。

厚生省の調べによると、昭和28年度の人口の自然増加は、同年9月までの実数から推して、百万人とみつもられている。これは富山県の人口にほぼ匹敵する。自然増加の動きには、これからさき若干の移り変りはあろうが、それにしても毎年、どこかの県の人口に匹敵するだけの数がふえて行くにちがいない。あと、17、8年もたてば、日本の総人口は1億人に達するだ

ろう。

人口はこのようにふえるが、ふえたからといって、毎年どこかの県の面積にあたるだけの国土が、天から降ってくるわけではない。

したがって、人口の増加に見合せて、日本の国土が開発されて行かねば、日本人ひとり当りの暮らし向きは、苦しくなる一方である。

これを具体的にいえば、低い所得者層にふくまれる人員の数がふえることであり、もっとひらたくいえば、貧乏人の数がふえるということである。

**外敵侵略の脅威**ということがよくいわれるが、世界の世論が侵略行為に強い反対を表明しており、またこの世論が国際政治に目に見えぬ力を及ぼしている上に、原子兵器のいちじるしい発達があるので、すくなくとも、世界大戦をよび起すような直接侵略の危険は、しばらく遠のきつつあるとみてよさそうである。

ところが、**日本の場合**には、人口の自然増加によって、人口ひとり当りの国土や、資源は、もともと乏しいものが、今後、目立って削られて行くおそれ大きい。人口の脅威こそ日本にとっては、いちばん大きな脅威であるのに人々は案外それに気付いてはいない。これは大砲や飛行機では、防ぐことのできない性質の脅威である。

**人口の脅威**ばかりではない。日本には、自然災害という大敵の脅威がある。災害を、風水害と震災に限定し、しかも国費支出の対象とする公共施設、山林、農地の損害だけに話を限っても、昭和21年から27年までの7年間の災害総額は、これを昭和27年7月の物価に換算して、7千400億円を越える。

つまり、戦後は年平均1千億円の災害が続いているわけで、昭和28年も同様であった。

これらは、国費支出の対象となる損害だけの数字で、このほかに個人の家屋、家財、家畜、農作物など、個人財産に属する損害があるから、それらも全部ふくめて災害総額を計算すれば、おそらく**年平均3千億円**になると推計される。自然災害の脅威は、まことに厳然たる事実である。戦争もなく、空襲もなく、原子爆弾も落ちてこないのに、年々これだけの富が失われて行く。これでよいのか。これでも、日本の国の安全が守られているといえるか。

人口の脅威と、**自然災害の脅威**とは、ことがらの性質は異なるにしても、これに目をふさぎ、あるいはこれに対する的確な施策をなおざりにして、ただ外敵だけの脅威を説くに急であってはなるまい。ことがらの比重と、施策の順序について、大局的に誤りのない心がけねばならぬ。なによりも、自分の足もとの、恐ろしい地すべりに、いちはやく気付くことが、国を守る第一義であろう。

**人口増加対策**としても、自然災害の防止対策としても、防災をふくめた国土総合開発は、日本の根本国策でなければならぬ。これについては一点の疑いもない。ただこのためには国家財政、地方財政を通じて、巨額の資金を必要とするので投ぜられる資金から、りっぱな経済的利

益が得られないならば、俗にいうムダ金をばらまくことになる。それゆえ、資金の重点的、効率的投下ということが、最も重要であるが、それだけではまだ十分でない。

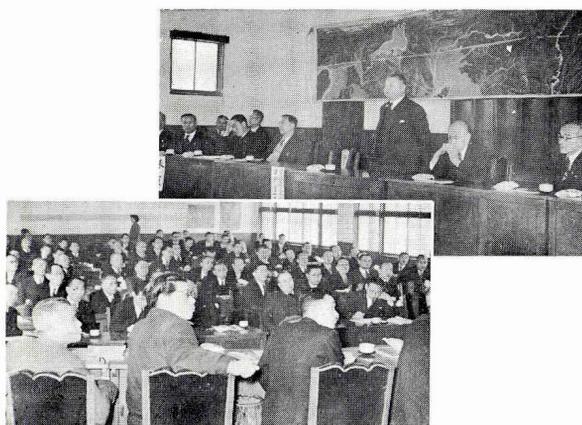
それは、開発された資源を、最大限に有利につかうということでそのためには、日本の科学技術水準を高めねばならぬひとかけらの石炭から、1キロワットの電力から、最大の経済価値を生み出すためには、より高度の科学技術水準が必要である。したがって、科学技術の開拓もまた日本の根本国策でなければならない。

なにか、日本の根本国策であるかについて、われわれは、以上のことがらを、年の始めにはっきり胸にたたきこんでおきたい。

昭和29年 ◆国土開発中央道・岐阜県地区実施促進大会（2月3日）



会場（多治見市役所）



（記録は79頁に掲載）

田中企画者の講演



多治見市長、金子義一氏の挨拶  
（金子氏の左）田中企画者、岐阜県議会議長松野幸泰氏

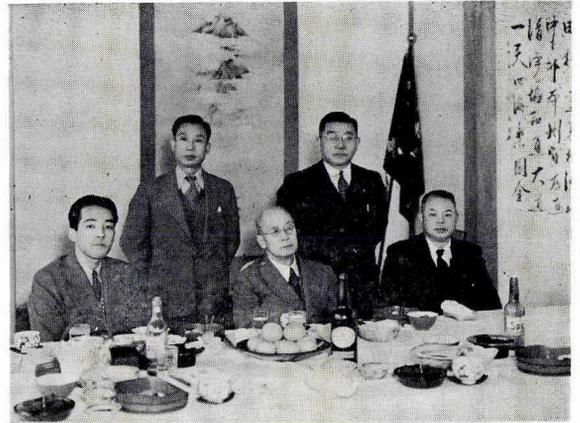


岐阜県東濃二市四郡の市、町、村長 150 余名参集  
（昭和29年2月3日）

沼津の富士製作所へ来訪された主なる来賓



経済安定本部長官，青木孝義氏（中央）  
（昭和24年10月25日）



顧問，元，商工大臣，中島久万吉氏  
（昭和26年4月9日）



参議院議員，尾崎行輝氏（右より2人目）  
（昭和26年11月5日）



連合国軍総司令部（G. H. Q）天然資源局技師  
Mr. L Marque Richard J.r 来訪  
（左より）田中夫人，R氏，三井高修氏，田口英太郎氏  
田中会長（後列）（昭和28年10月1日）

〔場所は何れも富士製作所応接室〕

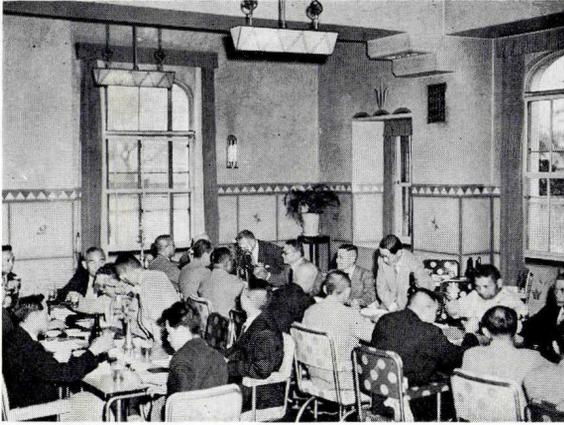


元，内閣総理大臣，石橋湛山氏（中央）  
（昭和28年12月16日）



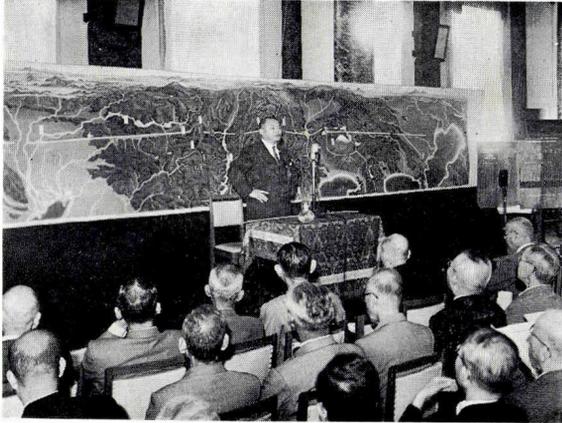
国土建設推進連盟，名誉総裁，東久邇宮稔彦王殿下（中央）  
富士製作所境内の富士神社前にて  
（昭和29年10月31日）

各地における国土計画の講演会



田中企画者を囲む新大阪ホテルの懇談会

(昭和29年6月9日)



日本工業倶楽部主催、国土計画講演会における田中企画者の講演



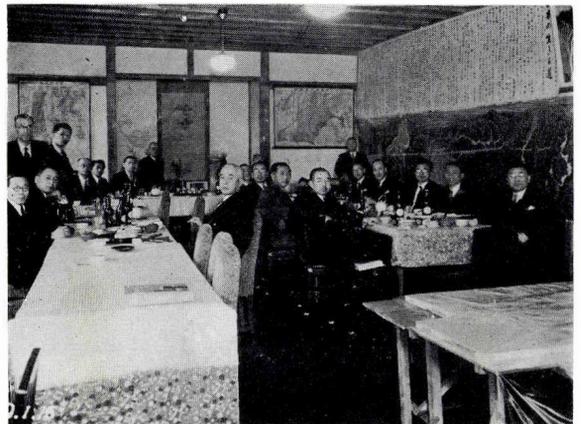
常務理事、中村元督氏の司会

(昭和29年6月24日)



大阪清交社主催、国土開発中央道講演会  
大阪堂ビルの9階、大食堂

(昭和29年6月29日)



日本工作機械工業会の理事会を榎富士製作所にて開催し、田中企画者より田中プランの説明を聴く

(昭和29年1月16日)

## 昭和29年 ◆ 政府は遂いに「田中プラン」を取上げ審議会を設置す

(1954)

新日本建設を目指して企画せる国土計画、田中プランの実現を図る推進運動は、田中企画者の超人的な不撓不屈の努力を以て28年度まで積み上げられたが、29年度に至り、吉田総理によって政府が取上げ、建設省内に「国土開発中央道調査審議会」が設置され、この年を契機に国会審議に進展し、遂いに昭和32年、第二十六回国会に於いて「国土開発縦貫自動車道建設法」という法律となって脚光を浴びることになったのである。(第3章143頁を参照)

◎29年度における主なる推進状況は下記の如くである。

- △ 1月19日 首相官邸に田中企画者が出向、福永官房長官と要談す。
- △ 3月11日 衆議院建設委員会(委員長、久野忠治氏)に招かれて、国土計画、田中プランを企画者として説明せり。
- △ 4月5日 自由党政務調査会主催の「国土計画を聞く会」に田中企画者が出席し、詳細な説明と質疑に応答せり(会長・池田勇人氏)
- △ 5月6日 社会党(右派)は国土計画、田中プランに依り「国土開発中央道事業法」として法案を国会に提出せり。
- △ 5月7日 衆議院経済安定委員会の招請にて国土計画田中プランを企画者が説明せり。
- △ 6月20日 衆議院経済安定委員会の委員長、加藤宗平氏一行が中央道の路線を視察す。田中企画者が現地を案内せり。
- △ 6月30日 建設省内に「国土開発中央道調査審議会」が設置され、建設大臣、小沢佐重喜氏を会長に、企画者田中清一氏を委員に、その他合計20名の委員にて審議を開始さる(第3章143頁参照)
- △ 7月1日 日本社会党は水谷長三郎氏、竹谷源太郎氏、三宅正一氏、日野吉夫氏等が中央道の路線を視察す。田中企画者が現地を案内せり。
- △ 7月13日 自民党政調会長、池田勇人氏と田中企画者の懇談。
- △ 8月1日 第5回「国土開発中央道調査審議会」において建設省建設技監、菊地明氏が「中央道の建設は技術的に可能である」と発言され、賛否に対する多年の問題につき、終止符を打たれた。
- △ 8月10日 経済安定委員会主催の関係八省(大蔵、建設、農林、通産、運輸、厚生、郵政、経審)の合同説明会に各省より50余名集会され、田中企画者が国土計画について説明を行へり。(第一議員会館にて)
- △ 10月30日 国土建設推連連盟、名誉総裁、東久邇宮稔彦殿が中央道の富士山麓一帯を

御視察された。

- △ 12月7日 6カ年続いた吉田内閣（総理大臣、吉田茂氏）が総辞職す。
- △ 12月10日 新内閣の総理大臣に自由民主党の鳩山一郎氏が任命され鳩山内閣を組織す
- △ 12月23日 社会党（右派）から提出された「国土開発中央道事業法案」を取下げ、各党共同で再提出することに決定せり。
- △ 12月27日 年末にも拘らず田中企画者が上京し、竹山建設大臣と会談さる。

---

### 昭和29年 ◆ 田中企画者の主なる講演記録

---

- △ 1月22日 沼津市教育委員会主催にて、生活改善学級の教師一同に、新日本建設の抱負を講演す。
- △ 2月3日 岐阜県、多治見市主催の講演会において同上の如く講演せり。(別掲詳記)
- △ 2月5日 日本交通協会（東京、丸ノ内）の主催にて、田中企画者が「国土計画、田中プラン」を講演す。
- △ 2月17日 山梨県、富士吉田市主催にて国土計画、田中プランを講演す
- △ 2月28日 静岡クラブ主催にて同上の如く講演す（松坂屋ホールにて）
- △ 3月25日 国土建設推進連盟、地方代表連合大会において講演す（日本工業クラブ）
- △ 4月1日 東京木材業九団体主催の講演会において講演す（深川木材会館）
- △ 6月23日 東京商工会議所工業部会の主催にて講演す
- △ 6月23日 日本工業倶楽部主催の講演会にて講演す（別掲詳記）
- △ 6月29日 清交社（大阪財界人のクラブ）主催の講演会にて講演す（別掲詳記）
- △ 7月3日 富士吉田市における「山梨県推進大会」にて講演す
- △ 8月3日 関西経済連合会の中央道説明会にて講演す（別掲詳記）
- △ 11月7日 長野県天竜峡地区の婦人会主催にて講演す

### 昭和29年 ◆ 国土開発中央道・岐阜地区実施促進大会

- ◎ 開催日…… 2月3日
- ◎ 場 所……多治見市役所

待望された中央道建設の岐阜県地区・促進大会は多治見市長、金子義一氏と中津川市長、市岡諄介氏が世話人となり、去る1月28日に多治見市役所へ「恵那、土岐、可児、加茂」の東濃四郡の代表を集められて準備された結果、この大会には二市四郡の町村長、県会議員、四郡の県土木出張所長、地方事務所長等、150余名が参集されて、意義深き決議と強力な推進が行われた。

#### ◎ 大会の進行状況

- △ 先ず、多治見市長の金子氏が本日の促進大会を開催する経過について説明、田中企画

者より詳細な田中プランを承って、本大会を進めたいと挨拶された。

△ 次に、田中企画者が登壇して、新日本建設の国土計画の全貌と、先ず第一期工事とする「東京―神戸間」の中央道建設について詳細な説明をされた。

△ 質疑応答…注目すべき質問が多数あるも長文となるので省略す。

(これは新国土29年、2月号に掲載)

△ 岐阜県会議長、松野幸泰氏の挨拶

△ 本会を二市四郡の「中央道実施促進大会」にされ、中津川市長、市岡氏を座長に押し  
て〔宣言〕と〔決議〕が行われ、決議文に署名して、「吉田総理、衆参両院議長、岐阜県  
知事宛の4部が作成せられた。

◎ 出席者……(敬称略)

(県会議長) 松野幸泰、(議員) 加藤鏖一、伊藤 薫、外12名

(県会事務局長) 小川 功

(多治見市長) 金子義一、(中津川市長) 市岡諺介

(恵那郡) 6町長、21村長、(土岐郡) 7町長、7村長

(可児郡) 6町長、8村長、(加茂郡) 7町長、18村長

(多治見市会議員) 穂積議長、外29名

(岐阜県側)……鈴木土木部長、松久道路課長、国分計画課長

(土木出張所長)……馬淵(太田)、内田(多治見)、亀井(大井)

(地方事務所長)……二宮安徳(土岐)

(中部地方建設局)……松川恒雄(多治見工事事務所長)

(国土建設推進連盟)……田中会長、瀬上清隆、山根清春、足立正樹

〔決議〕

国土開発中央道の調査予算が成立し、「産業開発交通幹線経済調査」の名の下に、既に調査が開始されたのを契機として、我々中央道計画に直接関係ある岐阜県東濃地域(多治見市、中津川市、恵那郡、土岐郡、可児郡、加茂郡)の各市町村は一致団結して之れが実施促進と、政府並びに関係各方面に強力に要望することを決議する。

昭和29年2月3日

国土開発中央道・岐阜県地区実施促進大会

◎ 上記の決議と共に宣言(長文につき省略)が上提せられるや、満堂の参会者は破れる如き拍手を以つて議決され、直ちに各市、町、村長が代表して署名が行われた。

## 昭和29年度 ◆ 国土建設推進連盟・地方代表連合会を開催

(1954)

◎ 開催日 3月25日 ◎ 場 所 日本工業倶楽部（東京）

推進連盟の活動が各地で活発となり、政府当局や、国会に陳情が行われるようになったので、これらの連絡と共に、各種の懸案事項が協議された。

◎ 出席者……（敬称略）

（連盟顧問）中島久万吉、木下道雄、高木陸郎、八田嘉明、安井英二、下中弥三郎、三井高修、宮沢胤勇、中村元督

（国会議員）岡村利右衛門（自）、今村忠助（自）

（会長）田中清一、（来賓）堀内 昇、（富士吉田市長）野田正一

岐阜県支部……中津川市助役、依田司馬夫（市長代理）

長野県支部……飯田商工会議所、専務理事、坂下広士（会頭代理）

山梨県支部……下山村長、古屋慶信

静岡県支部……中田騷郎（支部長）

大阪支部……団野雅章（支部長）

東京支部……坂東武夫

連盟本部……瀬上清隆、小西百一、松田江畔、平沢久次郎

◎ 協議事項

去る3月11日、衆議院建設委員会にて田中企画者が説明を求められて出席したこと、更に明26日に社会党（右派）の政策調査会に招かれていること、愈々田中プランの推進が軌道に乗る段階に達したことについて各支部の認識を深め、当面の重要問題について討議せり。

△ これに対し、国会議員の今村氏より政府関係の状況を報告され、推進の協力を約束された。

△ 尚、連盟本部と支部の連絡強化の方法などが協議された。

◎ 建設省に陳情

各支部の代表は、瀬上常任理事と共に建設省に出頭、病臥中の大臣に代って稲浦事務次官と会見し、要望書（各県知事、県会、並びに市町村長会から提出されていた中央道案実現に関する連署）を説明して、建設大臣に提出せり。

尚、この要望書は連盟本部より吉田首相、衆参両院議長、通産、運輸、農林の各大臣、衆参建設委員長、各政党総裁に提出し、多大の関心を持たれるに至った。

昭和29年 ◆ 日本工業倶楽部主催の国土計画講演会

- ◎ 開催日…… 6月24日 午後1時から
- ◎ 場 所……日本工業倶楽部 3階 大会場にて
- ◎ 参会者……各界、各層の政、財界人、約450名

(当時の状況)

- 1) 会員に対して発送された案内状には、国土開発中央道が「衆議院建設委員会」及び「衆議院経済安定委員会」において継続審議されていることを附記されたこと。
- 2) また昨23日の新聞紙上にて「政府が国土開発中央道調査審議会を設置に決定」した旨を大々的に報ぜられたこと。

以上の関係で前人気を呼び、定刻前から続々会場に詰めかける政、財界の粒選りの倶楽部会員は夥しい数に上り、この種の会合としては工業倶楽部始めて以来の記録的な大盛況を呈した。

- ◎ 田中企画者の講演の詳細 }……………
- ◎ 全上の質疑応答の状況 }……………

本誌の縦書編  
28～54頁に掲載

(出席者の記録)

(敬称略 順不同)

永野重雄	中島久万吉	新井源水	伊藤武男
山際正道	高木陸郎	秋山高	(ウ)
大倉喜七郎	尾崎行輝	天野貞之助	上野福三郎
佐藤喜一郎	木村公平	(イ)	植木伍鹿
倉田主税	野田正一	五十嵐秀二	内田敬三
安川第五郎	中村元督	飯田清二	(エ)
山下太郎	山根銀一	飯野浩次	江上正夫
石井太吉	(ア)	池田朝次郎	江橋貞二
宮島清次郎	安部登樹	池田亀三郎	(オ)
金光庸夫	相羽有	石上林二郎	小川弥太郎
正田英三郎	明智滝朗	石川昌次	小笹徳藏
小松隆	朝倉每人	石沢愛三	尾形六郎兵衛
郷古潔	浅田民藏	市川義夫	大久保偵次
犬丸徹三	荒井誠一郎	乾康郷	大倉邦彦
	荒井彦宗	岩田彦二郎	大崎新吉

大谷三四郎  
大野敬信  
太田静男  
太田辯次郎  
岡部栄一  
奥野智行  
奥村武男  
乙竹茂郎  
大山謙吉  
(カ)  
加藤辯三郎  
加納久郎  
柿原万蔵  
隠山金三郎  
笠原逸二  
神守源一郎  
辛島浅彦  
辛島寛太  
川上良兄  
川久保修吉  
河田烈  
河村允明  
(カ)  
金子喜代太  
鴨下克巳  
川瀬俊男  
(キ)  
君島一郎  
木村尚一  
(ク)  
久埜昇  
熊谷辰次郎

栗原修  
久米実  
窪寺勲  
(コ)  
小玉美雄  
小塚泰一  
小山九一  
古賀和佐雄  
古関周蔵  
是永桃吉  
後藤悌次  
小柳勝蔵  
小宮元次  
駒井藤平  
近藤道夫  
近藤廉治  
(サ)  
佐竹民造  
桜井安右衛門  
佐分孝  
佐伯長生  
佐々木時造  
佐々木弥太郎  
佐々田三郎  
桜井俊記  
鮫島具重  
沢田退蔵  
沢山昇吉  
斉藤恒一  
沢逸典  
沢田英貫

(シ)  
清水揚之助  
重光蔭  
芝辻正明  
渋谷澄  
島秀雄  
島田太郎  
下野十郎  
真専之助  
進藤紫朗  
(ス)  
鈴木祥枝  
鈴木正  
鈴木元  
鈴木由郎  
(タ)  
田所鷹一  
田口良明  
田路舜哉  
田中鉄三郎  
高井亮太郎  
高梨新三郎  
高橋五郎  
高橋武美  
高橋浩  
竹内俊一  
高島基江  
高木茂  
竹内雄一  
(タ)  
玉屋喜章  
丹治経三

(チ)  
千葉修三  
(テ)  
寺田秋雄  
(ト)  
戸倉惣太郎  
刀根文雄  
富永熊雄  
(ナ)  
中尾充夫  
名須川秀二  
中島精一  
中根正良  
中上川鉄四郎  
中村米平  
中山貞雄  
仲田旭  
永持源次  
成田紀  
中島実  
内藤圓治  
長野文一  
長尾欽弥  
鍋島熊道  
成瀬正忠  
(ニ)  
西岡里吉  
西村啓造  
二宮新  
(ノ)  
野口勇

(ハ)	福井 亘	(モ)	(ヨ)
馬場 恭一	(ホ)	本村 精三	横河 時介
配川 政雄	堀田 正郁	望月 貞夫	横山 公雄
橋本 作雄	(マ)	守谷 正毅	横山 秀
畠山 蔵六	間嶋 三次	森金 次郎	吉野 孝一
八田 熙	増田 義彦	森岡 三郎	横滝 精一
花岡 俊雄	松井 清治郎	(モ)	吉田 敬直
浜野 梧洞	松江 春次	森田 恵三郎	(ワ)
浜野 茂	松方 正熊	森本 靖男	渡辺 武次郎
林田 操	松下 長久	諸井 英一	渡辺 哲二
原 久雄	松田 義一	森川 衛	渡辺 善十郎
早川 慎一	松本 学	毛利 就	渡辺 松美
(ヒ)	松本 茂雄	(ヤ)	(推進連盟)
一松 政二	松谷 元三	矢野 一郎	田中 会長
菱田 静治	(ミ)	屋敷 仙之輔	瀬上 清隆
(フ)	三田尾 松太郎	安田 幾久男	小西 百一
福島 四一郎	三谷 峰吉	矢崎 邦次	野極 英一
福田 豊	三谷 雄一郎	山口 堅古	奥村 和夫
福永 年久	宮崎 駒吉	山田 忍三	佐久間 貞二
船川 西介	宮長 平作	山地 土佐郎	
古市 六三	宮本 憲次	山端 祥吾	
福元 稔		山崎 敬栄	

## 昭和29年 ◆ 大阪・清交社主催の中央道講演会

- ◎ 開催日 6月29日      ◎ 場所 堂ビル9階 大ホール

大阪にて古き歴史を有する社団法人、清交社は関西経済界の有力者の倶楽部であるが、急速に国策問題化した「国土開発中央道」を取上げて6月29日(火)の定例午餐会に中央道に関する講演会が行はれ、二百数十名の会員を集めて非常な盛況を呈した。

- ◎ この企ての中心となって特に努力せられた大日本金属工業(株)の取締役社長、小山省三氏が司会者となって、午後1時より開会された。

- ◎ 司会者小山省三氏の挨拶

田中さんは私と同業の精密工作機械の外に木工機械も製作されている(株)富士製作所

の創立者であり、また総合国土計画研究所の代表者である。

田中氏は戦時中より食糧の自給対策を基本に立案せる隧道工場の提唱に端を発して、本案の国土計画を昭和18年より計画され、戦後間もなく之れを政府に献策されてより以来10年間、自ら各地において実地調査を行い、何千万円という莫大な私財を投じて本計画の実施促進に没頭し続けられて来た偉人である。

私は本年1月工作機械業界の理事会を沼津の富士製作所において開催した時、ここに掲げられてある中央道の大俯瞰図や、20万分の1の全国土の模型などを拝見し、又国土計画の雄大なる構想を承って感銘し、本日の講演会となった次第であります、皆様の御理解と協力を得て、是非本案を実現するように念願するものである。

- 推進連盟顧問 中島久万吉氏の挨拶
- 田中企画者の講演……質疑応答……長文につき省略(新国土・29年7月号に掲載)
- 録音放送

本日の講演を「新日本放送」が全部録音し、特に田中企画者へ特別質問も収録し、その夜午後7時10分より「日本の生きる道」と題して放送された。

#### ◆ 新大阪ホテル懇談会（6月29日）

堂ビル「清交社」における講演会を終わって小山司会者、推進連盟の団野大阪支部長、外有志30余名は引続き「新大阪ホテル」にて田中企画者を囲み、協力の席を設けられ、機工界の立役者高平賢次氏（大阪工作所、社長）や木材界の重鎮、井上新太郎氏が協賛と激励の辞が述べられた。

#### 昭和29年度 ◆ 関西経済連合会の中央道説明会（8月3日）

昨年8月10日、大阪商工会議所主催の「国土計画懇談会」に続いて、関西地方における有力経済人を以て組織される関西経済連合会では、関経連の中核体とされる総合経済政策委員会（委員長、大原総一郎氏）の主催で「国土開発中央道説明会」が同会の会議室で開催された。

- 大阪窯業セメント会社の松島社長（副委員長）の開会挨拶に次いで、工藤事務局長から田中企画者の略歴紹介が行われて、本論に入った。
- 田中企画者の説明

昨日（8月2日）建設省における「国土開発中央道調査審議会」において説明した「工費問題、トンネルの換気問題」等の重要問題に対する審議の状況を田中企画者から説明されたので、中央における会議の内容が生々しく推察され、大きな感銘を与えた後、長さ33呎の大きな設計図絵によって、例の如く田中プランを詳細に説明された。

- ◎ **質疑応答**……神戸製鋼の浅田社長の質問に次ぎ、流石に経済人の集りだけに、各氏より極めて急所的な質問が熱心に続けられた。田中企画者は一々、懇切に説明と回答をされたので、一同が了解され、意義深き説明会となって閉会された。

〔**関経連より政府当局に要望書を提出**〕

上記の「中央道説明会」の成果は、9月14日に下記の要望書となって、関西経済連合会、会長、関桂三氏から首相、建設相、衆議院建設委員長、同経済安定委員長、その他必要箇所提出された。

**国土開発中央道に関する要望書**

(前文は省略) 今後デフレ政策の浸透に伴い、失業対策を根本的に樹立する必要がありますがその解決は単なる失業対策に終ることなく、総合的見地に立った国土開発により、将来の経済規模拡大に貢献するが如きものでなければなりません。

この点では現在政府で検討中の田中清一氏案の「国土開発中央道」の構想の如きは広範な意義を有するものと思われます。

当連合会は本問題に就き慎重に検討を加えた結果、別紙に掲載の如き意見の一致を見ました。就きましては、関西財界の総意として是非御取上の上、善処されんことを要望いたします。

(詳細は29年度・10月号の「新国土」に掲載あり)

(**清交社講演の出席者**)

(敬称略・イロハ順)

石 田 正 一	蜂 谷 時 誉	星 野 庄 吾	奥 山 勉
伊 藤 格	伴 秀 雄	堀 内 清	大 井 藤次郎
池 口 太 郎	畠 山 政 司	富 岡 夏 江	岡 本 保
井 上 仲 務	花 房 節 男	徳 永 二 治	太 田 欣 一
井 上 新太郎	浜 崎 照 道	藤 堂 献 三	岡 田 稔
稲 本 竜 助	浜 地 藤太郎	豊 沢 伴 二	覚 道作右衛門
泉 賢太郎	林 竜 彦	珍 道 徳 郎	河 津 喜之助
井 上 貞治郎	西野入 愛 一	大 竹 鉦 吉	片 山 禎 二
岩 井 尊 文	西 勝 造	大 倉 三 郎	笠 岡 幸 助
今 岡 亀 治	丹 羽 諫	近 弁 之 助	加 藤 昇 三

河井榮藏  
河合悦三  
門田繁松  
川村裔藏  
香川一郎  
川端邦夫  
米田茂利  
吉田吉三郎  
吉川清治  
吉岡稔  
読売新聞社  
吉永貫一  
高木正夫  
団野雅章  
高橋安兵衛  
高平賢二  
高木清  
高松弥三郎  
平正夫  
谷新助  
高木只市  
竹沢芳裕  
高橋安  
滝崎英一  
坪内正広  
辻邦充  
津田松助

中山善隆  
永浜秀夫  
中久保昇二郎  
中川豊  
中村政芳  
中村忠  
中西辰五郎  
長坂悦郎  
難波精三  
仲庭幸一  
中西茂  
中野通  
室馨造  
村田定吉  
村上精三  
海野源藏  
上田新八郎  
野波賢造  
納所留吉  
栗栖実也  
栗山礼行  
矢内清嗣  
山中治三郎  
山下俊吉  
山内茂  
山田又司  
山下時高

山田実  
山岡光盛  
前田文二郎  
松本武吉  
松尾岩雄  
松岡仁二  
松代和四郎  
松原喜三次  
松本潤治  
藤井良策  
福田寅治  
藤井優  
河野房次郎  
小林材木店  
小山省三  
河野安和意  
小島栄  
芦田亭之  
青山泰三  
安宅修三  
東将春  
阪本政弘  
斉藤良輔  
坂田音松  
阪田成一  
阪中繁  
坂田一夫

阪田素夫  
岸田安之助  
木村教俊  
木本徳太郎  
由上治三郎  
水垣正雄  
三田良藏  
御葉袋勝  
溝口富貴雄  
新日本放送  
坂口庸平  
下郷義一  
島崎浩藏  
江藤栄吉郎  
蛭子五八  
久徳幸一  
森田文一郎  
森村茂樹  
森三郎  
森田栄五郎  
世儀義雄  
杉山駒次郎  
(会員外共)  
◎〔推進連盟側〕  
田中会長  
瀬上清隆  
栗田鉄次郎

◆ 29年度（国土建設推進連盟の動き）

- ◎ 3月31日 静岡県島田支部の結成  
(支部長、大井木材協同組合理事長、河村太吉氏、就任)
- ◎ 4月5日 静岡県本部の結成  
(本部長、静岡市弁護士会長、中田駿郎氏、就任)
- ◎ 6月11日 青森県本部の結成  
(本部長、獄温泉株式会社社長、横山喜代造氏、就任)
- ◎ 7月22日 愛知県本部の結成  
(本部長、名古屋商工会議所、副会頭、村岡嘉六氏、就任)
- ◎ 9月24日 岐阜県本部の結成  
(本部長、岐阜県会議長、松野幸泰氏、就任)
- ◎ 9月24日 岐阜県西濃本部の結成  
(本部長、大垣商工会議所、副会頭、野村長雄氏、就任)

◆ 岐阜、長野、山梨、3県の町村長会議を開催

- ◎ 開催日 7月26日
- ◎ 場所 沼津市、国土建設推進連盟本部
- ◎ 出席者 (敬称略)

岐阜県町村長会長、山田良造、事務局長、石田勉  
長野県 “ 小出一男、全、小野沢光広  
山梨県 “ 秋山真男、全、中島正行  
推進連盟本部、田中会長、松田江畔、友森二郎、瀬上清隆、平沢久次郎

各県の町村長会長は、既に自県の県議会と連繋せられ、国土開発中央道の実施促進運動を展開されているが、今後の3県の連絡方法と来る8月2日の「国土開発中央道調査審議会」に間に合うよう、3県協議の推進電報を同時に政府当局に打電する外、当面の推進方法について協議せられた。

※ 上記の如く各地において、田中プランの協力者が多数集合され、推進連盟の支部、本部が結成され、各地区の有力者が責任者となって、積極的な運動が展開された。

◆ 岐阜、長野、山梨、3県の合同陳情（8月6日）

上記の町村会長会議の協議の結果、各県の県会議長と共に「国土開発中央道建設促進」の「陳情書」を提出せり。

「内閣総理大臣、副総理、各大臣、自由、民主、社会の各党主と幹事長、国土開発中央道調査審議会の会長、及び各委員、その他、関係官庁の政務次官……等100余名宛」

◆ 更に3県の町村長会議を開催（8月25日）

去る7月26日の会合に続き、岐阜市にて第2回の会合を開き、岐阜県会議長、松野幸泰氏、伊藤薫氏と共に下記の如く、協議された。

1. 9月6日、午前10時、建設大臣秘書官室に集合
1. 建設大臣と、当日開催せらる「国土開発中央道調査審議会」に出頭し、3県が共同して「陳情書」を提出する。
1. 各県の「期成同盟会」を一層強化する。
1. 中央道審議会の委員の自宅に電報、または書面にて推進方を陳情する。

昭和29年 ◆ 「伊勢博覧会」にて啓蒙宣伝

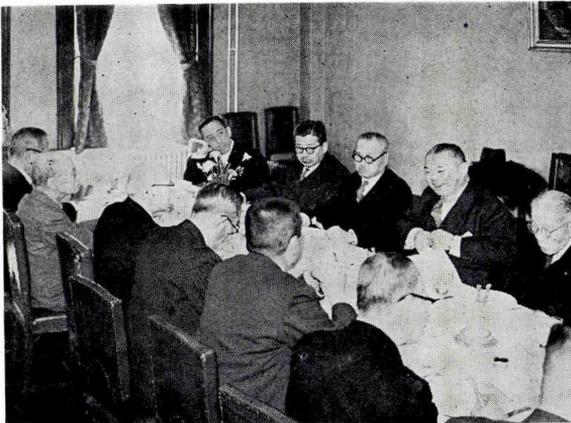
本年4月1日より5月末日まで2カ月に亘って開催された「伊勢山田市博覧会」に田中プランの「国土計画館」を設け、日本の全国土の立体模型（石膏製、20万分の1）や各種の資料を陳列して、全国から集った多数の入場者の観覧に供し、国民の啓蒙宣伝に多大の効果を収めた。この会場では、一読して新日本建設の国土計画、田中プランが判るパンフレットを配布する外、田中企画者が適時に講演を行い、観覧者への説明を繰返した。

（註） 本年2月1日。国土建設推進連盟の定例顧問会に宇治山田商工会議所会頭、北岡善之助氏が出席され、国民運動の一環として、神都伊勢で博覧会を開催し、田中プランの模型を陳列して「新日本建設」の運動を展開したいとの申入れで実現したものである。

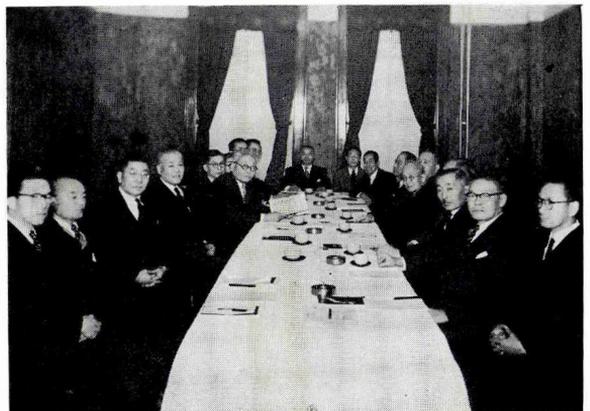
-----  
総合国土計画研究所の顧問会の状況  
-----

（出席者）

中島久万吉氏、八田嘉明氏、安井英二氏、木下道雄氏、吉野伊之助氏、高木陸郎氏、下中弥三郎氏、青木一男氏、宮沢胤勇氏、中村元督氏、三浦一雄氏、田中清一氏（中央）、塩原三郎（建設省）（事務局）瀬上、小西、野極、平沢



（前列左より）榑野金之助氏、片山哲氏（元、総理大臣）三浦伊八郎氏、田中理事長、野田正一氏、  
（昭和31年3月10日、日本工業倶楽部にて）



昭和28年12月22日（日本工業倶楽部にて）

## 昭和30年度 ◆ 「国土建設一円会」

昭和20年、終戦を契機に構想を練って、「平和国家建設総合国土計画」〔田中プラン〕の第一期工事として「東京―神戸間」の高速自動車道（中央道と称す）の建設を田中企画者が政府国会に提案したのである。

当時この区間の建設費を1,500億円、工期5ケ年の経続として年額、300億円を要すると提唱した田中企画者に対し、政府の要人は殆んど計画は理想でも、「国の豫算が無い」と言われて熟考されず、本案には全く消極的であった。

然るに当時の日本は、失業者が全国に散在して労働力は有り余り、政府は常に、「失業対策」に苦心しつつ政策を樹てていた道路建設に必要な〔セメント〕は国産で充分であり、工事用の所要鉄材の量も心配はなかったのである。

茲において、「中央道」の早期実現を念願する田中企画者は「国民運動」を起こして道路建設のための〔目的貯金〕を国民に求める構想を着々練り、具体化を得るに至った。

## ◆ 外資導入は国家の借金となるので避けたい

上記の如く、国土開発の第一期工事に毎年300億円程度の建設資金を必要とする提案に対し、政府の要人は「資金調達」に難色を示し、これに対する良策を得ない頃、田中企画者は前首相、吉田茂氏を大磯の私邸に訪れて種々懇談された結果、吉田氏は「外資導入」の案を出されたのであった。

これに対し田中企画者は、当代の我々が敗戦を招き、その上、戦後の復興に外資を導入すれば、次代の国民や子孫たちに「利息を払う借金」を残すことになるから、外国からの「外資借金」は避けたいと言明して、国民協力の「一円貯蓄」を企画するに至ったのである。

### 国土建設、一円会の目標と貯金の方法

- ◎ 要 望 国民は1人、1日、1円宛貯金して下さい。
- ◎ 貯蓄目標 (当時の人口を8,500万人として)
  - ☆1日で8,500万円 △十日で8億5,000万円
  - ☆1カ年で310億2,500万円
  - ☆5カ年で1,550億円……となります。
- ◎ 貯金先 銀行、郵便局、信用金庫、農協、その他
- ◎ 貯金の種類 定期預金、期限は五ケ年間
- ◎ 預金者名義人 貯蓄団体名、または預金者の個人名義
- ◎ 通帳表記 「国土建設一円会」と記入して下さい。

(附記) 今日の一円は「あめ玉」一個にも値しない金額ですから、これ位の節約はできない筈はないと思います。タバコ「光」の一箱は30円で、1本は、3円ですから、タバコ1本の節約は3人分の貯蓄となります。

この貯金は自分のもので、寄附ではありません。これは国土建設のための「目的貯金」として国民の皆様が五ケ年間、定期預金となるように預け入れて下されば、政府はこれを見返りにして「道路建設公債」を発行すればインフレを招かないで、建設資金に充当することができる構想なのであります。

この一日一円貯金に賛成した、日本全国民は申すに及ばず、遠くはロスアンゼルスからハワイの日系人に至るまで、一円貯金に賛成し励行した。これが起源となって富士製作所の各支店、各営業所、各出張所に至るまで相次いで「一円会」が結成された。(この多くは今日まで存続されている。)

「国土計画推進連盟」においても各地で宣伝され、長野県の飯田市、山梨県の富士吉田市において全市民が挙げて「一円会」に加入され、また全国各地の小学校、中学校の生徒が加入して「学校一円会」も現れ、特に東京では皇居内の「皇宮警察本部」では全員が一円会に加盟されるなど、燎原の火の如く全国各地に拡大し、その貯蓄実績は最初の5年間において巨億の数字を挙げた。

昭和四十二年には小林郵政大臣が沼津本部に来訪され、田中企画者に国民貯蓄の貢献者として感激と謝意を表された。

昭和30年度 ◆ 各地における田中企画者の講演記録

- △ 1月13日 清水婦人生活学級主催の講演会（清水商業高等学校）
- △ 1月15日 静岡県引佐郡三ヶ日町の成年式講演会
- △ 1月17日 推進連盟静岡本部主催の大講演会（静岡県民会館）
- △ 1月20日 推進連盟山梨峡南支部主催の講演会（山梨県南巨摩郡万沢中学校）
- △ 2月5日 推進連盟美濃支部（岐阜県）の結成式にて講演
- △ 2月6日 同 上 関支部（岐阜県）の結成式にて講演
- △ 2月16日 東京、日本クラブにおける講演会
- △ 2月17日 日本工業倶楽部において講演
- △ 2月19日 山梨、長野、岐阜の3県連合町村会議にて講演（長野県上山田にて）
- △ 3月2日 (株)富士製作所関係業者の懇談会にて講演
- △ 4月8日 推進連盟白鳥支部（岐阜県）の結成式にて講演
- △ 5月3日 推進連盟清水支部主催の講演会（庵原公民館）
- △ 5月11日 静岡県教育委員会主催の講演会（静岡県教育会館）
- △ 5月11日 名古屋市南友会主催の講演会（南警察署）
- △ 9月4日 静岡県、由比公民館における講演会
- △ 9月6日 静岡中央警察署において二百数十名の警官に講演す
- △ 9月24日 静岡青年クラブ主催の講演会（県民会館）
- △ 9月29日 中部産業連盟主催の東京懇談会にて講演
- △ 10月2日 清水市婦人会、青年団、PTAの合同主催の講演会
- △ 10月10日 大阪商工会議所主催の講演会
- △ 10月10日 武藤山治氏記念講座にて講演（大阪市）
- △ 10月11日 産業振興会主催の講演会（静岡工業高等学校）
- △ 10月19日 大垣商工会議所主催の講演会
- △ 11月7日 大妻女子高等学校主催の講演会（東京）
- △ 11月30日 長野県根羽中学校における講演会
- △ 12月1日 愛知県稲武中学校における講演会
- △ 12月1日 豊田自動車工業の懇談会にて講演（愛知県挙母町）
- △ 12月4日 埼玉県立、興農研修所における講演会（以上の外、記録漏れあり）

〔学者と会見〕

- △慶応義塾大学、塾長、小泉信三先生と懇談（3月16日）
- △関東学院大学、大串教授と会談と懇談（3月17日）

## 国土計画関係の外国人の来訪

### ◆ 元、G・H・Q天然資源局のリチャード技師（28年9月22日）

連合国軍総司令部（G・H・Q）の天然資源局にて田中プランを担当されていた Mr. L Marqu. Richard JR がアメリカに帰国されていたが、9月中旬に来日され、東京の三井本館ダートマス・クラブにて田中企画者と会談された。

このときリチャード氏が在任中に懸案とされていた田中プランにつき、建設省内に「国土開発中央道調査審議会」が設けられ、また吉田総理も乗気であることなどを知られてリチャード氏は我がことの如く喜ばれた。

### ◆ リチャード氏と随員が沼津へ来訪（28年10月1日）

上記のリチャード氏は三井高修氏と共に沼津へ来訪。田中企画者と懇談の上、当時の日本で入手困難な最新式の建設機械を技術者つきで日本に輸入し、田中プランの実現を推進する件など打合られた。

因みに三井氏はダートマス・カレッジの出身で、元、三井鉱山株式会社の社長であり、先輩格に当るので、田中企画者を囲んで技術的な諸問題が討議せられた。

### ◆ 独逸人技師ウアルター・ラオン・アベン氏来訪（29年1月10日）

独逸のヒットラー道路と呼ばれるアウト・バーンの建設に従事された西独の技師アベン氏は田中プランに関心を持たれて新春早々に沼津へ来訪された。

流石に道路建設の専門家だけに田中プランの設計図、日本全土の模型などを見られて重要箇所を技術的な質問を重ねられつつ長時間に亘って有益な会談が行はれた。

### ◆ 米国公使マイヤー氏と会見（30年7月22日）

日本工業倶楽部において田中企画者は顧問の中島久万吉氏、八田嘉明氏、高木陸郎氏と共に米国公使マイヤー氏を迎えて、国土計画、田中プランについて詳細な説明を行い、意義深い懇談となった。

### ◆ 米国大使館より担当の専門家が来訪（30年10月30日）

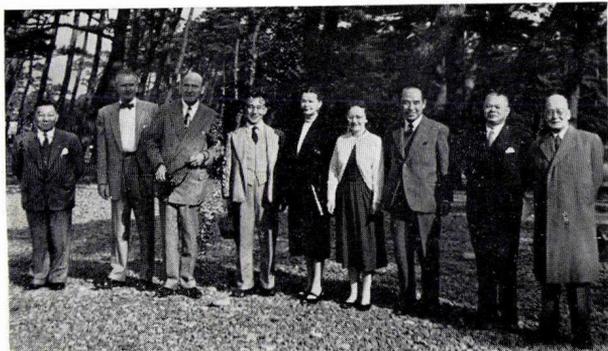
道路専門家のヘンリック氏と財政専門家のハットン氏は、共に夫人同伴で沼津の富士製作所へ田中企画者を訪ねられ、先着の中島久万吉氏を交へて道路計画について資料の検討を行うと共に熱心な懇談を重ね。同夜は沼津クラブに一泊の上、翌日は田中企画者の案内にて富士山麓の北側の予定路線沿道を踏査して帰京された。

### ◆ 米国公使マイヤー氏の来訪（30年11月12日）

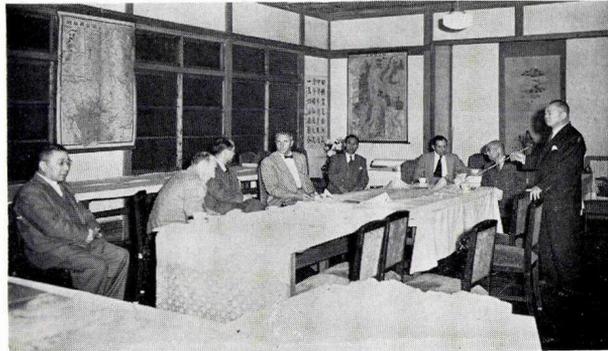
先に米国大使館の専門家として株式会社富士製作所へ来訪されたヘンリック氏とハットン氏がマイヤー公使に提出された報告書により、担当者としてマイヤー氏が、株式会社富士製作所に来訪せられ会議室に於いて田中企画者と種々懇談された。

◆ 米国大使館、ハットン氏と懇談（30年12月16日）

10月末に来沼された財政専門家のハットン氏と要談のため、田中企画者はアメリカ大使館を訪問した。



米国大使館のヘンリック氏とハットン氏の一行、  
（右より）、中島久万吉氏、田中企画者  
（沼津市千本浜にて。昭和39年10月30日）



ヘンリック氏とハットン氏に国土計画、  
田中プランの設計図にて説明する田中企画者  
（右端）榎富士製作所の会議室にて）

昭和30年 ◆ 推進連盟の活動状況

当年も各地に支部が結成され、更に年末11月26日には各地の代表者が沼津本部に参集して総合協議を行った。

◆ 長野県下伊那郡千代村一行の来訪（3月16日）

同村の議長の林寿人、副議長の林佐門氏、外議員等14名来訪され、田中プランの資料を見学された。

◆ 山梨県南都留郡議長会の視察（3月18日）

議長会長、堀内房雄氏外、「道志村、西桂、忍野、船津、小立、勝山、鳴沢、西浜、河口」の各村議長、及び山梨県、富士吉田地方事務所員、等15名来訪された。

◆ 推進連盟愛知県本部より視察来訪（3月19日）

同上理事の田中均一郎氏は南友会、南部鉄工会、中部木工機械工業会の合同にて一行が沼津本部へ来訪され、国土計画の資料を見学された。

◆ 各地代表参加の本部役員会（11月26日）

第3次鳩山内閣の成立と、臨時国会の閉幕、「財団法人、田中研究所」にて標題の如く、東京、大阪、岐阜、愛知、長野、山梨、静岡、新潟の各県の代表者が参加して推進連盟の本部役員会が盛大に開催された。

## 昭和30年 ◆ 財団法人・田中研究所を設立

本研究所は昭和12年に勃発した日支事変が、大東亜戦争に拡大した当時、戦争の主なる起因が、人口と食糧の不均衡から誘発されると考慮した田中清一氏が、「人口と資源」特に「食糧問題」の研究を基幹とする機関として設けた「総合国土計画研究所」を改組したものである。

これは既に本誌に記録される幾多の国土計画を研究するために、私設機関だったものを拡大強化して、公共的にすべく「財団法人」の組織にしたものである。

◎昭和30年7月8日付にて「財団法人、田中研究所」の設立を申請す。

◎昭和30年10月24日付にて内閣総理大臣、鳩山一郎氏より認可された。

### ◆ 設立当時の理事名 (敬称略、順不同)

田中清一 中島久万吉 八田嘉明 高木陸郎  
木下道雄 安井英二 青木一男 古野伊之助  
三井高修 宮沢胤勇 木村公平 尾崎行輝  
下中弥三郎 中村元督 友森二郎 瀬上清隆  
山根清春 小西百一 (計18名)

### ◆ 財団法人・田中研究所の理事会 (11月8日)

△ 開催場所……日本工業倶楽部 (東京・丸ノ内)

◎第一回、理事会を開催 (全理事出席)

〔議題〕 定款に定める下記の事業目的を検討し、今後の運営方法について協議せり。

### 第二章 目的と事業 (定款の抜粋)

第3条 この研究所は、わが国が恒久的に平和な独立国として繁栄するために必要な国土計画を研究し、過大都市と過疎地帯をなからしめ、生活文化の格差を是正することを目的とする。

第4条 この研究所は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行う。

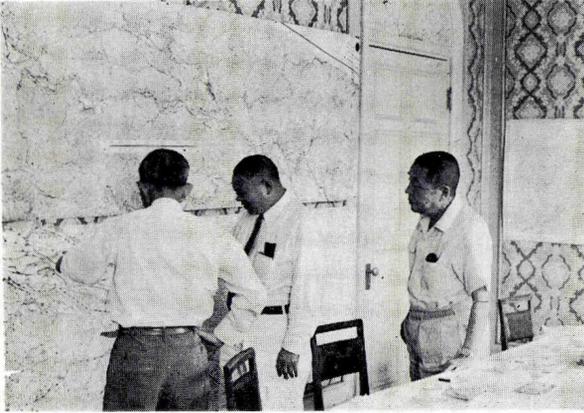
- 1 資源の開発、産業立地の再編成、総合交通体系の編成、人口、雇用配分等の国土計画に関する調査研究。
- 2 国土計画に関する国会、政府、その他必要の方面に対する献策。
- 3 国土計画に関する啓蒙及び宣伝。
- 4 地方開発に献身功労のあった穏れた人士の表彰。
- 5 その他、前条の目的達成に必要な事業。

〔議題2〕 田中理事長の推薦せる下記「顧問」を理事会にて承認せり。

財団法人・田中研究所の顧問（昭和30年）

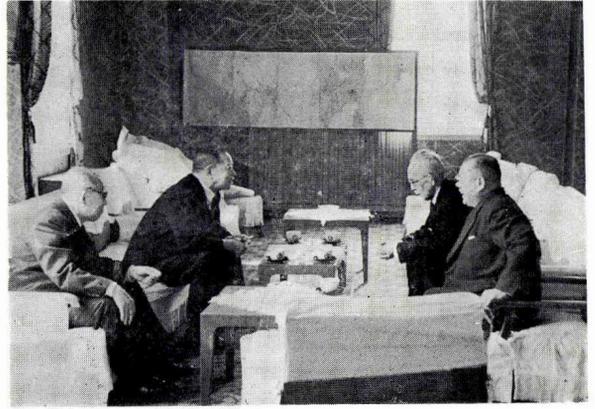
片山 哲（元、内閣総理大臣）	杉 道 助（大阪商工会議所会頭）
大野 伴 陸（現、衆議院議員）	神野 金之助（名古屋商工会議所会頭）
石井 光次郎（元、運輸大臣） （現、衆議院議員）	郷 古 潔（元、三菱重工業社長）
清瀬 一 郎（現、文部大臣）	下 村 宏（元、国務大臣） （情報局総裁）
河井 弥 八（現、参議院議員）	平 山 孝（日本観光連盟会長）
鶴見 祐 輔（現、参議院議員）	松 方 三 郎（電波監理審議会会長）
広 川 弘 禪（現、衆議院議員）	三 浦 伊 八 郎（大日本山林会々長）
藤 山 愛 一 郎（日本商工会議所会頭）	深 見 日 円（身延山久遠寺法主）

〔理事会、日本工業倶楽部にて〕



木下道雄氏、田中理事長、古野伊之助氏  
（他に多数の理事出席中）

〔顧問会、東京会館にて〕



大野伴陸氏 清瀬一郎氏  
下村 宏氏 田中理事長  
（昭和32年3月26日）

昭和30年 ◆ 「精進・清め祭」を厳かに行う（8月23日）

過ぐる大東亜戦争中、田中企画者は戦雲の激化に伴い、恐れ多くも皇居は、東京の過大に伴い、特に自動車の漸増と共に、空気がよごれ、御日常が如何やと拝察申上げ、しかも東京湾より艦砲射撃が起ったら、などと焦慮申上げて居られた。

田中企画者は帝都の発展、大膨張と共に、行在所の御造営地を選定する必要が有ると考へ、これを新日本建設の国土計画から研究して、下記の如く表明されるに至ったのである。「行在所は、北緯35度5分、東経138度6分の地が最も相応しいと思う。

この地域は富士山麓の精進湖の近くで、日本の最中であり、日高見にして実に清々しい処であり、特に空気は清く、原生林より湧き出ず真清水は琴弾く如く樋を走り、鏡の如き湖水と、青海原の如き大自然の樹海に加へて、霊峰富士山を初め、日本アルプスの名ある秀峰を、望み得る雄大にして、尊厳極りない清浄地であり、いわゆる聖地である」

依って、先ずこの地域を清める祭を行い、然る後に、既に立案せる企画を上程せんとして下記の如く、清めの祭りが執り行われた。

### 出席者

- ◎富士吉田市 富士吉田浅間神社宮司 上文司明……（以下、敬称略）
  - ◎祈願者 田中清一（国土計画推進連盟会長）
  - ◎片平七太郎（連盟、理事長） 秋山真男（山梨県町村長会々長）  
田口英太郎（静岡県出納長） 柴山重一（連盟顧問）
  - ◎松田江畔、川村太吉、国持秀太郎、近藤増次郎  
七夕虎雄、岡田希夫、永野常蔵、望月大作  
服部源太郎、池田篤紀、徳田勝彦、杉村喬一郎  
（地元）石川利章（上九一色村々長）小林美致（精進区長）外多数  
（山梨県富士吉田林務事務所）渡辺武義（担当区長）  
（東京より）阪東武夫、林実、鈴木真洲雄  
（沼津より）友森二郎、田中清正、瀬上清隆、平沢久次郎
- この日晴天、精進湖に近い「御殿庭」の地域、青木ヶ原に続く樹海の草を刈り、祭壇を設け、神酒、献饌、祝詞、祈願となり夫々玉串を奉奠し、式後は樹下に奠莖を敷て直会となる。青天の下、百花開き、清澄なる空気と盛夏に爽涼を満喫し、一同は暫く浮世を離れて神代に在る感に浸り、愈々以って国土計画、田中プランの実現を念願するに至った。

### 〔精進湖ホテルの会合〕

祭典を了へた一行は、富士五湖である「精進湖」に沿うて、往年イギリス人が草分けして設立した由緒ある「精進湖ホテル」に集り、国土計画の座談会を行った。

一部の方々は同夜、精進湖ホテルに一泊して田中プランにつき、更に熱心な推進方法が話合された。

（注）この「清め祭」は所定の聖地で、祭壇の場所を地域的に変へつつ毎年行はれたので、この祭典の意義と、祭典の状況を伝へ聞かれる有志の方々や、知名人が相次いで参集せられたこの行事は10年間続けたことが記録されている。

## 昭和31年 ◆ 各地における田中企画者の講演記録

- △ 1月15日 高知市教育委員会主催の講演会に田中企画者は遠路を高知市まで出向いて国土計画、田中プランの講演を行へり。
- △ 1月20日 東海経済懇話会の東京懇談会において講演す。(高輪プリンスホテル)
- △ 2月7日 東京、丸ノ内クラブにて講演会。
- △ 2月10日 沼津第一小学校において多数の地元聴衆の参集にて国土計画の講演を行う。
- △ 2月14日 彦根市主催、金亀会館にて国土計画を講演す。
- △ 2月15日 神戸商工会議所主催の講演会
- △ 2月15日 京都毎日講堂における講演会
- △ 2月18日 静岡県田方郡、教育委員会会主催の講演会
- △ 2月19日 山梨県六郷村主催の講演会
- △ 3月2日 山梨県恩賜林会館における森林組合会主催の講演会
- △ 3月16日 静岡県伊豆長岡中学校の母親学級の講演会
- △ 3月20日 島田市木材協同組合連合会主催の講演会
- △ 4月4日 沼津市金岡農業協同組合主催の講演会
- △ 4月7日 静岡県引佐郡、奥山方広寺の講演会
- △ 5月4日 沼津市末広町一円会の講演会
- △ 5月9日 静岡県由比町婦人会一円会の講演会
- △ 5月10日 静岡県修善寺小学校PTA主催の講演会
- △ 6月6日 東京、三井銀行本町支店の講演会
- △ 6月14日 三重県商工会議所連合会主催の講演会
- △ 6月15日 福井県三方郡美浜町における講演会
- △ 6月21日 関東地方商工会議所協議会の講演会
- △ 7月1日 静岡大学農学部における講演会
- △ 7月5日 吉原市ロータリークラブにおける講演会
- △ 7月11日 身延山久遠寺における中央道の懇談会にて講演
- △ 7月18日 東京丸の内日本商工会議所全国議会にて講演
- △ 7月29日 山梨県南部婦人会の来訪にて講演
- △ 8月1日 富士吉田市教育委員会、夏季大学講座にて講演

「講演会の題目」…  
…は国土計画田中プランにて講演せり。

昭和31年 ◆ 各地における田中企画者の講演記録（続き）

- △ 8月1日 富士吉田市の中央道建設促進市民大会において講演
- △ 8月2日 山梨県中富町PTA主催の切石中学校の講演会
- △ 8月7日 陸上自衛隊富士学校の講演会
- △ 8月16日 静岡県立教育研修所主催の講演会
- △ 9月1日 富士吉田市夏季大学講座の講演会（公民館にて）
- △ 9月2日 山梨県中富町教育委員会主催の講演会
- △ 9月2日 山梨県甲南中学校における講演会
- △ 9月25日 広島商工会議所主催の国土計画講演会
- △ 9月26日 松江商工会議所主催の国土計画講演会
- △ 9月27日 米子商工会議所主催の国土計画講演会
- △ 9月28日 鳥取商工会議所主催の国土計画講演会
- △ 10月2日 岐阜県郡上郡八幡町、郡上高校の講演会
- △ 10月4日 岐阜県郡上郡高鷹村公民館の講演会
- △ 10月17日 中央大学、学生自治会主催の講演会
- △ 10月20日 新潟県長岡市の推進連盟支部一行の富士製作所へ来訪にて講演
- △ 10月26日 沼津市立第五中学校、三輪校長一行の富士製作所へ来訪にて講演
- △ 10月28日 京都府、舞鶴公民館における講演会
- △ 10月29日 京都、同志社大学における講演会
- △ 11月12日 日立精機我孫子工場の講演会
- △ 11月13日 日立精機翌志野工場における講演会
- △ 11月17日 山梨県下山中学校教職員一行の富士製作所へ来訪にて講演
- △ 11月20日 静岡県産業教育振興会主催の富士北高校の講演会
- △ 11月21日 沼津市教育委員会主催の勤労青年学級の講演会
- △ 11月23日 静岡県教育研修所より40名富士製作所へ来訪にて講演
- △ 11月26日 山梨県三珠町連合婦人会主催の講演会
- △ 12月7日 静岡県鷹岡町教育委員会主催の講演会
- △ 12月10日 沼津市大平中学校にて大平地区勤労青年学級の講演会
- △ 12月12日 長野県、飯田商工会議所主催の下伊那郡町村長一行の懇談会にて講演
- △ 12月19日 沼津商業高等学校の全生徒に対し講演

（備考）昭和31年度だけでも、主なる講演は60回に及ぶ記録の内、特に印象的と思はれる講演会の内容を若干本誌に記載せり。

〔講演行脚の内・特筆事項〕(31年度)

◆ 彦根市講演会(2月14日)

彦根市、井伊市長の挨拶で開会、当日は生憎の降雪にもかかわらず、八日市、近江八幡方面よりも約200名参集、田中企画者の1時間半に亘る講演を熱心に聞かれた。

この地方は弾丸道路絶対反対の立札を鉄道沿線に立てている注目地帯だけあって、路線に関係ある聴衆から農耕地問題で真剣な質問が行はれたが、田中プランは「国造り」であって、道路の建設は手段であるから農地を潰すことは本意でない。これは最少限に止むべきで、代替措置など細かく配慮した説明が懇切に行はれたので、一同の気分は和やかとなり、極めて意義深い講演会となった。

◆ 神戸商工会議所主催の講演会(2月15日)

京都の打合せを午前中で切上げた田中企画者は、先ず、神戸新聞社を訪問の上、会場である商工会議所に入り、関西電気鉄道の小林社長の司会で、下記の如き神戸財界の主なる方々60余人の参集で講演された。

主なる出席者

1 兵庫県副知事	1 神戸海洋気象台	1 三菱造船
1 兵庫県計画課	1 中央工業試験所	1 川崎重工業
1 神戸市建設局計画課	1 兵庫通商事務所	1 神戸電鉄
1 兵庫県道路課	1 兵庫県トラック協会	1 山陽電鉄
1 海運局	1 (株)木下鉄工所	1 日綿実業
1 建設業協会	1 神明倉庫	1 極東海上火災
1 上組	1 日本油脂	1 大阪商事
1 昭和工務店	1 桑田硝子	1 笹屋
1 山田工務店	1 紡機製造	1 神戸出版社
1 市議会議長	1 商工会議所議員、多数	1 桑正
1 同副議長		1 その他

◆ 京都毎日講堂の講演会(2月15日)

神戸の講演会を了へた田中企画者は、再び京都に引返し、毎日講堂で2時間程、講演せり。

(註) 以上の彦根、神戸、京都の三つの講演会を通じて考へられたことは、田中プランの理解度は、東京以上であって、関西財界人、大阪商工会議所が、数回に亘って田中プランの実現を陳情し、神戸、京都、滋賀でもこれに同調しつつあることを心強く感じた。

◆ 関東地方商工会議所協議会の講演会（6月21日）

第8回の協議会は静岡市の県民会館で開催された。

田中企画者は沼津商工会議所の会頭として出席、日本商工会議所会頭の藤山愛一郎氏を中心に関東地方の77の商工会議所の会頭、副会頭、専務理事、事務局長等250余名が参集し、通産大臣、石橋湛山氏（代理）、及び企業局、静岡県知事、斉藤寿夫氏外多数が列席された。

◎ 沼津商工会議所・田中会頭の講演

会場には巾6尺×長さ30尺の中央道俯瞰図を揚げ、田中プランの国土計画を詳細に説明し、一同に「新日本建設の方策」として多大の感銘を與へた。

◎ 国土計画田中プランの建設促進を要望する件

本案は地元の「静岡県商工会議所連合会」から提出され、万場一致で可決、政府当局に提出されることになった。

-----  
出席した会議所  
-----

日本商工会議所、東京商工会議所、八王子、武蔵野、青梅、立川、（以上、東京都）横浜横須賀、小田原、川崎、平塚、藤沢、茅ヶ崎、秦野、鎌倉（以上、神奈川県）水戸、土浦古河、日立、石岡、下館、結城、那珂湊、（以上、茨城県）栃木、宇都宮、足利、鹿沼、小山、日光、那須、佐野、芳賀（以上、栃木県）前橋、桐生、館林、太田、沼田、富岡、藤岡（以上、群馬県）

川越、川口、熊谷、浦和、大宮、秩父、本庄、深谷、所沢、蕨（わらび）、（以上、埼玉県）千葉、銚子、船橋、木更津、市川、松戸、佐原、茂原、野田、館山、八街、（以上、千葉県）山梨（山梨県）静岡、浜松、沼津、清水、三島、富士宮、吉原、中豆、磐田、伊東、熱海、島田、焼津、富士、掛川、（以上、静岡県）

（備考） 以上の如く関東地方の商工会議所が全部参加、各地の会頭、副会頭、専務理事などが出席された。

協議会の終了後は伊豆長岡ホテルにて懇談会が開催され、田中企画者を囲んで熱心な話し合いが行はれた。

◆ 津市（伊勢）商工会議所連合会主催の講演会（6月14日）

これは午前10時から「津市水産会館」にて開催された「国土建設青少年運動、全国本部」の設立に、田中企画者は尾崎行輝氏（連盟顧問）と共に出席して、講演を行った後に、津市商工会議所において「三重県商工会議所連合会」主催にて講演会が行はれ、多数の実業家の聴衆に対し感銘を與へたのであった。

終了後は参宮有料道路の視察を兼ね、田中企画者と随員は皇大神宮へ参拝した。

◆ 日本商工会議所主催の講演会（7月18日）

日本商工会議所会頭、藤山愛一郎の招請に依り、別掲の如き全国各地より上京された正副会頭と専務理事の会合に田中企画者（沼津商工会議所・会頭）は国土計画、田中プランと題して講演を行った。

〔第21回常議員会出席氏名〕

-----  
◎会頭 ○副会頭 △専務理事 ※事務局長  
-----  
(敬称略)

〔日本商工会議所〕 ◎藤山愛一郎（常任理事）高城 元（理事）依田信太郎 田中彦藏  
〔東京商工会議所〕 ◎足立 正、○大塚 肇、※蔵岡清則〔大阪〕 ◎杉 道助、△里井達之良  
〔名古屋〕 ◎神野金之助、△高坂正雄  
〔横浜〕◎半井 清、△原 義夫〔京都〕◎中野種一郎、△中川甚太郎〔神戸〕△坂元智元  
〔小樽〕○吉村伝次郎〔札幌〕○今井道雄、△桶谷又助〔旭川〕◎南 喜一〔青森〕  
○竹中喜一郎〔仙台〕◎内ヶ崎普五郎、△首藤英二〔山形〕△橋本精二〔福島〕  
◎油井賢太郎〔新潟〕△伊藤隆夫〔長野〕△伊藤淑太〔松本〕△小林国治〔水戸〕  
◎竹内勇之助、※安田仁〔宇都宮〕△五味啓四郎〔高崎〕◎黒崎義平〔川越〕◎伊藤長三郎、  
△岩沢新衛〔千葉〕△秋田良治〔横須賀〕◎小佐野皆吉、△手島三郎〔川崎〕◎根本 茂  
〔甲府〕◎海沼栄祐、△菊島富英〔静岡〕◎増井慶太郎、△藤田隆平〔浜松〕○鈴木俊雄、  
△山内 実〔岐阜〕△佐藤快正〔豊橋〕◎神野太郎、△鈴木 尚〔一宮〕◎豊島半七  
〔大津〕◎上田健次郎〔姫路〕※寺島 清〔米子〕※山本盛夫〔松江〕◎野々村 延  
〔岡山〕△吉永義光〔広島〕△横山周一〔下関〕△諏訪信敏〔徳島〕◎長尾義光〔高知〕  
◎入交太蔵〔福岡〕△池見茂隔〔小倉〕◎菊地安右衛門〔沼津〕◎田中清一、○岡田吾一、  
○友森二郎、○竹内鉄次郎、△石原栄一。

◆ 中央大学、学術部連盟の講演会（10月17日）

（学生委員の手記より）……「中央大学学術部連盟に於ては、予て懸案の合同主催による第一回講演会を開催するに当り、論題を討議した結果、当面学生の最も関心を抱く『経済発展と雇傭機会拡大』の具体策として、又日本の進むべき方向として研究しなければならぬテーマを『田中プラン』に見出し、立案者の田中清一氏をお招きすることに決定、幸に御多忙中にも拘らず、田中企画者の御快諾を得て、学内では部長、川原次郎吉教授の御尽力を戴いたので十月十七日に大講堂において開かれた」

◆ 学生や青少年に対する講演会

当時の学生や青少年に、何如にして「希望」を持たせんやと、苦心した教育者や、指導者たちは、「新日本建設の田中プラン」こそ、何よりの抱負と拍手し、これを

田中企画者の講演にて、学生や青少年に希望を持たせたいと、各地より出演を要請されたのであった。これは田中プランの実現、推進には早速の効果はなくとも、次代を背負う学生や青少年に大きな希望を持たせるためには、何よりのものと確信した田中企画者は、可能な限り、各地の学校へ出かけて講演した事情なのである。

特に地元の静岡県では、教育委員会や教育研修所が主催となって、教職員に田中プランとによる「国造りの抱負」を熟知せしめこれを教育資料とするように、田中企画者の講述を度々求められたことを本誌に記録する。

昭和31年 ◆〔国土開発縦貫自動車道建設法案の促進要望書〕  
各商工会議所、沿線市町村より政府に提出さる

◆ 中京の政財界より政府に提出（1月20日）

名古屋の政財界人にて組織されている「東海経済懇話会」は第4回の東京懇談会を芝高輪の「プリンスホテル」で開催し、当面の重要問題を協議すると共に、中部日本放送の佐々部社長を座長にして標題の「建設法案」の成立促進と共に先ず「東京―神戸間」の「国土開発中央道」の建設に着手するよう。要望書を満場一致で決議して、政府の関係閣僚、並に政党関係と、関係方面に提出された。

当日の主なる出席者 (敬称略)

一万田 尚 登 (大蔵大臣)、	高 碕 達 之 助 (経済企画庁長官)
岸 信 介 (自由民主党、幹事長)	進藤 武左衛門 (愛知用水公団、副総裁)
大 月 高 (大蔵省大臣官房、財務調査官)	
稲 葉 秀 三 (国民経済研究協会、理事長)	
中 野 哲 夫 (中小企業金融公庫、理事)	
八 田 嘉 明 (元、鉄道大臣、財団法人田中研究所、理事)	
桑 原 幹 根 (愛知県知事)	
神 野 金 之 助 (名古屋商工会議所、会頭)	
佐々部 晚 穂 (中部日本放送(株)社長)	井 上 五 郎 (中部電力(株)社長)
阿 部 広 三 郎 (東洋プライウッド(株)社長)	千 田 憲 三 (名古屋鉄道(株)社長)
白 石 勝 彦 (東洋倉庫(株)社長)	塚 田 実 則 (東那瓦斯(株)社長)
石 井 健 一 郎 (大同製鋼(株)副社長)	横 山 道 夫 (同 上 副社長)
岡 本 藤 次 郎 (日新通商(株)社長)	岡 谷 正 男 (岡谷鋼機(株)社長)
神 谷 正 太 郎 (トヨタ自動車販売(株)社長)	高 橋 儀 三 郎 (名港海運(株)社長)
青 木 好 之 (同 上 副社長)	吉 本 熊 夫 (日本碎子(株)社長)
木 下 正 美 (東海銀行・常務・東京駐在)	与 良 衛 (中部日本新聞社々長)

(次頁に続く)

横井 広太郎 (名古屋精糖(株)社長)  
岡本 寛 (同上 副社長)

伊東 光 (東海経済懇話会、常任理事)

◆ 各地の商工会議所から要望書を政府に提出

関西経済連合会による「大阪商工会議所」の提出、次に関東地方「77の商工会議所」が連合提出、更に前掲の「中京経済団体」による提出、岐阜県商工会議所連合会、名古屋商工会議所の提出……等によって、「国土開発縦貫自動車道建設法案」の成立を促進すると共に、「国土開発中央道」の実現を一斉に要望することになった。

◆ 沿線市町村の連署による要望と陳情を行う

△中央道建設促進山梨県期成同盟会より要望書を提出

△中央道建設促進長野県期成同盟会より要望書を提出

△中央道建設促進岐阜県期成同盟会より要望書を提出

△岐阜、長野、山梨、3県連合による要望と陳情を行う

△国土建設推進連盟の各県本部、各県内の支部より多数の要望書を提出し陳情せり。

◆ 日蓮宗総本山身延山久遠寺法主を代表に国会へ請願 (8月23日)

全国に5,000の末寺と500万人の壇信徒を有する日蓮宗は、宗祖、日蓮聖人の開基にかかる総本山が山梨県の身延山に在るので、日蓮宗としては田中企画者を「昭和の日蓮」と喜び、「中央道の実現」を祈願して、各種の要望書を関係当局や政党に提出し、遂に国会へ請願するに至った。

国土開発縦貫自動車道建設法案に関する請願

謹啓 国会議員各位には、国務立法等に関して日夜、国家国民の為に御精励の段、寔に感謝に堪えず、衷心より敬意を表します。

陳者 財団法人田中研究所、理事長、国土建設推進連盟、会長である田中清一氏の企画にかかる「国土開発中央道建設案」を基礎とする「国土開発縦貫自動車道建設法案」に関して、各位の御賢慮を煩したく、茲にその趣旨を明らかにし請願に及ぶ次第であります。

何卒各位は是について特別の御高配を賜るよう御願ひ致します。

昭和31年8月23日

日蓮宗総本山身延山久遠寺

法主 深見 日 円

管長 増田 日 遠

(附) この請願書に添付せる「国土開発縦貫自動車道建設法案の実現を望む理由」は……長文につき省略する

## 昭和31年 ◆ 米国調査団の来訪・ワトキンス一行

### 〔財団法人、田中研究所にて懇談〕

建設省の要請にて、日本の高速自動車道の調査のため5月19日羽田着にて来日された米国調査団の一行中、ワトキンス団長が専門家を随伴して来訪された。

△団 長 理学博士、哲学博士、ラルフ・J・ワトキンス氏

△随 員 運輸経済専門家、ウイルフレッド・オーエン氏

△案 内 建設省、建設技官、大塚勝美氏

△通 訳 経済企画庁長官、高碓達之助氏の秘書、河本氏

△場 所 財団法人、田中研究所、東京丸ビル事務所（富士製作所東京支店内）

#### （研究所側）

△（理事長）田中清一、（理事）三井高修、（理事）尾崎行輝の各氏

「ワトキンス氏は終戦直後より暫く東京のG・H・Qに居られ、或る程度、日本の事情に通じて居られたので、若干の日本語も交へて「田中さん」と挨拶され、国土計画田中プランのデスカッションをしたいので貴事務所を訪問したと挨拶の上、着席された。」

※三井高修氏とは既に面識の様子、尾崎行輝氏は米国民に親しまれている尾崎行雄氏の嗣子として本日の会見に参加されたので、会議雰囲気予期せぬ印象を加へた感があった。

#### ● 会議室の資料

1 東京一神戸間の20万分の1の地図。

1 G・H・Q、主催の国土計画展覧会にて田中企画者が  
天皇、皇后両陛下へ御説明中の状況写真。

1 高速自動車道の日本全国の設計図と各種の資料。

※田中プランの詳細な英訳資料と、日本語版を参考に両氏に手交す。

◆ 田中理事長の説明……先ず劈頭に、田中プランとはG・H・Q、にて付けられた呼称である。これは戦争中よりの構想から発し、戦後「日本の生きる道」として真剣に考えた日本の総合国土計画である。

昭和22年より2カ年間で造った日本全国の「20万分の1」の立体模型も、各種の資料も当時のG・H・Qの方々によく御承知のことである。

日本は狭い国となったので、これを立体的に使はねばならなくなった。死蔵せる資源を最大限に活用せねばならない。日本は資源が少ないために遂に戦争を余儀なくしなければならなくなったとも謂へる。（次頁に続く）

但し、戦争はコリゴリである。今後の平和な国を造るために日本の国土を研究し、開発の計画をしたのがこの田中プラン（図示して）であから、かような見地から認識されてディスカッションをして頂きたい。

◆ **ワトキンス団長、オーエン氏**

（長時間の記録につき、要点のみ掲載）

- 1 田中企画者の説明を聞いた後……非常に面白いプランである。資源開発や人口の再分布等が織り込まれていることが判かった。

この道路が交通収入だけでペイするのは償還が20年でよいのか？

- 2 田中プランは非常に優れている。しかし2～3年はタックス（道路収入）のみではペイできないと思うが？ この間の利子補給は如何にするか

- 3 この道路建設の法律（当方から提出した国土開発縦貫自動車道建設法案の英訳を見て）国会をパスするか？

- 4 （観光収入見込の説明後に）全くだ、日本は全部が公園であり、観光地である。観光収入の見込は大いに期待ができる。

- 5 田中プランは資源を開発する道であると強調さるべきである。

※ 上記の各質問に対し、田中企画者は資料と共に詳細な説明を行い、数字を要するものは数字で答へ、両氏の納得されるまで説明を続けられた。

◆ **ワトキンス団長一行の沼津来訪（7月1日）**

予てから要望されていた沼津本部に陳列してある「日本全土の石膏製、立体模型圖」や各種の資料を観覧のため、ワトキンス団長は夫人と子息を同伴、オーエン氏と共に沼津へ来訪された。

研究所側は理事の三井高修氏が通訳役となり、田中企画者を中心に長時間の懇談が行われた。

〔調査団との懇談と結論の概要〕

- 1 **ワトキンス団長**……高速自動車道の建設の必要は日本の立場を考えると漸次判明してきた。国土を開発することを日本人が一層に理解するように努力すべきであると強調され、この建設に伴う経済効果と資本回収に対する詳細な資料を求められた。

- 2 **オーエン氏**……日本における一般産業の投資と道路投資の比率が、他の諸外国と比較して少いことを力説され、道路投資が産業発展の根幹をなす点を強調し、「産業としての有料道路」の認識を高めるよう啓蒙すべきである。アメリカは世界中で一番多くの道路投資を行ったから今日の繁栄を齎らしたのだと、道路経済学の専門家として発言された。

- ◎**田中企画者の強調**…オーエン氏のご意見も、私が主張している如く、国土開発は

資源開発の道路と共に、交通のスピードアップによる産業の飛躍的發展を図るための「高速自動車道」として「4車線」で建設せねばならないと、田中企画者は……日本の未来像を表現して強調し続けた。

(附記) 懇談終了後、ワトキンス一行は田中企画者の経営する(株)富士製作所の沼津工場を視察し、製作中の精密工作機械の精度が1ミクロン(千分の1ミリ)であると説明を聞かれた。ワトキンス氏とオーエン氏は共に、技術者としての田中企画者が国土計画に取組まれている異様感に驚歎された様子であった。

#### ◆ ワトキンス報告書が発表さる(8月8日)

本年5月19日に来日以来、6名の米人専門家が80日間に亘って「名古屋―神戸間」の高速自動車道の予定路線を調査した邦文200頁の報告書は、東京丸ノ内の東京会館で馬場建設相に提出され、各省の関係者と共にワトキンス氏から報告を受け、各新聞は一斉に下記の如く報道せり。

##### 〔報告書の要約〕

- 1 高速自動車道の路線については「東海道案」と「中央道案」の二案があるが、二案とも必要である。
- 2 「神戸―名古屋間」の高速自動車道は最終的には東京まで通ずる高速道自動車の一部としての計画が必要である。
- 3 このため日本の道路費は現在の約3倍、即ち年間1,800億円程度に増額すべきである。(8月9日、日本経済新聞)

##### 〔ワトキンス団長一行の来訪〕

(右より) 田中理事長、ワトキンス氏子息、ワトキンス団長、ワトキンス氏夫人、田中理事長夫人  
(後列右より3人目) オーエン氏、友森理事、瀬上理事、平沢秘書、



(昭和31年7月1日)



(株)富士製作所の沼津工場を視察

## 【米国調査団の礼状】

KOBE - NAGOYA EXPRESSWAY SURVEY  
for the  
MINISTRY OF CONSTRUCTION  
Matsumoto-ro Annex, 1 Hibiya Park  
Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

Ralph J. Watkins, Director  
Everett E. Hagen  
Frank W. Herring  
Glenn E. McLaughlin  
Wilfred Owen  
H. Michael Sapir

Telephones :  
59 - 4058  
59 - 4059

Mr. Seichi Tanaka  
Chairman of Directors  
Fuji Seisakusho, Ltd.  
Room 362, Marunouchi Building  
Marunouchi, Chiyoda-Ku  
Tokyo

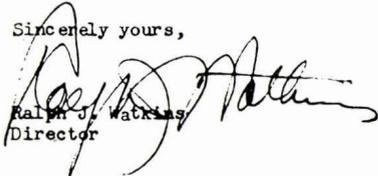
June 29, 1956

Dear Mr. Tanaka:

That was a very pleasant and instructive meeting we had with you and your associates yesterday, and I want to assure you of our warm appreciation. It was good to get acquainted with you and very helpful to have the opportunity to discuss the Tanaka Plan with you, and to secure a clarification of some of the questions that have presented themselves. I shall look forward to the opportunity of seeing you again.

On behalf of my colleague, Mr. Owen, and our Japanese colleagues, and in my own behalf, may I say again that we appreciated very much your hospitality and your courteous reception.

Sincerely yours,

  
Ralph J. Watkins  
Director

## 建設省

神戸—名古屋間高速道路調査団（訳文）

東京都千代田区日比谷公園  
松本楼別館  
電(59)4058-9

昭和31年6月29日

東京都千代田区丸の内丸ビル362区  
株式会社 富士製作所  
取締役会長 田中清一殿

前略 貴殿や貴殿の友人と昨日愉快な、また有益な会合が出来ました事を喜んでおります。

貴殿と御面識を得、田中プランについて討議する機会を持ち、種々の問題を解明することが出来た事は喜ばしい事です。

私はもう一度貴殿と御会いできる機会を鶴首致しております。

同僚オーエン氏、及び同僚日本人を代表し、貴殿の御歓待に衷心より厚く御礼申し上げます。

ラルフ・ジェー・ワトキンズ

## 昭和31年、推進記録の抜萃（掲載記事以外のもの）

- ◆ **国土建設推進連盟の結成3周年記念（2月11日）**

各県、各地より会員、役員が多数参集し、国会で審議中の「国土開発縦貫自動車道建設法案」の成立促進に関する方策、及び陳情などが協議された。
- ◆ **沼津商工会議所、会頭に就任（2月23日）**

予てより要望されていた会頭就任問題については、田中清一氏は終始辞退し続けていたが、元会頭の駿河銀行頭取、岡野豪夫氏等の熱心な要請にて遂に承諾され、会頭に就任された。
- ◆ **米国大使館、マイヤー公使の招請にて出向**

アメリカの東南亜経済開発全権公使・マイヤー氏の招電にて田中企画者が上京、田中プランにつき重ねて協議懇談が行われた。
- ◆ **日本道路公団設立披露に出席（5月15日）**

国会にて審議中の「高速自動車道建設法」の成立を待って、画期的な施工準備のため日本道路公団が設立され、その披露式に田中企画者が出席せり。
- ◆ **日蓮宗、挙げての推進運動について**
  - 1 日蓮宗総本山、身延山久遠寺における「国土開発中央道」の建設促進の懇談会に田中企画者が出席（7月11日）
  - 2 東京別院にて田中企画者は深見法主と増田管長と懇談せり（7月23日）
  - 3 日蓮宗代表、法主・深見日円師と管長増田日遠師により国会へ「国土開発中央道建設促進の要望書」を提出し、請願すると共に、関係閣僚、及び関係当局へも陳情を行へり（8月23日）
  - 4 田中企画者は日蓮宗総本山、身延山久遠寺を訪れ深見法主と懇談（10月10日）
  - 5 上記の件にて深見法主と樋口執事と重ねて懇談せり（12月16日）
- ◆ **財団法人、田中研究所の各理事が富士五湖周辺の現地調査を行ない、精進湖ホテルにて理事会を開催す（8月23日）**
- ◆ **赤石山系開発対策協議会を開催（8月31日）**

△身延山久遠寺	藤平賢栄	△井川村々長	望月 誠一
△身延町長	佐野祥盛	△井川村村議会議長	滝浪久一郎
△身延町参事	古屋慶信	△井川村森林組合長	森竹喜一郎

（国土建設推進連盟）

田中会長 友森理事 瀬上理事 平沢久次郎
- ◆ **赤石山系開発の協議のため、大興パルプ佐野貞作氏外、製紙業者と懇談（10月23日）**

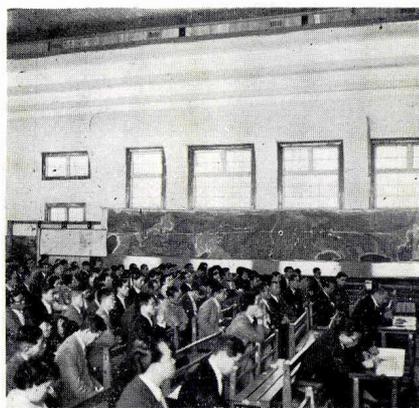
- ◆ 日本商工会議所総会に田中企画者が出席し、会頭、藤山愛一郎氏と国土計画、田中プランについて懇談す（9月12日）
- ◆ 山梨県知事、天野久氏と矢沢林務部長と協議（9月16日、10月13日）
- ◆ 東京において石橋湛山氏と田中企画者の懇談（12月27日）
- ◆ 石橋湛山氏が総理大臣に就任、石橋内閣を組閣さる（12月27日）
- ◆ 新内閣の運輸大臣、宮沢胤勇氏（田中研究所、理事）と田中企画者の懇談  
（12月28日）



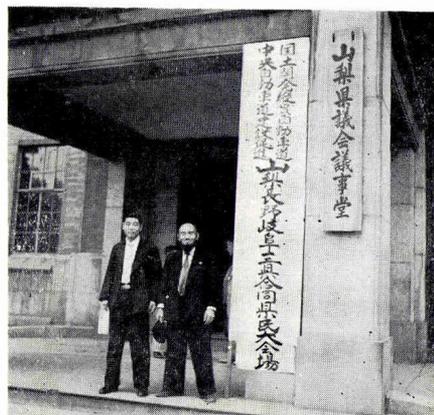
財団法人・田中研究所の研究室の  
建設候補地を標示する  
田中企画者



富士山麓・精進湖近くの  
御殿庭の候補地と田中企画者  
（昭和32年7月6日）



長野県下伊那連合教育大会における  
田中企画者の講演（昭和32年5月3日）  
（飯田市・高松高校にて）



山梨、長野、岐阜三県合同県民大会  
（昭和32年6月5日）※115頁に掲載

## 昭和32年の推進記録の抜萃

### ◆ 内閣総理大臣・石橋湛山氏と懇談（1月6日）

石橋総理は大臣の御父君が第八十一世の管長であられた身延山久遠寺に参詣されたので、田中企画者は深見法主、増田管長、天野山梨県知事と共に同本山において懇談された。

### ◆ 石橋総理の沼津市祝賀会（1月7日）

静岡県第二区においては石橋湛山氏の総理大臣就任を祝賀するため、沼津市と、商工会議所の主催で祝賀会を沼津市公会堂において開催し、田中企画者は沼津商工会議所・会頭として祝辞を述べられた。

### ◆ 運輸大臣・宮沢胤男氏と懇談（1月10日）

宮沢運輸相は財団法人・田中研研所の理事であり、就任後2回目の懇談が田中理事長と行はれた。

### ◆ 東洋経済新報社と懇談（1月11日）

東洋経済新報社の代表、三浦鍬太郎氏、及び宮川三郎氏等と、国土計画につき、田中企画者が懇談せり。

### ◆ 政府は「中央道案」を採択決定（1月16日）

「南条建設大臣は宮沢運輸大臣と協議の結果、石橋首相と会談し、鳩山前内閣以来、政治問題となっている「東京―神戸間」高速自動車道は、「中央道案」で進むことに決定した旨を報告し石橋首相も之れに承認を与へた」

※この決定は、南条建設相と宮沢運輸相は共に国土総合開発の見地から、……「中央道案の方が経済効果が大きい」……という国土開発、即ち「新らしき国造り」の見地から、この結論を下したのである。

### ◆ 中央道案の決定……全国より祝電殺到

上掲の国土開発縦貫自動車道が中央道に決定の政府発表は、連日、各新聞、ラジオによって全国に伝えられたので、俄然各方面より反響を巻き起し、多年熱望していた「国土建設推進連盟」の各地会員、役員から祝電と共に沼津本部へ電話が殺到し、田中企画者は感激された。

◆ 「週刊朝日」の掲載……大反響を起す

朝日新聞社は、政府が「中央道案」を採択発表する以前より、これを察知してか？最も有力なる「週刊朝日」の1月20日号の巻頭記事として「富士山麓ワシントン・新しい日本の国造り」と題して、8頁に亘る長文の国土計画・田中プランを紹介する記事を掲載したので、全国に大反響を起し、新春々から「中央道ブーム」を現出した。

◆ 日本商工会議所の決議（1月18日）

常議員総会が開催され、産業基盤の強化拡充に関する建議案として、沼津商工会議所会頭の田中清一氏が企画された「国土開発縦貫自動車建設法案」の早期成立を促進することを会頭藤山愛一郎氏が提案され、満場一致で可決された。

◆ 飯田商工会議所議員一行の来訪（1月20日）

会頭・青島愛二氏外6名の一行は、中央道案の政府採択に関し、多年苦勞された田中企画者に感謝と共に、今後の対策協議のため沼津本部へ来訪された。

◆ 国土建設推進連盟の新春役員会（2月9日）

「中央道案」の政府採択の発表に伴う推進対策のため、沼津本部に役員会が開催され、殆んど全役員が参集して協議を行った。これに意気込む「国土建設一円会」においても推進方法につき、元、沼津市長、名取栄一氏に一任されたので、これに対し名取氏の所信が披瀝された。

◆ 大垣市における推進会（2月9日）

大垣商工会議所において、国土建設推進連盟の西濃本部と、更生会本部の共催にて多数の会員が参集され、田中企画者の出席を得て、国土開発中央道建設の推進が行はれた。

◆ 岐阜県中央道期成大会（2月10日）

会場を岐阜県町村長会館に、県下の各町村長を招集し、中央道建設の推進者一同の参集にて開催された。

△ 開会の挨拶……県議会議長の松野幸泰氏。

△ 推進演説……顧問の衆議院議員・大野伴陸氏、同じく平野三郎氏、前郵政大臣の村上勇氏、参議院議員の田中啓一氏。

△ 講演……国土建設推進連盟会長、田中清一氏（企画者）が行はれた。

「大野伴陸氏の推進演説は地元岐阜県のため、国家百年の大計のために田中プランの実現を推進すると強調され、特に専門技術者である村上勇君をこの大会に招いた旨を紹介され

た後に、村上氏が、理想的である田中プランの実現を強く支援する」…と公約された（其の後に村上勇氏は建設大臣となられた）

#### ◆ 山梨県中央道建設期成大会（2月21日）

「山梨県議会議事堂」を会場に、県下の市、町、村長、各議員、その他関係者を多数参集して国土開発中央道の建設促進の大会が開催された。

△ **天野山梨県知事の挨拶**……続いて知事公室長の経過報告の後、田中プランと山梨県の関連性など説明が行はれた。

△ **次に「県民大会」に切替へ**・中央道建設促進の決議（長文につき省略）と、即時着工を国会に対し陳情する「要望書」が作成された。

#### （役員 の 抜 萃）

△ **会長**・山梨県知事・天野 久 △**副会長**・鷹野敬治郎（市長会々長）

△**副会長**・金丸親太郎（県町村会々長） 同、鶴田好典（県議会議長）

△**顧問**（衆議院議員）堀内一雄・荻野豊平・小林信一・古屋貞雄・内田常雄・

（参議院議員）広瀬久忠・吉江勝保

△**理事**……県会議員・市・町・村議員及び県の各部長

△**幹事**……県の各課長（監理課長、道路課長、財政課長、企画連絡係長、県議会事務局総務課長）

#### ◆ 沼津商工会議所主催の講演会（2月24日）

会頭である田中企画者は、諸問題と共に、国土計画について講演せり。

#### ◆ 岐阜県東濃地区中央道促進連合大会（3月7日）

東濃地区の多治見市長・金子義一氏は去る29年の東濃四郡「恵郡・土岐・可児・加茂」の大会に続き、32年度は国土開発中央道の建設促進を多治見市役所において田中企画者を迎へて開催し、積極的な促進懇談会が行はれた。

#### ◆ 山梨県商工会議所主催の講演会（3月19日）

会頭海沼栄祐氏の要請により、沼津商工会議所会頭として、また田中プランの企画者として講演せり。

#### ◆ 財団法人・田中研究所の理事会（3月19日）

「国土開発縦貫自動車道建設法案」の成立に伴う当面する重要問題にて、協議された。

(理事長) 田中清一・(理事) 木下道雄・高木陸郎・古野伊之助・安井英二・三井高修・中村元督・木村公平・尾崎行輝・瀬上清隆・(監事) 野田正一(敬称略)

以上の各氏が出席された。 △場所は東京丸ビル精養軒にて、

◆ 財団法人・田中研究所・顧問会 (3月26日)

△ **会場** 東京会館3階(丸ノ内) △ 正午より

**顧問** 大野 伴 睦氏(前、衆議院議長)

〃 清 瀬 一 郎氏(前、文部大臣)

〃 下 村 海 南氏(元、国務大臣)

〃 三 浦 伊八郎氏(日本山林会々長)

**顧問** 藤 山 愛一郎氏(日本商工会議所・会頭)

〃 杉 道 助氏(大阪商工会議所・会頭)

〃 神 野 金之助氏(名古屋商工会議所・会頭)

△ 顧問、石井光次郎氏は委員会にて、広川広禪氏は新潟へ、郷古潔、松方三郎氏は所用のため欠席された。

◎ **田中理事長の挨拶**……皆々様に於かれましては国会開催中で特に御繁忙の折柄、御出席下さったことを深謝して、下記の如く懇談が行われた。

- 1, 「国土建設縦貫自動車道建設法案」が近く国会で成立する段階になったことの御支援を謝して、本法案成立後の対策について懇談。
- 2 上記建設法による「建設審議会」の委員として当研究所の理事長・田中清一氏を推薦する件。
- 3, 顧問、日蓮宗総本山、身延久遠寺法主深見日円師の御他界の報告。

以上の外、各顧問と時局問題など懇談が行はれ、会場に掲げられた田中プランの設計図に対し、清瀬顧問から熱心な質問が行はれ、午後2時半に閉会となった。

国土開発縦貫自動車道建設法案

- ◎ **第26国会**の昭和32年3月29日午後0時50分に成立す  
参議院本会議に上提せられ、満場一致で可決、法律となれり。
- ◎ 同上の**建設法**は「法律68号」として4月1日に公布さる。  
※ (本法の成立までの経過は「第3章」にて詳記す

◆ 国土建設推進連盟の役員会を開催（4月18日）

△会場 身延山久遠寺客殿にて

「国土開発縦貫自動車道建設法」の成立を喜び、日蓮宗代表の理事藤原賢栄師を導師として御宝前に報告せり。

△建設法の公布に伴う今後の施工と、建設促進に関する件を協議せり。

△田中会長、片平理事長、各理事及び関係者多数出席せり。

◆ 国土開発縦貫自動車道建設審議会の委員発令（3月1日）

この審議会に関する記録は、第3章、の143頁に掲載す。

◆ 飯田市における法案通過の祝賀会（5月5日）

〔共催〕……飯田市、飯田商工会議所、下伊那郡町村長会

△会場……飯田市中央公民館

△来賓 田中企画者・宮沢運輸大臣・林長野県知事・（参議院）青木一男氏  
（衆議院）中島 巖氏・楯兼次郎氏・運輸省山内自動車局長・細田国鉄部長  
（以下省略）

△飯田商工会議所・青島会頭の挨拶・松井飯田市長の主催者代表の挨拶

坂下専務理事（商議）の経過報告……来賓の祝辞……万才三唱。

△会場には一千余名の参加者にて未曾有の盛会となった。

△飯田市は、終日、花火の打上げ △中日機の祝賀飛行など、多彩な行事となった。

◆ 山梨、長野、岐阜三県の連合陳情（5月27日）

1、山梨、長野、岐阜、の三県六団体は各別に「国土開発縦貫自動車道建設審議会・各委員」に対し、中央自動車道の内、「東京—富士吉田市—飯田市—中津川市—小牧市」を結ぶ路線の基本計画にて速かに着工せられたい旨の電報陳情を行う。

2、5月27日午後2時より首相官邸において開催予定の審議会路線部会と、関係方面に対し陳情を行う。

陳情者、六団体代表者は陳情を行う。

3、陳情書は各県毎に作成すること。

◆ 山梨県議事堂における三県県民大会を開催（6月5日）

△参加者 山梨・長野・岐阜三県の中央道関係代表者

△議題 (1)意見発表 (2)宣言 (3)決議 (4)実行運動方法 (5)その他

△挨拶 ◎天野山梨県知事 ◎林長野県知事 ◎伊藤岐阜県議会議員

△経過報告 米山山梨県議会議長

△意見発表 岩田県議会土木委員長（岐阜県） 松井飯田市長（長野県）  
金丸県町村会長（山梨県）

△宣言……別掲の通り

〔山梨、長野、岐阜三県合同期成同期会を結成〕

（会 長）天野山梨県知事 （副会長）高橋長野県議会議長

（副会長）松野岐阜県議会議長 （副会長）米山山梨県議会議長

〔宣 言〕

先に公布された「国土開発縦貫自動車道建設法」に予定路線として決定を見たる中央自動車道は、都市間の時間的、距離的制約を除去し、併せて国土の集約的利用、未開発資源の活用、都市集中人口の分布とにより産業、経済、生活文化の格差を是正し、更に過大都市、過疎地帯をも是正し、国民士気の昂揚と民生安定を招来するものであって、これが建設は真に国家百年の大計である。

然るに建設審議会路線部会の建設線審議の経過よりすれば、中央自動車道の内、東京一小牧間の建設見透しは極めて憂慮すべき事態にあるやに仄聞する。かくては国土開発はもとより、法の精神にも、悖るものと言はざるを得ない。

政府、並びに国会においては本法制定の精神に鑑み、中央自動車道建設線決定に当り、相模湖町、富士吉田市、飯田市、中津川市、小牧市を主たる経過地とするよう万全の措置を講ずべきである。

ここにわれわれ三県々民は、その総力を結集して、これが目的貫徹に邁進せんことを期するものである。 右宣言する。

昭和32年6月5日

**国土開発縦貫自動車道「中央自動車道」建設促進。**

**山梨、長野、岐阜三県合同県民大会。**

山梨県国土開発中央道建設期成同盟会  
長野県中央道建設期成同盟会  
岐阜県中央道建設期成同盟会

## 建設法で定めた路線の不変更に関する陳情

本年4月16日公布された「国土開発縦貫自動車道建設法」による「審議会・路線部会」の動きで経過地の変更を懸念せる山梨、長野、岐阜の3県々民大会において、法律で定めた経過地を変更しないように陳情するため下記の如く行動せり。

### ◆ 山梨、長野、岐阜三県代表の上京（6月6日）

△衆議院第一議員会館に集合……高橋長野県議会議長が座長となって陳情実施の方法にて協議せり。

△堀内一雄代議士も列席 △建設省、富樫道路局長より「官吏は法律に忠実である、中央道経過地は法律で定められているので心配はない。6月より航空写真をとり目標を定める。実地測量は2年位かかる。着工の時機は財源として外資導入の関係もあるので予測はできない」と一同が説明を受けた。

△陳情団を3班に分けて「陳情書」を提出せり。

〔山梨班〕	(敬称略)	〔長野班〕	
内閣総理大臣	岸 信 介	建設大臣	南 条 徳 男
大蔵大臣	池 田 勇 人	運輸大臣	宮 沢 胤 勇
農林大臣	井 出 一 太 郎	衆議院議員	倉 石 忠 雄
通商産業大臣	水 田 三 喜 男	路線部会長	金 子 源 一 郎
衆議院議員	小 沢 佐 重 喜	学識経験者	岸 道 三
同	楯 兼 次 郎	同	八 田 嘉 明
同	中 島 巖		
参議院議員	伊 能 繁 次 郎	〔岐阜班〕	
		参議院議員	岩 沢 忠 恭
		同	村 上 義 一

## 陳 情 書

### (主 旨)

東京、小牧間の建設線は、昭和32年4月16日法律第69号「国土開発縦貫自動車道建設法」の別表に示す通り、相模湖町、富士吉田市、井川村（静岡県）、飯田市（長野県）、中津川市（岐阜県）、小牧市（愛知県）を主たる経過地とされたい。

### (理 由)

先に公布の「国土開発縦貫自動車道建設法」に予定路線として決定を見たる中央自動車道は、都市間の時間的、距離的制約を除去し、併せて国土の集約的利用、産業、経済、生活文化の格差を是正し、更に過大都市、過疎地帯をも是正し、国民士気の高揚と民生安定を招来するものであって、これが建設は真に国家百年の大計である。

よって政府、並びに国会においては、本法制定の精神に鑑み、国土開発縦貫自動車道建設法の「別表」に示す通りの三県各市町村を主たる経過地とする「中央自動車道建設線」を決定し、速かにこれが実現を計られたい。

右、国土開発縦貫自動車道「中央自動車道」建設促進の山梨、長野、岐阜三県合同県民大会の決議に依り陳情致します。

昭和32年6月6日

山梨県国土開発中央道建設期成同盟会

会 長 天 野 久

長野県中央道建設期成同盟会

会 長 林 虎 雄

岐阜県中央道建設期成同盟会

会 長 松 野 幸 泰

国土開発縦貫自動車道建設審議会

会 長 岸 信 介 殿

外、委員29名宛

## 昭和32年 ◆ 国土建設推進連盟の連合役員会を開催（6月26日）

推進連盟では各府県の役員が沼津本部（富士製作所）に集合して当面の重要問題となった下記の件につき「要望書」を作成して政府と関係方面に提出せり。

1. 「東京一小牧間」の通過路線について法律で定めた通過地を遵守されたいこと。
2. 「小牧市と関ヶ原間」の路線設計について、法律の定むる規準を外れて、一部変更されたことに対し、田中企画者が作成した「再審議を要望して……少数意見を留保した理由書」に基き、推進連盟も陳情する。（内容は長文につき省略）
3. 内閣総理大臣はラジオを通じ、国土開発の目的貯金である「国土建設一円貯金」の実行を国民に訴え、「国土開発縦貫自動車道建設」に要する資金は、国民の総意となる「一円貯金」の利用によって完成を要望する。

## ◆ 推進連盟岐阜県本部の陳情（7月10日）

山梨、長野、岐阜三県合同の中央道促進期成同盟会を7月10日、岐阜県議会議事堂にて開催の結果、三県共同の陳情決議の外、岐阜県は下記の問題にて単独陳情を行へり。

### 〔中央自動車道建設に関する要望書〕

政府は6月21日、小牧一吹田間の国土開発縦貫自動車道建設線の基本計画を決定公表されたが、本県内を通過する路線については、左記理由により、絶対反対する。

（以下省略） （理 由）

1. 本県交通の要衝に当る岐阜市附近の乗入口が除外されたことは、産業、経済の発展を著しく阻害するものである。
2. 大垣市の南部を通過する地帯は、長良川及び揖斐川の下流で水位が高いため、農耕地は特異な地盤が多く、農地に対しては伝統的に複雑深刻な問題が生じ易い。
3. 小牧一吹田間の建設線基本計画による通過路線は、中部地方としては余りにも南部に片より、しかも将来これがため小牧以東の通過路線が更に南下する虞れがある。斯くては法第一条の目的である、国土の普遍的開発の見地からして適当と認められない。

昭和32年7月10日

国土開発中央道建設期成同盟会岐阜県本部

本部長 松野幸泰 印

国土開発縦貫自動車道建設審議会

会長 岸信介 殿

外各委員宛（各通）

## 昭和32年・田中企画者の講演記録

- △ 1月23日 山梨県町村長会主催の講演会（甲府市自治会館）
- △ 1月26日 富士吉田市主催の講演会（吉田公民館）
- △ 2月2日 富士宮市の国土建設一円会の結成式において講演
- △ 2月2日 富士宮中学校生徒一同に講演
- △ 2月8日 {
- △ 2月11日 { 名古屋・大垣・岐阜・山梨・長野の各地区にて講演行脚
- △ 2月23日 横須賀、防衛大学にて講演
- △ 2月23日 富士吉田高等学校PTA主催講演会
- △ 2月23日 富士吉田市教育委員会主催の田中企画者を囲む感謝懇談会
- △ 2月25日 静岡県駿東郡清水村中学校主催の講演会
- △ 3月2日 沼津市農業高等学校にて講演
- △ 3月6日 岐阜県立、中津高等学校にて講演
- △ 3月7日 岐阜県立、瑞浪高等学校にて講演
- △ 3月10日 富士市奉公会主催の講演会
- △ 3月12日 伊豆、戸田村教育委員会主催の講演会
- △ 3月17日 静岡県駿東郡、田方郡連合教育委員会主催、長岡青年学級の講演会
- △ 3月18日 静岡ロータリークラブにて講演
- △ 3月28日 埼玉県小平自衛隊航空幹部学校にて講演
- △ 4月3日 山梨県河口湖町主催、湖南中学校にて講演
- △ 4月25日 福井県大野郡和泉村にて講演
- △ 4月28日 静岡県田方郡連合青年団主催の講演会（玉沢、妙法華寺にて）
- △ 4月29日 清水市外庵原村連合青年団百余名来訪にて講演（富士製作所講堂にて）
- △ 5月3日 飯田市高松高校にて下伊那連合教育大会にて講演
- △ 5月4日 飯田市長野県立、風越高校にて講演
- △ 5月4日 飯田市立長姫高校にて講演
- △ 5月4日 飯田市連合婦人会にて講演
- △ 5月6日 山梨県在京実業団に講演（丸ノ内・精養軒）
- △ 5月17日 山梨県上野原町主催の講演会
- △ 5月17日 静岡県教育研修員47名来訪にて講演（富士製作所講堂にて）
- △ 6月2日 沼津市小諏訪公民館にて講演
- △ 6月17日 静岡県教育研修所員30名来訪にて講演（富士製作所講堂にて）

- △ 6月21日 東京同人会にて講演（芝紅葉館にて）
- △ 7月10日 山梨県下部中学校PTA会長外22名来訪にて講演（富士製作所講堂）
- △ 8月5日 静岡県焼津市大宮中学校の教職員来訪にて講演（富士製作所講堂）
- △ 8月10日 和歌山県高野山夏季大学にて講演
- △ 9月12日 山梨県市川大門高等学校にて講演
- △ 10月3日 静岡県、三島郵便局文化祭にて講演
- △ 10月14日 静岡県議会・第四（土木）委員会にて講演
- △ 11月5日 沼津市立大平中学校40名、来訪にて講演（富士製作所講堂）
- △ 11月6日 清水市高部中学校にて講演
- △ 11月6日 静岡市東豊田小学校PTAにて講演
- △ 11月7日 家の光主催の座談会にて講話
- △ 11月29日 長野県在京社長会にて講演（東京如水会館）
- △ 12月2日 東京経済新聞主催の座談会にて講話
- △ 12月4日 逡信研究会主催にて講演
- △ 12月14日 静岡市東中学校生徒50名来訪にて講演（富士製作所講堂）
- △ 12月17日 吉原工業高等学校生徒90名来訪にて講演（富士製作所講堂）

### (昭和32年)⊠放送と座談会

#### ◆ NHKテレビ放送（5月17日）

「朝の訪問」にて加藤アナウンサーの聞き手で、国土計画・田中プランを全国に放送せり。

#### ◆ NHKテレビ放送（10月28～30日）

「私の修業時代」にて鈴木文男アナウンサーの聞き手で、田中企画者の苦勞時代と、国土計画の発案の関係、及び田中プランに関して3日間、連続して全国放送せり。

#### ◆ 「家の光」の座談会（11月7日）

国土開発縦貫自動車道建設審議会の委員、田中清一氏が朝日新聞論説委員・団野信夫氏と共に、家の光協会の兼谷隆一氏の司会で国土計画・田中プランを話し合う座談会が東京の「丸ノ内ホテル」で行はれた。この記事は全国的に読まれている雑誌「家の光」の33年1月号に掲載されて、各地の読者に多大の反響を呼び起した。

## (32年) 沼津市・富士製作所へ来訪者と田中企画者の懇談

- △ 2月17日 長野県下伊那郡木沢村村会議長外10名来訪
- △ 2月1日 山梨県議会議員団一行来訪
- △ 2月20日 東海（岐阜・三重・愛知・静岡）四県の議長会40名来訪
- △ 4月6日 福井県大野郡和泉村、杉本村長外24名来訪
- △ 4月15日 山梨県知事、天野久氏来訪  
(同、矢沢林務部長は1月5日新春打合に来訪)
- △ 8月17日 山梨県南巨摩郡下山村、村長外村会議員一同来訪
- △ 11月11日 長野県下伊那郡、議長会22名来訪
- △ 12月26日 山梨県知事、天野久氏、重ねて来訪

### 〔商工会議所関係〕

- △ 2月13日 長野県下伊那郡千代村、商工議員、来訪
- △ 6月8日 茨城県下館商工会議所 27名来訪
- △ 8月1日 京都商工会議所会頭、中野種一郎氏が来訪、田中プランについて懇談された。
- △ 9月13日 山梨商工会議所、海沼会頭外22名来訪
- △ 11月5日 飯田市商工会議所、商工部会員多数来訪
- △ 11月15日 愛知県豊川市、商工部会員、20名来訪

### 〔特 殊 記 録〕

- △ 1月26日 防衛大学教授、遠藤信氏が来訪
- △ 4月15日 神戸大学教授、森信三氏が来訪
- △ 2月13日 間組社長、神部満之助氏が各担当重役、幹部を総動員して15名連行来訪  
田中プランを聴取さる
- △ 8月12日 伊勢皇大神宮大宮司、坊城俊良氏が来訪  
(神宮神域と周辺の道路問題にて)
- △ 9月13日 元、賀陽宮恒憲王殿下の第一皇女、美智子様が富士製作所へ御来訪さる
- △ 11月9日 坊城大宮司、重ねて来訪され、田中企画者と懇談さる
- △ 11月15日 ソ連経済視察団の団長コストウソフ氏（国家計画委員会）の一行11名が(株)富士製作所に来訪、田中企画者に国土計画の説明を聴取された。

- △ 11月16日 東京営林局，恩田総務部長，及び沼津営林署長の来訪にて，奥地林開発につき懇談
- △ 12月26日 理事，木下道雄氏（元侍従次長，皇后宮大夫）と駿河銀行創立者の岡野喜太郎翁を富士製作所に迎へ，貴賓室にて懸案の行在所の問題につき懇談が行はれた
- △ 8月7日 前首相，石橋堪山氏を田中企画者が山中湖畔に訪れ，田中プランの推進方法にて懇談
- △ 10月4日 元連合軍司令部(GHQ)天然資源局の顧問 Mr. L. Marque Richard と三井高修氏の通訳にて熱海ホテルにて懇談
- △ 10月26日 天皇，皇后両陛下，静岡県の国民体育大会開催式に御来臨につき，田中企画者が御出迎へ申上げた
- △ 10月29日 天皇，皇后両陛下，沼津市へ御来臨につき会社の役員，全従業員と共に御奉迎申上げた

### 各地の主なる実踏調査

田中企画者が各地へ専門家を随伴して現地調査を行った記録は余りにも多いので，各年度に亘るものは掲載し得ないが，後世の参考のため31～32年の主なる地点を本誌に掲げることとせり。

#### (31年)

- △ 5月4～5日 富士五湖地帯と青木ヶ原の測量
- △ 6月1～2日 富士五湖一帯を理事，木下道雄氏と実踏調査
- △ 9月3～8日 岐阜県荘川周辺，高山市，信州境安房峠附近，島々，松本，塩尻峠，諏訪市の各地調査
- △ 9月12～13日 岐阜，愛知の木曾川周辺の地区を調査
- △ 9月17～18日 山梨県下山地区と身延山東北地区の調査
- △ 10月11～12日 山梨県，富士川の支流の早川，雨畑川，長畑，七面山春木川地区の実踏調査
- △ 10月13日 本栖湖地帯の古閑，根子，本栖の実踏調査

#### (32年)

- △ 1月3日 山梨県下山地区の現地視察
- △ 5月1日 富士山麓，青木ヶ原の現地視察
- △ 5月31日 山梨県波高島周辺の現地調査

- △ 7月6～8日 精進湖地帯の調査と共に、御殿庭に研究所の、標識を建立
- △ 7月11日 愛知県小牧市周辺の現地調査
- △ 7月13日 山梨県身延町下山地区の調査
- △ 7月15～19日 大井川上流の実踏調査  
「田中企画者は中部電力の三田常務と渡辺技術部長と共に大井川上流、畑薙ダム予定地点と、中央道の通過地点の検討、及び奥地の未開発地帯を4日間に亘って詳細に調査せり」
- △ 8月26日 山梨県南巨摩郡下山地区の調査
- △ 9月11日 厚生省国立公園部において協議を行う
- △ 10月6日 厚生省田中技官と山梨県、矢沢林務部長と精進湖、青木ヶ原周辺を調査せり
- △ 10月10日 山梨県早川町（元硯島村）雨畑、室草里、長畑地区の代表望月金造氏外9名と共に調査す

-----  
田中企画者の各地・実踏調査  
-----



建設省中部建設局・吉田喜一氏一行を案内して  
〔山梨県富士五湖・紅葉台にて〕(昭和35年11月10日)



富士五湖地域の調査



富士五湖地域の現地調査  
(昭和31年5月4日)



(左より)野極英一、竹谷光男、佐久間貞二、奥村和夫、  
平沢久次郎の各氏(御殿庭にて 昭和34年8月23日)

## 昭和33年・田中企画者の講演記録

- △ 2月23日 長野県下伊那郡竜丘商工会主催にて講演
- △ 2月24日 長野県下伊那郡三穂青年団主催にて講演
- △ 2月26日 神奈川県小田原市二宮尊徳会館で講演
- △ 3月18日 沼津市駿東地区雇傭主打合会に於て講演
- △ 6月4日 東京ライオンズクラブ主催の国際ホテルに於て講演
- △ 7月12日 全国道路利用者会議にて講演
- △ 7月23日 静岡県教育委員会主催にて講演
- △ 8月9日 長野県飯田商工会議所懇談会に於て講演
- △ 8月11日 静岡県農業高等学校農業クラブにて講演
- △ 8月16日 山梨県身延中学校において講演
- △ 9月13日 静岡県教育研修員富士製作所へ来訪にて講演
- △ 9月18日 日本商工会議所議員総会にて講演
- △ 9月19日 静岡県教育委員会富士地区社会学級 160 名・富士製作所へ来社にて講演
- △ 9月24日 沼津税務署の招請により全署員に講演
- △ 9月26日 岐阜県中津川市・恵那市・瑞浪市・土岐市・多治見市の連合会にて講演会  
(中津川市主催)
- △ 10月4日 愛知県小牧市主催にて講演
- △ 10月6日 福井県和泉村主催にて講演
- △ 10月8日 岐阜県白鳥町主催にて講演
- △ 10月9日 岐阜県高山市主催にて講演
- △ 11月7日 福井県木材協同組合連合会にて講演
- △ 11月10日 愛知県犬山市主催にて講演
- △ 11月16日 推進連盟静岡地区役員会にて講演
- △ 11月19日 日本商工会議所議員総会にて講演
- △ 11月20日 静岡県観光協会理事会にて講演 (静岡県庁)
- △ 11月22日 熱海ロータリークラブにて講演
- △ 11月22日 土曜会主催、富士製作所会議室にて講演
- △ 11月23日 沼津商工会議所管内勤労者表彰式にて講演
- △ 11月25日 沼津市第4中学校 P T A 主催にて講演
- △ 12月6日 伊豆戸田村長及び沼津市商工会議所観光部会30余名・富士製作所へ来訪にて講演

## 昭和33年度・来訪者の記録について

田中企画者を訪ねて(株)富士製作所へ来社される各界各層の来訪者は年々増加する一方で、この記録は「田中プラン」の推進状況を知る参考資料なるも、余りにも多数となったので、爾後は特殊の記録のみ掲載することにした。

### ◇ 武藤貞一氏来訪（1月19日）

朝日、報知、大阪時事等の論説委員より戦時中は峻烈なる筆勢を以て、時の軍部の肺腑を突いた武藤氏は、吉川英治氏と共に田中企画者と肝胆相照した間柄であったが、この日、沼津へ来訪されて田中プランの真髓を更に詳細に知られて感銘の上、新日本建設に一段と協力を約された。

### ◇ 岡崎嘉平太氏の来訪（2月25日）

全日本空輸・社長などで知られた岡崎氏は、日本銀行の貯蓄増強推進役として「国土建設一円会」について来訪され、田中企画者より「一円貯金」が国土建設のための国民運動として進展中の状況を知られて感激され、日銀及び大蔵省関係に報告されると共にこの拡大を念願された。

### ◇ 各地の大学教授の来訪

この年は九州宮崎より、宮崎大学教授、重松義則氏（4月13日）東洋大学より大島理事長外28名（8月3日）が来訪され、田中企画者と国土計画について懇談され、両大学に参考資料を提供された。

### ◇ 大蔵省より関係官の来訪（11月15日）

国土計画、田中プランは大蔵省内でも注目され、大蔵事務官樋田次郎氏、外8名が来訪され、田中企画者より詳細に説明を聴き懇談された。

## 昭和33年度・田中プランの推進記録

### ◇伊勢皇大神宮の鍬入式に出席（2月3日）

新日本建設の国土計画・田中プランに関心を持たれて、屢々沼津に田中企画者を訪問された伊勢皇大神宮の大宮司、坊城俊良氏の招きにより、田中企画者は由緒ある神宮の鍬入式に出席し、各界各層より参集された多数の有力者と懇談し、田中プランを説明する等、意義深き伊勢詣でとなった。

### ◇長野県・南信地方で推進講演会（2月21～5日）

長野県竜丘商工会、三穂青年団等より招請により田中企画者は下伊那郡に出かけ、各地において3日間の講演と懇談会が開催された。

### ◇推進連盟・岐阜県各支部の動き（4月23日）

田中企画者の経営する(株)富士製作所白鳳工場の祭典に伊勢大神宮、大宮司・坊城俊良氏、慶光院俊氏、藤岡好孝氏、井上亀久雄氏の各位が参列されたので、地元有力者と「国土建設推進連盟」に加盟されている岐阜県の多数会員が、異例のことと感銘し、新日本建設の田中プランを再確認して、推進運動が積極的となった。

### ◇皇宮警察桐栄会の役員会（5月17日・11月2日）

昭和25年以来、田中清一氏は皇宮警察桐栄会の常務理事として毎年、適時に開催されている役員会に出席し、皇居護衛に関する件にて善処された。（56頁参照）

尚、皇宮警察本部では、田中プランの実現に関心を持ち、本部長・原田章氏を中心に「国土建設一円会」には殆んど全員が加入され、特に注目されている。

### ◇第二次岸内閣閣僚懇談会に出席（6月17日）

日本商工会議所における、第二次岸内閣(6月12日成立)の首相と閣僚を迎えた懇談会に田中企画者は沼津商工会議所の会頭として出席し、田中プランについて関係閣僚と懇談せり。

### ◇建設省開庁10周年記念に出席（7月10日）

田中企画者は建設大臣、遠藤三郎氏よりの招きでプリンスホテルの祝賀会に出席、初代の一松建設大臣を始め、歴代の建設大臣、岸総理、富樫前道路局長、稲浦氏、菊地氏の両元技監と語り合い、特に当時道路局長の佐藤寛政氏を交え、この10年間、田中プランと直接

交渉のあった各関係者と共に「国土開発縦貫自動車道建設法」の成立と今後の施工などを話題として懇談された。

◇ 藤山外相、遠藤建設相の就任祝賀会（7月20日）

日本商工会議所の会頭より外務大臣に就任された藤山愛一郎氏と静岡県第二区出身の遠藤三郎氏の建設大臣就任の祝賀会に田中企画者が出席し、国土計画について懇談せり。

◇ 元、陸海軍将官と国土計画の懇談（9月10日）

国土計画・田中プランが各界、各層に知れ亙り、旧陸海軍の将星間にも関心を高めて下記の方々が「日本工業倶楽部」に参集せられ田中企画者に説明求めて懇談された。

出席者（敬称略）

元 宮 久 邇 朝 融 (階行会)		(郷友会)
会 長 (元元帥大将)	畑 俊 六	会 長 (元大将) 岡 本 寧 次
副 会 長 (元大将)	林 茂 晴	副 会 長 (元中將) 福 田 良 三
相 談 役 (元大将)	下 村 定	理 事 長 (元中將) 笠 原 行 雄
事務局長 (元大佐)	加 藤 年 雄	事務局長 (元少將) 野 元 為 輝
		常務理事 (元中佐) 高 木 猛 夫
(水交会)		(研究所側)
副 会 長 (元中將)	武 井 大 助	理 事 長 田 中 清 一
理 事 長 (元中將)	福 富 繁	理 事 (元侍従次長) 木 下 道 雄
		常任理事 瀬 上 清 隆
		評 議 員 野 極 英 一

◇ 「高速自動車国道中央自動車道」の鋤入式（10月19日）

(於 京都東山区、山科勸修寺)

標記は「中央道」と略称し、この区間の内、当日は「名古屋—神戸間」の起工式が行われたが、これを「名神高速自動車道」と通称されている。

この歴史的な起工式には内閣総理大臣、岸信介氏をはじめ、建設、運輸の両大臣、各省の大臣、衆参両院議員、田中企画者、関係者など2000余名が参列して盛大に行われた。

特に田中企画者は建設省の元技監、当時の日本道路公団理事、菊地明氏と共に感慨無量に懐旧しつつ固き握手を交された。

◇ 中央道の建設確定感謝大会（12月2日）

（於 日蓮宗総本山、身延山久遠寺の大客殿）

山梨、長野、岐阜三県連合の「国土開発縦貫自動車道促進期成同盟会」は12月2日に三県の代表と各町村長、議員、各地の婦人会代表及び200余名が参集して「中央道建設確定の感謝大会」が盛大に行われ、下記の感謝決議書の提出が決議された。

建設確定感謝決議書

1. 吾等岐阜、長野、山梨三県、四百五十万人の全県民は、本会山梨県本部長代議士堀内一雄、同山梨県促進委員長、知事天野久が、去る十月二日国会議事堂大臣室に於ける陳情に対し「中央自動車道を東海道え変更するが如き事は断じてない。測量が済み、設計が完了次第着工建設する」との明快なる回答公約に対し満腔の感謝と敬意を表す。
2. 吾等三県民は本道建設工事施行に関しては、終始政府の要望に即応して最大の犠牲と最高の協力を惜しまないことを誓う。
3. 吾等三県民は救国済世の道たる三県通過の中央自動車道の早期建設実現を希求すると共に、閣下の御健康と政局の安定を祈念する。

右決議す

昭和三十三年十二月二日

国土開発縦貫高速中央自動車道促進期成同盟会  
岐阜・長野・山梨三県連合建設確定感謝大会

内閣総理大臣 岸 信 介 殿  
建設大臣 遠 藤 三 郎 殿

## 〔主なる出席者〕

(敬称略、順不同)

日蓮宗管長身延山法主	増田 日 遠	長野県飯田市市長	松井 卓 治
国土建設推進連盟会長	田中 清 一	岐阜県恵那市長	長谷川卓治
山梨県知事	天野 久	同 瑞浪市長	溝口 掬
岐阜県議会議長	加藤 鎌 一	同 中津川市長	栗谷本茂雄
山梨県議会議長	太田 公	山梨県甲府市長	鷹野啓次郎
長野県飯田商工会議所 専務理事	坂下 広 士	同 富士吉田市長	希代 圭 司
長野県町村会事務局長	小野 沢 光 彦	同 大月市助役	杉本 美 治
岐阜県議会事務局長	江崎 富 治	富士吉田市議会議長	中野 正 一
同 土木部道路課	交吉 三 郎	同 身延町議会議長	佐野 為 雄
国土建設推進連盟理事長	片平 七 太 郎	各地の町長、村長、議会議長、婦人会、	
同 顧問	柴山 重 一	連合婦人会、新聞記者	
同 (理事)	友森 二 郎・瀬上 清 隆・平沢 久 次 郎		

### ◇ 田中企画者の各地調査と通過地の協議

- △ 富士山麓地域…… 5月7日・5月28～29日(木下理事等も参加)  
9月19日・8月23日・10月2日・12月3日
- △ 山梨県知事と協議……富士五湖周辺開発の件にて天野知事と懇談(6月7日・  
8月29日)
- △ 国立公園の件にて……山梨県河口湖町役場にて厚生省担当官と協議(9月1日)  
※山梨県矢沢林務部長と厚生省、国立公園部にて厚生省担当官と協議(9月5日)
- △ 長野県南信地方……長野県下伊那郡千代村、稲伏戸、米川地区、山本村、阿智村  
(8月9日～10日)
- △ 赤石山系地区……静岡県庁にて大井川上流総合開発の件に付、担当部、課長と協議  
(9月23日)
- △ 愛知県小牧地区……小牧市周辺の調査(9月27日)
- △ 岐阜県東濃地区……岐阜県知事・松野幸泰氏と協議(9月27日)

## 田中企画者の告文と祈願文

先年来祈願を続けて参りました総合国土開発縦貫高速自動車道の内、山梨、長野、岐阜三県通過の東京神戸間は赤石山脈横断が難工事であるとの理由で過去数年間建設省事務当局の猛烈なる反対を受け苦心惨胆して居りましたが、昨昭和32年1月6日身延本山第81世杉田日布上人の法子石橋総理大臣御来山の仰り当山の法主様並に山梨県知事天野久氏、及び中央道の創案者田中清一より熱烈なる促進陳情をなしたる結果、石橋総理大臣は此の中央道こそ日蓮大聖人の御理想たる立正安国論を形而下に我が国土の開闢なるをもって断乎として建設するとの決意を示して帰京され、同月12日閣議を開き首相裁断によって衆議院本会議に上程する事に決定、直ちに建設委員会へ本案の急速なる審議を要請、同委員会は2月17日一部修正して可決、直ちに本会議に提出3月5日本会議は全会一致委員長報告通り可決し、同日本案は参議院に回付、参議院建設委員会を同月28日通過して翌29日参議院本会議に於て可決確定致しました。

然るに其の後に至るも建設省事務当局は根強く反対し、為に岐阜、長野、山梨三県民は等しく憂慮致して居りましたが、去る10月2日本会山梨県本部長代議士堀内一雄氏、中央道促進期成同盟会長山梨県知事、天野久氏等が国会議事堂大臣室に於いて岸総理、遠藤建設両大臣に面会陳情の結果、両大臣とも法律通り断乎として建設実施すると明快なる公約をされた為、本日当山鎮国之道場に於いて岐阜、長野、山梨三県連合報告会を兼ねて両大臣宛感謝決議書を贈る大会を挙行致しました。

而し今後に於いても着工実現までは容易ならざるものがある事を痛感致しております。

発案者であり設計者である田中清一は命ある限り実現に向って努力を傾注致します。日蓮大聖人、仰ぎ願くは靈験顕かに不肖清一が大願を成就せしめ給え

昭和33年12月2日

田 中 清 一 合掌

## 身延山久遠寺法主の祝詞

道は長安に通じ、又ローマに通ずと昔から申されて居りますが、昭和の今日、日本を縦貫する中央道が東から西から靈山身延に通ずるといふ事は、寔に欣快に堪えない事があります。此の事は田中清一先生の大きな信念と努力に依る賜物たるは勿論であります、之に賛同し、之に協力せられた多数皆様の献身的な努力に依るものなる事を思い感激に堪えません。

釈尊及び日蓮大聖人の御教えが如何に高大で深遠であり尊いものでありましても、之を行ずる大道が無ければ私共とは何等関係はありませんと同様に、国内に如何に物資が豊富でありましても、之を交易する道が無ければ宝の持ち腐れでありますように我が国に於ける国鉄は盛に其の拡充を計り、伸展を期しては居りますが、物資の輸送の面から見ますと已に飽和点に近いのであります。

之れ最近道路の開発急を告ぐる所以と思われませんが、就中、中央道が東海道を避けて未開発に等しい山嶽高原地帯を選んだといふ事は種々な方面から見て国家の将来の為に利益する所多きを思い慶賀に堪えない次第であります。

聖徳太子が浪花の地に四天王護国の寺を建てたのは、法華經の一乘開会の思想に依るものと云われて居りますが、田中先生が特に靈山身延を目指して中央道を計画された事も亦、法華經日蓮大聖人の開会の意に出ずと聞いて居ります事は、実に有難い事であります。

加之、本日其の大聖人の御宝前に完遂祈願式を挙げられたのであります。聖の冥感空しからざる事を信じて疑わない次第であります。ここに此の大業の成就を祈念して祝辞と致します。

昭和33年12月2日

日蓮宗総本山身延山久遠寺

日蓮宗管長 増田日遠  
法主 大僧正

## 岐阜・長野・山梨三県議会代表祝詞

本日ここに、総合国土開発縦貫高速自動車道期成同盟会の御主催によりまして、七百年の歴史とともに、日蓮上人の魂魄静まります霊峰の地身延山久遠寺におきまして、中央自動車道促進期成同盟会長野、山梨、岐阜三県連合の中央道建設確定感謝大会が開催せられるに当りまして、岐阜、山梨、長野の三県議会を代表して一言お祝いの言葉を申し述べる機会を得ましたことは私の最も喜びとするところであります。

申し上げるまでもなく、国家百年の大計として、国土開発の根幹をなすところの高速自動車道が、我が国を縦貫するという画期的な施策を盛った国土開発縦貫自動車道法が制定せられまして、真先に小牧一吹田間の建設が着工されておりますが、私共に最も関係の深い東京一小牧間の中央自動車道が岐阜、長野、山梨の三県内を通過することとして現在調査が進められております事は、私共三県民の非常な期待を寄せられております大事業として喜びに堪えないところであります。而しながら、これの実現を阻止し東海道案とする運動も、あなどりの難い勢力で進められておりますことも事実であります。

この時にあたりまして、国土建設推進連盟山梨県本部並に山梨県中央道促進期成同盟会におかれまして、最近、岸総理大臣並に遠藤建設大臣に対し、中央道実現を強く要望していただきましたところ、極めて心強い確答を得たと国土建設推進連盟本部発行の新国土10月号及び新聞報道を見まして誠に喜ばしく存ずるとともに御努力に対し感謝いたしている次第であります。

私共岐阜、山梨、長野の三県民と致しましても、さきに促進期成同盟会を結成致しまして以来、終始一貫、三県民の総意を結集して、これが早期実現にあらゆる努力を続け中央における各県選出の衆参両院議員各位にも格別の御支援を願っている次第であります。

今後更に幾多の障害もあろうかと存じますが、三県民が総意結集いたしまして、これが実現に最善の努力を払いますならば必ずや目的は達成されることを確信するものであります。どうか今後共三県民一丸となって目的完遂に格段の御努力をお願い申し上げます。私の祝辞といたします。

昭和33年12月2日

長野、山梨、岐阜三県議会代表  
岐阜県議会議長 加藤 鏝 一



会場の日蓮宗総本山身延久延寺

中央道建設確定感謝大会

山梨・長野・岐阜三県連合開催

(身延山久延寺において)

(昭和33年12月2日)



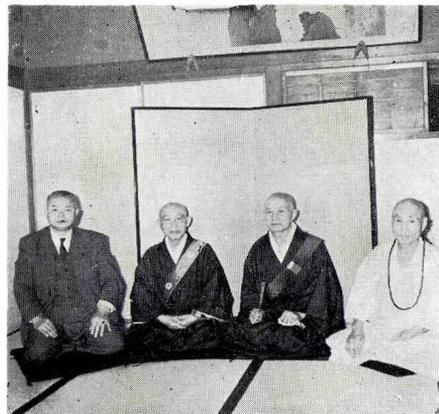
田中企画者の挨拶



日蓮宗管長・法主・大僧正・増田日遠師の祝詞



田中企画者と増田日遠師



(右より) 藤井日達親下→湯川日淳親下  
山田日真親下→田中企画者  
(昭和34年4月30日  
富士製作所・東京赤坂寮にて)

## (第3章) 田中プランの国会審議と法律化

### 昭和27年 ◆ 国会（衆議院、参議院）へ請願書を提出

(1952) 昭和27年3月23日附にて、全国道路網の建設計画の内、先ず「東京―神戸間」を第一期工事として国が建設に着手するよう「東京―神戸間、高速自動車道建設についての請願書」（国土開発中央道建設案と謂う）を国会に提出せり

◎この請願代表者は田中清一、（連署者）中島久万吉、八田嘉明、宇垣一成、林甚之丞、石原広一郎、三浦鉄太郎、小松隆、中村元督、友森二郎、瀬上清隆、小西百一、平沢久次郎（以下省略）の各氏であった。

### ◆ 政府の関係諸大臣と会見交渉

上記の国会請願者の代表、田中企画者は、昭和20年より政府、国会筋に対し積極的な運動を展開し、政財界、学界、都道府県の為政者商工会議所等、各界各層に田中プラン実現の推進運動を熱心に行うと共に、政府筋に接衝せり

◎建設大臣、戸塚九一郎氏 } と会見協議  
運輸大臣、石井光次郎氏 }

◎自由党副総裁、緒方竹虎氏と会見協議

◎上記の建設大臣、運輸大臣、自由党副総裁と田中企画者の四者会見を行う。

◎その他、政府、各党の幹部と個別接衝を行う。

### 昭和28年 ◆ 田中プランに国庫の調査費が決定

(1953) 第16国会において、先に請願せる「国土開発中央道建設案」が審議された結果、先ず調査費として「1,000万円」の支出が決定され、建設省はこの「調査費」を東京―神戸間の沿線の各府県に配分して中央道己の図上調査を行うように指令が発せられた。

## 昭和29年 ◀ 国会の委員会において田中企画者の説明

(1954) ◎ 衆議院建設委員会 (昭和29年3月11日) ……議事録を掲載す

◎ 参議院経済安定委員会 (昭和29年5月7日、及び5月29日)

上記の委員会に招かれた田中企画者は、新日本建設の全国に及ぶ国土開発、特に当面する「国土開発中央道建設案」について、企画者として詳細な説明を行い、速かに建設に着工するよう陳情せり

### 衆議院建設委員会の議事録・抜萃

(出席委員) ◎開会……昭和29年3月11日、午前11時3分

委員長	久野忠治	委員	逢沢寛
理事	内海安吉	〃	岡村利右エ門
理事	田中角栄	〃	仲川房次郎
理事	志村蔵治	〃	赤沢正道
〃	瀬戸山三男	〃	三鍋義三
〃	佐藤虎次郎	〃	杉崎朝治
〃	細野三千雄	〃	村瀬宣親
		〃	山下栄二

(政府委員) ……建設技官、道路局長、富樫凱一

(委員外の出席者) 建設事務次官、稲浦鹿蔵

(参考人) ……総合国土計画研究所長、田中清一

(専門員) 西畑正倫、田中義一(以上、敬称略)

### 議事録の要点を抜萃

△久野委員長……本日は前回の委員会において決定した本州を縦断する高速道路について参考人の田中清一君より、その構想について説明、並びに意見を聴取することにいたします。

◎「田中さんに一言御挨拶とお礼を申し上げます。参考人田中清一君には、御多用中を当委員会へ御出席いただきましたことを委員会を代表して厚く御礼を申し上げます」

△久野委員長

道路問題に関する委員会は、先般ガソリン税収入を道路費に充てるという画期的な法案が整備され、産業開発のため、まず産業道路の整備改良に、重点を注いで予算上の措置が着々と講ぜられているが、限られた予算の、範囲内において整備を遂行することは困難である(中略) …

かかる際に田中さんの高邁な、しかも長年月に亘っての御調査の高速道路の件についてお話を伺うことは、私たちとしては非常な喜びに堪えない。時間の許す限り、ひとつ

御意見を承りたいと存ずる次第である。

なほ、当委員会としても質疑その他を通じて、田中さんの御意見を十分尽して貰いたい。

△田中参考人……本日は、この権威ある国会の建設委員会の方々が、私のような素人の考へた道について、デスカッションをするという機会をつくって頂いたことは光栄であります。これまでに運んで頂いた御列席の皆様に対し厚く御礼申上ります。……（と挨拶の後に）

「新日本建設のための国土計画、田中プランの詳細について、田中参考人は約1時間ほど説明を行へり」

△久野委員長……田中参考人の御説明に対しまして、発言の通告がありますので順次これを許します。内海安吉君

△内海委員……（長文につき議事録を要約して掲載、以下各委員の場合も同じ）

国土総合開発の観点から田中清一さんが多年に亘って私財を投じて研究された御研究の結果を、本日委員会でその一端を発表して頂いたことは、感謝に堪えない。（中略）

中央道案は山岳地帯を切り開いて行くので、技術的に困難であるばかりでなく、隧道も多いので建設費も相当に高くなるのではないか？

△田中参考人……東海道沿線の南面肥沃な農耕地や、平坦地で道路用地を買収するのと、中央道沿線との買収費の比較、また立体交叉をせねばならないので、平坦地の高架施工費、または土盛費用、住宅地域の高い買収費、更らに河川は山地より下流ほど架橋が長くなるので、その建設費などを数字で示し、現今の隧道施工は土木機械の進歩で工期が短縮され、技術的にも左程心配はない。建設費もそんなに高額とはならない……と説明して内海委員に答弁さる。

△内海委員……実は東海道の弾丸道路計画が進められている今日、中央道の必要性が了承できたが、こういう考へを起した基本はここにあるということを簡直に表明されたい。

△田中参考人……それは先程も申し述べた如く、日本の建直しが目的であり、資源の開発が重点であるからである。更に六大都市を最短距離で結び、山林資源、地下資源、水力資源等々を開発し、ダムを造ることにおいて、この流域の治山、治水も行へると考へたからである。

△内海委員……私は日本再建と更に国土総合開発という観点から考へると、これは（田中プラン）当然来るべき機会に推進せねばならない。建設省当局の意見を、この際参考までに承っておきたい。

△稲浦次官……田中氏の御計画はまことに結構である。我々もその熱意に対し非常に敬意を払っている。

ただ、現在の日本の道路状態は、国道、地方道、どれ一つとして完全に自動車交通がで

きない。

東海道ですら未だ改修が完成していないで、先ず我々は現在の道路をある程度に道路らしきものにして行くことが、道路に対する第一の考へである。

それから、国土計画という観点からすれば、田中氏の道路は弾丸道路というよりも、寧ろ生産開発道というような観点から考へて行くべきものと思う。

今年一千万円の調査費を以てそういう観点で調査している。将来そうした国土総合開発の立場から検討して実現に移すことができれば非常に結構と思う。

(註) 更に内海委員の質問に対し富樫道路局長の答弁あり。

△田中角栄委員……道路法を改正したとき、今までの都市と都市を結ぶ線であるというような道路の基本観念を改めて、新しく産業開発を行い、人口の再分布も行うという基本観念に変へねばいかぬというのが新しい道路法を作る観念であった。

そういう意味で吉田内閣が五年間も外資導入によってやりたいと言っている。

いわゆる建設省原案である既存の東海道の国道と並行した高速道路を造ろうとする案に対し、ただいま田中氏が言われた開発道路のアイデアというものは非常に面白いと考へる。

……

(註) 田中(角)委員は建設費は何年でペイするかとの質問に対し、富樫道路局長の答弁……これに対し田中参考人の数字を挙げての反撥など議事録に明記されている。

△田中角栄委員……稲浦次官に伺いたい「これは(田中プラン)日本の土木技術の粋を集めてやらねばならない仕事である。

またこれ位の画期的なものを稲浦次官の御在官中にやるということは、非常によいことだと私は考える。

(中略……建設費、交通費、償却などの考察を述べ、更に米国における、テネシー、ヴァレーのような立法で特殊な権限を持たせ、強大な土地収用権にて施工すべきだと発言されているが、省略する。)……

山岳地帯の道路の方が安いのではないかと常識的に考えられる。これを実現化するには、どういう立法措置を講じた方がよいと思うか。

そういう措置が講ぜられ、なお土地収用の権限が、先進国のような状況で与えられるとした場合、現在の尺度でなく、別な尺度で測った場合、これを5年でペイするか、10年でペイするかというような、大ざっぱな見通しを聞きたい」

△稲浦委員……現在のわが国の財源から考えると、公共事業でかかる大事業をやることは困難と思う。別の考え方、即ち公社を作って施工するか。または会社を作って行うとか、私は考える。但し、非常災害が起った場合には相当な打撃を蒙るから、矢張り法律を作って公社的なものを作り、国がその中心勢力となって施工することが一番良いと思う。……

……1年位で調査が完了の予定です。

△**瀬戸山委員**……日本の開発、国土の利用ということは、少し気違いじみた考え方でやらねば、到底できない。

田中さんの企画は、昭和24年であったと思うが、田中さんもご記憶があると思われるが、自由党の代議士会の後で有志代議士を集めて、多分橋本徹馬氏の紹介であったかと思うが、田中さんの構想をご披露された。

私はその研究の成果を今日まで期待しており、また度々文書を送って貰って、その研究の成果を見せてもらっている。

この問題は、道路が主眼でない。

今建設省で計画されている平地に道路を造ることは、極めて簡単である。人間の集っておる処に道路を造ることは、敢て不当とは言わないが、人間をむやみに集めるからこういうことになる。人間を少し散らす政策をやる必要がある。

これは東京都の例の高速道路も同じことである。そういう意味で、現在の東海道の国道第一号に並行して、更に、田圃や畑も皆潰して了って便利にしようということだが、これは便利になっても、国全体の食糧問題、その他、経済自立策から言うと、私は将来に非常なマイナスの結果を残すのではないかと考える。

私は技術者でないから、この計画に何千億円かかるかは計算はしないが、金をかけねば日本の開発はできない。或る程度経費が増しても仕方がないことだ。

今のような田中さんの計画が良いか、悪いかは、私は専門家でないから申されないが、奇想天外な気持で国を開発することが必要だ。役人さんの考えるような考え方ばかりでは、日本は決して立ち上れないと思う。

△**村瀬委員**……非常に高邁な御意見を田中さんから承ったが、私は小さい具体的なことを二・三お質ねしたい。

田中さんの構想は、一つの国造りで、革命的な課題を投げかけている。都市の再編成、人口の再分布の問題、その他、また食糧問題も基本的になっていると思う。

(中略) 私個人として念願している世界連邦というものが早く実現すれば、食糧問題は、そんなに心配はないのではないか。次に、この道路を完成するためには、どの位の資材を必要とするか。

△**田中参考人**……食糧は世界連邦ができれば心配する必要はないと申されたが、これは誠に尤もであるが、世界は一触即発といっても差支えないと思う。

日本が輸入している食糧は350万噸であるから、毎日壹万噸宛の船が来ている勘定である。若し、この壹万噸の船が来ないと、都会は遅配欠配が起る。これを放っておけば民生の安定はない。人間は食わねば生きておれないから食わすことが政治だと考えて頂きたい。

次に材料は、大体セメントが全部で百万噸、鉄材は約百万噸を要する見込みである。

……（中略、土木工事の機械化、所要労働力など説明）

△村瀬委員……今日配布されたパンフレットによると、資源開発中央道には、橋梁をダムがわりに造って二重の効用によって、道路と発電の目的を達し得る場所が相当ある由、大ざっぱでよいから、電力量はどれ位の見込みなるや？

次に、精密機械は海岸から30キロ離れた工場で作ることが良いとのこと。……この二点について伺いたい。

△田中参考人……ダムの堰堤を通る処は、3箇所ぐらいで、この発電力は精々15～19万キロであるが、10万キロのダムを造ると仮定すれば、大体少くとも30%、多ければ50%も砂利、セメント、鉄材の運搬費を要する。5万キロの発電機だったら、最小に分割しても16噸ぐらいであり、これを運搬するために鉄道を敷くとか、大きな道を造らねばならない。この費用は電力を起すために必要なコストとなるので、日本では豊富低廉な電力を供給することができない。

最も重視すべきことは、日本の河川の状況は、アメリカのテネシーのようなわけには行かない。日本の河川は急流が多い。この落差を利用することは、普通の水路式より非常に有利であるが、そのダムの命取りは、ダムに砂利が流れて来て埋ることである。この埋ることを防ぐ方法は、現在では世界にないのである。

それで私は考えるのは、ダムを川の下流から造って行くことは実に頭の悪い話だと思う。ダムを川の上流から造って、そのダムの堰堤を道路にして通れば、このダムにたまつた砂利を取れば、下流のダムは何箇所建設しても埋らない。そうなればダムの寿命は何倍にもなる。

また、一番上流のダムにたまる砂利を売って、大儲けをしたいと私は思っている。それで私の構想は普通の学者や技術者とはちょっと違うのである。

この方法によって140万キロぐらいの電力を得られ、またダムサイトに非常に接近した道ができることは、水力電気が豊富、低廉に供給でき、しかもダムの寿命が数十倍、百倍と長くなることを、私は理想としているのである。

次に、精密工業は、ここに佐藤虎次郎先生がおられるが、私の工場のことは、よく知っておられる。清水工場（静岡県清水港）を疎開命令で岐阜県の山奥、郡上郡白鳥町に移した処、同じ設計で非常に精度の高いものができる。精密機械は1ミクロン（1000分の1ミリ）の誤差が問題である。ちょっと錆びれば1ミクロンぐらいの誤差になってしまう。

この錆びるということは、砂ほこりが精密機械に入って摺動面がすれること、漸次に、機械の精度がどんどんと下るのである。よって、錆びないことと、砂ほこりの来ないこと。湿度が余り高くないことが望ましいので、精密機械は海岸から30キロ以上離れた処でだけ

れば、できないという結論が出ているので、実際に証明しているのである。

△村瀬委員……非常に御努力を傾けた研究がここまで進んだわけで、むしろ、なをこの設計を完全にして頂く必要はあると思うが、もうこの辺で、如何にして工事を施工するかという経営形態の研究が必要な段階になっているのだと思う。

先ほど稲浦次官から、いわゆる国が中心勢力となった公社式等をとって、財源は外資をも必要とするという示唆に富んだ話があったが……（南満州鉄道株式会社の使命、組織など説明の上）

田中さんは、どういふ構想を持っておられるか。

△田中参考人……今までは、これは国家でやって貰う仕事だと思っている故に会社案については十分な研究はしていないが、もし国家が一手でやることができなければ、半公共というが、むしろ全公共的といってもよいような仕事であるから、国家はよろしくこれに対する法律を作って保護をして、国家が50%か60%補助をして、適当な会社を作って、それに経営させる。

先程、償還は15年と言われたが、私も矢張り十年位で償還できると思う。この償還ができれば、これを国家へ委譲するという形態でやればよいと思う。……（受益者負担の問題、森林資源と伐採方法など説明あり）

△逢沢委員……只今の関連質問となるが、先程からのお話で木材資源にしても、地下資源にしても莫大なものが埋蔵されている。これは、この道路の開発によって有効に利用することができる御説明があった。

もとよりこの道路は、今建設省が計画しているような従来の道路としての価値だけでなく、いわゆる産業開発に対する大きな使命を持っていることが判かった。

そこで、これだけ御研究を願っておるのであるが、この未開発資源の開発をするには、そこに大きな受益者が出来ると私は思う。これらの受益者は、受益者負担としてどれだけの負担をすべきであるかの御研究を承りたい。

△田中参考人……これにつき1例を申せば、大井川の奥に、現在では立木材沓石を、沓円で買ったとしても、算盤に合わない処が有る。私共の調査にて、木材の直径が2呎も2呎半もある桧、樅、つが、みずめ、などが10本も20本も立腐れになっているが、こういう処に道ができると、名古屋からも、東京からも沓時間半となるので、その木材の価値は莫大なものになる。

△久野委員長……先ほど質問があった受益者負担等の問題、つまり財源の問題で、何か調査をされたか。

△田中参考人……今それに触れなかったが、大井川の奥だけでも沓石当り沓円にもならぬ材木が、この道が出来れば沓石で沓千円になり、また三千円になる木がある。そうしたら沓億

石あれば壱千億円になる。

目に見えるだけでも、はっきり、そのくらい有る。しかもこれの大部分は、**国有林**である。一部、私有林も有るが、こういう**利益金**を建設に使用して頂きたい。

△**佐藤委員**……この点（建設省計画と田中案）について、建設省も田中参考人も胸襟を開いて十分に話し合いを願うと共に、私ども建設委員会は、委員長が主体となって、この二つの問題を十分に調査研究し、国民の要望に答えるように願いたい。

△**久野委員長**……田中参考人に一言お礼を申上げる。御多忙の中を長時間、長年月に亘って調査された事項につき十分意を尽され、私たち非常に感謝している次第である。

そこで結論として田中参考人に御尋ねしたい。この企画はもう既に着工の段階に来ていると思われるが、これはあくまでも自分一個人の立場から、資金の問題、その他は自分の考えで、これを推し進めて行きたいと考えられるのか。

先ほどお話しがあった、国家にこれをやって頂くのだというお考えか、万一建設省の立案したものが具体化して来た場合、あくまで自分の主張なざる線を固執されようとするか、この点を最後に結論としてお伺いする。

△**田中参考人**……先ほど申上げた如く、これは**国家的大事業**であって、単なる道造りではなく**国造り**である。

おそらく日本はこれで立ち直ると確信しているので、これは是非国家でやって頂きたい。

しかし、国の方で、どうしてもこれはやれないということになれば、我々同士は工業倶楽部、或はその他のものを中心として、例えば三十億円の会社でも作って、また政府にお願ひして補助を願ったり、法律等も作って頂いて、これができるように私は努力したいと考えています。

△**久野委員長**……設計の点はどうですか。

△**田中参考人**……設計の点は、今建設省でせつかく一万分の一図面を作って大いにやりますから、これを譲って頂ければ結構であります。現に私はこれに対しては非常に立派な設計を持っているので、ここに有るようなものではありません。

△**久野委員長**……この案は一步も譲れないというのですか。

△**田中参考人**……一步も譲れません。ちゃんと図面は持っております。全部模型を作って、隧道の処も、川の処も、ダム・サイトも全部持っております。一步も譲れません。

▷**久野委員長**……どうもありがとございました。

本日はこの程度にして散会します。

(午後零時55分散会)

昭和29年 ◆ 国土開発中央道調査審議会が設置さる

(1954) 終戦前より企画せる「国土計画・田中プラン」は終戦と共に、「新日本建設」の願望となり、多年に亘り全国の各界各層に呼びかけ、国土開発に対する国民への啓蒙を続け、この実現を国会に請願した田中企画者の努力が遂いに政府を動かし、吉田内閣総理大臣の指令にて建設省内に「国土開発中央道調査審議会」が設置されるに至った。

◎ この会長は時の建設大臣、小沢佐重喜氏が任命され、委員には別掲の如く関係各省の次官、田中企画者と共に学識経験者の20名にて編成された。

〔国土開発中央道調査審議会の構成委員〕		(順序不同)
会長	小沢佐重喜 (建設大臣)	
副会長	南 好雄 (建設政務次官)	
〃	稲浦 鹿蔵 (建設事務次官)	
	(学識経験者)	
委員	田中清一 (株)富士製作所取締役会長 総合国土計画研究所所長	
〃	金子源一郎 (元、内務省技師 三菱地所取締役)	
〃	牧野雅楽之丞 (元、内務省土木試験所長 特殊土壌対策審議会委員)	
〃	藤井真透 (元、東京大学講師 千葉県総合開発審議会委員)	
〃	近藤謙三郎 (日本道路協会理事)	
〃	今野源八郎 (東京大学教授)	
〃	新居善太郎 (元、内務省土木局長 国土総合開発審議会委員)	
〃	木村公平 (内閣総理大臣首席秘書官)	
〃	平山復二郎 (元、鉄道省建設局長 株)P Sコンクリート社長	
〃	八田 嘉明 (元、鉄道大臣、拓殖大学総長 日本科学振興財団会長)	
〃	高木陸郎 (国土開発株式会社社長)	
	(関係官庁)	
委員	長村貞一 (経済審議庁次長)	
〃	河野一之 (大蔵事務次官)	
〃	東畑四郎 (農林事務次官)	
〃	平井富三郎 (通産事務次官)	
〃	牛島辰弥 (運輸事務次官)	
〃	菊地明 (建設省、技監)	
幹事	佐々木義武 (経済審議庁計画部長)	
〃	森永貞一郎 (大蔵省主計局長)	
〃	渡辺伍良 (農林省大臣官房長)	
〃	記内角一 (通商産業省企業局長)	
〃	中村豊 (運輸省自動車局長)	
〃	石破二郎 (建設省大臣官房長)	
〃	渋谷操一 (建設省計画局長)	
〃	富樫凱一 (建設省道路局長)	
〃	落合林吉 (建設省総合計画課長)	
〃	佐藤寛政 (建設省道路企画課長)	

昭和29年 ◆ 国土開発中央道調査審議会において

(1954) 田中プランは「技術的に可能」と結審された

標題の審議会は昭和29年6月30日を第1回に、9月20日迄に8回開催された。

この審議会において特筆すべきことは〔第5回〕(8月2日)において遂いに田中プランの一部である東京―神戸間の「国土開発中央道建設案」は「技術的に建設可能である」と

結論されたことである。

## 昭和29年 ◻ 審議会会長、建設大臣、小沢佐重喜氏の明断

(1954) 国土開発中央道調査審議会の会長となられた当時の小沢建設大臣は8回に亘る会議の議長となって白熱的な議論を取纏められたが、第5回の「技術的に可能なりや、否や」と質された時、「建設費は嵩む」と評せられた委員に対し、「金のことは政治家に委せて置きなさい」と胸を張って言い切られた勇断にて結局は「技術的に可能なり」と結論となった

この明解な議長振りに田中企画者が感銘されると共に、これで日本の国土開発は断行されると直感し、「新日本建設」の有力な大臣を得たと安堵された。このとき随員として出席していた瀬上理事、野極評議員も、小沢建設大臣の国運の進展を図る政治家としての信念の披瀝を印象を強く受け、事務局で記録していることを、本誌に添記する。

◎ 各委員の中で、建設省と学識経験者の多くは、山岳地帯の多い「中央道案」は技術的に建設が至難であると終始反対されたが、多年実踏調査している田中企画者の質問点に対する明解な応答と論駁によって、当時の建設省技監、菊地明氏も遂いに「技術的に可能なり」と歴史的な結論されるに至ったが、この間の5回に亘る審議会の議論攻防は白熱的であって、詳細は「議事録」に収録されているので、後世において道路建設の注目の的となるであろう。

(註) 上記の如く白熱的な論争を重ねた「中央道」は本誌発刊の昭和44年5月23日現在では既に「東京一富士吉田間」の92.7キロが44年3月17日に全通して、標題の審議会の幹事であった建設省道路局長の富樫凱一氏が、日本道路公団総裁となって開通式に出席され、企画者田中清一氏と竣工の喜びを共にせられたことは、特筆されることである。

## 自、昭和29年 ◻ 各政党で国土開発の研究熱が高まる 至、昭和30年

### 田中企画者を招いて各党が検討せり

以上の如く、政府は「国土開発中央道調査審議会」を設けて、田中プランを本格的に検討するに至ったので、自由、民主、社会(右)、社会(左)の各党においても国土開発の研究熱が高まり、各党共に田中企画者を招いて田中プランの説明を求められ、急速に国会の議案とする準備が進められるに至った。

## 昭和30年 ◆ 「国土開発縦貫自動車道建設法案」を作成

(1955) 国土計画、田中プランは「新日本建設」のための日本全土の開発計画にして、各政党において検討された結果、日本の開発ブロックを「北海道、東北、中央、中国、九州、四国」の6管区に分け、南は九州、鹿児島から北は北海道、稚内までを縦貫する高速自動車道を「基幹線」として建設し、これに太平洋岸と日本海岸の重要都市、重要港湾、重要穀倉地帯を連結する「肋骨道路」を建設する企画で「国土開発縦貫自動車道建設法案」が作成された。

### ◆ 衆議院議員 430 名が署名して第22国会に提出

上記の「国土開発縦貫自動車道建設法案」には自由、民主、社会(右)、社会(左)の四党が共同の超党派にて、衆議院議員 430 名が署名し、昭和30年 6 月21日に国会に提出された。

◎斯る超党派にて署名の上、国会に法律案が提出されたことは、戦時中の挙国一致体制を除き、戦後においては空前の出来事であったことを特筆する

## 自、昭和30年 至、昭和32年 ◆ 国土開発縦貫自動車道建設法案の国会審議と成立の経過

1. 昭和30年 6 月21日 第22国会に提出さる
2. 昭和30年 7 月20日 田中企画者が参考人として20日より3日間、国会に於いて企画創案者として説明せり
3. 昭和30年 7 月28日 衆議院本会議において全会一致で可決され、直ちに参議院に送附さる
4. 昭和30年 7 月30日 参議院において会期切迫（安保問題にて乱闘国会となった）のため〔継続審議〕となる
5. 昭和31年 4 月20日 第24国会参議院において一部修正可決せられ、直ちに衆議院に回付となる
6. 昭和32年 2 月27日 衆議院建設委員会において一部修正可決さる
7. 昭和32年 3 月 5 日 衆議院本会議にて委員長報告通り可決され、直ちに参議院に回付さる
8. 昭和32年 3 月28日 参議院建設委員会にて可決さる
9. 昭和32年 3 月29日 参議院本会議にて全会一致で可決された
10. 昭和32年 4 月16日 国土開発縦貫自動車道建設法、法律第68号にて公布施行せらる

昭和32年 ◆「国土開発縦貫自動車道建設法」が国会にて成立

(1957)

田中案に基づく世紀の大国策、愈々具体化

昭和30年6月21日、第22国会に提案された標題の建設法案は、昭和32年3月29日、第26国会にて全会一致で可決され、法律第68号となって同年4月16日に公布施行された。

◎ 田中企画者の喜びと、関係方面への挨拶は下記の如くで、当時の原文を記載して記録とする。

国会通過の挨拶

「国土開発縦貫自動車道建設法案」は、昭和32年2月27日に第26国会衆議院建設委員会にて可決し、本日衆議院の本会議に於いて委員長報告の通り可決されましたことを報告申し上げます。

省みますれば10有余年前より私が企画提案しました「平和国家建設国土総合開発計画」が上説の法案となって第22、24、26国会にて審議され、又吉田内閣、小沢建設大臣の時に「国土開発中央道調査審議会」が設けられたが、此の間全国各地の推進団体より請願陳情が行われ、陰に陽に御支援と御鞭撻下さった各位に対し深甚なる感謝を申し上げます。

之れに依って本格的に施工が実現すれば失業者の完全雇傭の目的が達せられるばかりでなく、日本の人口と食糧問題の解決され、青少年に多くの希望を持たせ、精神の作興と画期的な産業経済の振興、国民生活の安定を計ると共に、現在行き詰まれる輸送の隘路を打開して文明国家の仲間入りとなり、黎明日本の曙光を見る事が出来ますのは邦家の為、誠に同慶に堪えません。

今後は政府当局の熱意ある実行を期待して御挨拶と致します。

昭和32年3月29日

国土建設推進連盟会長・財団法人田中研究所理事長  
沼津商工会議所会頭・(株)富士製作所 取締役社長

田 中 清 一

## 建設審議会の部

### 昭和32年 ◆ 国土開発縦貫自動車道建設審議会の発足

(1957) 昭和32年3月29日に成立した〔国土開発縦貫自動車道建設法〕に基づき、標題の審議会が編成されて、同年5月1日附で下表の如く委員が任命され、先ず一部分〔東京―神戸間〕の〔中央自動車道〕の建設に関する具体案が審議されるに至った。

#### 最初に任命された委員の芳名

(昭和32年5月1日附)

(関係行政機関)

◎内閣総理大臣 岸 信介  
 大蔵大臣 池田 勇人  
 農林大臣 井出一太郎  
 通商産業大臣 水田三喜男  
 運輸大臣 宮沢 胤勇  
 建設大臣 南条 徳男  
 国家公安委員長 大久保留次郎  
 自治庁長官 田中伊三次  
 経済企画庁長官 宇田 耕一

(国会議員)

衆議院議員 小沢佐重喜  
 " 倉石 忠雄  
 " 砂田 重政  
 " 三木 武夫  
 " 塚田十一郎  
 " 和田 博雄  
 " 楯 兼次郎

衆議院議員 中島 巖  
 参議院議員 青木 一男  
 " 村上 義一  
 " 伊能繁次郎  
 " 岩沢 忠恭  
 " 羽生 三七

(株)富士製作所・取締役社長

財団法人田中研究所・理事長

創案者 田中 清一  
 元、鉄道大臣 八田 嘉明  
 道路審議会々長 石川 一郎  
 日本道路公団総裁 岸 道三  
 元、開発銀行総裁 小林 中  
 世界経済調査会理事長 木内 信胤  
 三菱地所(株)取締役 金子源一郎  
 日興証券(株)会長 遠山 元一

(敬称略・順不同)

(備考) ◎印は会長、昭和32年度に上表の如く発令後、昭和43年度までに内閣の改造や国会議員の役職の関係などで委員及び幹事は〔添付別表〕148頁より151頁のように更迭された。

〔国土開発縦貫自動車道建設審議会〕の委員名簿（その一）

委員 氏名 年次	政 府 ・ 関			
	会長・内閣総理大臣	大 蔵 大 臣	建 設 大 臣	運 輸 大 臣
32年	岸 信 介	池 田 勇 人	南 条 徳 男	宮 沢 胤 勇
33年	岸 信 介	一 万 田 尚 登	根 本 竜 太 郎	中 村 三 之 丞
34年	岸 信 介	佐 藤 栄 作	遠 藤 三 郎	永 野 護
35年	岸 信 介	佐 藤 栄 作	村 上 勇	檜 橋 渡
36年	池 田 勇 人	水 田 三 喜 男	中 村 梅 吉	斉 藤 昇
37年	池 田 勇 人	水 田 三 喜 男	中 村 梅 吉	斉 藤 昇
38年	池 田 勇 人	田 中 角 栄	河 野 一 郎	綾 部 健 太 郎
39年	池 田 勇 人	田 中 角 栄	河 野 一 郎	綾 部 健 太 郎
40年	佐 藤 栄 作	福 田 赳 夫	瀬 戸 山 三 男	中 村 寅 太
41年	佐 藤 栄 作	福 田 赳 夫	橋 本 登 美 三 郎	荒 船 清 十 郎
42年	佐 藤 栄 作	水 田 三 喜 男	西 村 英 一	大 橋 武 夫
43年	佐 藤 栄 作	水 田 三 喜 男	保 利 茂	中 曾 根 康 弘
委員 氏名 年次	国 会 議 員			
	【 衆 議 院 議 員 】			
32年	小 沢 佐 重 喜 ・ 倉 石 忠 雄 ・ 三 木 武 夫 ・ 砂 田 重 政 塚 田 十 一 郎 ・ 和 田 博 雄 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
33年	川 島 正 次 郎 ・ 佐 藤 栄 作 ・ 三 木 武 夫 ・ 三 浦 一 雄 福 永 健 司 ・ 和 田 博 雄 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
34年	勝 間 田 清 一 ・ 竹 山 祐 太 郎 ・ 益 谷 秀 次 ・ 増 田 甲 子 七 中 村 梅 吉 ・ 福 田 赳 夫 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
35年	川 島 正 次 郎 ・ 石 井 光 次 郎 ・ 船 田 中 ・ 小 金 義 照 福 永 健 司 ・ 勝 間 田 清 一 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
36年	前 尾 繁 三 郎 ・ 小 川 半 次 ・ 山 中 吾 郎 ・ 赤 城 宗 徳 江 崎 真 澄 ・ 田 中 角 栄 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
37年	前 尾 繁 三 郎 ・ 小 川 半 次 ・ 山 中 吾 郎 ・ 赤 城 宗 徳 江 崎 真 澄 ・ 田 中 角 栄 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
38年	前 尾 繁 三 郎 ・ 小 川 半 次 ・ 山 中 吾 郎 ・ 赤 城 宗 徳 竹 山 祐 太 郎 ・ 賀 屋 興 宣 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 中 島 巖			
39年	前 尾 繁 三 郎 ・ 藤 山 愛 一 郎 ・ 山 本 吾 郎 ・ 三 木 武 夫 石 田 博 英 ・ 園 田 直 ・ 楯 兼 次 郎 ・ 金 丸 徳 重			
40年	田 中 角 栄 ・ 前 尾 繁 三 郎 ・ 赤 城 宗 徳 ・ 森 清 郎 加 藤 清 二 ・ 中 野 四 郎 ・ 金 丸 徳 重 ・ 山 中 吾 郎			
41年	田 中 角 栄 ・ 赤 城 宗 徳 ・ 加 藤 清 二 ・ 中 野 四 郎 小 松 幹 ・ 山 中 吾 郎			
42年	福 田 赳 夫 ・ 椎 名 悦 三 郎 ・ 西 村 直 己 ・ 辻 寛 一 長 谷 川 峻 ・ 加 藤 清 二 ・ 山 中 吾 郎 ・ 鈴 木 一			
43年	福 田 赳 夫 ・ 橋 本 登 美 三 郎 ・ 大 平 正 芳 ・ 辻 寛 一 長 谷 川 峻 ・ 加 藤 清 二 ・ 山 中 吾 郎 ・ 鈴 木 一			

(注)：上記審議会の名称は昭和41年7月31日、同法改正により「国土開発縦貫自動車道建設審議会」と改称されました。

係	各	省		
通商産業大臣	農 林 大 臣	国家公安委員長	自 治 大 臣	経済企画庁長官
水田三喜男	井 出 一 太 郎	大久保留次郎	田 中 伊 三 次	宇 田 耕 一
前尾繁三郎	赤 城 宗 徳	正力松太郎	郡 祐 一	河 野 一 郎
高碓達之助	三 浦 一 男	青 木 正	青 木 正	世 耕 弘 一
池 田 勇 人	福 田 赳 夫	石原幹市郎	石原幹市郎	菅野和太郎
佐 藤 栄 作	河 野 一 郎	安 井 謙	安 井 謙	藤山愛一郎
佐 藤 栄 作	河 野 一 郎	安 井 謙	安 井 謙	藤山愛一郎
福 田 一	重 政 誠 之	篠 田 弘 作	篠 田 弘 作	宮 沢 喜 一
福 田 一	赤 城 宗 徳	早 川 崇	早 川 崇	宮 沢 喜 一
三 木 武 夫	坂 田 栄 一	永 山 忠 則	永 山 忠 則	藤山愛一郎
三 木 武 夫	松 野 頼 三	塩 見 俊 二	塩 見 俊 二	藤山愛一郎
菅野和太郎	倉 石 忠 雄	藤 枝 泉 介	藤 枝 泉 介	宮 沢 喜 一
椎名悦三郎	西 村 直 己	赤 沢 正 道	赤 沢 正 道	宮 沢 喜 一

国 会 議 員

【 参 議 院 議 員 】

	・ 青 木 一 男	・ 岩 沢 忠 恭	・ 村 上 義 一
	・ 羽 生 三 七	・ 伊 能 繁 次 郎	
	・ 青 木 一 男	・ 岩 沢 忠 恭	・ 早 川 慎 一
	・ 羽 生 三 七	・ 伊 能 繁 次 郎	
	・ 青 木 一 男	・ 岩 沢 忠 恭	・ 堀 木 謙 三
	・ 羽 生 三 七	・ 後 藤 文 夫	
田 中 清 一	・ 青 木 一 男	・ 小 平 芳 平	・ 羽 生 三 七
	・ 小 酒 井 義 男		
田 中 清 一	・ 青 木 一 男	・ 小 平 芳 平	・ 羽 生 三 七
	・ 小 酒 井 義 男		
田 中 清 一	・ 青 木 一 男	・ 小 平 芳 平	・ 田 中 一
	・ 小 酒 井 義 男		
田 中 清 一	・ 青 江 一 男	・ 近 藤 信 一	・ 羽 生 三 七
	・ 木 頭 智		
田 中 清 一	・ 青 江 一 男	・ 近 藤 信 一	・ 羽 生 三 七
	・ 木 藤 智		
田 中 清 一	・ 青 木 一 男	・ 羽 生 三 七	・ 黒 柳 明
	・ 米 田 正 文		
	・ 青 木 一 男	・ 鈴 木 強 彦	・ 黒 柳 明
	・ 米 田 正 文	・ 天 坊 裕	
	・ 青 木 一 男	・ 鈴 木 強 彦	・ 金 丸 富 夫
	・ 黒 柳 明	・ 山 内 一 郎	
	・ 青 木 一 男	・ 江 藤 衛 郎	・ 村 田 秀 三
	・ 黒 柳 明	・ 山 内 一 郎	

(注)：「自治大臣」は昭和35年7月1日までは「自治庁長官」と称した。

〔国土開発縦貫自動車道建設審議会〕の委員名簿(その二)

委員氏名 年次	学			識	
	財団法人田中研究所・理事長 磯富士製作所・社長	日本縦貫道協会 会長	道路審議会 会長	日本道路公団 総裁	元日本開発銀行 総裁
32年	田中清一	八田嘉明	石川一郎	岸道三	小林中
33年	田中清一	八田嘉明	石川一郎	岸道三	小林中
34年	田中清一	八田嘉明	石川一郎	岸道三	小林中
35年	↑ (この間は国会議員として出席) ↓	八田嘉明	石川一郎	岸道三	小林中
36年		八田嘉明	石川一郎	岸道三	
37年		八田嘉明	石川一郎	岸道三	
38年		八田嘉明	石川一郎		
39年		植村甲午郎 (経済団体連合会副会長)		小野 哲 (日本自動車会議所常務理事)	平田敬一郎 (日本開発銀行総裁)
40年		植村甲午郎	小野 哲	平田敬一郎	稲葉秀三
41年		植村甲午郎	小野 哲	平田敬一郎	今野源八郎
42年		植村甲午郎	小野 哲	平田敬一郎	今野源八郎
43年		植村甲午郎	小野 哲	平田敬一郎	今野源八郎

〔国土開発縦貫自動車道建設審議会〕の幹事名簿

幹事氏名 年次	官			庁			
	総理府総務官 副 長	内閣総理大臣官房 審 議 室 長	大蔵事務次官	大蔵省主計局長	農林事務次官	通商産業事務官 次	
32年	田中栄一	賀屋正雄	平田敬一郎	森永貞一郎	清井 正	石原武夫	
33年	藤原節夫	吉田信邦	森永貞一郎	石原周夫	塩見友之助	上野幸七	
34年	佐藤朝生	大島寛一	森永貞一郎	石原周夫	塩見友之助	上野幸七	
35年	佐藤朝生	大島寛一	石田 正	石原周夫	渡部五良	上野幸七	
36年	佐藤朝生	江守堅太郎	石原周夫	石野信一	西村健次郎	松尾金蔵	
37年	佐藤朝生	江守堅太郎	石原周夫	石野信一	西村健次郎	松尾金蔵	
38年	古屋 亨	松永 勇	石野信一	佐藤一郎	伊藤正義	松尾金蔵	
39年	古屋 亨	松永 勇	石野信一	佐藤一郎	大沢 融	今井善衛	
40年	古屋 亨	高柳忠夫	佐藤一郎	谷村 裕	斉藤 誠	佐藤 滋	
41年	古屋 亨	高柳忠夫	佐藤一郎	谷村 裕	武田誠三	山本重信	
42年	堀 秀夫	橋口 収	谷村 裕	村上孝太郎	武田誠三	山本重信	
43年	堀 秀夫	橋口 収	村上孝太郎	鳩山威一郎	大口駿一	熊谷典文	

経		験		者	
世界経済調査会 理事長	三菱地所(株) 取締役	日興証券(株) 会長	評論家	セメント協会会長	経済審議会委員
木内信胤	金子源一郎	遠山元一			
木内信胤	金子源一郎	遠山元一			
木内信胤	金子源一郎	遠山元一			
木内信胤	金子源一郎	遠山元一			
木内信胤	金子源一郎		細川隆元	安藤豊禄	新居善太郎
木内信胤	金子源一郎		細川隆元	安藤豊禄	新居善太郎
木内信胤	金子源一郎		細川隆元	安藤豊禄	新居善太郎
稲葉秀三 (国民経済研究協会会長)		星埜和 (東京大学教授)	細川隆元	安藤豊禄	新居善太郎 (交通基本問題調査会委員)
稲葉秀三		星埜和	細川隆元	安藤豊禄	松井達夫
		星埜和	細川隆元	安藤豊禄	松井達夫
		星埜和	細川隆元	安藤豊禄	松井達夫
		星埜和	細川隆元	安藤豊禄	松井達夫

関		係		官		
運輸事務次官	運輸省 自動車局長	建設事務次官	建設省 道路局長	警察庁長官	自治事務次官	経済企画 事務次官
荒木茂久二	山内公猷	石破二郎	富樫凱一	石井栄三	鈴木俊一	上野幸七
荒木茂久二	山内公猷	石破二郎	富樫凱一	石井栄三	鈴木俊一	徳永久次
栗沢一男	国友弘康	柴田達夫	佐藤寛政	柏村信雄	小林与三次	徳永久次
栗沢一男	国友弘康	柴田達夫	高野務	柏村信雄	小林与三次	徳永久次
朝田静夫	木村睦男	柴田達夫	高野務	柏村信雄	小林与三次	小出栄一
朝田静夫	木村睦男	山本三郎	河北正治	柏村信雄	小林与三次	小出栄一
岡本悟	木村睦男	山本三郎	平井学	江口俊男	小林与三次	大堀弘
岡本悟	木村睦男	山内一郎	尾之内由紀夫	江口俊男	金丸三郎	松村敬一
若狭得治	坪井為次	前田光嘉	尾之内由紀夫	新井裕	金丸三郎	中野正一
若狭得治	原山亮三	前田光嘉	蓑輪健二郎	新井裕	柴田護	中野正一
佐藤光夫	原山亮三	前田光嘉	蓑輪健二郎	新井裕	柴田護	川出千速
堀武夫	黒住忠行	尾之内由紀夫	蓑輪健二郎	新井裕	柴田護	高島節男

## 名士の書翰について

田中企画者に寄せられた名士からの書翰は多数保存されていますので、これを冊子に集録すれば、当時の名士、高官が「国土計画、田中プラン」に対するお考へや、御関心によって、日本再建時代の国状を知ることができます。本誌にはこれら書翰の一部を次頁に掲載しました。

## 東久邇宮稔彦王殿下を御案内、富士山麓の現地視察



(聖 峯 富 士)



(富士山麓にて)



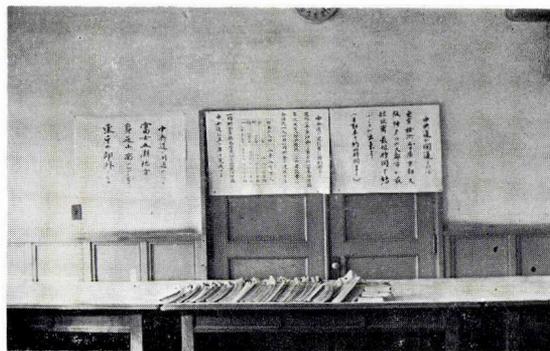
東久邇宮殿下を中心に  
(右) 田中企画者  
(左) 三井高修氏  
執事 高倉憲吾氏

(昭和29年10月30日)

## 参議院自民党控室において田中プランの展示会を開催

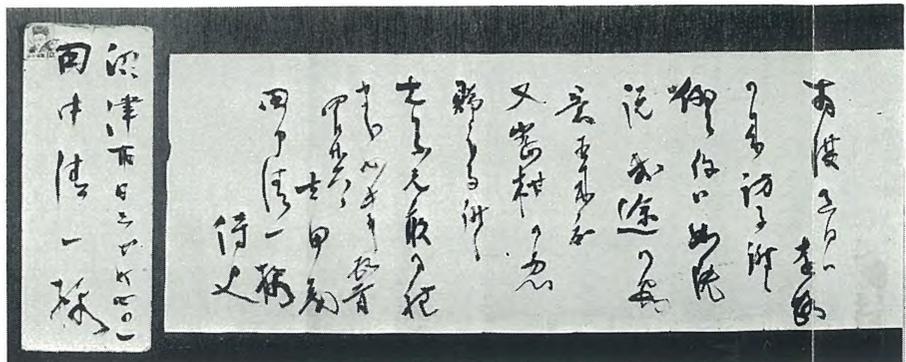


福井県知事、北栄造氏に説明する田中参議院議員

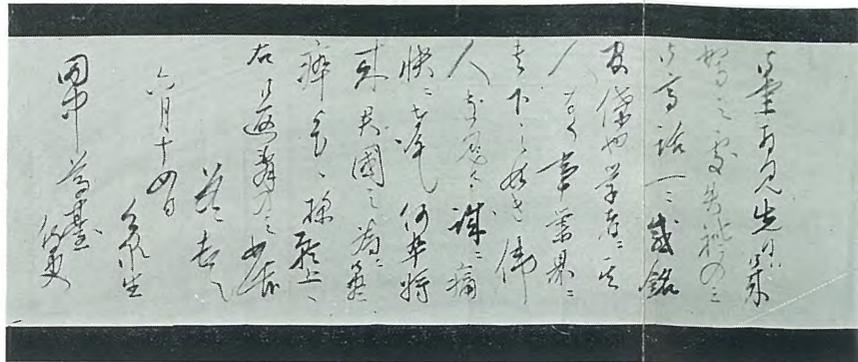
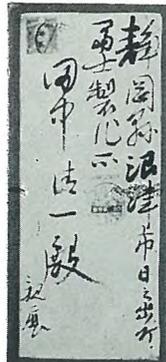


国土計画田中プランの資料の一部 (昭和34年11月16日)

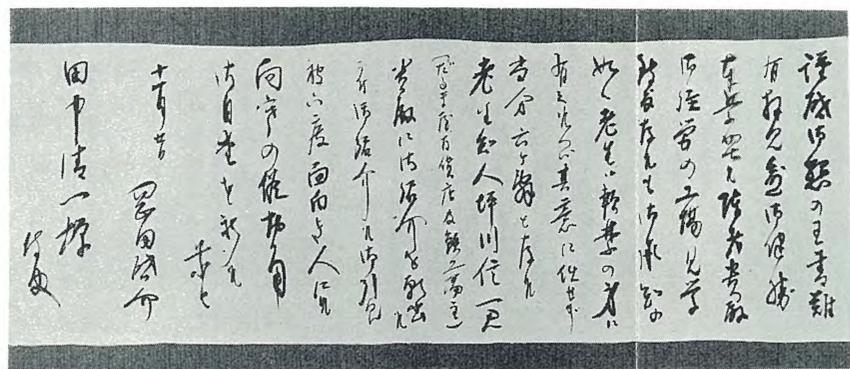
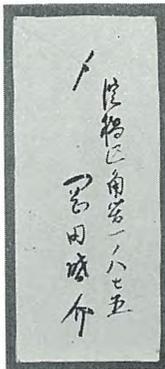
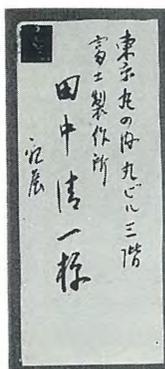
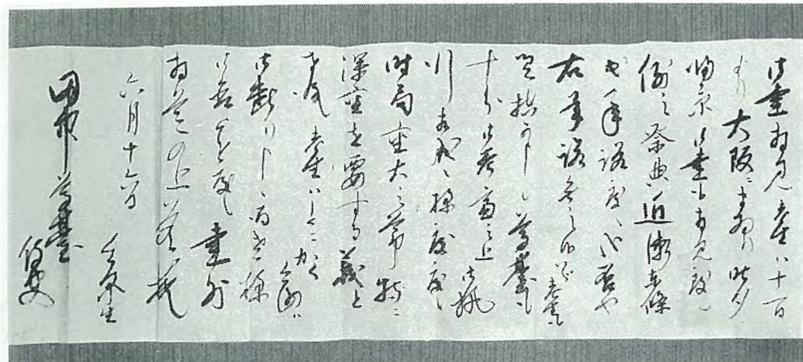
田中企画者に寄せられた名士の書翰の一部



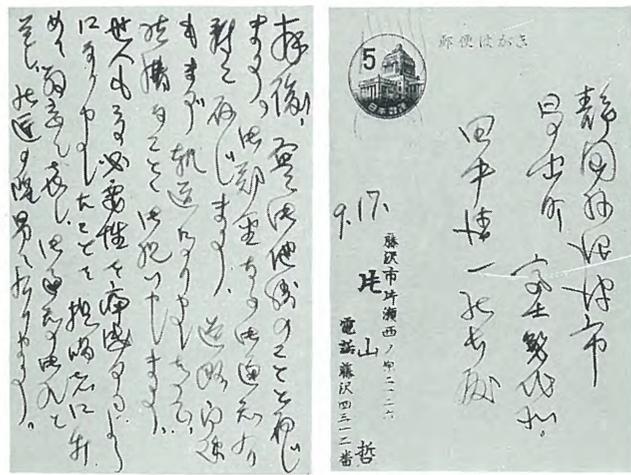
内閣総理大臣・吉田茂氏よりの書翰 (昭和29年4月26日)



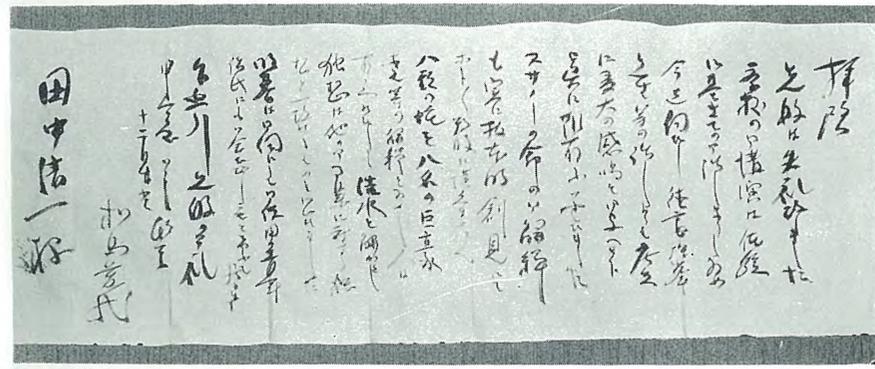
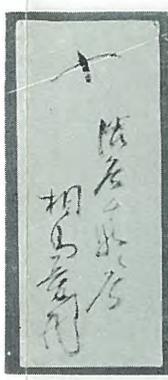
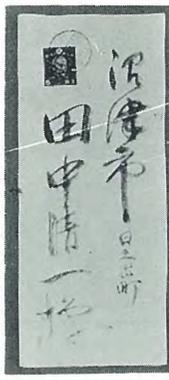
伊勢神宮奉讃会会長・今泉定助翁よりの書翰 (昭和17年6月14日、6月16日)



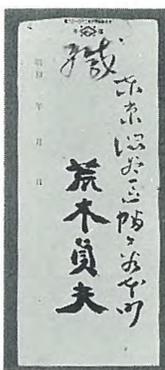
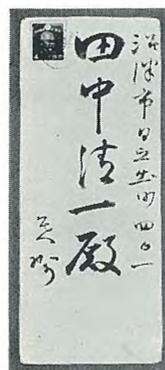
元・内閣総理大臣・岡田啓介氏よりの書翰 (昭和19年11月20日)



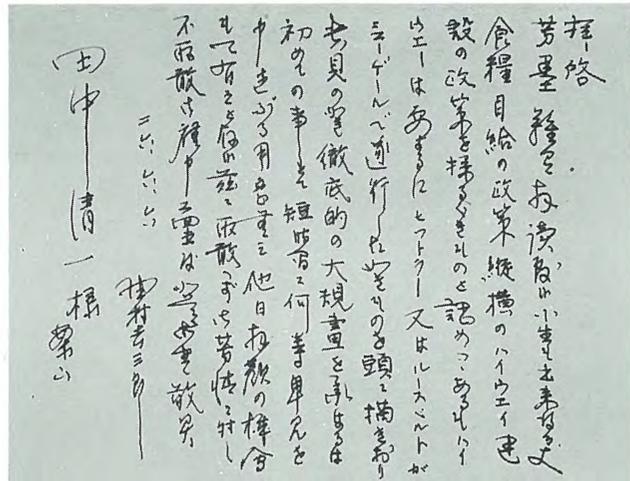
元・内閣総理大臣・片山哲氏よりの書翰 (昭和32年9月17日)



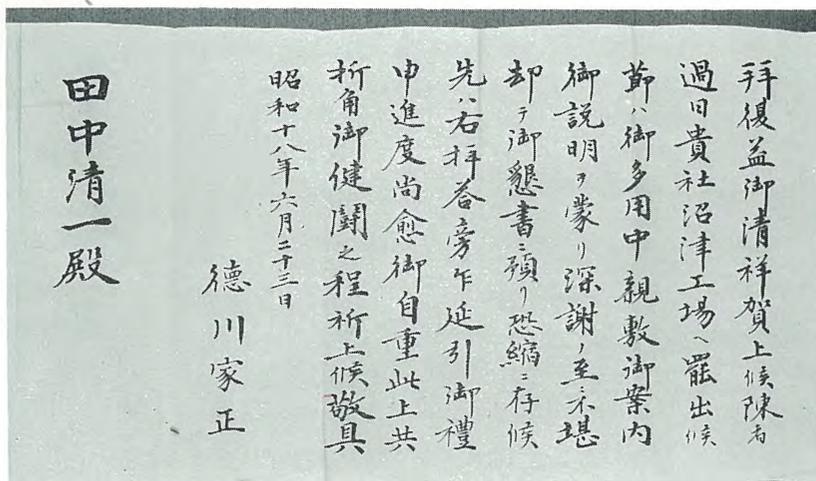
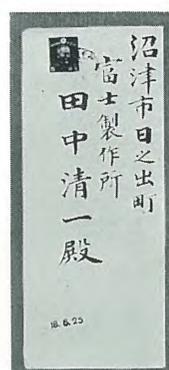
印度独立運動の援助者、相馬愛蔵氏よりの書翰 (昭和19年12月26日)



元・陸軍大臣、文部大臣、陸軍大将・荒木貞夫氏よりの書翰 (昭和16年12月24日)



元・海軍大臣・野村吉三郎氏よりの書翰 (昭和26年6月6日)



元・公爵・徳川家正氏よりの書翰 (昭和18年6月23日)



## (第4章) 田中企画者に国会出馬を慫慂(昭和31年)

### ◆参議院選挙に立候補を要望する(6月2日)

昭和30年、第22国会に提出した「国土開発縦貫自動車道建設法案」が遂に「継続審議」となり、31年の第24国会においては参議院において「一部修正」衆議院回付になって法案の成立が遅延するのを焦慮した「国土建設推進連盟」や、全国各地の田中プラン実現の熱望者有志が、6月2日に沼津本部に参集して、国会審議の逡巡を慮へて痛憤が爆発し、田中企画者を囲んで下記の如く要望された。

#### 〔参議院議員に立候補を要望する理由〕

1. 最早や国会の議席を持たずしては法案の通過も、計画の実現も覚束ない。法案が通過しても、国会議員として「国土開発縦貫自動車道建設審議会」に参画しなければ、肝腎な「予定路線」も曲げられて了う。或は「仏を作って魂を入れず」の結果にならんやと、われわれは憂慮する。
2. 真に国を思う田中会長こそ国会を肅正するであろう。会長の気魄と不撓不屈の努力を以って当れば、一人で良く多数の同憂議員を得て、必ずや田中プランを国策となして完遂されるであろう。

また民政安定に資する諸法案なら田中会長は自ら率先して国会を通過せしめ、国民生活の安定を早からしめて、日本を“道義国家”に導かれるであろう。

3. 田中プランが実現すれば、日本産業の飛躍的發展を招く要素が余りにも多く、この法案は一日も早く国会にて成立させねばならない。
4. 全国1千万人の信徒を有する「日蓮宗」は田中プランの中央道が開通すれば、総本山の身延山久遠寺は東京より僅か1時間半の交通便利な処となるのみならず、日蓮上人の発願である“立正安国論”を容易に実践することになるので、田中企画者の国会出馬を要望し、全山を挙げて支持したい。

(その他、多数の出馬要請の理由が陳述されているが、省略する)

#### 〔国土建設一円会の要望〕

高速自動車道建設のために外資を導入することは…子孫に借金を残すもの…子孫に譲る平和国家への国土開発の実施には、「われ等の国民貯金で完遂せよ」……と共鳴して結成された「国土建設一円貯金」は全国的に日増しに増加している。

この貯金目的の実現のため「田中会長を国会に送れ」のスローガンにて、各地より電報書面にて「立候補せよ」と激励されて来た。

## 参議院議員・立候補辞退の御挨拶

今回の参議院議員選挙に当り、国土建設推進連盟、並びに全国各地の有志各位より、私を「全国区立候補」に押し立てんと御推挙下され、真剣に国会出馬の必要を説かれてお奨め下さった皆様に対し、本誌（新国土……31年6月号）を通じて衷心より感謝の辞を申上ります。

私は十余年来、国土開発のために全国を馳せ廻って居りますが、常に政治の表面には立たないと表明して居りましたが、昭和二十九年建設省内に「国土開発中央道調査審議会」が設置され、私は企画者であり、委員として出席し、審議を重ねる頃より私の国会出馬の必要を有志より提唱され、また、次に昨年第二十二国会における「国土開発縦貫自動車道建設法案」の審議が難渋する時に、私の国会議席の必要が痛感せられ、特に本年の第二十四国会に於て、該法案が必ず通過するであろうと大多数の国民が期待していたのに反し、徒らに審議を逡巡せしめ、逐いに“継続審議”となるに及んで有志が激憤され、愈々私に対し目前に迫った全国区参議院へ立候補せよと強くに慫慂されるに至ったのであります。

然るに私は、現在の微妙なる国会情勢や、諸般の状況を熟慮しました結果、今回は突然のこととて準備もなく、立候補を辞退することに致しました。

特に日蓮宗総本山身延山久遠寺法主の深見日円師、管長の増田日遠殿には六月二十二日の立候補締切間際に至っても藤平執事殿を使者とされて鋭意出馬をお奨め下され、又自民党の山口喜久一郎氏、社会党の片山哲氏、三宅正一氏を始め各地の志より懇篤なる御書簡を戴き、尚自民党の石井光次郎氏、自民党同志会の木村公平氏外多数の政・財界の有力者から格別の御配慮を賜ったことに対し深甚なる御礼を申し上げます。

依って立候補を御奨め下さった各位に対しましては、御期待に副い得ませんでしたこととお詫び申上げると共に、又私の出馬を今回は自重するようにと御引止め下さった各位に対し、御厚意を心から御礼申上ります。

（中略）以上を以って今回の参議院議員立候補辞退の御挨拶と致します。

昭和31年6月23日

（株）富士製作所取締役会長  
財団法人 田中研究所理事長  
国土建設推進連盟会長  
沼津商工会議所・会頭  
田 中 清 一

## 昭和34年度の推進記録

### ◆日本商工会議所において促進

△開催日……1月21日      △場所……銀行クラブ大会議室（東京丸の内）

昭和34年新春恒例の総会において、沼津商工会議所会頭として出席した田中企画者は、去る32年1月18日の常議員会において、国土計画田中プランを講演した結果、当時の日本商工会議所の会頭、藤山愛一郎氏の発議によって「田中プランの実現を積極的に推進する」ことに満場一致で可決されてより、同年の3月29日に「国土開発縦貫自動車道建設法案」が第26国会にて成立したこと、この法律で設置された「建設審議会」に企画者としてに任命されたこと、その他、本日までの推進状況を報告すると共に、一日も早く高速自動車道を全面的に着工するよう、全国から集合された商工会議所の各位の御協賛によって、「政府に要望されたい」と新春挨拶と共に企画者の田中清一氏から要請された。

◎この提案に対し、日本商工会議所会頭、足立正氏より、「只今沼津商工会議所会頭・田中清一氏の御発言がありました件については、田中さんから教わって、早急に要望書を提出する」と答弁され、これを実行された。

### ◆岐阜県多治見市における促進大会（34年）

△開催日……1月26日      △場所……多治見市役所

岐阜県における国土開発中央自車道の建設促進運動は、去る昭和29年2月3日に同じ多治見市役所において「多治見市、中津川市、土岐市、小牧市、恵那市、恵那郡、土岐郡、可児郡、加茂郡」の五市、四郡の集合にて盛大に行なわれたが、今回も下記の出席者によって積極的な推進が展開された。

#### 出席者（敬称略）

岐阜県会議長	加藤 鏖 一………県会議員 8 名
多治見市長	青木 重 喬………市会議長 加藤丈右衛門
中津川市長	竹村 寿吉………同 上 伊 沢 稔
土岐市長	二宮 安徳………同 上 加 藤 宮 蔵
恵那市長	長谷川 俊一………同 上 山 本 敏 郎
小 牧 市	建設委員長 丹羽 輝 市      本会議長 後 藤 英 雄
恵 那 郡	町長 6 名      町会議長 6 名      村長 5 名      村会議長 5 名
可 児 郡	町長 1 名      町会議長 8 名
土 岐 郡	町長 1 名      町会議長 1 名      県土木出張所…多治見、恵那、加茂…… 3 名
県事務所長	………土岐…… 1 名      小牧市……土木課長 佐々木 強

多治見商工会議所会頭 加藤 庄六 外、議員多数

東濃鉄道 加藤乙三郎 多治見市助役 部課長 他多数

◎政府へ要望書を提出……内閣総理大臣 岸 信介 殿 外、関係当局宛

◆ 田中企画者に国会出馬を要望する（昭和34年度）

国土計画田中プランの早期実現を要望する「国土建設推進連盟」の全国各地の有志各位、特に東京―神戸間の「中央自動車道」の早期、建設を熱望されている山梨・長野・岐阜の三県連盟の役員は別掲の如く昭和31年度より田中プランの企画発案者である田中清一氏が国会に出馬して議席を持ち、国会活動で積極的に実現の推進に努力して欲しいと要望され、この34年度は参議院選挙が行われるので、今回は非、出馬を実現されたいと、新春早々より下記の如く訪客が相次ぎたことを記録する  
(注) 来訪は沼津市の(株)富士製作所内の国土建設推進本部へ

△愛知県犬山市、市長岡部長景氏、他5名来訪、中央道の早期建設を熱望して田中企画者と懇談、国会出馬を要望する（1月9日）

△参議院議員、藤原道子女史の来訪、田中企画者と懇談（1月10日）

△岐阜県議会議長、加藤鎌一氏が江崎事務局長と共に来訪され、特に田中企画者の国会出馬を強く要望された。（1月11日）

△奈良県大和桜井の林材界の重鎮、西垣愛太郎氏、服部源三氏は大阪木材新聞社長の吉岡稔氏と共に来訪、田中プランの実現方法について懇談（1月13日）

△日蓮宗総本山、身延山久遠寺執事、藤原賢栄氏が来訪、田中企画者と長時間に亘って懇談（1月19日）

△岐阜県議会議長、加藤鎌一氏の再度の来訪、沼津市の竹内鉄次郎氏等と共に田中企画者と懇談（1月30日）

△元内閣総理大臣、石橋湛山氏と田中企画者の懇談（2月5日）

△「国土建設推進連盟」の結成6周年記念の大会が開催され、田中企画者に国会出馬を満場一致で要望する（2月12日……次頁に詳記）

△日蓮宗の増田日遠師、小橋日感師、杉本日孝師が来訪され田中企画者と懇談（2月26日）

△山梨県知事、天野久氏が来訪され、中央道実現の方法について要談（3月2日）

△犬山市長、岡部長景氏、議会議長、浜氏外9名が来訪、重ねて田中企画者と要談する（3月21日）

△元運輸大臣、宮沢胤勇氏（田中研究所理事）が来訪され、田中理事長と懇談する（3月28日）

△静岡県知事、斎藤寿夫氏と田中企画者が懇談（3月30日）

△田中企画者は伊勢皇太神宮に参拝、大宮司、坊城俊良氏と懇談（4月6日）

## (第5章) 田中企画者の国会出馬 (昭和34年)

### ◆国土建設推進連盟の協議と要望

△開催日……………2月12日           △場所……沼津本部（富士製作所内）

結成6周年記念を迎えた「国土建設推進連盟」は、中部地区の連合役員会を開催し、去る32年に「国土開発縦貫自動車道建設法」が折角公布されたにも拘らず、東京―神戸間の「中央道」の着工も目鼻がつかない現状を焦慮して下記の如く要望の決議をされるに至った。

#### ●田中企画者に国会出馬を要望

「建設法という法律にまでなった国土計画田中プランを実現するためには、田中企画者が国会に出馬して議席を持ち、積極的な国会活動を願わねば早期達成が得られないと予測されるので、われら推進連盟の一同は来るべき参議院選挙に田中清一氏が立候補されるように切に要望する」

### 中部地区の主なる主席者（敬称略）

◎岐阜県……県議会議長 加藤鏖一△同 江崎事務局長△国土建設推進連盟の大垣、関、白鳥の各支部長 多数

◎愛知県……小牧市長 神戸貞△同市議会議長 後藤英雄△同梶内事務局長  
△同中央道対策委員長 丹羽輝一 外多数

◎長野県……飯田商工会議所会頭、青島愛二△飯田市長松井卓治△同市議会議長代理 林省三、福沢新治△長野県議会事務局、清水謙一郎、外多数

◎山梨県……日蓮宗総本山身延山久遠寺 松本執事△県議会議長、吉田長兵衛、外  
△富士吉田市、都留市△上野原、下部、中富、早川、身延、市川大門、河口湖の  
各市町村長△上九一色村、勝山村△山梨県町村長会長、大木伝一郎、外多数

◎静岡県……県出納長、田口英太郎△県議会議員、加藤弘造△沼津商工会議所会頭  
岡田吾一△沼津市議会議員 米野与七郎 外△有志、斎藤平四郎、木村光顕、  
風間三千三 外多数

◎連盟役員……田中会長、川村太吉、七夕虎雄、近藤増次郎、服部源太郎、国持秀太郎、  
大石与三郎、松田江畔、友森二郎、瀬上清隆、山根清春、平沢久次郎

## ◆田中清一氏を激励する会

(昭和34年)

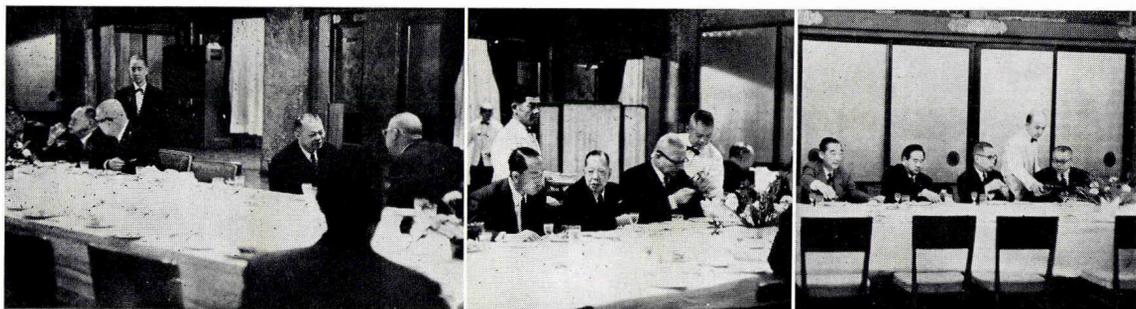
### 自民党幹部の主催にて開催さる

△開催日……4月9日、 △場所……東京会館（東京・丸ノ内）

△主催者……自民党副総裁、大野伴睦氏 自民党幹事長 福田赳夫氏

企画者・田中清一氏が「新日本建設」のため日本の劃期的な、「国土計画を立案」して政府に提案してより10有余年間、この実現のために推進・努力した結果が「国土開発縦貫自動車道建設法」となって、着工の段階に入ったが、この企画された理想案で実現するためには、企画者自らが国会に議席を持って推進すべきだと、自民党の幹部が早くから認識されていたので、34年度の参議院選挙を目前に控へて、標題の如く田中清一氏を招いて激励会が開催された。

この席には田中企画者を支援さる国会議員、政財界の名士等が多数参集せられたので、田中清一氏も感激され、時局対応の認識を深められた。



(左より) 福田幹事長、大野副総裁  
1人おいて田中清一氏

合(中央) 大野副総裁

(右端) 田中清一氏



## ◆国土建設推進連盟役員会（3月28日）

去る2月12日に開催された役員会にて決定した「田中企画者の国会出馬の要望」に対し、ご本人の決意が判明しないので、緊急役員会が開催され、再度の要望が強く行われた。然るに田中企画者は依然として慎重な態度で決定の猶予を求められた。

## 東本願寺御法主・大谷光暢台下を迎へて



田中家へお迎へした御法主と御裏方  
(背面は田中清一夫妻)



応接室にて国土計画・田中プランを  
御説明申し上げる田中企画者

昭和30年4月20日

真宗大谷派本願寺法主 大谷光暢

田中家は幾百年の昔から親鸞聖人のひろめ給うた浄土真宗の帰依者であって、殊に岐阜県郡上郡八幡町の安養寺は四百七十余年前に江州から田中家を頼って入国されたとのことであるが、今日、田中清一氏が立派な會社を經營し、世のために国土計画の大事業と取組んで国家に貢献されているのは祖先以来厚い仏縁に恵まれた賜と思われます。

私は、田中氏が昭和二十年に日本が戦争に負けて国民が苦しみ、難渋している時に、全国を実踏調査して検討の結果、狭くなった日本国土を立体的に使用し、将来人口が一億となるも平安な生活ができるように「平和国家建設綜合国土計画」を立案し、政府に献策されると共に、爾來十有余年間、これが実現に挺身推進された努力を知り、また幾多の計画資料を見て感心しました。田中プランの最初に建設する日本全国を縦貫する高速自動車道は、苦心して作られた日本全国の20万分1の立体模型を見て知ることができましたが、この模型は昭和24年に天皇、皇后両陛下が御高覧遊ばされ、田中企画者が日本再建の方法を両陛下に御説明申し上げ有難き御激励のお言葉を賜ったと聞いて私達も感銘せざるを得ません。

また田中氏は幾多の発明特許を得られ、機械業界に貢献されたので昭和29年には藍綬褒章を下賜された由ですが、本日この褒章を佩用されているので其の功績が偲ばれます。

私はこのたび奇篤な田中氏との佛縁により、沼津の田中家を訪れ、また同氏が經營されている株式会社富士製作所沼津工場を視察すると共に、田中氏の国土計画室で「新しい国造り」の詳細を知って、在家に斯る田中清一氏が居られるのは、祖先が一心一向に帰命された所産であると喜ぶと同時に、信仰の篤い田中氏が佛祖の御冥助と、全国民の協力を得て「田中プラン」を更に積極的に推進し、これを完遂せられるよう念ずるものであります。

## 田中清一君を国会議員に推薦する

東久邇 稔彦

今度、全国区参議院議員に立候補された田中清一君と私とは昭和十八年の一月、当時私は防衛総司令官であったので市ヶ谷の司令部へ私を訪ねてくれて、その時、軍人の考え及ばぬ素晴らしい戦略を建策してくれたのが交際のはじめである。

その時私は民間にも素晴らしい男が居たものだと思つづく感心致しました。その後戦局が苛烈になって軍部でそれに気がついた時は、既に時機を失して田中氏の建策を入れず終戦となりました。

そこで終戦後、直ちに内閣組織の大命が私に下りました。

その時私は敗戦日本の再建をいかにすべきか、戦後国家の経営をいかにすべきかを考えた時、ほっと胸に浮んだのが田中清一氏であります。早速一週間位の予定で来て呉れと沼津に使いを出しました、然し仲々終戦直後、昼夜の別のない位の忙しさで、到底落着いて策を聞く時間もない位で、それでも八月二十八日マッカーサー元帥が東京に入ったあの日、総理大臣官邸の上空は米軍機グラマンが数十機乱舞していて、それこそ悲壮なる様相の時、総理大臣官邸に於て田中氏から「平和国家建設国土計画」の大綱の説明を篤と聞く事ができました。

あの時は日本中が腰を抜かして、日本の将来は一体どうなるか、こんな低迷混乱、五里霧中の時に、この田中プランこそ日本の夜明けである、日本の前途に光明見えたり、と直感致しました。

それで私は戦後第一番という重大内閣の総理大臣として「日本再建のマスタープラン」は田中清一氏の献策された「平和国家建設国土計画案」即ち国土の立体的使用によって食糧の自給自足、電源の開発、奥地山林資源の開発、地下資源及び観光資源の開発、人的資源の活用、低物価政策に依る輸出貿易の振興、是等の目的達成のため、北海道の稚内から九州の鹿児島まで、日本を縦貫する「国土開発自動車道」の建設こそ「日本の生きる道」なりと確信し、田中氏より一切の資料と関係書類の提出をもとめて、用意万端整い、扱てこれからと言う時におしむべしその運びに至らずして挂冠の止むなきに至りましたことは、返すがえすも残念至極でありました。

今にして思えばあの時順調に実施されていたとしたら、今日の日本は容相が一変し、世界の楽園として世界人類からあこがれの的となる、文化の高い、平和日本国が建設されていたと思うと、誠にまことに口惜しき極みであります。

終戦以来、国民は、帰趨を失い、昏迷に惰在し、強いて事を行う者は自己本意の行いと、利慾に走り、まことに国の前途は憂うべき状態でありました。

この禍中において田中清一氏は卓立巍然、として、名利に走らず、只一途、「平和国家建設国土計画案」即ち田中プランの実現に挺身し、全国隈なく現地を踏査し、適確なる道すじの選定、精巧緻密なる資料の作成に身を賭して精進され、まことに涙ぐましきものがあります。

私は昭和二十九年の秋、山梨県の富士山麓から、このルートに添うて実地を検分したことがある、その時田中氏の案内を受けたが、さて現地を実際に見て、その設計図、及び計算が正確と精密である事、殊に奥地の山容から現地の一木一草に至るまで、脳裡にあり、折にふれ、事に当りながら現地を見るが如きは、真に驚歎の外はありません。

田中氏の十有余年の苦心は報いられて、第二十六国会に衆参両院を万場一致で通過し、今は国法となって一部分施行されている。よく昔から十年一日と申しますが、田中氏は、十有余年一日の如く生命をかけて努力された賜であります。

殊に自身何等の求むることもなく、斯様な大政策の提案設計等、一切を自費をもって支弁したること、ほんとうに聖業というより外に言葉はなく、能く常人のなし得ないところであります。

このたび此の国土計画を実行せんと「全国区参議院議員」に立候補されましたが、高潔なる田中氏が、こと此処に立ち至りましたことは、田中氏の心中を察するに尋常ならざる重大決意の結果であると信じます。

いかに国会を通過して国法になっても、新しい国造りの聖業は、聖者でなければ出来得ない、余人を以て代る事の出来得ないものであると信じます。

この意味で田中氏の立候補は決して己れの計らいに依るに非ずして、神計らいなりと確信いたします。

いかに政治に敏くとも、使命を持たぬ者は何も出来得ない。信実且つ誠そのものである田中清一氏の人柄は、今日まで永年の交際の間には能く知悉しています。

この人なればこそ、お国興しの大業完遂に選ばれた一人で、そこに今回立候補するに立ち至った真髓があると信じます。この意味に於て、何がなんでも田中氏を議政壇上に送り、田中氏の手で「国土開発縦貫自動車道建設」の大業を成就せしむることこそ「新日本の開頭」であると確信するものであります。

賢明なる諸君は、この田中氏に世紀の大業を諾せ、このこと、後日決して恨なきことと信じます。

江湖の諸賢、諒とせられますよう切望します。

## ◆ 参議院議員立候補者

### 田中清一氏の主張

私は今回自民党公認として全国参議院議員に立候補致しました田中清一であります。又私は、国土開発縦貫自動車道の発案者であり、設計者である田中清一であります。不肖私は昭和18年以来日本の将来を深く憂いまして、この我等の祖国日本を平和な文化の高い国家に建て直す、総合国土計画を研究して参りました。そしてその目的は、第一に日本の国土を立体的に使用して食糧を自給自足する。第二にあらゆる天然資源の開発、第三に高速自動車道の建設による輸送力の強化であります。而うして此の目的達成の為に、北は北海道の稚内から、南は九州の鹿児島に至る、高原地帯を貫いて通る背骨道路を建設し、その肋骨として、太平洋岸と日本海岸の各地に連絡する現在無数にある道路を拡幅整備して、山奥に眠れる山林資源や地下資源、水力資源及び観光資源を開発し、新しい都市、新しい農村を建設して、新しい職場を作って失業者をなからしめ、此の狭い日本の国土に於ても将来一億人の人口を充分に養う事のできる画期的な国土計画案を創案したのであります。

此の新しい国造りの案は、日本国内は元より、遠くアメリカに一大センセーションを巻起し朝野共に各方面の関心が高まり、ついに昭和32年の第26回国会に於て、自由民主党、社会党共に万場一致で国会を通過して国法となって居るのであります。思えば長い15年間の、骨身をけずる様な悪戦苦闘の連続でありました。

此の国造り「田中プラン」は敗戦日本再建の最も確実なる重要計画案なればこそ四百三十名の代議士の方々が、衆議院、及び参議院を超党派で、無修正で通過させたのであります。

扱てこの建設予算捻出の方法は、日本全国民8千8百万人が、1日に僅か1円ずつ、国土建設の目的貯金をすれば、1日に8千8百万円、百日で88億円、1カ年には、321億2千万円の大金が貯蓄され、此の貯金を見返りに建設公債を発行すれば、アメリカから借金をする必要も



なく、増税をすることもなく、直ちに建設に着手する事が出来るのであります。同時に現在直面せる、多数の失業者を救い今日の社会不安は無くなるのであります。

而してこの田中プランを実行すれば、今後十ヶ年を出でずして世界に誇る文化国家が出現し我等の愛する子孫に文化の高い平安な生活を、送らす事が出来るのであります。

此の田中プランは既に、昭和24年10月には米国の権威ある科学者が多数、立ち合いの上で、天皇、皇后両陛下に御説明申上げ、親しく御激励のお言葉を、賜って居るのであります。

この国土計画は戦時中からの創案者である田中清一が既に1億数千万円の私費を投じ、みづから実地測量して爾来その実現を叫び続けて来たのでありますが、昨今の政治情勢に鑑み、此の新しい国造りを実現するには、どうしても発案者であり、設計者である田中清一自身、国会に議席を持たねばならない事が判りまして、敢然として立候補したのであります。

此の国土計画事業が発足すれば明日から日本には失業者が無くなり、学校を卒業しても就職出来ない人や、生活難の為に、親子心中する者はなくなるであります。

更に日本全国民、特に青少年諸君に、新しい希望と勇気を与え、精神の作興と経済復興と農山村の次、三男問題を一举に解決することが出来るのであります。

全国民の皆様、この田中プランの発案者であり発明功労者として藍綬褒章を賜った田中清一を議政壇上へ送って下さい。田中清一は国民の皆様のお御期待に添うべく、最善の努力を致す覚悟でございます。

(註) 本文は5月9日沼津市公会堂に於いて第一声を挙げられて以来各所の演説会に於ける講演要旨である。

(壇上の田中候補者沼津市公会堂において)



## 全国支持票にて目出度く当選（昭和34）

田中企画者の立候補決意は、31年以来（153頁参照）熟慮を重ねられ、この34年に至っても有志各位の出馬熱望にも拘らず、田中清一氏は、いわゆる政治家たらんとする野望を持たれないので立候補を躊躇され、決意は延引し続けた。

結局、ご本人の真の出馬決意は、立候補届出の締切2週間前に行はれたので、選挙運動は定められた僅かの日数しか活動できず、しかも初陣であったにも拘らず第166頁に掲載の如く「全国得票数一覧表」の如く、参拾余万票を得たのは、田中企画者の新日本建設の構想と「田中プラン」が、多年の努力の積上げて、全国各地に知れわたっていた結果であらう。更に、田中氏の自社企業に関連する諸団体も、田中プランの実現による産業界の飛躍発展を期待されて、下記の如く協賛されたことも本誌に記録して後世に伝えたい。

国土建設推進連盟  
国土建設一円会  
財団法人田中研究所

日本商工会議所・中京木工機械工業会  
日本工作機械工業会・東海木工機械工業会  
全国木工機械工業会・静岡県各鉄工組合

### ◇ 全国各地より祝電が山積す

当選確定と共に元総理の吉田茂氏、及び石橋湛山氏、日本商工会議所会頭・足立正氏を始め、政財界の名士より多数の祝電が寄せられ、特に田中企画者の国会出馬を熱望された「国土建設推進連盟」と「国土建設一円会」の有志各位は「万歳」を叫んで喜ばれ、また財団法人田中研究所の顧問、理事各位よりの御祝電など、その数は2千余通が記録されるに至った。



大野伴睦先生と共に各地の遊説に出発せんとする列車内の田中候補者（沼津駅にて）



自民党副総裁、大野伴睦先生の御来援（沼津駅にて）

## 国会へ参議院議員田中清一氏を迎へて

昭和34年6月8日

【選挙事務長】 福田 篤 泰  
【衆議院議員】

田中さんが全国区にお出になると決った時、私は自民党の副総裁・大野伴睦氏から、お前が選挙事務長をやれと言われました。洵に微力で、その器ではありませんが、喜んで御受け致しました。

田中さんとは予てから御縁があって、御近づきを願っておりましたが、これは仲々大役でございました。

田中さんの所謂「田中プラン」には私も予てから賛成者の一人でありまして、そのお人柄もよく承知しております。田中さんは誠の人であり、実行の人であります。今まで言ったことは必ず実行された御方で、五十人力というか、百人力というか、真実に力を持っておられる人です。私どもは微力でありましたが、田中さんの長い間の徳、その積徳が今日の結果を見たのでございます。

わが自由民主党も、田中さんのような、清潔で、力強い方を加えまして非常に力強く相

成りました。今後は、国会における田中さんの御活躍を大いに期待するものであります。

大へん皆様に御骨折をいただき、事務長として心から御礼を申上げる次第でご座います。一言皆様に御礼を申上げると共に、田中先生を迎える祝辞といたします。



(田中候補者と壇上は選挙事務長、福田篤泰氏)



(初めて立候補肩章を掛けて)



田中参議院議員の当選祝い (昭和34年6月8日)

参議院議員田中清一（全国区）得票数一覧表

管区	府 県 別	票 数	管区	府 県 別	票 数
	北 海 道	7,408	近畿地区	滋 賀	960
東 北 地 区	青 森	4,220		京 都	4,408
	秋 田	670		大 阪	7,679
	岩 手	1,483		兵 庫	7,410
	宮 城	1,620		和 歌 山	1,112
	山 形	1,159	小 計	23,084	
	福 島	2,960	中国地区	岡 山	7,216
関 東 地 区	小 計	12,112		広 島	4,775
	栃 木	6,765		山 口	2,443
	茨 城	3,450		鳥 取	566
	群 馬	2,963		島 根	2,338
	千 葉	2,709	小 計	17,338	
	埼 玉	2,709	四国地区	徳 島	722
	埼 玉	4,093		香 川	2,094
	東 京	14,993		高 知	1,940
	神 奈 川	6,598		愛 媛	2,380
	新 潟	3,740		小 計	7,036
東 海 地 区	小 計	45,311	九州地区	福 岡	8,418
	静 岡	66,849		熊 本	3,970
	愛 知	15,954		鹿 児 島	817
	岐 阜	22,947		大 分	3,038
	三 重	3,671		佐 賀	4,905
中 央 線	小 計	109,421		鹿 児 島	2,630
	山 梨	14,463		大 分	2,162
	長 野	39,765	小 計	25,940	
北 陸 地 区	小 計	54,228	(総合計) (312,056)		
	富 山	1,264	※本表は第一次発表に依る		
	石 川	446	(最終決定票) (312,108)		
	福 井	8,468			
	小 計	10,178			

【遠隔地の得票】

国土計画田中プランに当分は直接関係のない離島においても、下記の如く投票されたことは僅かの票数でも期待しなかった予想の結果となった。

- △北海道・礼文島……………14
- △同 利尻島……………39
- △東京都・三宅島…………… 8
- △同 八丈島……………12
- △同 大 島……………80
- △新潟県・佐渡島……………147
- △鹿児島県・種子島……………80
- △同 屋久島……………40
- △同 大島郡(島)……………201

◇ 田中参議院議員と〔8〕の数字

田中企画者が参議院議員選挙にて「全国区」より目出度く当選に当り、「八の字」と縁があると各所より寄稿を受けた。

- 1. 立候補受付番号…………… 8
- 1. 総 得 票 数…………… 312,108
- 1. 参議院宿舍番号……………28
- 1. 参議院事務所番号…………… 248
- 1. 同室内電話番号(内線) …… 748

右記の如く末尾にいずれも〔8〕が付き、しかもこれらは全て自ら選択した数字ではない。抽選に類する結果であるから、数字の神秘とはいえ、これだけ〔8〕が揃うと、縁起をかつぎたくなる有志の方の寄稿も無理はない。実際、確率の上からでは、これだけ揃うということは非常に困難なことであり、いはゆる国土計画が、日本の八方に繁栄と幸福を寄与することを考える時、田中プランの本質を数字で表すと〔8〕となるのかも知れない。

## (第6章) 田中参議院議員の国会活動

### ◆ 田中参議院議員の任期

国土計画田中プランの企画者である田中清一氏が国会議員として議席を占めたのは、左記の如く満6ヵ年であった。

自、昭和34年6月8日 至、昭和40年6月7日	}	6ヵ年間
----------------------------	---	------

この間に国会関係の委員には下記の如く選任された。

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 参議院建設委員会 (常任委員)      | 1. 自民党政調建設部会 (委員) |
| 1. 参議院決算委員会 (常任委員)      | 1. 自民党国防部会 (副会長)  |
| 1. 自民党道路調査会 (副会長)       | 1. 道路調査会 (副会長)    |
| 1. 国土建設縦貫自動車道建設審議会 (委員) |                   |

田中企画者が、国土計画田中プランを国会において推進した状況は、上記の各委員会、部会、調査会にて発言した議事録に詳細記載されて、後世に伝えられる。

・本誌には最も重点を置いた「参議院建設委員会」における活動状況の一部を、速記録によって転載し、各位のご参考に供したい。

### 〔参議院建設委員会 (第32回 国会継続) 会議録〕 第1号の抜萃

◎昭和34年7月9日 (木曜日) ・午前10時26分開会

(出席者)

委員 長 岩沢忠恭君	委員 田中 清一君	委員 田上松衛君	委員 小平芳平君
理事 稲浦鹿蔵君	同 小沢久太郎君	同 久保 等君	同 前田久吉君
同 松野孝一君	同 小山邦太郎君	同 武内五郎君	同 野坂参三君
同 武藤常介君	同 桜井 三郎君	同 向井長年君	
同 田中 一君	同 内村 清次君	同 安田敏雄君	

建設大臣、村上 勇君 (事務局側) 常任委員会専門員、武井 篤君

(説明員)

建設政務次官、大沢雄一君	建設省河川局長、山本三郎君	北海道開発庁事務次官	池田一男君
建設大臣官房長、鬼丸勝之君	建設省住宅局長、稗田 治君	通産省公益事業技術長	佐伯貞雄君
建設大臣官房参事官 高田賢造君	大蔵省主計局主計官	労働省労働基準局長	堀 秀夫君
建設省計画局長、関盛吉雄君	行政管理庁行政管理局長	山口西君	労働省職業安定局職業訓練部長
			有馬元治君

◎田中清一君……

先ほど来住宅の問題、宅地造成の問題、高速道路の問題等種々お話を承っておりますけれども、私等の様に実業家は、実に何か部分品の話をしている様な気がしてどうも納得がいかない。

なぜならば先に法律でできた国土開発縦貫自動車道の法律があって、東京から富士山麓まで道をつけるのに、86キロ建設すれば264万人の人が住むだけの水がたたえられてあって、しかもただの様な地面が、皇室から無償御下賜になった地面が六万町歩も遊んでおって溶岩地帯で、農地にもならず、木も育たないような所があるのですから、高速道路さへ建設すればすべてが解決するじゃないですか。少くともその道を八王子までつけたとして、一つ考えて見て下さい。八王子市を中心にした北と南にあれだけのたくさんの丘陵地が遊んでおりまして、東京へは僅か30キロの所です。そういった所を開発すれば住宅難どころではない、そういうわけでありますから、一切が解決できると思います。

ことに小河内の貯水池は最も近くて水漏れが少くて、そうして100パーセント水もそこで使える、たとえば相模湖ダムの水を分けてきて使うことも出来る。そういう様な抜本的な事を考えてもらえませんか、国民は税金ばかり払いまして、そうして今ここでその住宅を高う（高層建築のこと）せよとおっしゃいますけれども、もう一ぺん考えて見て下さい。ただでさえもこの道が狭くて自動車でもうどうにもならぬ。皆さんは自動車に乗ってお気付きにならぬかも知れませんが、自動車で町を一回りして見てごらん下さい。自動車が足で道を歩くよりもおそい所を高層建築にしたら、そこへ又人が寄ってくるでしょう。人が来れば必ず自動車が又来るのですから、私はここで住宅を高うするという事は不賛成です。

一つ抜本的に道をつけたり、250億円かければ富士山麓まで行くことが出来るのですから、建設していただく事を希望したい。

いささか横紙破りの様な事でありましてけれども、どうも御話が姑息で、私共が聞いておりますと、その程度では決して住宅難の緩和もできない。宅地造成もできない。どんどん農耕地を潰して、そうして武蔵野の新鮮な野菜を現在の800万都民に供給が出来なくすることが文化だ、繁栄だ、と称する逆立ちをしておるのぢやないかという事を私は考える。どうか一つ建設大臣には御一考をお願いしたいと思うのであります。

◎田中清一君 本日の「業務の概要」の中にあるのですが、高速自動車道については「高速自動車国道中央自動車道（小牧市、吹田市間）及高速自動車国道吹田神戸線（吹田市・西宮市間）を、昭和37年度に供用開始することを目途として整備するほか」としてありますが、まことに、これはあいまいです。

すでに32年の8月に、これはわれわれの審議会において、建設命令が出ておりまして、

相当な予算を獲得しておられるのですが、われわれの調べたところによると、まだほとんど地面の買収すらも遅々としてというか、むしろほとんどないと言って差しつかない。汽車の廃線敷を五キロばかり買って大きな地鎮祭をしたりなんかをして、実に国民の中には、相当に批判をしておるのです。こういう様な遅々としたことでは、これはほんとうに仕事も何も出来ない。何十年かかるおつもりなのか、これを目途ということじゃなしに、もっとしっかりしたことを聞きたいのですが、今日は皆さんお疲れでありますから、きょうは私は言いませんが、どうかこの次の委員会には、道路公団総裁なり、その当時の道路局長であった富樫先生にも、また今の道路局長殿は勿論でありますけれども、いらっしゃって下さって、私どもは、その時言質を得て、その当時すでに岸道路公団総裁は、その地面の方は百姓はもうすでに承知しておりますからということが速記録に残っておるのです。それにも拘らず、いまだに濃尾平野には、一つも買っておらぬということです。

それらはまことに怠慢といえますか、ほんとうに国民としては非常に遺憾なことですから、どうかそれを聞かして頂く、今度、道路公団総裁もお連れ下さいまして、私どもに話を聞かしていただきたい、これだけ希望いたすわけであります。

◎委員長（岩沢忠恭君） ちょっと言っておきますが、これからは、議題の範囲においてのみ御質疑を願って、それ以外の処は、また委員長のところに申し出て下されば、その日の議題を追加致しますから、今日とにかく定員法の質疑があったのですから、これはあなたの非常に全生命をおかけになっている道路についての質疑ですから、これは今後（田中清一君「これにはこうなっている」と述ぶ）もちろんそうですが、議題がそうなっていますから、今後における委員会の運営はそういうつもりで一つお願いをいたしたい。

◎田中清一君 今申し出たことは、この次に取り上げて下さいますか。

◎委員長（岩沢忠恭君） ええそれじゃ本件に対する質疑は、これをもって打ち切りまして暫時休憩をいたし、午後は、大体二時にいたしたいと思います。

午後零時52分休憩。

◎昭和34年 8 月 4 日（火曜日） ◎午前10時35分開会（議事録第2号の抜萃）

（出席者）

委員長	岩沢忠恭君	委員	田中 清一君	委員	田上松衛君	委員	小平芳平君
理事	稲浦鹿藏君	同	小山邦太郎君	同	武内五郎君	同	前田久吉君
同	松野孝一君	同	桜井 三郎君	同	鶴岡哲夫君	同	野坂参三君
同	武藤常介君	同	米田 正文君	同	向井長年君		
同	田中 一君	同	久保 等君	同	安田敏雄君		

（事務局側）常任委員会専門員 武井 篤君

(説明員)

建設政務次官	大沢雄一君	建設省住宅局長	稗田 治君	大蔵省主計 局法規課長}	小熊孝次君
建設大臣官房長	鬼丸勝之君	建設省営繕局 管理課長}	佐治 大君	防衛庁経理 局工務官}	三宅 穰君
建設省計画局長	関盛吉雄君	建設省木木 研究所長}	横田 周平君	法務省矯正 局総務課長}	佐藤昌之君
建設省河川局長	山本三郎君	建設省建築 研究所長}	竹山謙三郎君	法務省矯正 局作業課長}	杉田勝久君
建設省道路局長	佐藤寛政君				

◎田中清一君

この本年度工事進捗状況というのに関連いたしましてですか、これは、工事じゃないけれども、工事をするかための調査ですが、国土開発縦貫自動車道建設法による中央自動車道に対して、昭和33年から、すでに調査費用を国は計上して、おられるようですが、その調査の状況は、どういった方法で進んでおりますか、一応お聞かせ願いたいと思います。

◎説明員(佐藤寛政君) 本年度で、たしか3年ほど引き続いて調査をいたしておると存じますが、本年度の調査をもちまして、あの国土開発縦貫自動車道の中央道に当る部分、小牧から東京の部分に対しまして、一応路線の位置、事業費、並びに経済効果、こういったものの判定がつく程度の概算的な調査は、本年度で終る予定でございまして。本年度といっても年度一ぱいかからなくて、実はこの9月ごろに一つ格好をつけたいものとして、ただいま最後の取りまとめを急いでおるわけでありまして。

ただ申し上げておきますが、これで調査が全部終わったと、こういうわけではございませんで、なお詳しく、いろいろ調査が要ります。何せ非常に高い山岳地帯でございまして、詳しく考えますと、いろいろ調査することも出て参りますが、先程も申しましたように、概略、その実物を判断する程度の調査は、本年度をもって一応数字が出る見通しであります。

◎田中清一君 本年の2月の国土開発縦貫自動車道審議会のときの御答弁と大体同じ御答弁で非常に安心いたしましたのですが、それにつきまして去る七月二十日の毎日新聞の静岡版に、こういった記事がでております。

「庄司県土木部長は15、6日神奈川県庁で開かれた、愛知、静岡、神奈川3県の東海道高速自動車道建設期成同盟会の結成打合せに出席、この程帰県した、三県とも期成同盟結成の体制ができ上がったので、今月末静岡県庁で再び会合、会長などをきめた上、8月中旬頃結成、9月上旬頃から政府、国会に積極的に働きかける事になった。9月上旬、建設省が東海道高速自動車道路の調査結果を発表、大蔵省と交渉をはじめるので、その前後に地元からの盛り上りを見せようと云うもので。」云々。こういうような奇怪なことが出ておりますが、こういったような動きは、ここに書いてある通りのことはあるのですか。

◎説明員(佐藤寛政君) 私はそういう事は伺っておりません。つい先日、実は、中央

道を上空から視察するために、岐阜まで行って参りましたが、つい先日でございますが私は、まだ東海道上で、そういう話があるという事は聞いておりませんでございますから、私どもの方は、直接的関係なく、地元でいろいろな動きをしておられるのじゃないかと思うのでありますが、これはやはり東海道上につきましては、現在の道路が、もうすでに部分的には、御承知のようにオーバー・キャパシテイ、能力以上になっておる所が、あちこちにあるわけでございます。

先日の日曜あたりは、東海道上と申しまして、箱根くらいまでは、もう実に道路が一ぱいになっちゃって、どうにもならない状態でございます。私どもと致しましては、これをそのまま、ほっておくわけに参りません。従いまして東海道上筋を、どうしたら今後の交通対策上適切な処理がとれるだろうか、こういう事は、建設省といたしまして、非常に関心をもって参りまして、御承知の様に、本年度調査費をもちまして、ただいまいろいろ調査いたしております。しかしこれも、そう簡単な調査で終るわけでもございませぬし、ただいまお読み上げになりましたように、9月頃予算を要求するとかいうようなわけには参らない。

ただいま調査をいたしまして、将来に対する措置を考慮しておかなければならぬということとは、私どもも注意いたしております、ただいま、そういう意味の調査をいたしておるわけであります。

- ◎田中清一君　そうすると、6月に建設省が東海道上高速自動車道の調査結果を発表して大蔵省と交渉を始めるというようなことは、これは誤解でございますか。
- ◎説明員（佐藤寛政君）　ただいまやっております調査は、やはり9月の上旬、まあ今年度には、一応何がしかの数字を出す予定でございますが、大蔵省に交渉して云々ということとは、これは、事実はございませぬ。

「理事稲浦鹿蔵君退席、委員長着席」

- ◎田中清一君　それじゃ道路局長に、一ぺん私は御注意を申し上げますけれども、こういった静岡県の土木部長なんというのは、相当建設省とつながりのある方ですから、そういった方が、こういったような発表をしないように御注意を願いたいことと、もう一つ今、東海道上が非常に飽和状態で、どうにもならんということをおっしゃいました。それは確かでございます。

私は東海道上におりますのでわかるのでございますが、これをもう一つ考え直して、それで法律で通りました。しかも超党派で社会党の方も、皆同調して通っておる、国法になっておる中央道を、せめて富士山麓の本栖湖附近までこれをやりまして、そして東海道上の方の富士から本栖湖までの道を少し改修をすれば、バイパスになって、——今混み合っている処は、私の考えておるのは大体富士川以東でみんな寄ってくるから、ただいまおっしゃった通り箱根だとか、こっちへ来て混み合っておる。混み合っておる所はそこなんです。それでバイパスのようにしてお使いになることも、一応建設省としてお考えになっていた

だきたい。

こういうことを御進言というか、ちょっと申し上げておきたい。

◎昭和34年9月10日（木曜日） ◎午前10時24分開会（議事録第四号の抜萃）

（出席者）

委員長	岩沢忠恭君	委員	田中 清一君	委員	桜井三郎君	委員	武内五郎君
理事	稲浦鹿蔵君	同	小沢久太郎君	同	久保 等君	同	向井長年君
同	田中 一君	同	小山邦太郎君	同	田上松衛君	同	小平芳平君
		同	内村 清次君	同	米田正文君	同	前田久吉君
国務大臣	建設大臣 村上 勇君					同	後藤五郎君

（事務局側）常任委員会専門員 武井 篤君

（説明員）

（参考人）

建設政務次官	大沢 雄一君	日本道路公団副総裁	井尻 芳郎君
建設大臣官房長	鬼丸 勝之君	日本住宅公団総 裁	狭間 茂君
建設省道路局長	佐藤 寛政君	日本住宅公団副総裁	渡辺 喜久造君
建設省河川局長	山本 三郎君	日本住宅公団理事	渋江 操一君
建設省住宅局長	稗田 治君	同	吉田安三郎君
建設大臣官房		同	今泉 兼寛君
日本住宅公団	国宗 正義君	同	武藤 文雄君
首席監理官			

◎田中清一君

このさきの2月に国土開発縦貫自動車道建設審議会のときに、さきの建設大臣遠藤さんは、来るべき通常国会には必ず基本計画を定める法律案を国会に出すということを言明なさいましたので、私はそれを非常に楽しみにしておるわけであります。私はその後ここに参議院議員として出て参りましたので、もう一ぺん今度の建設大臣にそれを伺っておきます。

◎説明員（佐藤寛政君） 私から答弁申し上げます。よろしゅうございましょうか。

◎田中清一君 どうぞ

◎説明員（佐藤寛政君） 田中委員の御質問でございますが、基本計画ではなくて予定路線のことと存じますが、もしそういう予定路線のことだといえますと、ただいま私どもはその準備をいたしておるわけであります。

◎田中清一君 それはまことに不思議なことを聞くもので、我々はあれだけのたくさんの方がみな寄ってたかって基本計画を決定する法律を出すということがありまして、速記録にもそれが残っておるので、私どもそれを信じておるわけであります。もしお忘れになったのなら速記録通りにしていただければよろしいと、こういうことであります。それで、そ

の次に来るものが整備計画でございますから、その整備計画に対しての何か御考慮はございませんか。

◎説明員（佐藤寛政君） 法律に定めておるところによりますと、予定路線をまずきめましてそれから基本計画、整備計画というふうになっておると存じますが、従いまして私どもといたしましては、その先の基本計画、整備計画等も逐次まとまっていくようにただいま調査をいたしておるのでございます。

◎田中清一君 この先の小牧—吹田間、吹田—西宮間をやるときには、これはその委員会と同時にこれをやっていったので、私はそう申し上げるのですが、それは別にその二つに分けてやらなきゃならぬということはないでしょう。たとえばインターチェンジとかいうものを作るのに一つ一つ基本計画だけでいきましてはできなかつたのでございまして、そのときは今の道路局長はおいでにならなかつた。富樫道路局長がやっておられたときでございまして、あるいはそういうことを御存じないかも知れませんが、そういうことになっておったのでございます。一ぺんにやっていかなきゃそれはやれぬということがはっきりしておりますから、基本計画を立てれば必ず総理大臣は地方の利害関係のある方にそこを通るから、いいか、悪いかということ、直ちに通達しなきゃならぬように法律になっておりますために、そのインターチェンジ等のところをきめなければならぬ、それをきめるには整備にも入っていかなきゃならないので、そういうことになったわけです。だから今ここで確実に御答弁下さることが出来なければ、いずれまた別の委員会にも御出席になると思いますから、其の節御答弁を得たいと思います。

それから私は名神間と申しますか、それを稲浦先生とともに視察をさせていただいたときに、おもに京都から西を神戸までの間を視察したのですが、その当時見ますと、橋は一本ずつしかかけるようになっておらぬのを私は見てきたわけですが、あれは四車線になるのですか。あの橋一本ではどうにも通れそうもない。どうも技術的に。どういふわけですか、一つお答えをいただきたい。

◎説明員（佐藤寛政君） 名神間のただいま実施いたしております高速自動車道路工事は将来計画と申しますか、全体計画では四車線ですつと通すと、こういう考えでおるわけでございますが、とりあえずのところ非常に金がかかりますものですから、長大橋につきましては二車線でとにかく少しでも早く間に合せていこうということで、これは整備計画の方でもそういうふうに相なっておるわけでありまして。

◎田中清一君 そういたしますと昭和33年の8月のときに、我々がきめましたときの予算です、すなわち791億幾ら、ちょっとこまかい数字を覚えておりませんが、そのものは橋一本かけてかかるという計算でそれをお出しになったのか、それを全部橋にもトンネルにも一切して、これが四車線に供用するようにすべてを通算したのがそれだけかかるということをおっしゃったのか。私はそれに対して、そのときの速記録だけはまだ入手していませんが、どちらでございませうか。

◎説明員（佐藤寛政君）　まあ昔のことで私直接関係いたした次第でございませぬものから、大へん御説明が足りなくて恐縮でございませぬが、当時整備計画を作りましたときには、先ほども申し上げますように、とりあえず使いものになるようにと、こういう考えであつたようでございませぬ。そして37年度にはとにかく供用を開始させる、そしてこのときこういうことが書いてあります。「長大橋、及びトンネルの一部については交通に支障のない限り、さしあたり二車線の完成をもって供用を開始し、交通量の増加に応じ残りの二車線分を完成するものとする。」こういうふうになつておりました、従つてまあ橋と申しましてもいろいろ長し短かしてございませぬから、小さい橋はそんなことはいたしません、金のかかる大きい橋はそういうふうになつて、とりあえず一つ交通に役に立つようにいたそう、こういうことに相なつて、ただいまその方針で工事の促進をやつておる次第であります。

◎田中清一君　そうしますと今791億という予算というものは、橋は2本にするのか1本にするのか、4車線にするのかということとはちょっとお答えができませんということですね。それではよくお調べになつてこの次にでも御答へ下さい

それからその先の昭和32年の7月何日でしたか、そのときに濃尾平野において非常に農地を買収することがむずかしかろうということを私は心配いたしました、そして種々の路線系を設けまして、最も合理的な路線を選んで、縦貫自動車道建設法をそのルートでやることになる、これは大体その了解で法律が成立したのであります。それで私はそのことを十分に申し上げて、日本の農耕地は農民にとっては命の綱でありますから、どうか根本建設大臣は日本における農政の大家であられると聞いて知つておりますから、どうか国民、ことに農民が困らないようにくれぐれも御考慮をお願い申し上げますということを特にお頼みしたのです。ところが御出席になつておりました我々同僚の委員である岸道路公団総裁は、濃尾平野においては、もうすでに道路公団において杭打ちをしておるから、その附近の農民は買われるものと覚悟しておりますから、その点御安心をとということをおっしゃいまして、それは速記録に残つてはおるのであります。しかしながら濃尾平野において私ども今まで調べたところにおいては、ほとんど一坪もそれが買ってないのであります。私どもの見るところによつては、その後も毎年多大の予算をお持ちになつていらつしゃることは御承知の通りでありますから、そうすると、そのときの岸道路公団総裁のおっしゃたことは架空のことをおっしゃたということになるのじゃないでしょうか。ことに私のところへ各地の農民その他市町村からどうなるでございませぬか？ という手紙がひんぴんと参つておりますので、私どもはそれに対して返事のしてやりようもないので逃げ隠れておるわけでございます。どうか一つその点をきょうは井尻副総裁がおいでになつておりますから御答弁をお願いいたします。

◎参考人（井尻芳郎君）　お答え申し上げます。ただいまの御質問でございませぬが、実は御承知の通り名神高速道路が小牧から西の宮にかけて188キロの長い間を一斉に仕事に着手

いたしておりますが、ただ工事を進めまする第一次段階といたしましては、尼ヶ崎と栗東との間を今全力を注いでやっております。この間の用地はだいぶ買収になっておりますが、自余の点につきましてはまだいろいろお願いに上りまして、相当の御了解は得ておりますけれども、買収までに至らない所も多々あるのでございます。御質問のところ、いわゆるわれわれの方では愛岐建設所管内と申しておりますが、ちょっとその用地の問題になりますと、この愛岐のあれが今技術測量の済みました分が83%、これはもう測量が済んでおります、これすらもなかなか立ち入りができませんでしたけれども、全員非常な努力によりまして、また御了解を得まして83%まで測量をいたしております。ただし大垣その他におきましてはなかなか進捗いたしておりません。従いまして、今の問題は現実におきましては幾分用地の買収には着手いたしておりますが、第一次段階で今申しました尼ヶ崎、栗東が漸次進むに従いまして、自余の点につきましては相当工事を進めることができるのではなからうか、こういうふうに考えております。

- ◎田中清一君　そうしますと、相当濃尾平野においては農地という問題が私の杞憂したごとく、不幸にしてなかなか容易なこっちゃないということは案ぜられるわけです。衝に当たっていらっしゃる副総裁がおっしゃるのですからこれは確かでございます。ときに私はさきに建設省、道路公団がおやりになるのでしょうか、この御選定をなさった路線がそういう問題を惹起するような所へ無理に割り込んでいらっしゃるという感じがわれわれはするのであります。なぜかと申しますと、濃尾平野においては輪中と申しまして、そしてポンプ・アップして川へ出さなければならぬ、天井川になっておりまして、今路線を選定なさった所は、私共も調べますと海拔5メートルというような低い所を通っているのです。それでアメリカのハイウェイ・リサーチ・ボードの友人からもいろいろ私にどうなった、どうなったといって照会してくるのでございます。いろいろそれらに対しても今までであり来たことを申し送っておるというわけでございまして、様子は少しわかるのでございますが、さきに世界銀行から派遣された、技術者が来まして、今日建設省で御選定なさった路線は非常に地盤が悪くて、とらてい50トンもの車を通すべくハイウェイを作るような地面ではない。そういった地面にそういった計画をしたためしもなければ、作ったためしもない。しいてやるならば現在ある泥を少なくとも8メートルぐらい取ってしまつて、そうしてさらに最も上等の土をほかから持ってきて、それを埋めて、しかるべき程度の地固めをやりまして、それで可能であらうか、どうかというと、それさえも危ぶまれる。こういうことを言っていることも私は知っておるのです。また日本の有力な新聞にもそれは出ております。そういうわけでありまして、無理にそういった地盤の弱い所をあの長い距離の間なさる必要はなからうと思ひます。のみならず今度のこれは私は6号と書きましたが、7号であったと思ひますが、今度の台風によりましてこの上江月からルートを選ばれたちょうど牧田川にかけまして上江月、浅草中、浅草東、本荘、十連坊、それから竹鼻町の羽島市、これの南はそういった工事をするには耐えない所でありまし

て、ほんとうにそんなものをまじめに作っていかうというようなことを考えられない所なんです。それですからそういったような今度の水害のはなはだしいときには、これは大垣の工業学校の先生が見取図を今度作ってくれましたが、私も行って見てきましたが、はなはだしいのは地面から5メートル以上も水が上っていまだに引かないような所でございます。皆様のお手元に配布しましたこの一番最後の図面でごらん下されはわかりますが、このプランを私が始めましてから、社会党にはその当時、右派も左派もありました当時、私はお話に参りました。また保守党の方にも自由党もあり、民主党もありまして、ずっと話にいて了解を得て引いた線がこの上の線でありまして、これらにおいてみんな岐阜の人も大垣の人も一ノ宮の方々も小牧の人もみんなこれで非常にけっこうだということで、これが何ら支障もなく国会を通過して法律になっておるのです。無理に竹鼻のところにおいて、今羽島市と申します。その町からして、その附近において上の線と下の線とでは6キロも距たっておる。御承知のように川は下流へくるほど地盤が悪くなってくる、これは三つ子でもわかるようなことです。それを無理にこれを下げて、地盤の弱い所をお通しにしようとするその御意図は、一体どういふわけでなさるかということの一つ、建設大臣にこれをお聞きしたいのですが、建設大臣はいらっしゃいませんので、できれば次官に一つお答え願いたいと思います。

◎説明員（大沢雄一君） お答え申し上げます、私も実は田中委員からのただいまの路線に関します御意見は初めて実は伺ったわけでございまして、まことに恐縮に存じているわけでございます、私どもといたしましては、現在予定いたしております路線につきまして、整備計画等の際にも審議会にお諮りをいたしましてきめておりますので、その他のただいまの路線上のことにつきましては、実は初めてのことで恐縮しているわけでございますが、経過の詳細はつきましては道路局長から一つ申し上げたいと思います。

◎説明員（佐藤寛政君） ただいま田中委員からお話しございました、また御配布いただきました図面でただいま私どもが考えておりますと、かなり違う路線を御推奨になっているようでございますが、そうした路線が地元の皆さん方の御賛同を得ておるということを伺うのは私初めてでございます。実は申すまでもございませぬが、こうした重要問題でございますので、この道路がどこを通るかということを考えておりました当初においては、いろいろの考え方はそれはございました。また地元の御陳情もございましたわけでございます。私どもといたしましては、それらを数年研究いたしました結果、ただいまここにちょうどいいいたしました図面を建設省案と書いてある、これが大体間違いのないようでございますが、この路線が非常に条件はよくはない、いろいろまずい点はございますが、選択する場合にはまあまあこの路線が一番よからう、こういう結論になりまして、この本計画を御審議いただきました審議会におきまして、整備計画御検討の折に参考資料ではございますが、5万分の一の図面を出して、その中にこの計画路線を書き入れまして、詳しく御説明いたしましたして、その整備計画決定の際に御承認を得てあるものでございます。従いまし

て私どもといたしましては、現在のところこの路線を変更するというような考えは聞いてもおりませんし、持ってもおらないわけでございます。しかしながら、今次の災害状況を考えますと、この付近は非常に災害の影響を受けておりますので、このことは工事の実施に対しまして十分考えなければならない。つまりこの路線を通るにいたしまして水抜き等の配置、それからまたこの道路そのものがそうした水で被害を受けて交通が杜絶しないような配慮、そうした計画設計上におきましては今次の出水状況なども一つ詳しく資料を集めまして検討をする材料にいたしたい。こういうふうに考えております。

◎田中清一君 道路局長さんはその当時はこれに御関係がなかったものでありますから、それだから特に先の道路局長であられた富樫さんに来ていただいて、そうしてまた道路公団の岸総裁にもおでましを願うように連絡して、今回で三回延ばされて私はきているわけがあります。それにつきましても、この愛知県をはじめ、これは大へんたくさんの方々意見というものは、これにほとんど反対というものが 3000 名になんなんとする人が意見をよこしておるわけです。羽島市上中町、平松光雄外 173 名、岐阜県安八郡安八村、金森定一外 138 名、大垣市長外、大垣市国土開発縦貫道対策委員会委員高橋慶吉外 33 名、大垣市内俵町、浅野一之進外 138 名、岐阜県養老町、近藤宮蔵外 1007 名、まだその外にも小さいのが沢山ございますけれども、これだけのたくさんの方が反対をしておる所へ無理に、そうして条件の最も悪い所へ、そこに私が出しました参考の文面のように木曾川・長良川・揖斐川それに加えるにそれから分れる小枝の川、それからまたこの牧田川ですね、この建設省ではもう内務省時代からこの牧田川なんという川は、私は相当岐阜県に関係がありまして、全部知っておるのですけれども、そういうような荒れて、しょっちゅうその付近の国民といいますかね、岐阜県民にあの苦勞をかけておるところのあの狭い谷間へ無理になさなくても、私が選定した、これは皆さん衆議院議員 430 名が署名されてくれたのでこれは通った。国会の権威においてもこれは守らなくてはならぬ線を無理に下の方に下げて、だから私はここにその当時に少数意見を留保しているのです。私は賛成しないのです。

昭和32年6月11日の審議会において私は賛成しておりません。これは総理大臣に出しまして（少教意見留保の理由……印刷物）各委員は全部、その他皆公知の事実なんです。少数意見、それほど私が不賛成で3回ほど審議会を、つぶしてしまったのです。つぶすということはないけれども審議がどうしてもできない。今日の水害と、それから地盤の弱いことと輪中というところですが、とうてい通れないのだとって、そこではたくさん血を見ておるところですから、どうかそういうような危険な所にいかないように、地盤の固いところの皆が歓迎する、なぜ歓迎するかと申せば、上の線は岐阜市へ非常に近くなるのです。

それも岐阜ばかりではありませんから、あちらは大垣にも非常に近くなるのです、私の方の線で、それで岐阜市はあの長良川も揖斐川もあります、それから方々山県郡もあれ

ば、本巢郡もあれば、武儀郡もあれば、郡上郡もある。高山までの間あそこには物資も人も非常に寄ってくる場所ですから、今じゃあなくても将来これは岐阜市で造るような場合にはインターチェンジを一つつけてやった方が国家経済のためにいいということを私はここで主張して（中略）。

ことに岐阜県には長良川の鶉飼いという世界的にも少ないような観光資源がある。そうして諸外国の貴顕紳士が来まして日本に金を落してくれる。そうして遠いところのインターチェンジまで、今のようなくねくねとしたまるで洗濯板みたいのところを行って土を引っかけられたら、せっかくいい気分になっているものをこわしてしまっから、どうかこの線にして下さい。

多少尾張一ノ宮の南と北になりますから、ちょうど、佐藤さんも御存じだろうと思うのです。あその馬寄せ、福塚というところでちょうど22号線が鉄道を越えているのです。ちょうどあれを利用して、野っ原の5万坪くらいありましよう。インターチェンジができる場所があります。それでそこを調べて造るように私は主張して、私は何んべんも一ノ宮にとまらぬ汽車で通ってみると、その馬寄せと現在のところのおやりになろうというインターチェンジは四分ある。一ノ宮にとまらぬ汽車で。ですから、それだけのものを速い自動車で行くということは何ほどのことはないわけでございませう。

それと小牧とに造れば小牧の方は東京へ来る方の方がよく入り込むし、一ノ宮の馬寄せのところでは、これは西の方へ行く人は使ってちっとも差し支えはない。こういうような意見もそのとき数々述べまして速記録に残っております。そういうことでありましたので私はここでも特に今回のそういう水害など、災いなど起るとは思っておりませんけれども、こういった水害が起っては国民が困る。しかも農民が非常にむずかしい所は——今道路局長がおっしゃたが、今後もそういったことは遠慮して、これをよりよくしていこうという考へであらうことで、私は満足しましたが、どうか一つそういうことをよく考えて、実際農民が自分の農耕地を二つに分断されてインターチェンジまでいか、何処かの暗渠でも通らなければ自分の田畑に行けないようになるということは、非常に困ることなんですから、そればかりではない、村を混乱することもありましようし、いろいろなことがあるから、そういったことを特に御考慮されて、国利民福ならば少しくらいなことはがまんして、そしてやっていただくように、今後ともこれをお願い申し上げたいというわけでございます。

どうか一つくれぐれもこういうことについては、今後も沢山あることだと思いますから、特に申し上げて参考に供する次第でございます。

◎委員長（岩沢忠恭君）

それでは別段御質問がないようですから、次の議題に移りたいと思います。

国会活動の記録について

田中参議院議員の国会における活動は、以上の如き委員会の速記録の一例の如く、国土建設の急所を突く質問や、説明にて充満し、各委員会ともに長時間に亘る記録につき、到底掲載できないので省略し、各位の御推察に任ねることにします。

参議院議員・田中清一氏の国会6カ年

〔○正常 ○臨時 ※特別〕

回数	区 分	開 会	閉 会	日数	内閣総理大臣	大蔵大臣	建設大臣
32回	○臨時国会	自34, 6, 22日	至34, 7, 3日	12日	岸 信介	一万田尚登	遠藤 三郎
33 "	○臨時国会	自34, 10, 26日	至34, 12, 27日	63			
34 "	◎通常国会	自34, 12, 29日	至35, 7, 15日	199			
35 "	○臨時国会	自35, 7, 18日	至35, 7, 22日	5	岸 信介	佐藤 栄作	村上 勇
36 "	○臨時国会	自35, 10, 17日	至35, 10, 24日	8			
37 "	※特別国会	自35, 12, 5日	至35, 12, 22日	18			
38 "	◎通常国会	自35, 12, 26日	至36, 6, 8日	165			
39 "	○臨時国会	自36, 9, 25日	至36, 10, 31日	37	池田勇人	水田三喜男	中村 梅吉
40 "	◎通常国会	自36, 12, 9日	至37, 5, 7日	150			
41 "	○臨時国会	自37, 8, 4日	至37, 9, 2日	30	池田勇人	水田三喜男	中村 梅吉
42 "	○臨時国会	自37, 12, 8日	至37, 12, 28日	21			
43 "	◎通常国会	自37, 12, 24日	至38, 7, 6日	195			
44 "	○臨時国会 (解散)	自38, 10, 15日	至38, 10, 23日	9	池田勇人	田中 角栄	河野 一郎
45 "	※特別国会	自38, 12, 4日	至38, 12, 18日	15			
46 "	◎通常国会	自38, 12, 20日	至39, 6, 26日	189			
47 "	○臨時国会	自39, 11, 9日	至39, 12, 18日	40	池田勇人	田中 角栄	河野 一郎
48 "	◎通常国会	自39, 12, 21日	至40, 6, 1日	163			

## 〔国会活動中の支障記録〕

### ◆田中参議院議員の眼科入院（昭和36年）

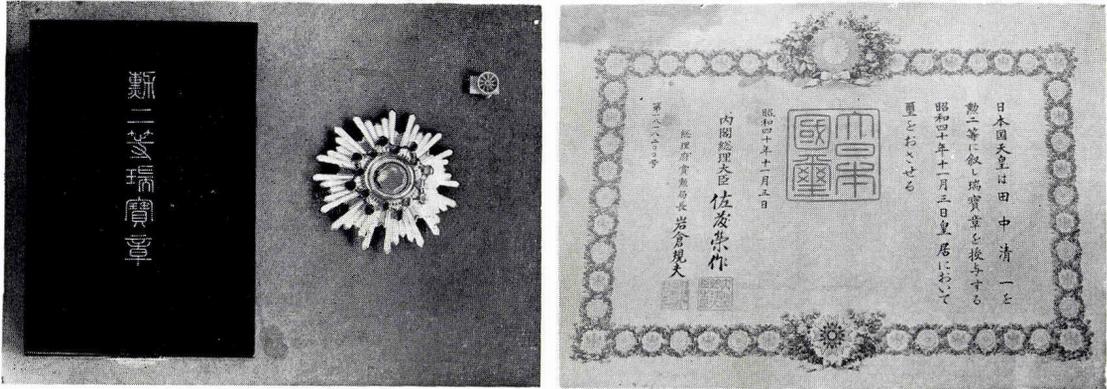
終戦以来16年間に亘り、新日本を建設のため、田中企画者は全国各地の実踏調査と共に、「5万分の1」や「20万分の1」の細かい地図で日本全土を計測しながら、国土計画の設計作業を昼夜の別なく取組んで強行された結果、視力を損なって不自由をされていたが、遂いに東京済生会中央病院に入院されて、名医の宮田博士の手術を受けられ、翌年も同博士の手術によって両眼の視力回復の治療が行はれた。

- ◎昭和36年11月7日、入院（右眼）
  - ◎同 37年1月25日、入院（左眼）
- 何れも1ヵ月ほどの日数を要し、絶対安静等の忍耐を要する治療に耐えられた。

### ◆任期最終年の国会休席（昭和39年春以降）

田中議員は昭和34年6月より参議院に登庁以来5ヵ年間、殆んど皆勤に近い出席を続けておられたが、多年の国土計画の立案と、この推進に全力を注がれ、かつ2回に亘る眼科の手術など、過労の上に国会活動が重なったため、遂いに健康を損はれるに至って、昭和39年3月23日に東京済生会中央病院へ3回目の入院となり、主治医の宮田博士の治療を受けられたが、5月2日に伊豆韮山温泉病院に移り、関東通信病院長の佐々貫之博士等の往診も加はり、6月15日に退院となって自宅療法に切り替へられた。結局は昭和40年6月の任期満了日迄には健康が回復されなかったため、この間は国会を欠席するの余儀なきに至り、ご本人は常に遺憾の極みと痛感されつつ自宅療養に努められた。

## 田中清一氏の叙勲の光栄



昭和40年11月3日、文化の日に……田中清一氏は  
勲二等に叙せられ、瑞宝章を御下賜の光栄に浴されました。

「国土計画・田中プランの企画者、田中清一氏は、参議院議員の任期・6ヵ年が満了と共に、多年に亘る国土計画の貢献と、産業界に貢献した功労を嘉せられ叙勲の光栄に浴せられました。

このことは田中プランの実現に協力した財団法人・田中研究所・国土建設推進連盟、国土建設一円会の各位はもとより、株式会社富士製作所の役員・全従業員一同は、わがことの如く感喜して万歳を唱和したことを附記します。」

## 国会への再出馬を辞退

昭和40年6月に任期満了となる田中参議院議員に対し、全国の支援者はもとより、特に自民党の幹部各位から是非、再出馬するように熱心に要望され、病床への来訪者が相次いで決意を求められたが、ご本人は「永年の懸案である新しい国造りの国土計画案は着々と実現の段階に入ったので、一応の目的を達したから、再出馬はしない」……更に政治家になろうとは考へない、他に政界への野心など最初から毛頭もない田中であるから、皆さんの御意には感謝するも、再出馬は辞退する旨を度々披露して下野された。巷間にこの態度を諒とされて、さすがに田中さんらしいと評せられる方々が多かったことは今更清々しい感じがする。

## 国土計画・田中プラン・遂いを実現

昭和20年、敗戦から立ち上るべく田中清一氏が、新日本建設を目指す手段としての高速自動車道の建設は、当時「誇大妄想」と称せられたが、本誌に記録の如き田中企画者と、これと共鳴された全国各地の協力者によって下表の如く高速自動車道が完成した。

即ち「名神高速道路。東名高速道路」の本格的なハイウェイや「中央高速自動車道」の外、下表に記載なき、東北、中国、九州、北陸などの高速自動車道も各所で着工されるに至ったことは、田中プランの実現推進の年代記録と共に各位も感慨無量に思われるであろう。

### 高速自動車国道の開通記録

区分	線名	開業年月日	区間	キロ数	
高速自動車国道中央自動車道	小牧～西宮 (名神高速道路)	昭和38. 7. 16	尼ケ崎～栗東	71km	
		〃 39. 4. 12	栗東～関ヶ原	69	
		〃 39. 9. 6	関ヶ原～一ノ宮	35	
		〃 39. 9. 6	尼ケ崎～西ノ宮	7	
		〃 40. 9. 1	一ノ宮～小牧	8	
		計			(190)
	東京～小牧 (富士吉田線)	昭和42. 12. 15	調布～八王子	18	
		〃 43. 12. 20	八王子～相模湖	20	
		〃 44. 3. 17	相模湖～河口湖	47	
			高井戸～調布	(未完) 8	
	計			(93)	
東名高速自動車道	東京～小牧 (東名高速道路)	昭和43. 4. 24	東京～厚木	35	
		〃 43. 4. 24	富士～静岡	40	
		〃 43. 4. 24	岡崎～小牧	53	
		〃 44. 2. 1	静岡～岡崎	132	
		〃 44. 3. 31	厚木～大井松田	23	
		〃 44. 3. 31	御殿場～富士	37	
		〃 44. 5. 26	大井松田～御殿場	26	
			計		
●昭和44年度版建設白書より……………開通合計				662km	

- (備考) 1. 本誌は田中企画者が経営される(株)富士製作所の創業50周年記念を契機として、昭和43年11月3日の式典日を編集完了日とせるも、本誌の印刷中に越年した44年に「建設白書」が公開されたので、上表は建設省発表の完成記録を掲載することにせり。
2. 本誌「日本の高速自動車道」の第3集に、昭和44年5月以降の道路建設状況を掲載して田中プランの実現状況を記録する企画なることを添記する。

## 財団法人 田 中 研 究 所

本 部 静岡県沼津市日の出町 456 番地  
榎富士製作所、隣接地

東京支部 東京都千代田区丸ノ内 2 丁目 4 番 1 号  
榎富士製作所 東京支店内 (363 号室)

発 行 日 昭和45年 7 月15日

印 刷 所 大日本印刷株式会社  
東京都新宿区市ケ谷加賀町 1 丁目12番地

~~~~~  
理 事 長 田 中 清 一 発 行 責 任 者 瀬 上 清 隆